

宿北遺跡
宿東遺跡
寺山遺跡

首都圏氾濫区域堤防強化対策
事業地内埋蔵文化財調査報告書 2

平成 26 年 3 月

国土交通省関東地方整備局
利根川上流河川事務所
公益財団法人茨城県教育財团

しゅく き た
宿 北 遺 跡
しゅく ひがし けい じき
てら やま けい じき
寺 東 山 遺 跡 跡

首都圏氾濫区域堤防強化対策
事業地内埋蔵文化財調査報告書 2

平成 26 年 3 月

国土交通省関東地方整備局
利根川上流河川事務所
公益財団法人茨城県教育財団



寺山遺跡 平成24年度 調査区遠景（南から）



寺山遺跡 第1号墳出土遺物

序

国土交通省では、安全・環境・活力の三つを基本方針に、「信頼感ある安全で安心できる国土の形成」「自然と調和した健康な暮らしと健全な環境の創設」「個性あふれる活力ある地域社会の形成」を目指し各種施策を展開しています。

その一環として、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所は、茨城県猿島郡五霞町において、首都圏並びに地域住民の生命と財産を守ることを目的として、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業を計画しました。しかしながら、その事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である宿北遺跡、宿東遺跡、寺山遺跡が所在し、記録保存の措置を講ずる必要があるため、当財団が国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所から委託を受け、平成23年12月から平成24年3月までの4か月間にわたり宿北遺跡と寺山遺跡、平成24年4月から6月までの3か月間にわたり宿東遺跡と寺山遺跡の発掘調査を実施しました。

本書は、宿北遺跡、宿東遺跡、寺山遺跡の調査成果を収録したもので、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、五霞町教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、深く感謝申し上げます。

平成26年3月

公益財団法人茨城県教育財団
理事長 鈴木欣一

例　　言

- 1 本書は、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財團が平成23・24年度に発掘調査を実施した、茨城県猿島郡五霞町大字川妻字宿北93番地11ほかに所在する宿北遺跡、同町大字川妻字宿東194-1ほかに所在する宿東遺跡及び同町大字川妻字外根元原471-1ほかに所在する寺山遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査 平成23年12月1日～平成24年3月31日
平成24年4月6日～6月30日

整理 平成25年6月1日～平成26年3月31日
- 3 発掘調査は、調査課長樋村宣行のもと、以下の者が担当した。

平成23年度

首席調査員兼班長	稲田義弘
主任調査員	舟橋理
調査員	近江屋成陽

平成24年度

首席調査員兼班長	稲田義弘
首席調査員	小林和彦
調査員	前鳥直人
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長原信田正夫のもと、調査員近江屋成陽が担当した。
- 5 本書の作成にあたり、古墳の出土遺物については茨城大学教授田中裕氏に御指導いただいた。金属製品(直刀・鞘尻金具)の保存処理についてはパリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

凡　　例

1 各遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、宿北遺跡はX = + 14,520 m, Y = - 10,100 mの交点を、宿東遺跡はX = + 14,440 m, Y = - 9,780 mの交点を、寺山遺跡はX = + 14,320 m, Y = - 9,300 mの交点をそれぞれ基準点（A 1 a1）とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C…、西から東へ1, 2, 3…とし、「A 1 [区]」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa, b, c…j、西から東へ1, 2, 3, …0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 [区]」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 FP - 炉跡 P - ピット PG - ピット群 SA - 柱穴列 SB - 挖立柱建物跡 SD - 堀跡・溝跡
SE - 戸戸跡 SF - 道路跡 SI - 堅穴建物跡 SK - 土坑 TM - 古墳 UP - 地下式坑
遺物 DP - 土製品 M - 金属製品 Q - 石器・石製品 T - 瓦 TP - 拓本記録土器
土層 K - 扰乱

* 从來堅穴住居跡としていた遺構について、平成25年度から堅穴建物跡に名称を変更した。よって略号SIは堅穴建物跡とする。

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1、各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・赤彩・施釉		織維土器断面・炉の土層断面の範囲
	天井部崩落土・黒色処理・炭化材		煤・柱痕跡・柱あたり
● 土器	○ 土製品	□ 石器・石製品	△ 金属製品 ■ 瓦 - - - 硬化面

4 土層観察と遺物における色調の判定は、「新版標準土色図」（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm, cm, gで示した。なお、現存値は（ ）を、推定値は〔 〕を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

6 堅穴建物跡の「主軸」は、炉を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N 10° - E）。

7 今回の報告分で、調査段階での遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

宿北遺跡 変更 SK 9 → UP 1 SK64 → 第1号火葬施設 SK66 → 第2号火葬施設 SK74 → SE 2 SK78 → 第3号火葬施設 欠番 SK20・21・60・93・119・130・136・137・138・147・149・151・156
宿東遺跡 欠番 SK51・52・57・58

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
宿北遺跡、宿東遺跡、寺山遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	5
第1節 位置と地形	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 宿北遺跡	13
第1節 調査の概要	13
第2節 基本層序	13
第3節 遺構と遺物	15
1 繩文時代の遺構と遺物	15
(1) 堅穴建物跡	15
(2) 土坑	17
2 室町時代の遺構と遺物	34
(1) 掘立柱建物跡	34
(2) 井戸跡	39
(3) 火葬施設	41
(4) 地下式坑	43
(5) 土坑	51
(6) 堀跡	64
(7) 溝跡	67
(8) 柱穴列	72
3 江戸時代の遺構と遺物	75
溝跡	75
4 その他の遺構と遺物	78
(1) 炉跡	78
(2) 土坑	80
(3) 溝跡	84
(4) ピット群	85
(5) 遺構外出土遺物	90
第4節 まとめ	93

第4章 宿東遺跡	99
第1節 調査の概要	99
第2節 基本層序	99
第3節 遺構と遺物	100
1 縄文時代の遺構と遺物	100
(1) 壓穴建物跡	100
(2) 土坑	104
2 室町時代の遺構と遺物	119
土坑	119
3 江戸時代の遺構と遺物	122
掘立柱建物跡	122
4 その他の遺構と遺物	126
(1) 刃跡	126
(2) 柱穴列	126
(3) ピット群	127
(4) 遺構外出土遺物	128
第4節 まとめ	131
第5章 寺山遺跡	135
第1節 調査の概要	135
第2節 基本層序	135
第3節 遺構と遺物	137
1 縄文時代の遺構と遺物	137
土坑	137
2 古墳時代の遺構と遺物	148
(1) 壓穴建物跡	148
(2) 古墳	159
(3) 溝跡	163
3 江戸時代の遺構と遺物	165
(1) 道路跡	165
(2) 溝跡	165
4 その他の遺構と遺物	168
(1) 土坑	168
(2) 溝跡	169
(3) 遺構外出土遺物	170
第4節 まとめ	172
写真図版	PL 1 ~ PL54
抄録	

しゅくきた しゅくひがし てらやま 宿北遺跡、宿東遺跡、寺山遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

宿北遺跡、宿東遺跡、寺山遺跡は、五霞町の北西部に位置し、利根川右岸の標高約11～13mの低台地上に立地しています。首都圏氾濫区域堤防強化対策事業にともない、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財團が平成23年度と平成24年度はくつちようさに発掘調査を行いました。



宿北遺跡の内容

宿北遺跡では、堤防を広げる部分になる4,274m²を調査しました。調査の結果、縄文時代後期前葉（約3,500年前）の竪穴建物跡、土坑、室町時代（約600～400年前）の掘立柱建物跡、土坑墓、井戸跡、火葬施設、地下式坑、堀跡、溝跡、江戸時代（約300年前）の溝跡などを確認しました。



宿北遺跡調査区全景

調査の結果

主な出土遺物は、縄文土器や陶器、磁器、石器、金属製品、銭貨などです。縄文時代は集落として、室町時代では、区画された溝の内側に亡くなった人を火葬した場所やお墓が、まとまって確認できました。江戸時代では、排水用の溝が見つかったところから、川へ水を流す場所であったことがわかりました。

宿東遺跡の内容

宿東遺跡も、堤防を広げる部分になる 768m²を調査しました。調査の結果、縄文時代前期前葉（約 6,000 年前）の豎穴建物跡、土坑、室町時代（約 600 ~ 400 年前）の土坑墓、江戸時代（約 300 年前）の掘立柱建物跡などを確認しました。

調査の結果

主な出土遺物は、縄文土器、土師質土器、陶器、磁器、石器などです。縄文時代前期の豎穴建物跡を囲むような形で土坑群がまとまって確認できました。豎穴建物跡は 6 か所の柱の穴が規則的に配置されていました。室町時代では隅丸長方形の土坑墓が集中して見つかり、江戸時代では屋敷の一部を確認しました。

寺山遺跡の内容

寺山遺跡は、堤防の拡張によって道路を移設する部分になる 2,127m²を平成 23 年度と平成 24 年度に分けて調査しました。調査の結果、縄文時代早期前半（約 8,000 年前）、前期（約 5,500 年前）、後期（約 3,500 年前）の貯蔵やお墓として使用された土坑群、古墳時代中期（約 1,600 年前）の集落跡と古墳時代後期（約 1,400 年前）の古墳、江戸時代（約 300 年前）の道路跡や溝跡などを確認しました。

調査の結果

寺山遺跡は、古墳時代が中心となる遺跡で、中期の豎穴建物跡が 5 棟確認でき、遺物は土師器（环・甕）や、勾玉、有孔円板などの石製模造品が出土しています。豎穴建物の廃絶に際して石製模造品を使ったマツリを行った可能性があります。古墳の周溝からは副葬品として、曲げられた直刀と須恵器長頸壺が出土しました。意図的に曲げられた直刀の出土は、全国的にも少なく、茨城県域では初の出土で貴重な例です。被葬者に対する儀礼の一つと思われます。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成16年12月15日、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて、茨城県教育委員会は平成17年2月28日に現地踏査を実施し、宿北遺跡は平成22年10月19～21日に、宿東遺跡は平成22年4月8・9日に、寺山遺跡については平成22年11月4・9日、平成23年10月18日、平成23年11月15・16日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。

茨城県教育委員会教育長は、宿北遺跡については平成22年11月10日、宿東遺跡については平成22年4月26日に、寺山遺跡については平成22年11月30日、平成23年12月20日に、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長あてに事業地内に遺跡が所在すること、及びその取り扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長は、宿北遺跡、宿東遺跡については平成23年2月21日に、寺山遺跡については平成23年2月21日、平成24年2月9日、文化財保護法第94条に基づき土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。

茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、宿北遺跡、宿東遺跡については平成23年2月24日、寺山遺跡については平成23年2月24日、平成24年2月20日、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長は、宿北遺跡、宿東遺跡については平成23年3月25日、寺山遺跡については平成24年2月23日、茨城県教育委員会教育長に対して、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。茨城県教育委員会教育長は、宿北遺跡、宿東遺跡については平成23年3月25日、寺山遺跡については平成24年2月24日、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長あてに、各遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答した。また、併せて調査機関として財團法人茨城県教育財團（現 公益財團法人茨城県教育財團）を紹介した。

財團法人茨城県教育財團は、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、宿北遺跡は平成23年12月1日から平成24年3月31日まで、宿東遺跡は平成24年4月6日から6月30日まで、寺山遺跡は平成23年12月1日から平成24年3月31日までと、同年4月6日から6月30日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

宿北遺跡、寺山遺跡の平成23年度の調査は、平成23年12月1日から平成24年3月31日までの4か月間、宿東遺跡、寺山遺跡の平成24年度の調査は、平成24年4月6日から6月30日までの3か月間にわたって各々同時進行で実施した。以下、その概要を表で記載する。

宿北遺跡・寺山遺跡

平成 23 年度調査

工程	期間	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去確認 遺構		■			
遺構調査			■■■■■		
遺物洗浄記 注写真整理			■■■■■		
撤 収					■

宿東遺跡・寺山遺跡

平成 24 年度調査

工程	期間	4月	5月	6月	
調査準備 表土除去確認 遺構		■			
遺構調査			■■■■■		
遺物洗浄記 注写真整理			■■■■■		
撤 収					■

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

宿北遺跡は茨城県猿島郡五霞町大字川妻字宿北93番地11ほか、宿東遺跡は同猿島郡五霞町大字川妻字宿東194-1ほかに、寺山遺跡は同猿島郡五霞町大字川妻字外根元原471-1ほかの、いずれも五霞町の北西部に所在している。

五霞町は、茨城県南西部の利根川以南に位置しており、北を利根川、東を江戸川、西から南にかけて権現川によって南北約43km、東西約5.0kmに区画されている。町域の地形は、利根川及び中・小河川によって開拓された低地の谷底平野、自然堤防、三角洲平野と、五霞台地と呼ばれる低位段丘群によって構成されており、町内の最高標高は17.5m、最低標高は9mで、平均標高は約12mである。

利根川流域に広がる低台地は、地質的には新生代第四紀沖積層を中心として、約1万年以降までの新しい時代の堆積層によって形成されている。また、この沖積層の下には第四紀洪積層（奥東京湾時代）後期に形成された洪積層が堆積しており、下層から竜ヶ崎砂礫層、常総粘土層、関東ローム層（武藏野ローム層、立川ローム層）に分層される。

利根川左岸は、利根川支流によつて開拓された谷津が広がり、谷津から洪積層の台地にかけて遺跡が存在している。また、利根川の右岸は、広大な洪積層が広がり、奥東京湾に面した標高10～13mほどの低地に遺跡が確認され、当遺跡群はこの低地上に立地している。

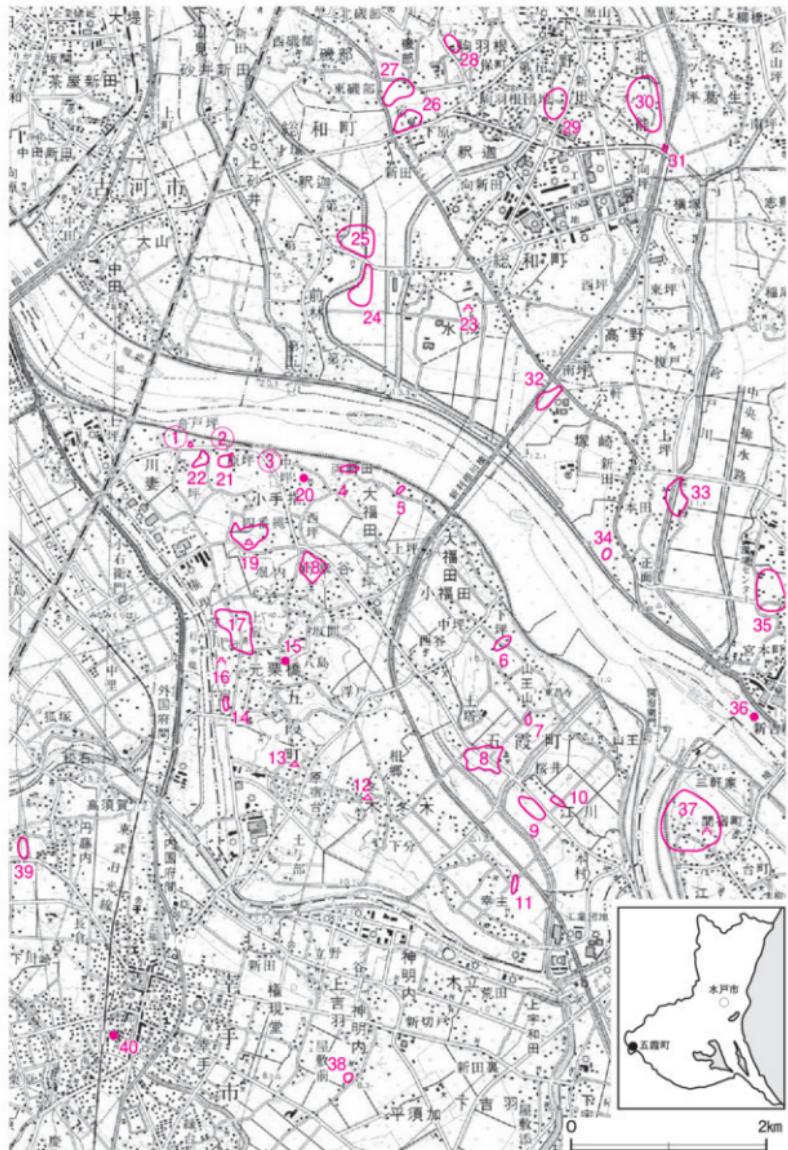
当遺跡群とその周辺の土地利用の現況は主として耕作地と宅地であり、当遺跡群の調査前の現況は宅地、陸田及び水田であった。

第2節 歴史的環境

宿北遺跡、宿東遺跡、寺山遺跡周辺に確認されている遺跡を中心に概要する。

縄文時代の遺構は、^{しやくもんじだい}帆通新田遺跡（4）では中期末葉の竪穴建物跡2棟と土坑2基が調査されている¹⁾。冬木A貝塚（13）では、後期の竪穴建物跡29棟や人骨18体、冬木B貝塚（12）でも、後期から晩期にかけての竪穴建物跡10棟が調査されている²⁾。石畑遺跡（18）、土塔貝塚³⁾（8）では、前期と後期の竪穴建物跡が確認されており、冬木貝塚との関連が想定されている。また、本田遺跡⁴⁾（33）では、後期から晩期の竪穴建物群や遺物包含層が形成されたことが確認されるなど、当期における拠点的集落としての様相の一部が明らかとなっている。さらには五霞町と隣接する埼玉県幸手市、千葉県野田市においても集落跡や貝塚などが数多く分布しており、宿北遺跡、宿東遺跡、寺山遺跡周辺は古くから人々の生活の場であったことを示している。

古墳時代の遺跡は、利根川以北の台地上に多く確認されている。前期の遺跡では、集落跡である羽黒遺跡⁵⁾（24）、かわい山遺跡（35）のほか、方形周溝墓が6基確認されている⁶⁾稚内才傍遺跡⁷⁾（26）などがある。中期の遺跡は、竪穴建物跡1棟が確認された清水遺跡⁷⁾（34）、祭祀遺構と考えられている土坑や、滑石製模造品の未製品が多量に出土した香取西遺跡（30）や、竪穴建物跡から子持ち勾玉をはじめとする滑石製品の祭祀関連遺物が多量に出土した向坪B遺跡（31）などがある。後期の遺跡は、集落跡である羽黒遺跡、久能西原遺跡



第1図 宿北遺跡・宿東遺跡・寺山遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院50,000分の1「水海道」「鴻巣」）

表1 宿北遺跡・宿東遺跡・寺山遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代					
		旧石器	繩文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			旧石器	繩文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町
①	宿北遺跡	○				○	○	21	大崎遺跡	○					○
②	宿東遺跡	○				○	○	22	穴薬師古墳				○		
③	寺山遺跡	○		○			○	23	水海城跡				○	○	
4	积迦新田遺跡	○				○	○	24	羽黒遺跡	○	○	○	○	○	○
5	殿山遺跡	○		○			○	25	日下部遺跡	○	○	○	○	○	○
6	同所新田遺跡			○	○	○	○	26	积迦才仏遺跡	○	○		○		○
7	西新畑遺跡	○	○				○	27	香取東遺跡	○	○		○	○	○
8	土塔貝塚	○	○	○				28	駒羽根遺跡	○		○	○		○
9	桜井前遺跡	○		○	○	○	○	29	久能西原遺跡	○	○	○			
10	桜井浦遺跡	○					○	30	香取西遺跡	○	○	○	○	○	
11	瀬沼遺跡	○		○		○	○	31	向坪B遺跡				○	○	○
12	冬木B貝塚	○		○	○			32	南坪遺跡	○		○	○		
13	冬木A貝塚	○						33	本田遺跡	○	○		○	○	
14	元栗橋下宿遺跡	○		○	○		○	34	清水遺跡	○	○	○	○		
15	三島神社古墳	○		○		○		35	かわい山遺跡	○		○	○		
16	城山城跡						○	36	境河岸						○
17	上舟戸遺跡	○	○		○	○	○	37	関宿城跡					○	○
18	石畑遺跡	○		○	○	○	○	38	幸手市No.19遺跡					○	○
19	小手指貝塚	○					○	39	千塚柴原遺跡				○		○
20	伊勢塚古墳			○				40	陣屋						○

（29）、駒羽根遺跡（28）などが確認されている。また、石室の構造などから終末期古墳と考えられている県指定史跡穴薬師古墳⁸⁾（22）が所在する。

奈良・平安時代において五霞町は下総国に含まれており、猿島郡に属していたと考えられている⁹⁾。

当時代の遺跡は、かわい山遺跡、羽黒山遺跡など古墳時代から継続する遺跡がみられるほか、10世紀の堅穴建物跡1棟と掘立柱建物跡2棟が確認された日下部遺跡（25）や水海城跡（23）などがある。また、複合遺跡である香取西遺跡からは、鉄製品の生産に関連する遺構や遺物が確認されている。

中世になると、古河公方足利氏と関連ある城館跡が分布している。河川に囲まれたこの地域を治める重要性は高く、旧総和町には篠田氏一族の城下である水海城跡、五霞町には野田氏の居城である城山城跡（16）、埼玉県幸手市には、一色氏の陣屋と考えられている陣屋（幸手市 No. 3 遺跡）（40）、千葉県野田市には篠田氏嫡流家の居城として発展した閑宿城跡¹⁰⁾（37）などが知られている。羽黒遺跡や向坪B遺跡のほか、中世から近世初頭の土坑墓が確認されている香取東遺跡¹¹⁾（27）や瀬沼遺跡（11）、火葬施設や地下式坑などが確認された桜井前遺跡¹²⁾（9）など、中世の集落跡や墓域が近年の調査で明らかになっている。こうしたことから、関東中央部の交通の拠点となっていたと考えられる。

近世初頭に、「利根川東渡」と呼ばれる大規模な河川改修工事が行われたことにより、奥州から鬼怒川を下り、さらに利根川や江戸川を下って江戸へと至る輸送ルートが成立した。その交通・流通機能を大きく担うようになる境河岸（36）は、正保期（1644～1647年）に閑宿城の城下町として機能するようになった。当該期の遺跡としては、前述した千葉県野田市に位置する閑宿城のほか、五霞町に位置し、近世の溝跡1条が確認された石畠遺跡、埼玉県幸手市に位置し、陶磁器や木製品が出土した千塚柴原遺跡（幸手市 NO. 4）（39）などがある。

江戸時代後期では、同所新田遺跡¹³⁾（6）において製鉄関連遺構が確認され、製鉄もしくは鉄製品の再加工を行っていた工人集団の存在が推測される。さらに瀬沼遺跡から江戸時代後期の船着き場が確認され、水上交通が日常生活や経済活動の中で重要な位置を占めていたことが推測できる。

章文内の〈 〉内の番号は、第1図及び表1の当該番号と同じである。なお、本章は、財団報告第352集を基にし、若干加筆したものである。

註

- 1) 坂本勝彦「駒込新田遺跡 首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内埋蔵文化財調査報告書1」「茨城県教育財团文化財調査報告」第352集 2012年3月
- 2) 高村勇・根本康弘「冬木地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 冬木A貝塚・冬木B貝塚」「茨城県教育財团文化財調査報告」 IX 1981年3月
- 3) 須藤正美「土塔貝塚 瀬沼遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財团文化財調査報告」第289集 2008年3月
- 4) 江原美奈子・大間武「本田遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財团文化財調査報告」第313集 2009年3月
- 5) 石川義信「羽黒遺跡2 一般河川女沼川河川改修工事事業地内埋蔵文化財調査報告書2」「茨城県教育財团文化財調査報告」第262集 2006年3月
- 6) 川津法伸「つくば古河線緊急地方道路事業地内埋蔵文化財調査報告書 大橋B遺跡 駒込才仏遺跡」「茨城県教育財团文化財調査報告」第131集 1998年3月
- 7) 桑村裕「清水遺跡 同所新田遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財团文化財調査報告」第290集 2008年3月
- 8) 瓦吹堅「穴薬師古墳」「茨城の考古学散歩」茨城県考古学協会編 東冷書房 2010年5月

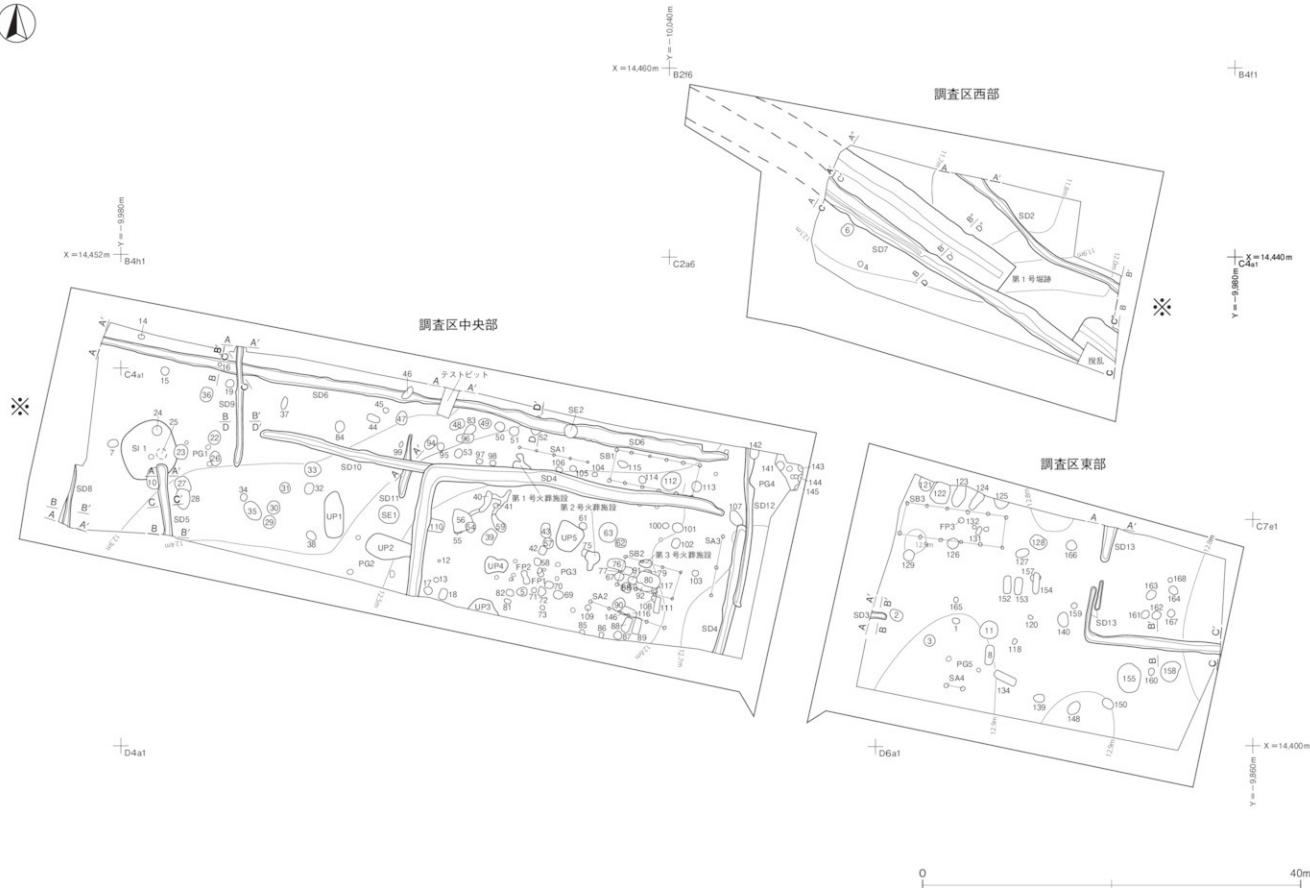
- 9) 五霞町史編さん委員会 「町史 五霞の生活史 水と五霞」 五霞町 2010 年 3 月
- 10) 内山俊身 「戦国豪族氏城下水海の歴史的位置－関東の二大河川流通路の結節点を考える－」 『そうわの文化財』 4 号 総和町教育委員会 1995 年 3 月
- 11) 郡山雅友ほか「都市計画道路東牛谷・枳迦線道路（町道9号線）改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書」 『香取東遺跡 枳迦才仮遺跡』 総和町教育委員会 2001 年 3 月
- 12) 桑村裕 「桜井前遺跡 一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」 『茨城県教育財団文化財調査報告』 第 288 集 2008 年 3 月
- 13) 本橋弘巳 「同所新田遺跡2 潤沼遺跡2 一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」 『茨城県教育財団文化財調査報告』 第 312 集 2009 年 3 月

参考文献

- ・茨城県教育庁文化課 「茨城県遺跡地図（地名表編 地図編）」 茨城県 2001 年 3 月
- ・総和町史編さん委員会 「総和町史 資料編 原始・古代・中世」 総和町 2002 年 3 月
- ・総和町史編さん委員会 「総和町史 通史編 原始・古代・中世」 総和町 2005 年 7 月
- ・幸手市生涯学習課市史編さん室 「幸手市史 資料編」 幸手市教育委員会 2002 年 3 月
- ・幸手市生涯学習課市史編さん室 「幸手市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世・近世」 幸手市教育委員会 2006 年 3 月
- ・野田市史編さん委員会 「野田市史 資料編 考古」 野田市 2005 年 3 月



第2図 宿北遺跡調査区設定図（熊島郡五霞町都市計画図 2500分の1から作成）



第3図 宿北遺跡遺構全体図

第3章 宿 北 遺 跡

第1節 調査の概要

宿北遺跡は、猿島郡五霞町の北西部に位置し、利根川右岸の標高約13mの低台地上に立地している。遺跡の範囲は南北約200m、東西約500mであり、今回の調査区は遺跡の北部にあたる。調査面積は4,274m²である。

調査の結果、堅穴建物跡1棟（縄文時代）、掘立柱建物跡3棟（室町時代）、井戸跡2基（室町時代）、火葬施設3基（室町時代）、地下式坑5基（室町時代）、土坑147基（縄文時代64、室町時代57、時期不明26）、堀跡1条（室町時代）、溝跡12条（室町時代7、江戸時代3、時期不明2）、柱穴列4条（室町時代）、炉跡3基（時期不明）、ピット群5か所（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に10箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、土師質土器（内耳鍋・擂鉢）、瓦質土器（内耳鍋）、陶器（碗）、磁器（碗）、石器（尖頭器・鎌・石匙・凹石・石臼・砥石）、金属製品（鉄鎌・鞘尻金具）などである。

第2節 基 本 層 序

調査区中央部の台地上の平坦面（C 4a9区）にテストピットを設定して基本土層の観察を行った。

第1層は、現地表の表土層で宅地の盛土整地層である。層厚は30cmである。

第2層は、灰褐色を呈する陸田の旧耕作土である。層厚は14cmである。

第3層は、褐灰色を呈する陸田の床土で、酸化鉄を含んでいる。層厚は8cmである。

第4層は、灰黄褐色を呈する河川の氾濫堆積層である。灰色シルトを多量に、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を極微量に含んでいる。粘性は弱く、締まりは強く、層厚は20～26cmである。

第5層は、褐灰色を呈する河川の氾濫堆積層である。灰色シルトを多量に、焼土粒子を微量に含んでいる。粘性は弱く、締まりは強く、層厚は14～18cmである。

第6層は、褐灰色を呈する河川の氾濫堆積層である。灰色シルトを多量に、灰色粘土ブロックを少量、ローム粒子・炭化粒子を極微量に含んでいる。粘性は弱く、締まりは強く、層厚は20～24cmである。

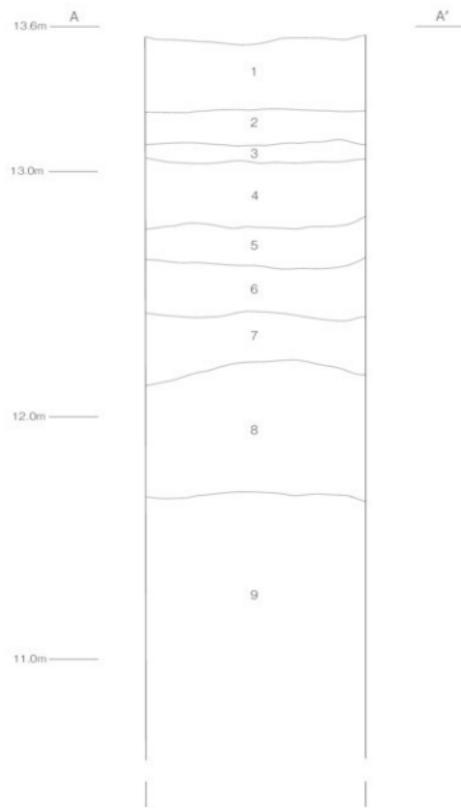
第7層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は18～28cmである。

第8層は、黒褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は44～55cmである。

第II黒色帯と考えられる。

第9層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとともに強い。層厚は10mまで確認したが、下層は未掘のため不明である。

なお、遺構は、第7層の上面で確認した。



第4図 宿北遺跡基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 繩文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡1棟、土坑64基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

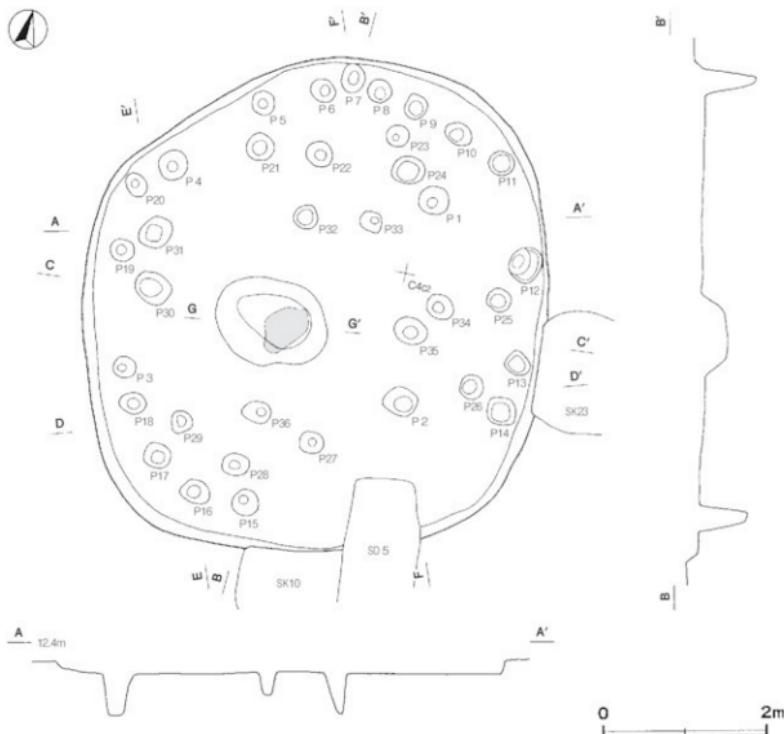
第1号竪穴建物跡（第5～7図）

位置 調査区中央部西側のC 4 c1 区、標高12 mほどの台地平坦部に位置している。

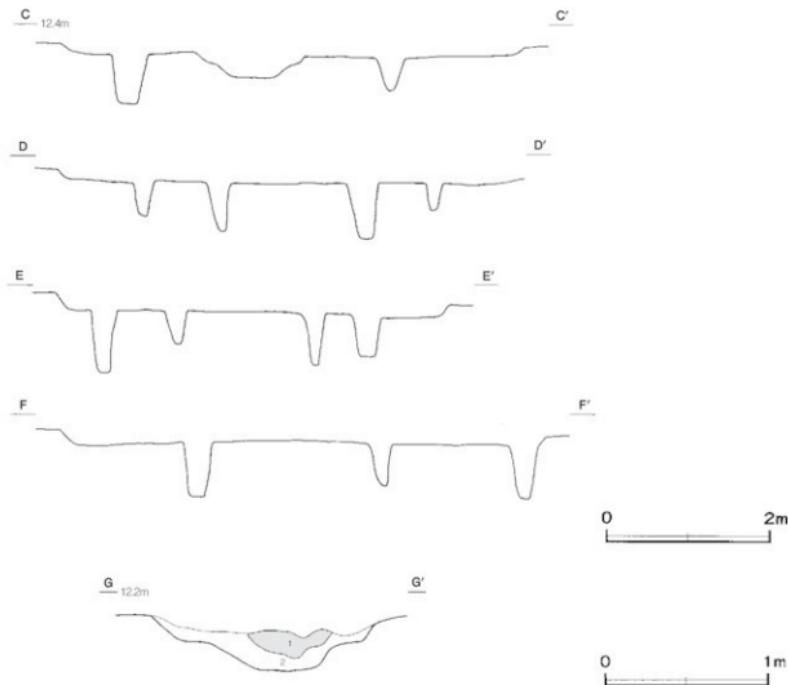
重複関係 第25号土坑を掘り込み、第10・23・24号土坑、第5号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径6.16 m、短径5.72 mの円形で、壁高は10～20cmで、緩やかに立ち上がっている。

床 平坦で、全体が踏み固められている。



第5図 第1号竪穴建物跡実測図（1）



第6図 第1号竪穴建物跡実測図（2）

炉 ほぼ中央部に付設されている。長径 142cm、短径 113cm の楕円形をした地床炉である。火床面は赤変硬化している。火床面は第1層上面で、床面を 30cm ほど鍋底状に掘り込み、ロームブロックや焼土ブロックを含んだ第2層を埋土して構築されている。

炉土層解説

1 赤褐色 焼土ブロック多量

2 暗褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック少量

ピット 36か所。P 1～P 4は深さ 59～68cm で、規模と配置から主柱穴であると考えられる。P 5～P 20は深さ 22～67cm で、壁柱穴と考えられる。P 21～P 36は深さ 16～76cm で、立て替え前の壁柱穴と考えられる。

覆土 褐色土を基調とした單一層である。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。その他、焼土粒子・炭化粒子を微量に含んでいる。

遺物出土状況 繩文土器片 20点（深鉢）のほか、粘土塊 4点、自然礫 2点が出土している。1とTP 1は、中央部の覆土下層から出土している。

所見 出土土器から後期初頭の称名寺2式期と考えられる。



第7図 第1号堅穴建物跡出土遺物実測図

第1号堅穴建物跡出土遺物観察表（第7図）

番号	種別	部種	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[11.0]	(5.0)	—	長石・石英	に深い黄褐色	普通	口縁部有文、胴部外面沈継区画文の中に列点文を施文	覆土下層	10% PL15
TP 1	縄文土器	深鉢	灰母・赤色粒子	—	—	—	—	—	沈継区画文の中に斜文を施文	覆土下層	PL15

(2) 土坑

今回の調査で、出土遺物や形状、覆土の堆積状況から、縄文時代とみられる土坑64基を確認した。以下、遺構の形状や遺物の出土状況が特徴的な12基について解説し、それ以外のものは実測図と土層解説、一覧表で記載した。

第6号土坑（第8図）

位置 調査区西部のB 2j0 区、標高12 mほどの台地平坦部に位置している。

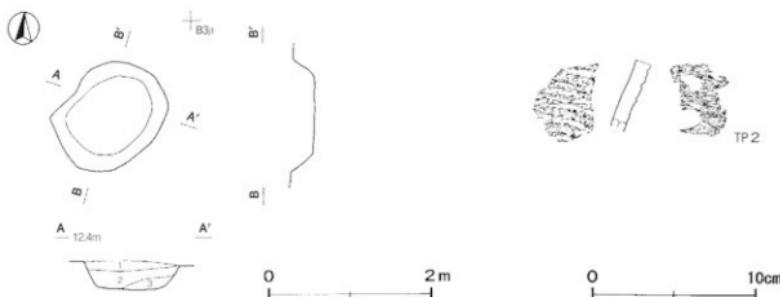
規模と形状 長径1.45 m、短径1.15 mの楕円形で、長径方向はN - 40° - Eである。深さは28cmで、底面はほぼ平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。混入物が微量で、周囲から流れ込んだ堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子微量

3 暗褐色 ローム粒子微量



第8図 第6号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 繩文土器片3点（深鉢）が出土している。TP2は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期末葉と考えられる。

第6号土坑出土遺物観察表（第8図）

番号	種別	器種	胎 土	色 調	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP2	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	外・内面貝殻条痕文	覆土中	PL15

第10号土坑（第9・10図）

位置 調査区中央部西側のC4c1区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号竪穴建物跡を掘り込み、第5号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東半分が第5号溝に掘り込まれているため、南北軸は2.35mで、東西軸は1.26mしか確認できなかった。平面形は楕円形で、長径方向はN-3°-Eと推測できる。深さは15cmで、底面はほぼ平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。混入物が微量で、周囲から流れ込んだ堆積状況から自然堆積である。

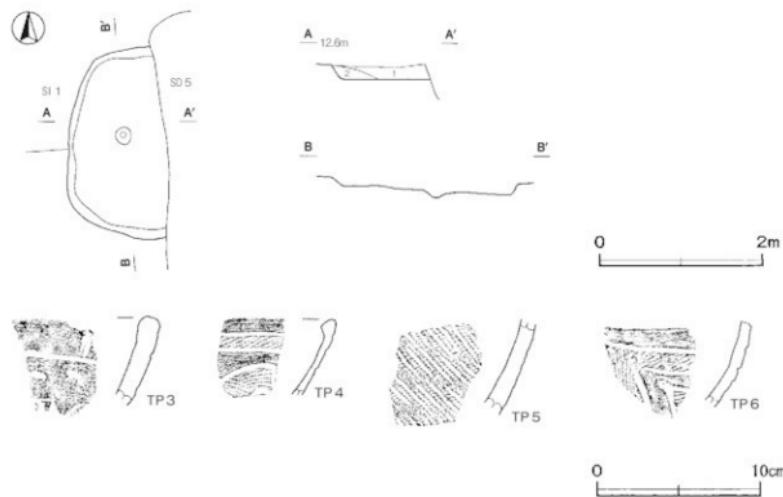
土層解説

1 基 地 色 ローム粒子・炭化粒子微量

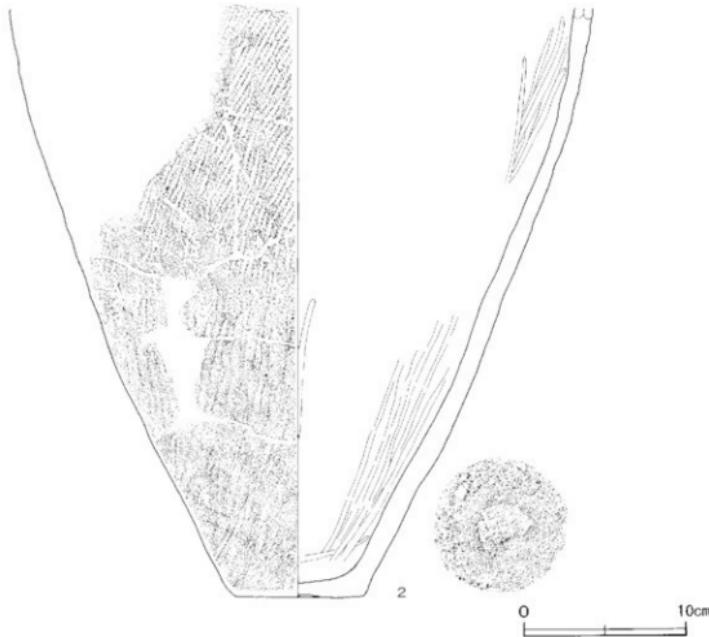
2 地 色 ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片40点（深鉢）、自然鍊1点が出土している。2・TP3～TP6は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半の堀之内1式期と考えられる。



第9図 第10号土坑・出土遺物実測図



第10図 第10号土坑出土遺物実測図

第10号土坑出土遺物観察表（第9・10図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
2	陶文土器	深鉢	-	(268)	8.2	長石・石英・雲母	棕	普通	側部外・内面磨き 外面上半部LR純文を施文	覆土中	40% PL15

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 3	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄棕	区画文の中に列点文を施文	覆土中	
TP 4	陶文土器	深鉢	長石・雲母	明褐	区画文の中に單路LR純文を施文	覆土中	
TP 5	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	棕	單路LR純文を施文	覆土中	
TP 6	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐	区画文の中に單路LR純文を施文	覆土中	

第22号土坑（第11図）

位置 調査区中央部西側のC 4 b3 区、標高 12 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.46 m、短径 1.27 m の楕円形で、長径方向は N - 3° - E である。深さは 18cm で、底面はほぼ平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況から自然堆積である。

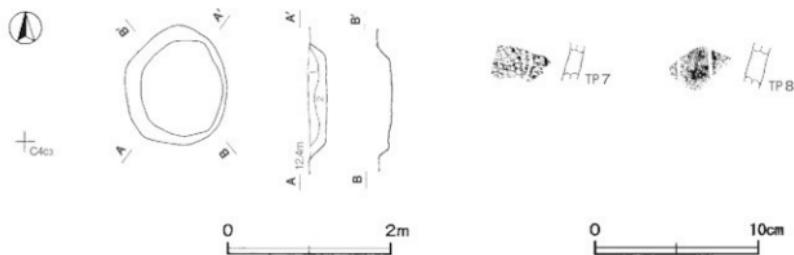
土層解説

1 基層 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 繩文土器片3点(深鉢)が出土している。TP 7・TP 8は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半の加曾利E II式期と考えられる。



第11図 第22号土坑・出土遺物実測図

第22号土坑出土遺物観察表(第11図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴	出土位置	備考
TP 7	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	沈没の間に単節LR縄文を施す	覆土中	
TP 8	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐色	懸垂文開窓き 単節LR縄文	覆土中	

第23号土坑(第12図)

位置 調査区中央部西側のC 4c2区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.60mほどの円形である。深さは14cmで、底面はほぼ平坦である。壁は緩やかに立ち上がりっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

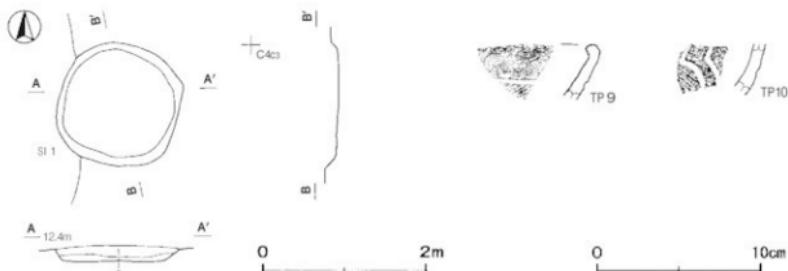
土層解説

1 埋 地 色 ローム粒子微量

2 埋 地 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片13点(深鉢)、自然礫1点が出土している。TP 9・TP10は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半の堀之内1式期と考えられる。



第12図 第23号土坑・出土遺物実測図

第23号土坑出土遺物観察表（第12図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP9	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐色	口縁部と側部を沈綱文で区画 区画内磨き 単面LR縄文	覆土中	
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にがい橙	猪背縄文を弧状沈綱で区画	覆土中	PL15

第25号土坑（第13図）

位置 調査区中央部西側のC4c2区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.16m、短径0.99mの楕円形で、長径方向はN-31°-Wである。深さは14cmしか確認できなかった。底面はほぼ平坦である。壁面は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

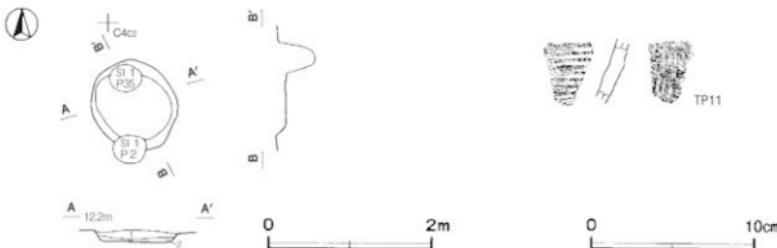
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量

2 暗褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片2点（深鉢）が出土している。TP11は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期末葉と考えられる。



第13図 第25号土坑・出土遺物実測図

第25号土坑出土遺物観察表（第13図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	外・内面貝殻条文	覆土中	PL15

第26号土坑（第14図）

位置 調査区中央部西側のC4c3区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.48m、短径1.12mの楕円形で、長径方向はN-12°-Wである。深さは17cmで、底面はほぼ平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。混入物が細かく、周囲から流れ込んだ堆積状況から自然堆積である。

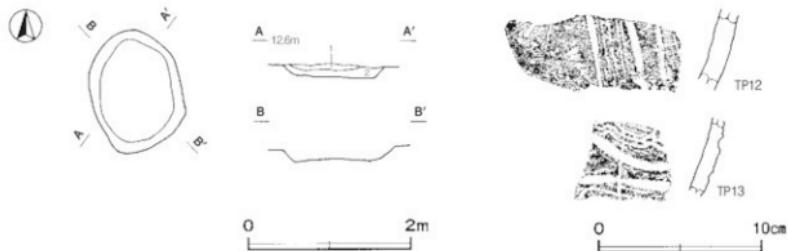
土層解説

1 暗褐色 土化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片2点（深鉢）が出土している。TP12・TP13は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半の加曾利EⅢ式期と考えられる。



第14図 第26号土坑・出土遺物実測図

第26号土坑出土遺物観察表（第14図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP12	绳文土器	深鉢	長石・石英	褐	撚糸縦を整彫文で区画	覆土中	
TP13	绳文土器	深鉢	長石・石英	明黄褐	撚糸縦を弧状彫刻で区画	覆土中	PL15

第28号土坑（第15図）

位置 調査区中央部西側のC-d2区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第27号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.11m、短径1.54mの楕円形で、長径方向はN-6°-Wである。深さは21cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

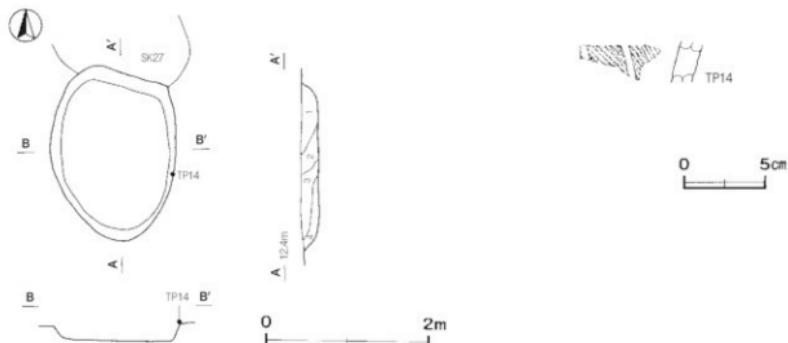
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック多量

3 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
4 明褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 繩文土器片1点（深鉢）が出土している。TP14は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半の加曾利E II式期と考えられる。



第15図 第28号土坑・出土遺物実測図

第28号土坑出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英	明黄褐色	懸垂文間單節LR 縄文光面	覆土上層	

第33号土坑（第16図）

位置 調査区中央部のC 4 c6区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.72m、短径1.46mの楕円形で、長径方向はN-81°-Wである。深さは25cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

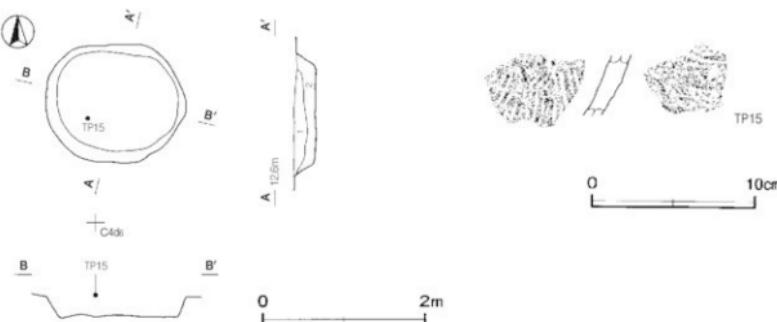
土層解説

1 埋 地 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

2 地 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）が出土している。TP15は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期末葉と考えられる。



第16図 第33号土坑・出土遺物実測図

第33号土坑出土遺物観察表（第16図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	外・内面部斜条痕文	覆土上層	PL15

第34号土坑（第17図）

位置 調査区中央部西側のC 4 d4区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.78m、短径0.69mの楕円形で、長径方向はN-11°-Eである。深さは21cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

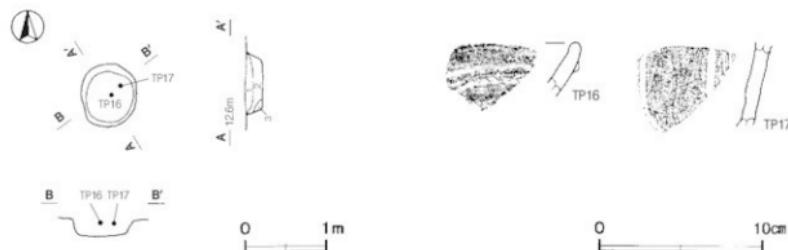
1 埋 地 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

3 地 色 ロームブロック多量

2 埋 地 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

遺物出土状況 繩文土器片 3 点（深鉢）が出土している。TP16・TP17 は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半の加曾利 E II 式期と考えられる。



第 17 図 第 34 号土坑・出土遺物実測図

第 34 号土坑出土遺物観察表（第 17 図）

番号	種別	器種	胎 土	色 調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	口縁部に貼付文	覆土中層	PL15
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	柄指沈織文 極坐土間磨き	覆土中層	PL15

第 35 号土坑（第 18 図）

位置 調査区中央部西側の C 4 d4 区、標高 12 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 2.26 m、短径 1.60 m の橢円形で、長径方向は N - 46° - W である。深さは 30cm で、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

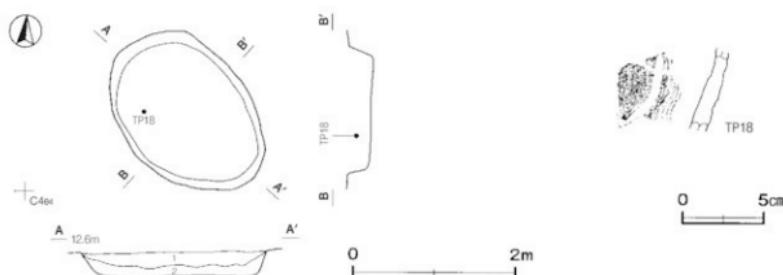
覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 層 間 色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量 2 層 間 色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 24 点（深鉢）が出土している。TP18 は覆土中層から出土している。その他 23 点は、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から中期後半の加曾利 E III 式期と考えられる。



第 18 図 第 35 号土坑・出土遺物実測図

第35号土坑出土遺物観察表（第18図）

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
TP18	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐	鶴ヶ渓式文を伝承する文	覆土中層	PL15

第52号土坑（第19図）

位置 調査区中央部のC 5b2区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.00m、短径1.12mの楕円形で、長径方向はN-18°-Eである。深さは21cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

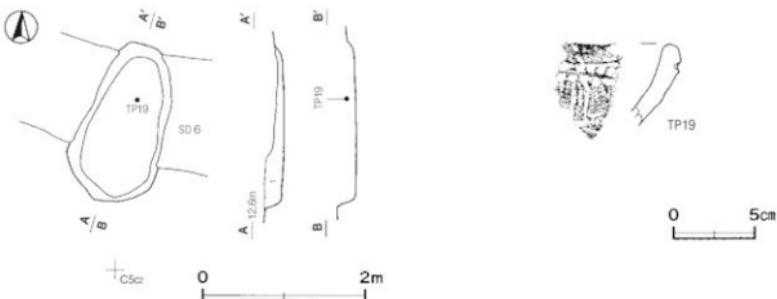
覆土 単一層である。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）が出土している。TP19は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半の加曾利E IV式期と考えられる。



第19図 第52号土坑・出土遺物実測図

第52号土坑出土遺物観察表（第19図）

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英	に赤い斑	単節LR縄文施文後、2条の側突文を施文	覆土中層	PL15

第155号土坑（第20図）

位置 調査区東部のC 6i7区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径3.07m、短径2.52mの楕円形で、長径方向はN-15°-Wである。深さは18cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

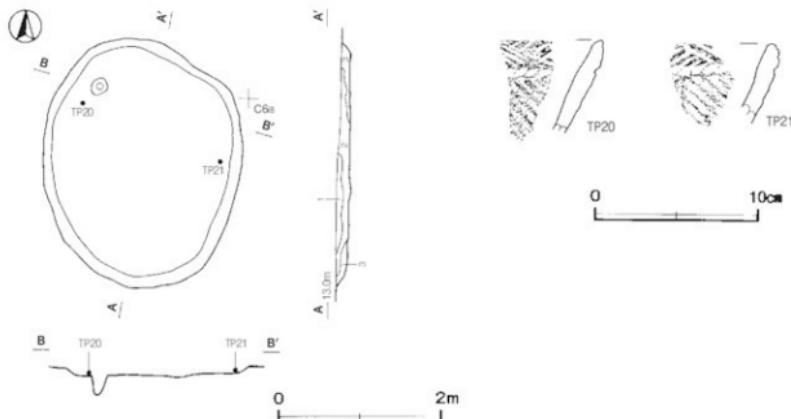
1 黒 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

2 黄 色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量

3 明 橙 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 繩文土器片5点（深鉢）が出土している。TP20・TP21は覆土下層から出土している。

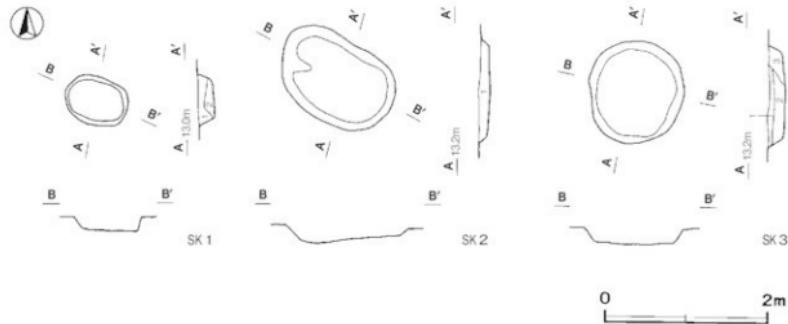
所見 時期は、出土土器から前期初頭の花積下層式期と考えられる。



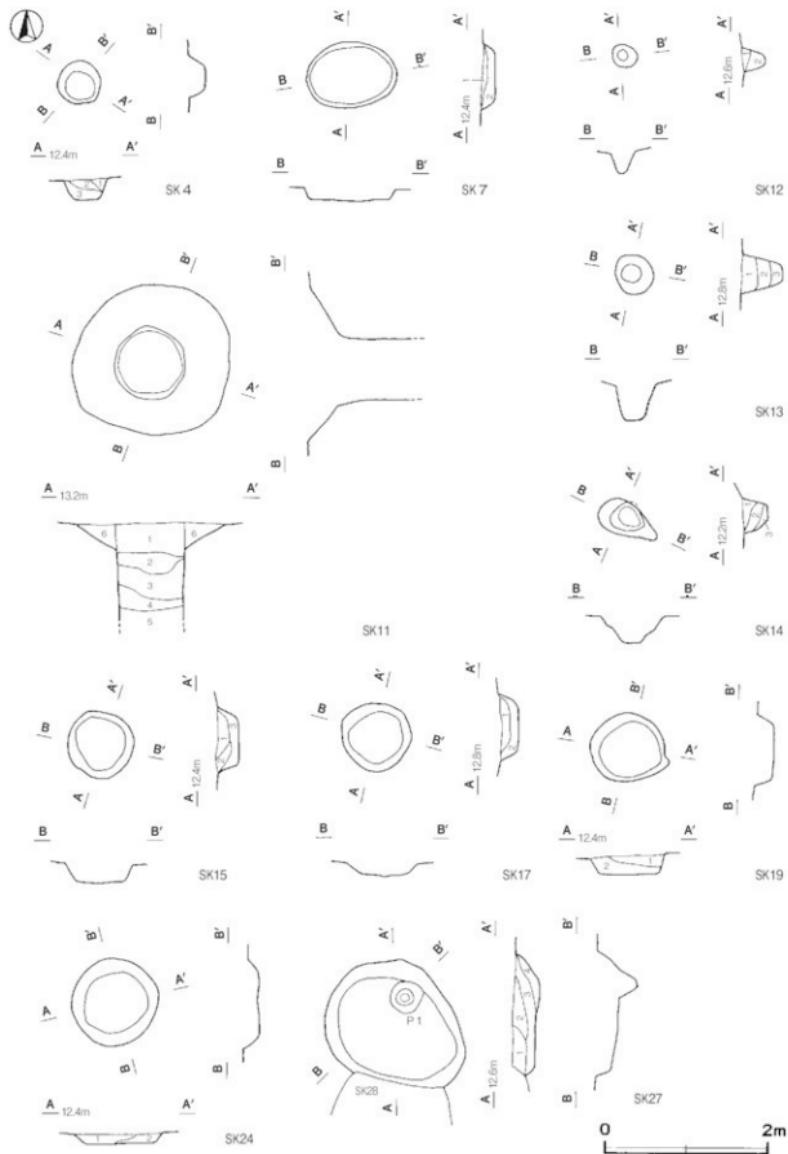
第20図 第155号土坑・出土遺物実測図

第155号土坑出土遺物観察表（第20図）

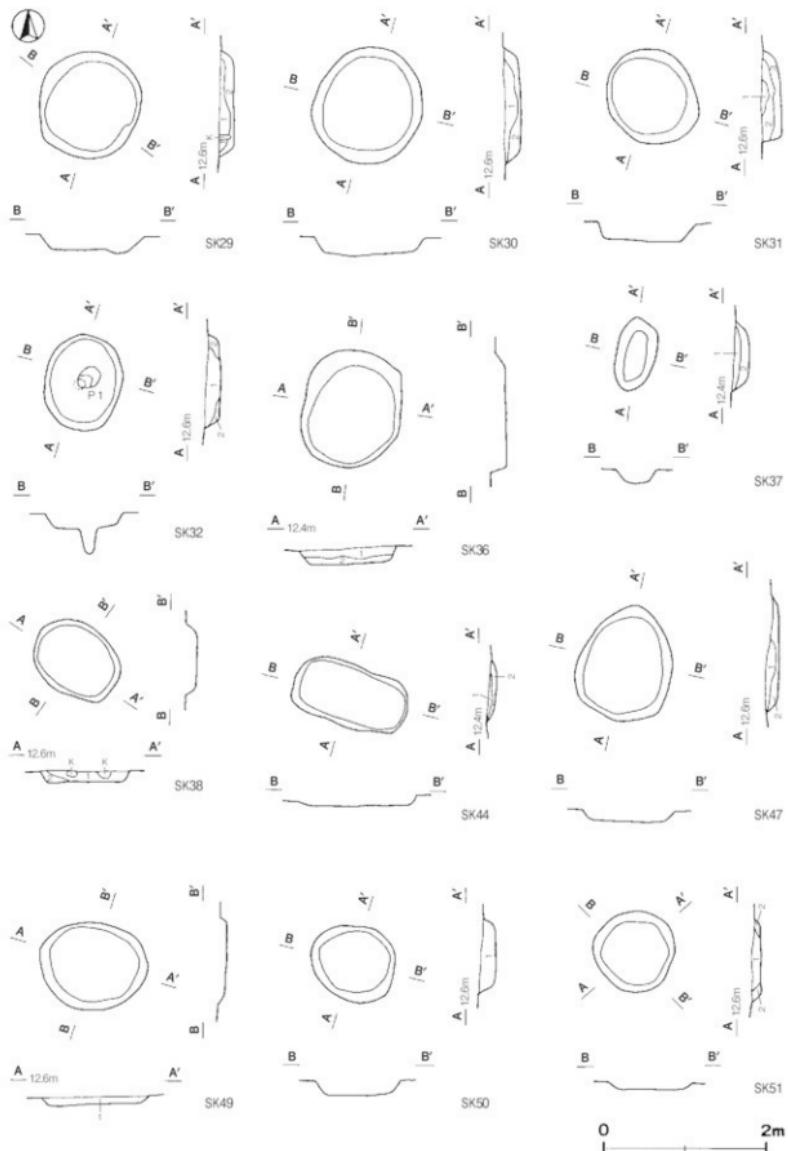
番号	種別	形種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	口縁部刺突縞文で山形の集合沈縞文を区画 脚部LR縞文	覆土下層	
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	口縁部刺突縞文で山形の集合沈縞文を区画 脚部LR縞文	覆土下層	PL15



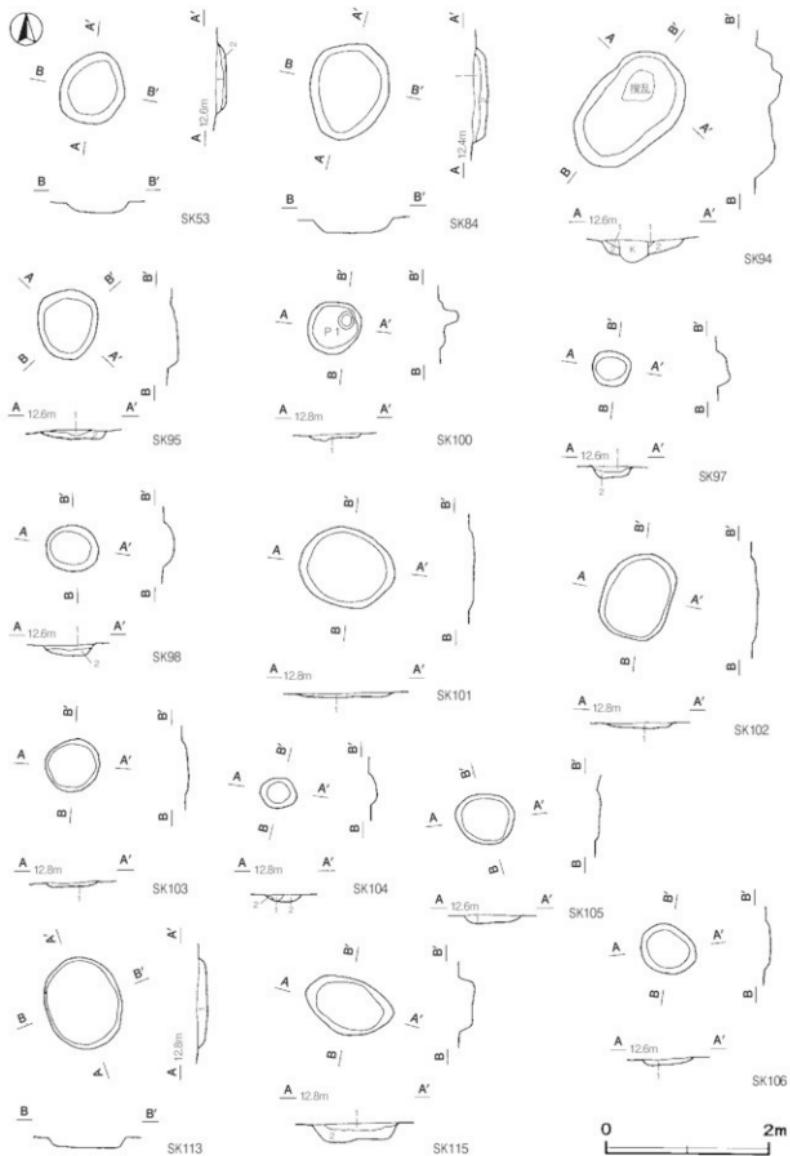
第21図 縄文時代土坑実測図（1）



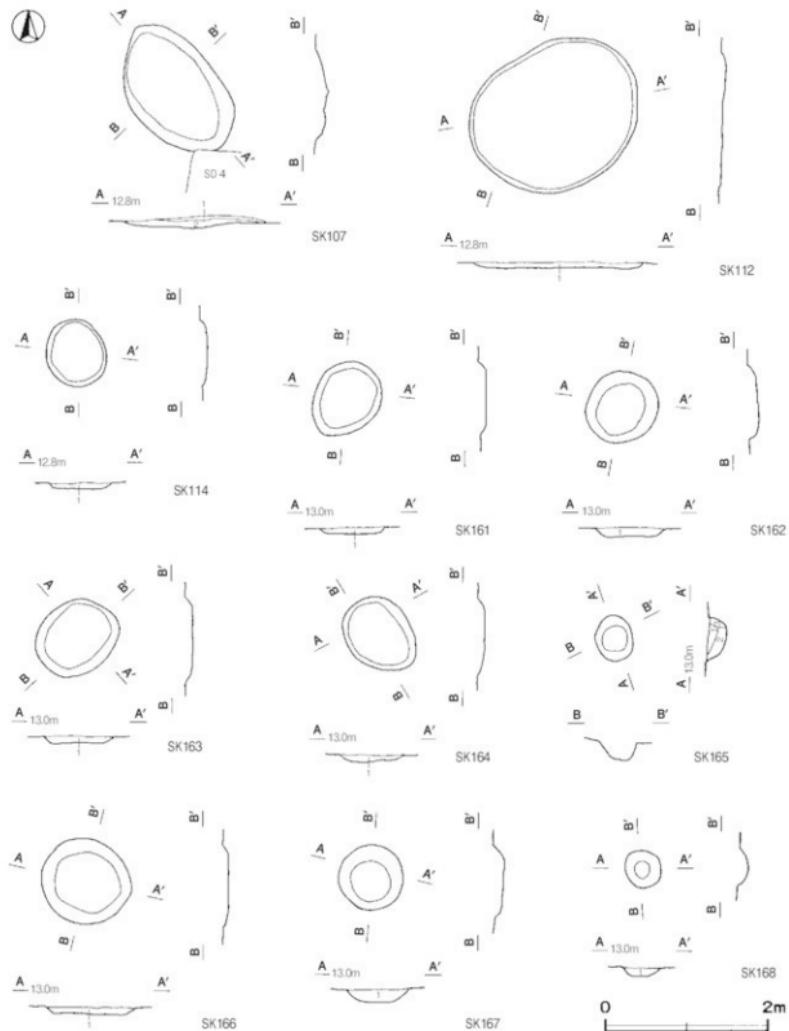
第22図 繩文時代土坑実図（2）



第23図 繩文時代土坑実測図（3）



第24図 繩文時代土坑実測図(4)



第25図 繩文時代土坑実測図（5）

第 1 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子中量

第 2 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量

第 3 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子中量
3 暗褐色 ロームブロック微量

第 4 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
2 黑褐色 ロームブロック微量
3 黑褐色 ロームブロック少量

第 7 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子中量

第 11 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック微量
2 黑褐色 ロームブロック少量
3 黑褐色 ロームブロック多量
4 黑褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量
5 黑褐色 ロームブロック中量
6 黑褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック中量

第 12 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
2 黑褐色 ロームブロック微量

第 13 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量
3 黑褐色 ローム粒子少量

第 14 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量（粘性・練まり普通）
2 暗褐色 ローム粒子微量（粘性・練まり弱）
3 黑褐色 ローム粒子微量

第 15 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子少量

第 17 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量

第 19 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
2 褐色 ローム粒子中量

第 24 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子中量

第 27 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック多量・炭化粒子微量
4 明褐色 ロームブロック多量

第 29 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量・炭化粒子微量
2 明褐色 ロームブロック多量・炭化粒子微量

第 30 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量・炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック多量

第 31 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック多量・炭化粒子微量
3 褐色 ロームブロック多量・炭化粒子少量

第 32 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・黒褐色土ブロック少量・炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック多量

第 36 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量

第 37 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量・炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック多量

第 38 号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量・炭化粒子微量
2 明褐色 ローム粒子多量・炭化粒子微量

第 44 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量・炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子多量・炭化粒子微量

第 47 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量・炭化粒子少量・燒土粒子微量
2 褐色 ロームブロック多量・炭化粒子少量

第 50 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量・炭化粒子少量・燒土粒子微量

第 51 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量・炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック多量

第 53 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量・炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック多量

第 84 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量・燒土粒子・炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック多量・炭化粒子微量

第 94 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
2 褐色 ローム粒子中量

第 95 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
2 褐色 ロームブロック中量

第 97 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
2 暗褐色 ローム粒子少量

第 98 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
2 暗褐色 ロームブロック中量

第 100 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量

第 101 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量

第 102 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量

第 103 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量

第 104 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 暗褐色 ローム粒子中量

第 105 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

第 106 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

第 107 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック多量

第 112 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量

第 113 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量

第 114 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子多量、燒土粒子・炭化粒子微量

第 115 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、燒土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量

第 161 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量、燒土粒子微量

第 162 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量、燒土粒子微量

第 163 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第 164 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第 165 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

3 明褐色 ロームブロック多量

第 166 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第 167 号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

第 168 号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

表2 繩文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 則		底面	横面	覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)						
1	C 6 g3	N - 66° - W	椭円形	0.78 × 0.58	20	平坦	外傾	人為			
2	C 6 g1	N - 60° - W	椭円形	1.52 × 1.02	22	平坦	傾斜	人為			
3	C 6 h2	-	円形	1.36 × 1.20	20	平坦	傾斜	人為			
4	C 3 a1	-	円形	0.55 × 0.52	24	平坦	傾斜	人為			
6	B 2 j0	N - 40° - E	椭円形	1.45 × 1.15	28	平坦	傾斜	自然	縄文土器片	早期未葉	
7	C 3 b0	N - 81° - E	椭円形	1.13 × 0.81	15	平坦	傾斜	人為			
10	C 4 c1	N - 3° - E	(椭円形)	2.35 × (126)	15	平坦	傾斜	自然	縄文土器片、 自然理	後期前半	SI 1 → 本跡 → SD 5 安全な深さで正 めた。丁部は確 認できなかった。
11	C 6 g3	-	円形	1.80 × 1.86	(126)	-	傾斜	人為	縄文土器片	前期	
12	C 4 f9	N - 43° - W	椭円形	0.34 × 0.27	27	U字状	外傾	自然			
13	C 4 f9	-	円形	0.49 × 0.47	48	U字状	外傾	人為			
14	B 4 j1	N - 65° - W	不整椭円形	0.76 × 0.43	33	平坦	外傾	自然			
15	C 4 a2	-	円形	0.85 × 0.83	26	平坦	外傾	自然			
17	C 4 f9	-	円形	0.87 × 0.84	20	平坦	傾斜	人為			
19	C 4 a3	-	不整円形	0.89 × 0.86	23	平坦	外傾	人為			
22	C 4 b3	N - 3° - E	椭円形	1.46 × 1.27	18	平坦	傾斜	自然	縄文土器片	中期後半	
23	C 4 c2	-	円形	1.61 × 1.58	14	平坦	傾斜	人為	縄文土器片、 自然理	後期前半	SI 1 → 本跡
24	C 4 b1	-	円形	1.06 × 1.02	19	平坦	傾斜	人為			SI 1 → 本跡
25	C 4 c2	N - 31° - W	椭円形	1.16 × 0.99	(14)	平坦	傾斜	人為	縄文土器片	早期未葉	本跡 → SI 1
26	C 4 c3	N - 12° - W	椭円形	1.48 × 1.12	17	平坦	傾斜	自然	縄文土器片	中期後半	
27	C 4 d2	N - 51° - W	椭円形	1.84 × 1.53	29	平坦	傾斜	人為			本跡 → SK28

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
28	C 4 d2	N - 6° - W	楕円形	2.11 × 1.54	21	平坦	外傾	人為	縄文土器片	中期後半	SK27 → 本跡
29	C 4 e4	-	円形	1.32 × 1.26	19	平坦	傾斜	人為			
30	C 4 d5	-	円形	1.44 × 1.35	21	平坦	外傾	人為			
31	C 4 d5	N - 47° - W	楕円形	1.23 × 1.09	24	平坦	外傾	人為			
32	C 4 d5	N - 16° - E	楕円形	1.16 × 0.94	20(ビト部49)	平坦	外傾	人為			
33	C 4 e6	N - 81° - W	楕円形	1.72 × 1.46	25	平坦	外傾	人為	縄文土器片	早期末葉	
34	C 4 d4	N - 11° - E	楕円形	0.78 × 0.69	21	平坦	外傾	人為	縄文土器片	中期後半	
35	C 4 d4	N - 46° - W	楕円形	2.26 × 1.60	30	平坦	外傾	人為	縄文土器片	中期後半	
36	C 4 a3	N - 11° - E	楕円形	1.45 × 1.21	19	平坦	外傾	人為			
37	C 4 a5	N - 7° - E	楕円形	0.90 × 0.50	16	圓状	傾斜	人為			
38	C 4 e6	N - 50° - W	楕円形	1.13 × 0.87	15	平坦	外傾	人為			
44	C 4 b7	N - 78° - W	隅丸長方形	1.46 × 0.75	13	平坦	外傾	人為			
47	C 4 b8	N - 13° - E	楕円形	1.45 × 1.17	14	平坦	傾斜	人為			
49	C 4 b9	N - 82° - W	楕円形	1.35 × 1.07	49	平坦	傾斜	人為			
50	C 5 b1	N - 62° - W	楕円形	1.08 × 0.92	19	平坦	外傾	人為			
51	C 5 b1	-	円形	1.02 × 0.99	9	平坦	傾斜	人為			
52	C 5 b2	N - 18° - E	楕円形	2.00 × 1.12	21	平坦	外傾	人為	縄文土器片	中期後半	本跡 → SD 6
53	C 4 c9	N - 14° - E	楕円形	0.91 × 0.78	12	平坦	傾斜	人為			
84	C 4 b6	N - 15° - E	楕円形	1.22 × 0.99	18	平坦	傾斜	人為			
94	C 4 b9	N - 40° - E	楕円形	1.59 × 1.02	25	平坦	傾斜	人為			
95	C 4 c9	N - 5° - W	楕円形	0.85 × 0.73	13	圓状	傾斜	人為			
97	C 4 c9	-	円形	0.48 × 0.45	16	平坦	傾斜	人為			
98	C 4 c9	N - 75° - W	楕円形	0.64 × 0.57	15	平坦	傾斜	人為			
100	C 5 e5	N - 43° - E	楕円形	0.70 × 0.61	7(ビト部24)	平坦	傾斜	人為			
101	C 5 e5	N - 74° - W	楕円形	1.18 × 0.97	6	平坦	傾斜	人為			
102	C 5 e5	N - 24° - E	円形	1.08 × 0.85	7	平坦	傾斜	人為			
103	C 5 g6	-	円形	0.68 × 0.66	6	平坦	傾斜	人為			
104	C 5 c3	N - 86° - W	楕円形	0.45 × 0.39	9	平坦	傾斜	人為			
105	C 5 c2	N - 88° - W	楕円形	0.71 × 0.62	5	平坦	傾斜	人為			
106	C 5 c2	N - 64° - W	楕円形	0.72 × 0.59	8	平坦	傾斜	人為			
107	C 5 e7	N - 36° - W	楕円形	1.83 × 1.10	16	凸凹	傾斜	人為		本跡 → SD 4	
112	C 5 d5	N - 53° - E	楕円形	2.18 × 1.74	5	平坦	傾斜	人為		本跡 → SB 1	
113	C 5 d6	N - 6° - W	楕円形	1.11 × 0.94	13	平坦	傾斜	人為		本跡 → SB 1	
114	C 5 d4	-	円形	0.81 × 0.76	8	平坦	傾斜	人為		本跡 → SB 1	
115	C 5 d4	N - 74° - W	楕円形	1.12 × 0.69	23	平坦	傾斜	人為		本跡 → SB 1	
135	C 6 d7	N - 15° - W	楕円形	3.07 × 2.52	18	平坦	外傾	人為	縄文土器片	前期初頭	
161	C 6 g8	N - 29° - E	楕円形	0.99 × 0.80	9	平坦	傾斜	人為			
162	C 6 g8	-	円形	0.90 × 0.86	11	平坦	傾斜	人為			
163	C 6 g8	N - 46° - E	楕円形	1.03 × 0.88	9	平坦	傾斜	人為			
164	C 6 g8	N - 42° - W	楕円形	1.01 × 0.82	9	平坦	傾斜	人為			
165	C 6 g3	N - 20° - W	楕円形	0.55 × 0.45	22	圓状	外傾	人為			
166	C 6 e6	-	円形	1.09 × 1.02	6	平坦	傾斜	人為			
167	C 6 g8	-	円形	0.80	13	平坦	傾斜	人為			
168	C 6 g8	N - 32° - W	楕円形	0.47 × 0.42	13	圓状	傾斜	人為			

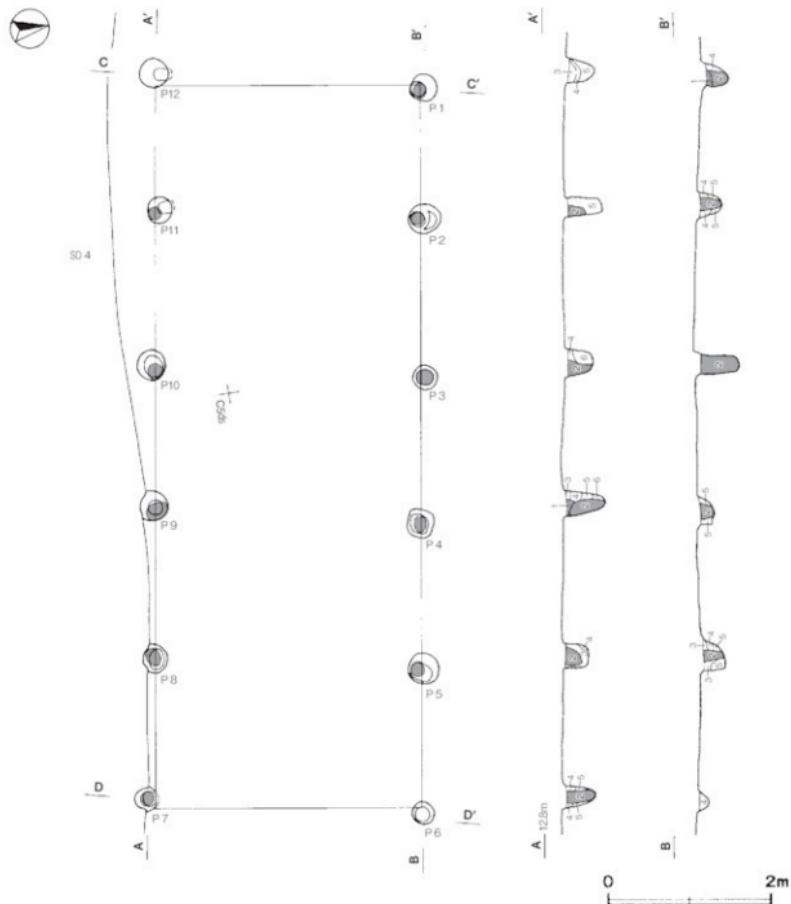
2 室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、掘立柱建物跡3棟、井戸跡2基、火葬施設3基、地下式坑5基、土坑57基、堀跡1条、溝跡7条、柱穴列4条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

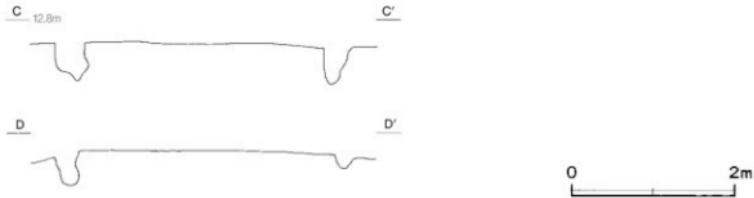
(1) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第26・27図）

位置 調査区中央部東側のC 5c4 区、標高13 mほどの台地平坦部に位置している。



第26図 第1号掘立柱建物跡実測図（1）



第27図 第1号掘立柱建物跡実測図（2）

重複関係 第4号溝に掘り込まれている。

規模と構造 桁行5間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-81°-Wの東西棟である。規模は桁行8.88m、梁行3.28mで、面積は29.13m²である。柱間寸法は桁行が178m(6尺)、梁行が328m(11尺)を基調とし、均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 12か所。平面形は円形で、径28~34cmである。深さは16~52cmである。第1・2層が柱痕跡で、第3~6層は埋土で、突き固められている。P1~P5・P7~P11の底面で、柱のあたりを確認した。

土層解説（各柱穴共通）

1 明褐色 ローム粒子多量	4 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	5 暗褐色 ロームブロック多量
3 明褐色 ロームブロック多量	6 黄褐色 ロームブロック多量

所見 時期を確認できる遺物は出土していないが、第3号掘立柱建物跡の桁行方向とはほぼ同じであることから、室町時代に機能していたと考えられる。性格は規模や配置状況から、倉庫と想定される。

第2号掘立柱建物跡（第28図）

位置 調査区中央部南東側のC54区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第108号土坑を掘り込み、第3号火葬施設に掘り込まれている。

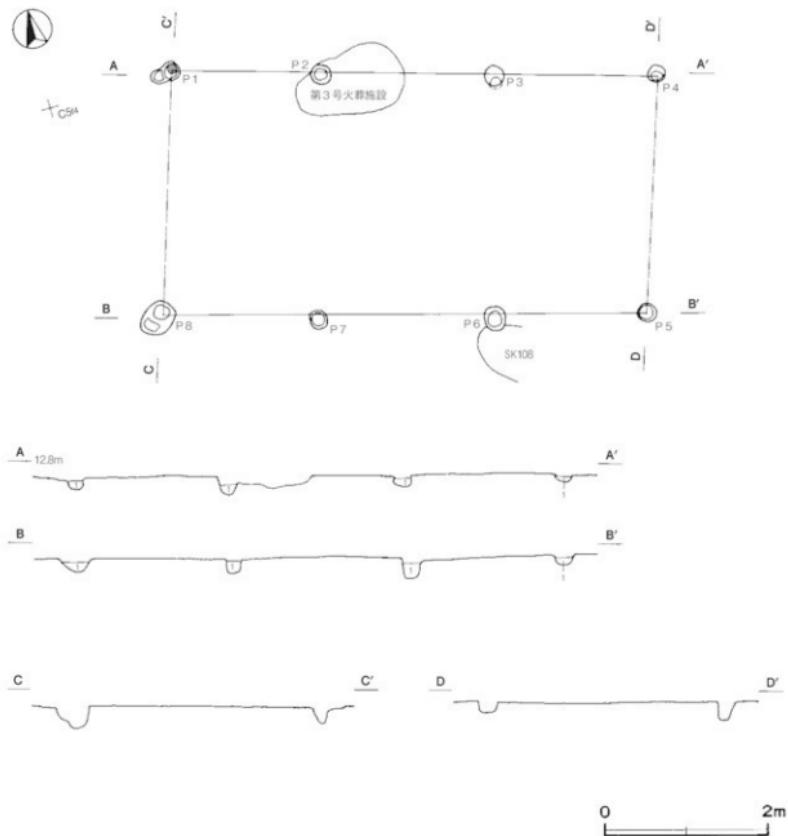
規模と構造 桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向がN-74°-Wの東西棟である。規模は桁行6.05m、梁行3.00mで、面積は18.15m²である。柱間寸法は桁行が182m(6尺)~2.18m(7尺)を基調とし、梁行が3.00m(10尺)で、均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は円形または楕円形で、径22~44cmである。深さは9~23cmである。P1の底面で柱のあたりを確認した。

土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色 ロームブロック多量、炭化物少量、焼土粒子微量

所見 時期を確定できる遺物は出土していないが、第1・3号掘立柱建物跡の桁行方向とはほぼ同じであることや、重複関係から室町時代に機能していたと考えられる。性格は規模や配置状況から、倉庫と想定される。



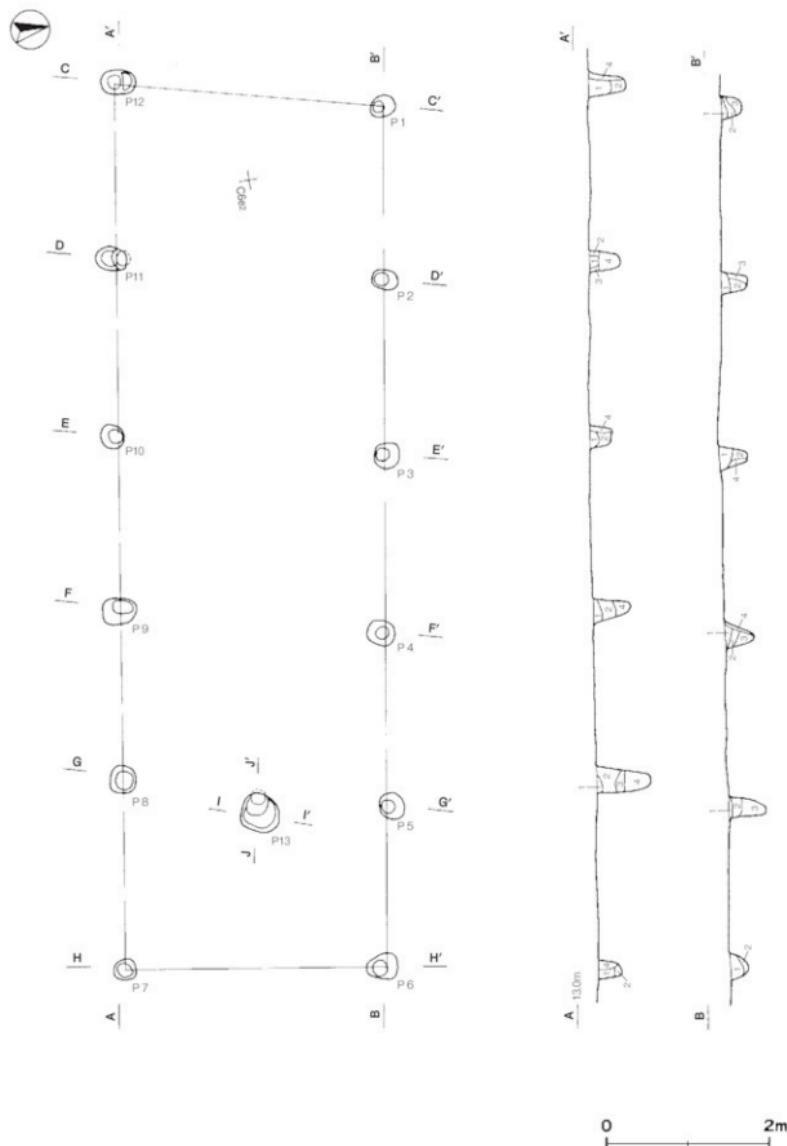
第28図 第2号掘立柱建物跡実測図

第3号掘立柱建物跡（第29・30図）

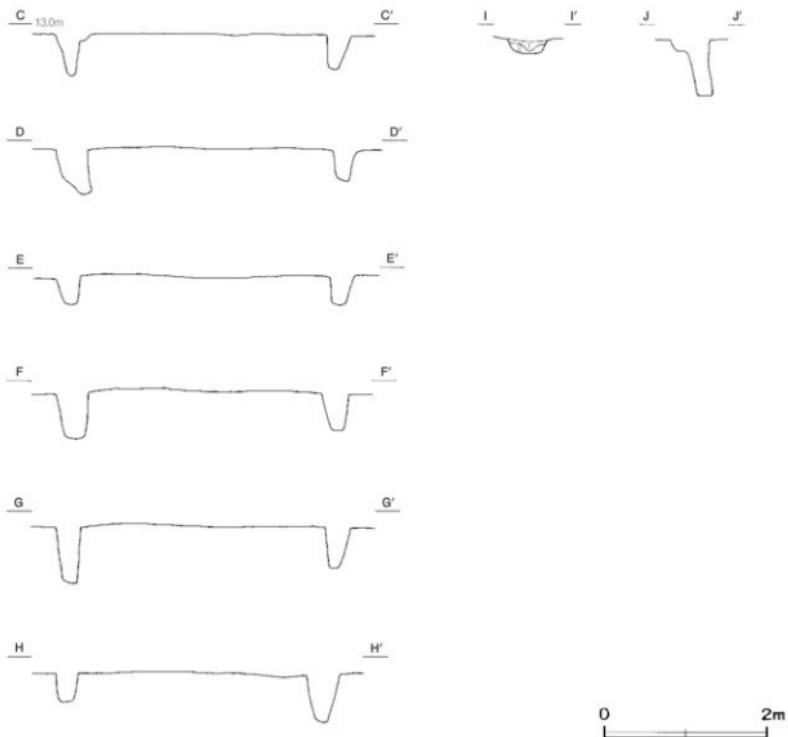
位置 調査区東部のC 6 d1 区、標高 13 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 衍行5間、梁行1間の側柱建物跡で、衍行方向がN - 81° - Wの東西棟である。規模は衍行 10.95m、梁行 3.30m で、面積は 36.14m² である。柱間寸法は衍行が 2.00 m (7 尺) ~ 2.30 m (8 尺)、梁行が 3.30 m (11 尺) を基調とし、均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 13 か所。平面形は円形または梢円形で、長径 28 ~ 42cm、短径 22 ~ 28cm、深さは 34 ~ 68cm である。土層はすべて柱抜き取り後の覆土である。P13 は他の柱穴と形状や深さがほぼ同一で周辺にピットの存在が確認できなかったことから、当遺構に伴う柱穴とした。



第29図 第3号掘立柱建物跡実測図（1）



第30図 第3号掘立柱建物跡実測図（2）

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|----------------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量 | 3 黒褐色 ローム粒子中量 |
| 2 増褐色 ロームブロック・炭化粒子多量、灰色砂質土ブロック少量 | 4 増褐色 ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師質土器片1点（皿）が、P 8の覆土中から出土している。細片のため、図示できなかった。所見 時期は、出土土器から室町時代後半と考えられる。建物跡内に炉が存在するが、遺物の出土はみられないため、隣接する宿東遺跡からも、建物内に炉の存在が確認でき、伴う可能性はあるが根拠に乏しいため、炉は、別遺構とした。建物の性格は規模や配置状況から、倉庫と想定される。

表3 室町時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	柱行方向	柱間数	規模	面積 幅×奥(間) (m) × (m)	柱間寸法		柱穴			主な出土物	時期	備考
						柱間(m)	便間(m)	構造	柱穴形	深さ(cm)			
1	C 5c4	N-81'-W	5×1	8.88×3.28	29.13	1.78	3.28	側柱	12	円形	16~52	室町	本跡→SD 4
2	C 5d4	N-74'-W	3×1	6.05×3.00	18.15	1.82~2.18	3.00	側柱	8	円形・ 楕円形	9~23	室町	SK108→本跡→ 第3号火葬施設
3	C 6d1	N-81'-W	5×1	10.95×3.30	36.14	2.00~2.30	3.30	側柱	13	円形・ 楕円形	34~68	土師質土器片	室町後半

(2) 井戸跡

第1号井戸跡（第31図）

位置 調査区中央部のC 4d8区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.18m、短径1.83mの楕円形で、長径方向はN-71°-Wである。確認面から1.40mまで漏斗状に掘り込んだ後、下部は径0.98mの円筒状に掘り下げている。深さ1.95mまで掘り下げた時点で、崩落の恐れがあることから、下部の調査を断念した。

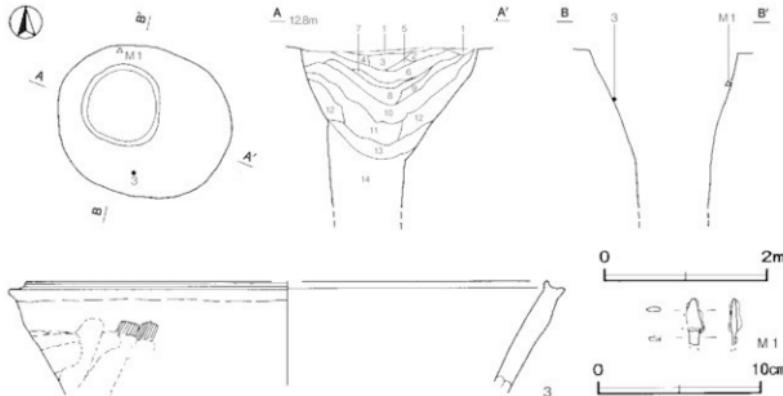
覆土 14層に分層できる。各層にロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子多量、白色粘土ブロック少量、燒土粒子 子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子多量
2 暗褐色	ロームブロック中量	8 黒褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック・白色粘土ブロック少量、燒土ブ ロック微量
4 褐色	ロームブロック多量	10 黒褐色	ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化粒子微量
5 明褐色	ロームブロック・白色粘土ブロック・燒土粒子・ 炭化粒子少量	11 黒褐色	ローム粒子多量、燒土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック・白色粘土ブロック・燒土粒子・ 炭化粒子少量	12 明褐色	ロームブロック多量
		13 褐色	ローム粒子多量
		14 黒褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師質土器片2点（皿、鉢）、鉄器1点（鎌）が覆土上層から出土している。土師質土器皿は、細片のため図示できなかった。3は南壁際、M1は北壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から16世紀前葉と考えられる。



第31図 第1号井戸跡・出土遺物実測図

第1号井戸跡出土遺物観察表（第31図）

番号	種別	器種	口径	厚さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
3	土師質土器	鉢	[32.0]	(6.9)	-	長石・石英、 赤母	明赤褐色	普通	外側ハケ目後ナデ、内面ナデ	覆土上層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	鎌	(29)	(1.0)	0.4	(2.1)	鉄	鎌身部の破片、基部欠損	覆土上層	PL17

第2号井戸跡（第32図）

位置 調査区中央部のC 5 b2 区、標高12mはどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.41m、短径1.24mの楕円形で、長径方向はN-81°-Wである。確認面から0.98mまで漏斗状に掘り込んだ後、下部は径0.88mの円筒状に掘り下げている。深さ2.02mまで掘り下げた時点で、崩落の恐れがあることから、下部の調査を断念した。

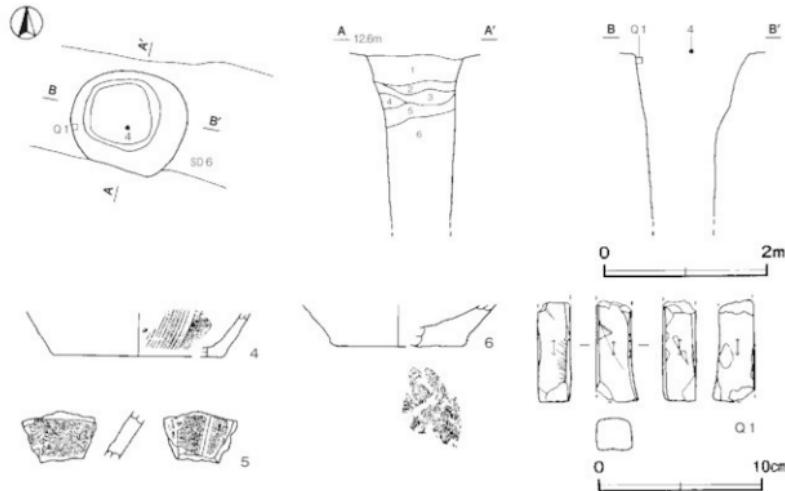
覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量	4	黒褐色	ロームブロック少量、炭化穀子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化穀子微量	5	黒褐色	ロームブロック微量
3	黒褐色	ロームブロック微量	6	暗褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片6点（皿3、鉢1、擂鉢2）、石器1点（砥石）、自然疊2点（内縫付着1）が覆土上層から出土している。土師質土器皿は、細片のため図示できなかった。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から16世紀前葉と考えられる。



第32図 第2号井戸跡・出土遺物実測図

第2号井戸跡出土遺物観察表（第32図）

番号	種別	器種	口径	厚さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	はか	出土位置	備考
4	土師質土器	擂鉢	-	(2.7)	[10.4]	灰石・石英・ 雲母	にじ・黄褐	普通	外表面ナメ	黒斑あり 内面11条1単位の縦目	覆土上層	5%
5	土師質土器	擂鉢	-	(3.2)	-	灰石・石英	均一な 均一な	普通	外表面ナメ	内面5条1単位の縦目	覆土上層	5%
6	土師質土器	鉢	-	(2.6)	[8.0]	長石・石英	明暁	普通	外・内面ナメ		覆土上層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	砥石	(6.2)	26	20	[52.9]	安山岩	砥面4面	覆土上層	PL17

表4 室町時代井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		断面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(m)					
1	C 4d8	N - 71° - W	楕円形	2.18 × 183	(1.95)	漏斗状	-	人為	土師質土器片、鉄鏃	
2	C 5b2	N - 81° - W	楕円形	1.41 × 124	(2.02)	漏斗状	-	人為	土師質土器片、瓦石、自然理	SD 6 → 本跡

(3) 火葬施設

第1号火葬施設（第33図）

位置 調査区中央部のC 5c1区。標高13mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号溝に掘り込まれている。

規模と形状 平面形はT字状で、主軸方向はN - 165° - Eである。通風溝の規模は、確認できた長さが1.60mで、上幅0.60m、下幅0.20mである。確認面からの深さは5cmで、底面は皿状を呈し、燃焼部に向かって傾斜している。燃焼部は南北分が第4号溝に掘り込まれているため、東西軸（横幅）1.98m、南北軸（奥行き）0.75mしか確認できなかった。平面形は楕円形と推定でき、主軸と鋭角（50度）に交わっている。確認面からの深さは14cmで、底面は中央部が皿状にくぼみ、東部と西部はほぼ平坦である。壁は緩やかに立ち上がっていている。

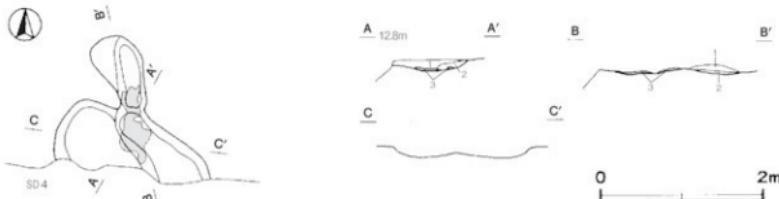
覆土 3層に分層できる。焼土ブロック、炭化粒子、骨粉が不規則に混じり、ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 3 明赤褐色 | 焼土ブロック、炭化粒子多量、骨粉少量 |
| 2 明褐色 | ロームブロック多量 | | |

遺物出土状況 燃焼室から骨粉がわずかに出土している。

所見 焼土ブロック、炭化粒子、骨粉が出土していることや、T字状の形態及び調査区内に墓坑と考えられる土坑がみられることから、葬送にかかる火葬施設と考えられる。時期は、第2号火葬施設とほぼ同時の16世紀前葉と考えられる。



第33図 第1号火葬施設実測図

第2号火葬施設（第34図）

位置 調査区中央部のC 5c3区。標高13mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第75号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形はT字状で、主軸方向はN - 17° - Eである。通風溝の規模は、長さが2.09mで、上幅0.64m、下幅0.50mである。確認面からの深さは41cmで、底面は鍋底状を呈し、燃焼部に向かって傾斜して

いる。燃焼部は横幅 1.55 m、奥行き 1.37 m の隅丸長方形で、主軸と直交している。確認面からの深さは 42 cm で、底面はほぼ平坦である。壁は直立している。

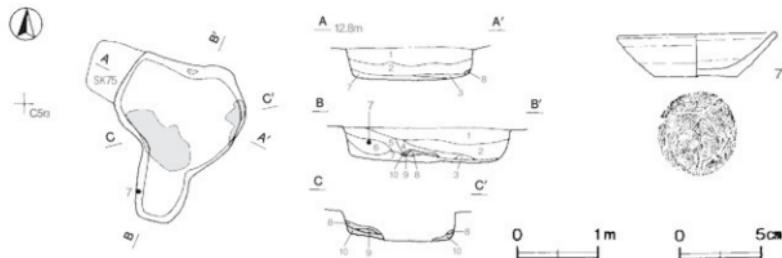
覆土 10 層に分層できる。焼土粒子、炭化粒子、骨粉が不規則に混じり、ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量	7 褐 色 ロームブロック少量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量、焼土粒子微量	8 赤 褐 色 焼土ブロック中量、炭化粒子・骨粉少量
3 黒 褐 色 ローム粒子、焼土粒子少量	9 暗赤褐色 焼土ブロック・骨粉少量
4 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	10 暗赤褐色 焼土ブロック・骨粉少量、ロームブロック・炭化粒子微量
5 暗褐色 焼土ブロック中量	
6 暗褐色 ロームブロック少量	

遺物出土状況 土師質土器片 2 点（皿）が覆土中層から出土している。7 は通風溝の西壁際から逆位で出土している。その他は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から 16 世紀前葉と考えられる。



第 34 図 第 2 号火葬施設・出土遺物実測図

第 2 号火葬施設出土遺物観察表（第 34 図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土地点	備 考
7	土師質土器	皿	97	28	50	灰石・墨母・赤色粒子	褐	普通	ロクロナデ 内面わずかに僅着 底部削鉛系切り	覆土中層	60% PL16

第 3 号火葬施設（第 35 図）

位置 調査区中央部の C 54 区、標高 13 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 2 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 燃焼部の規模は、長径（横幅）1.35 m、短径（奥行き）0.83 m の梢円形で、長径方向は N - 92° - E である。確認面からの深さは 13 cm で、底面はほぼ平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

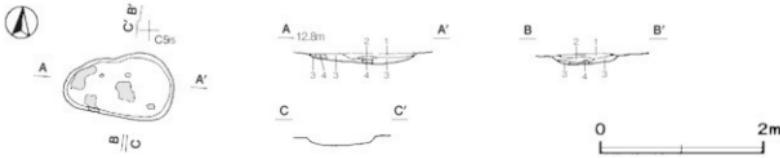
覆土 4 層に分層できる。焼土粒子、炭化粒子、骨片・骨粉が不規則に混じり、ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	3 暗褐色 ローム粒子少量
2 暗褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量	4 赤褐色 焼土ブロック多量、骨片・骨粉・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（皿）が覆土中から出土している。細片のため、図示できなかった。燃焼室からは骨片、骨粉が出土している。骨片は 2 cm のため、部位は確定できなかった。

所見 時期は、出土土器から16世紀前後と考えられる。通風溝は確認できなかった。



第35図 第3号火葬施設実測図

表5 室町時代火葬施設一覧表

番号	位置	軸方向	平面形	全長 (m)	構口部			通風溝			燃焼部			覆土	主な出土遺物	備考
					奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (m)	上面 (m)	下幅 (m)	深さ (m)	奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (m)			
1	C5c1	N-165°-E	T字状	(16.0)	-	-	-	0.60	0.20	5	0.75	1.98	14	平坦	人為	本跡→SD 4
2	C5f3	N-17°-E	T字状	2.09	-	-	-	0.64	0.50	41	1.37	1.55	42	平坦	人為	土師質土器片、骨粉
3	C5f4	N-92°-E	椭円形	(0.83)	-	-	-	-	-	-	0.83	1.35	13	平坦	人為	土師質土器片、骨片、骨粉
															SD 2→本跡	

(4) 地下式坑

第1号地下式坑（第36図）

位置 調査区中央部のC 4 d6 区、標高 12 m ほどの台地平坦部に位置している。

軸長・軸方向 軸長は 4.94 m で、軸方向は N-0° である。

堅坑 主室の南側に位置し、奥行き 1.39 m、横幅 2.05 m の長方形である。深さは 1.67 m で、壁は外傾して立ち上がっている。底面は緩やかに傾斜し、主室の底面とは 10cm の段差をなしている。

主室 奥行き 3.55 m、横幅 2.02 m の長方形である。天井部は崩落している。底面は平坦で、確認面からの深さは 1.89 m で、壁はやや外傾して立ち上がっている。

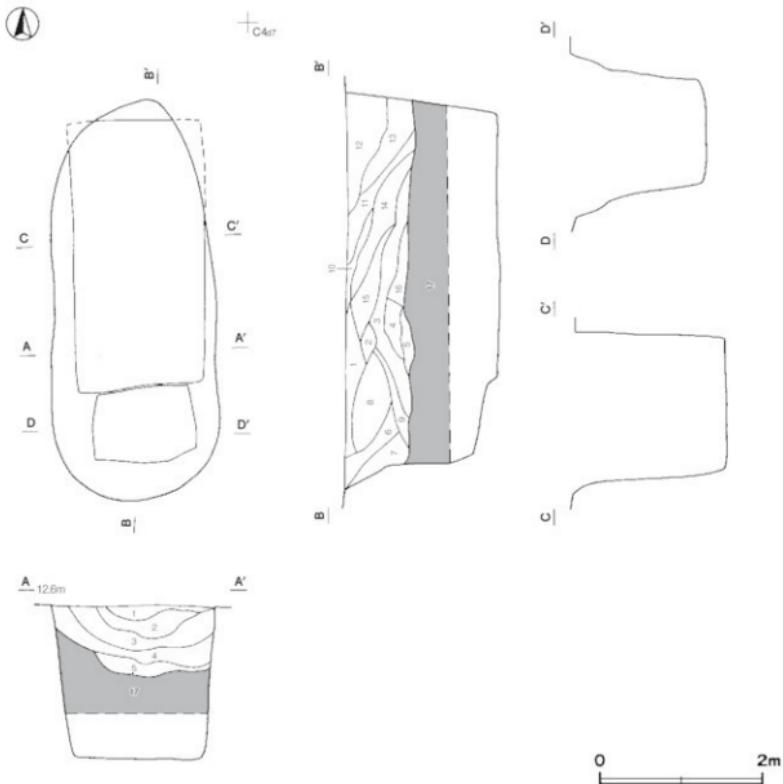
覆土 21 層に分層できる。第 17 層は天井部の崩落土である。第 1 ~ 16 層まではロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。また、第 18 層以下は堅坑側から流入した堆積状況を示す自然堆積土と観察できたが、土層断面の崩落により土層図を作成できなかった。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量	12	暗褐色	ロームブロック中量（粘性弱、締まり普通）
2	黒褐色	ローム粒子中量（粘性強、締まり普通）	13	黒褐色	ローム粒子少量
3	黒褐色	ロームブロック中量	14	黒褐色	ローム粒子中量、灰色砂質土微量
4	黒褐色	ロームブロック微量（粘性弱、締まり普通）	15	黒褐色	ローム粒子中量（粘性、締まり普通）
5	暗褐色	ロームブロック微量	16	黒褐色	ロームブロック微量
6	黒褐色	ロームブロック中量	17	褐色	天井部崩落土（地山）
7	暗褐色	ロームブロック中量（粘性強、締まり普通）	18	褐色	ローム粒子少量、燒土粒子、炭化粒子微量
8	黒褐色	ローム粒子、灰色砂質土中量	19	黒褐色	ローム粒子、燒土粒子、炭化粒子微量
9	黒褐色	ロームブロック微量（粘性、締まり普通）	20	暗褐色	ローム粒子少量、燒土粒子、炭化粒子微量
10	黒褐色	灰色砂質土中量、ローム粒子微量	21	暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子、炭化粒子微量
11	灰褐色	ロームブロック、砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（鉢）、陶器片 1 点（鉢）が覆土中から出土している。細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から室町時代後期と考えられる。



第36図 第1号地下式坑実測図

第2号地下式坑（第37図）

位置 調査区中央部のC 4e8区。標高12mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号溝に掘り込まれている。

軸長・軸方向 軸長は5.26mで、軸方向はN-79°-Wである。

豊坑 主室の東側に位置し、奥行き1.10m、横幅1.42mの長方形である。深さは1.57～2.03mで、壁は直立している。底面は急角度で傾斜し、主室の底面とは15cmの段差をなしている。

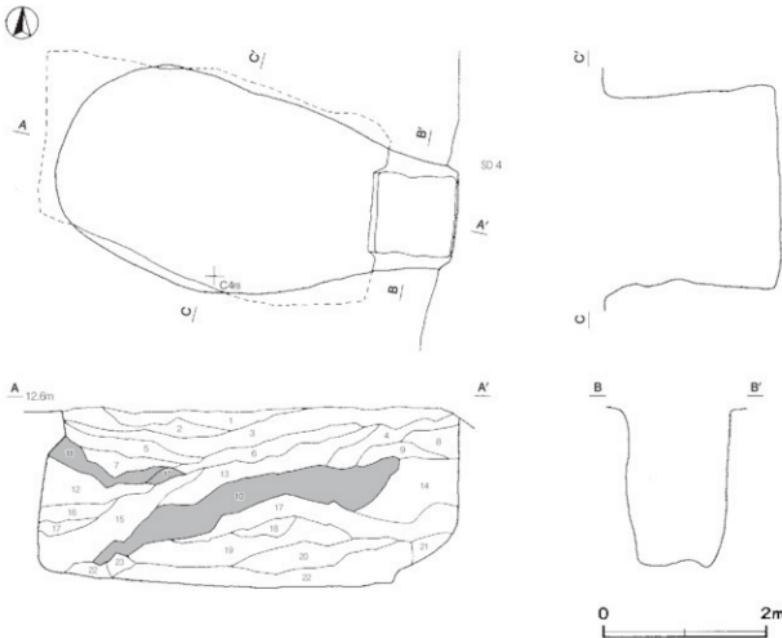
主室 奥行き4.16m、横幅2.66mの長方形である。天井部はわずかに残存しているほかは崩落している。底面は平坦で、確認面からの深さは2.16mで、壁はやや内傾して立ち上がっている。

覆土 23層に分層できる。第10・11層は天井部の崩落土で、ほかは多くのロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。なお、豊坑から流入した自然堆積土は当遺構からは確認できなかった。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック中量（粘性・締まり弱）
2 黒褐色	ロームブロック中量（粘性・締まり普通）
3 黒褐色	ローム粒子中量、炭化物微量
4 黒褐色	ローム粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子中量
6 黒褐色	ロームブロック微量（粘性普通・締まり強）
7 黒褐色	ローム粒子微量
8 黒褐色	ロームブロック少量
9 黒褐色	ロームブロック微量（粘性普通・締まり普通）
10 暗褐色	天井部崩落土（地山）
11 暗褐色	天井部崩落土（地山）
12 暗褐色	ローム粒子中量
13 黒褐色	ロームブロック微量（粘性・締まり普通）
14 黒褐色	ロームブロック微量
15 黒褐色	ロームブロック多量
16 暗褐色	ローム粒子微量
17 黒褐色	ロームブロック中量
18 暗褐色	ローム粒子多量（粘性普通・締まり強）
19 黒褐色	ロームブロック微量（粘性弱・締まり強）
20 黒褐色	ローム粒子少量
21 黒褐色	ローム粒子少量
22 暗褐色	ローム粒子多量（粘性・締まり強）
23 暗褐色	ローム粒子中量

所見 時期を確定できる遺物は出土していないが、遺構の形状から室町時代後期と考えられる。



第37図 第2号地下式坑実測図

第3号地下式坑（第38図）

位置 調査区中央部のC 4g0区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

軸長・軸方向 南部が調査区域外に延びているため、東西軸（軸長）は3.35mしか確認できなかった。

堅坑 確認状況から主室の南東側に位置することが推測できる。大半が調査区域外に延びているため、東西軸（奥行き）0.50m、南北軸（横幅）0.30mしか確認できなかった。深さは150mまで掘り下げた時点で、調査範囲が狭いため、崩落の恐れがあることから、下部の調査を断念した。

主室 東西軸（奥行き）1.80 m、南北軸（横幅）は1.18 mしか確認できなかった。深さは1.50 mまで掘り下げた時点で、調査できる範囲が狭く、崩落の恐れがあることから、下部の調査を断念した。

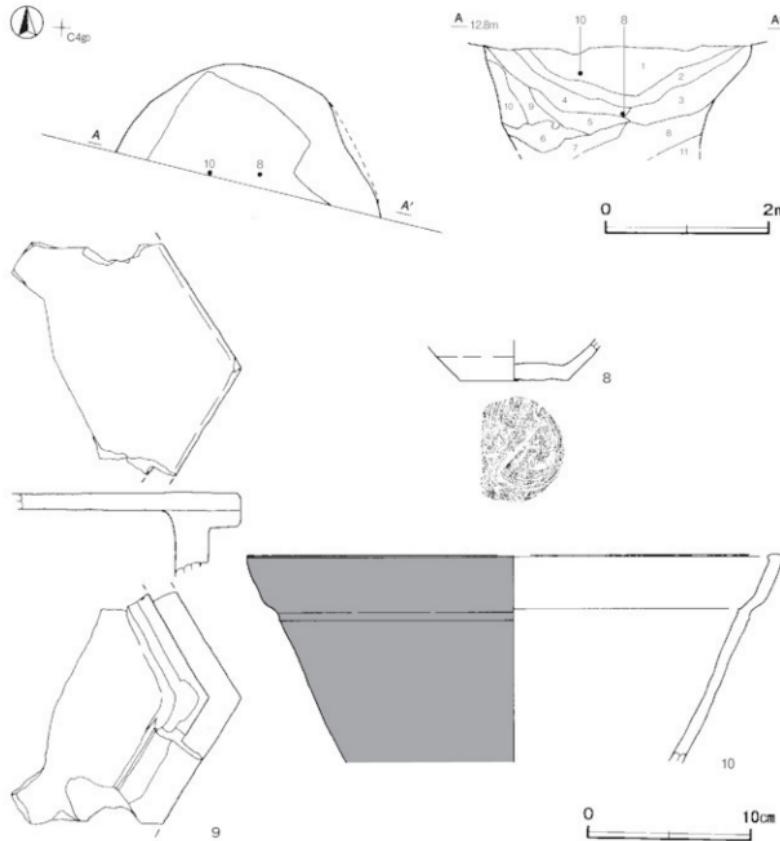
覆土 11層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1	褐	色	ロームブロック多量、灰色粘土ブロック微量	7	暗	褐	色	ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量
2	暗	褐	色	8	黒	褐	色	ロームブロック中量
3	暗	褐	色	9	暗	褐	色	ローム粒子微量
4	褐	色	ローム粒子多量、燒土粒子微量	10	黒	褐	色	ローム粒子・炭化粒子微量
5	褐	褐	色	11	褐	色	ローム粒子中量	
6	褐	色	ローム粒子多量					

遺物出土状況 土師質土器片27点（皿2、脚付盤1、内耳鍋24）、鉄片2点（鎌カ）、緑泥片岩片1点（板碑片カ）、軽石1点、自然雞1点が覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前葉と考えられる。



第38図 第3号地下式坑・出土遺物実測図

第3号地下式坑出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
8	土師質土器	壺	-	(2.5)	6.6	長石・石英・雲母 半晶粒子	明赤褐色	普通	体部外・内面クロナデ 底部回転系切り後、 ナメ調整	覆土上層	30% PL17
9	土師質土器	脚付盤	-	(3.1)	-	長石・石英	外黒褐色 内橙	普通	体部外・内面ナデ 脚部貼付 六角	覆土上層	10% PL17
10	土師質土器	内耳瓶	(33.0)	(12.8)	-	長石・雲母	褐	普通	体部外・内面ナデ 外面部付着	覆土上層	10% PL17

第4号地下式坑（第39・40図）

位置 調査区中央部のC40区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

軸長・軸方向 軸長は251mで、軸方向はN-81°-Wである。

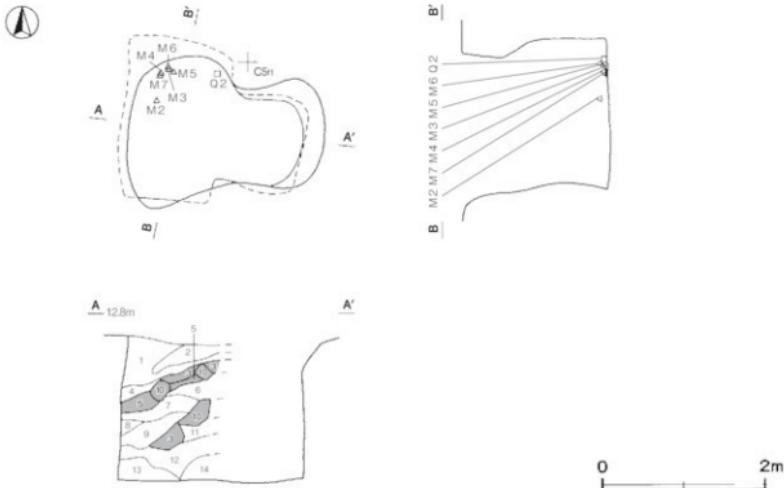
堅坑 主室の東側に位置し、奥行き12.4m、横幅1.46mの隅丸長方形である。深さは1.82mで、壁はほぼ直立している。底面はほぼ平坦である。主室の底面との差はほとんどない。

主室 奥行き1.27m、横幅2.11mの長方形である。天井部はわずかに残存部分を残し、崩落している。底面は平坦で、確認面からの深さは1.79mで、蓋はやや内傾して立ち上がっている。

覆土 14層に分層できる。第3・5・10層は天井部の崩落土で、各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。なお、堅坑から流入した堆積状況を示す自然堆積土は確認できなかった。

土層解説

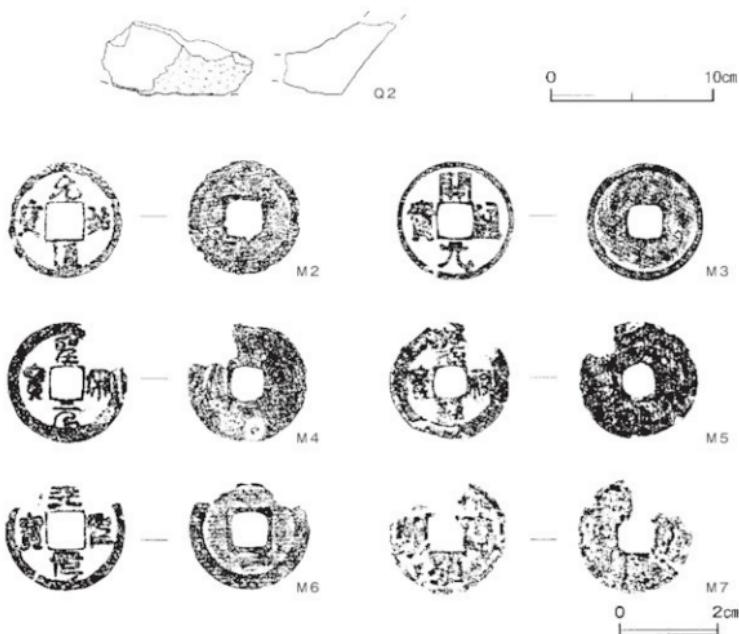
1	黒	褐	色	ロームブロック中量	8	暗	褐	色	ロームブロック微量
2	黒	褐	色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	9	黒	褐	色	ロームブロック多量
3	明	褐	色	天井部崩落土（地山）	10	黒	褐	色	天井部崩落土（地山（BB II））
4	黒	褐	色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	11	褐	褐	色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
5	褐	褐	色	天井部崩落土（地山）	12	明	褐	色	ロームブロック多量（粘性弱・締まり強）
6	暗	褐	色	ロームブロック多量	13	褐	褐	色	ロームブロック多量
7	明	褐	色	ロームブロック多量（粘性・締まり弱）	14	黒	褐	色	ロームブロック微量



第39図 第4号地下式坑実測図

遺物出土状況 土師質土器片1点（鉢）、石器1点（鍋）、銅製品6点（錢貨）が覆土下層から底面にかけて出土している。また、Q2が底面から出土している。

所見 時期は、出土銭貨や遺構の形状から室町時代後期と考えられる。



第40図 第4号地下式坑出土遺物実測図

第4号地下式坑出土遺物観察表（第40図）

番号	器種	口径	高さ	底径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	石鍋	-	(45)	-	(307.9)	安山岩	削り出し成形	底面	PL17
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M2	元祐通寶	24	23	0.1	21	銅	北宋銭（初開年1093年）の模範銭 行書体 無背	覆土下層	PL18
M3	開元通寶	24	24	0.1	24	銅	南唐銭（初開年 960年）の模範銭 行書体	底面	PL18
M4	聖宋元宝	25	25	0.1	(20)	銅	北宋銭（初開年1001年）の模範銭 行書体	覆土下層	PL18
M5	元祐通寶	24	25	0.1	(22)	銅	北宋銭（初開年1093年）の模範銭 行書体 無背	底面	PL18
M6	聖宋元宝	(22)	25	0.1	(21)	銅	北宋銭（初開年1001年）の模範銭 行書体	覆土下層	PL18
M7	元祐通寶	(24)	24	0.1	(13)	銅	北宋銭（初開年1093年）の模範銭 行書体 無背	底面	PL18

第5号地下式坑（第41・42図）

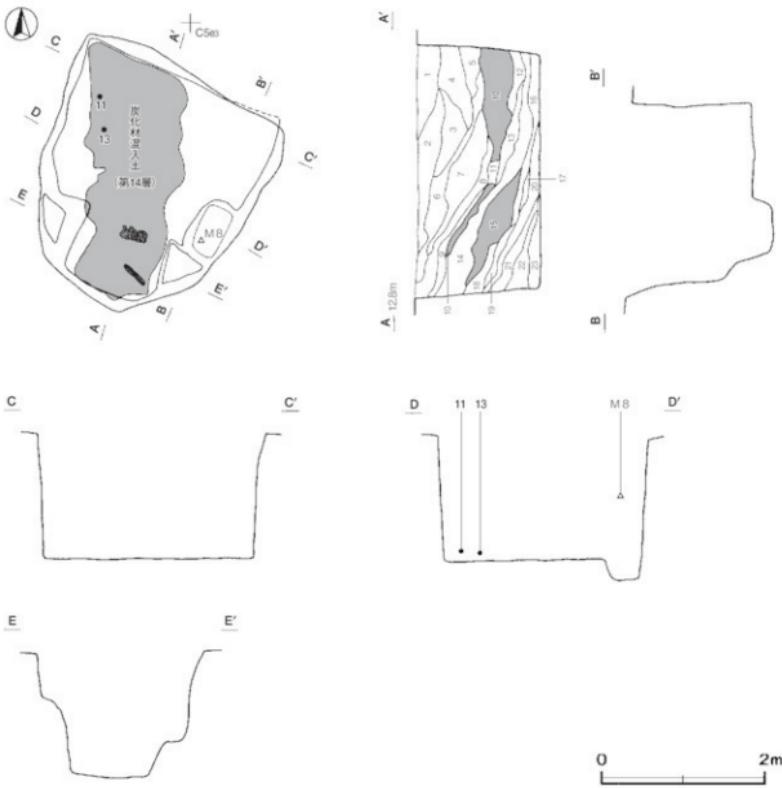
位置 調査区中央部のC 5e2区。標高13mほどの台地平坦部に位置している。

軸長・軸方向 軸長は296mで、軸方向はN-29°-Eである。

竪坑 主室の南側に位置し、奥行き1.01m、横幅2.27mの長方形である。深さは1.56mで、壁はほぼ直立している。東西壁の中位に段を有し、棚状の施設または、出入りする時の施設と考えられる。底面は平坦である。主室の底面との段差はほとんどない。

主室 奥行き1.95m、横幅2.84mの長方形である。天井部は崩落している。底面は平坦で、確認面からの深さは1.56mで、壁は直立している。東壁際の底面には、長軸0.81m、短軸0.41mの長方形で、深さ28cmの掘り込みが付設されている。

覆土 23層に分層できる。第10・15層は天井部の崩落土で、多くの層にロームブロックが多量に含まれていることから埋め戻されている。また、第14・18層は、炭化材を多く混入した竪坑からの廃棄土である。なお、竪坑から流入した堆積状況を示す自然堆積土は確認できなかった。



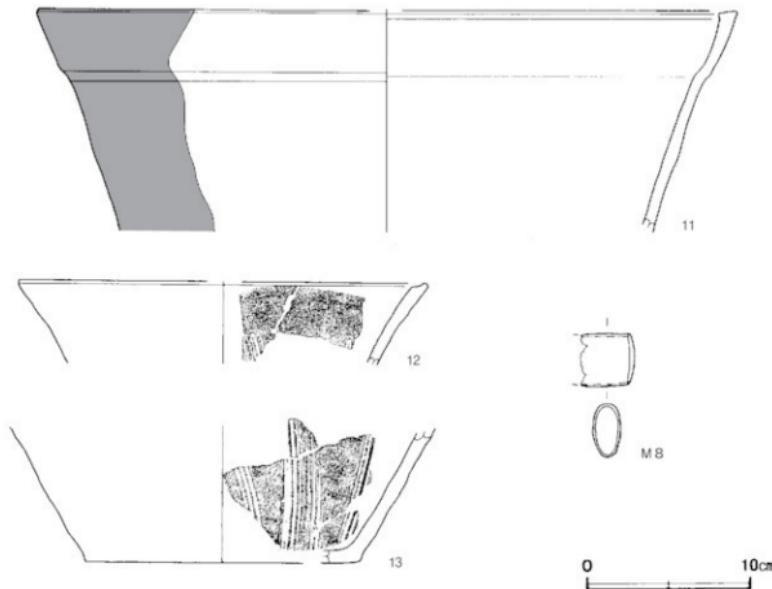
第41図 第5号地下式坑実測図

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	14 黒褐色	炭化物・ローム粒子多量、燒土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	15 明褐色	天井部崩落土（地山）
3 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック多量、炭化物少量
4 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	17 明褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ローム粒子多量	18 黒褐色	ロームブロック・炭化物多量、燒土粒子微量
6 明褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	19 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量（粘性弱・繊維強）
7 暗褐色	ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量	20 黒褐色	ローム・ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8 明褐色	ロームブロック多量（粘性・繊維弱）	21 黒褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
9 黑褐色	ローム粒子少量	22 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量（粘性・繊維弱）
10 黑褐色	天井部崩落土（地山）	23 明褐色	ロームブロック多量（粘性弱・繊維強）
11 黑褐色	ロームブロック・炭化物少量		
12 褐色	ロームブロック多量		
13 黑褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師質土器片6点（内耳鍋）、瓦質土器片4点（擂鉢）、陶器片1点（鉢）、銅製品1点（鞘尻金具）、自然鍊3点が覆土中層から下層にかけて出土している。11・13は覆土下層、12・M8は覆土中層からそれぞれ出土している。その他の土器片、陶器片は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から16世紀前葉と考えられる。



第42図 第5号地下式坑出土遺物実測図

第5号地下式坑出土遺物観察表（第42図）

番号	種別	器種	口径	厚さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	はか	出土位置	備考
11	土師質土器	内耳鍋	〔43.0〕〔13.7〕	-	石英・石英安息香	粗	普通	外・内面ナメ	外面上に糊付着	30%	覆土下層	

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
12	瓦質土器	縦跡	[250]	(5.1)	-	長石・石英 赤鉄	に赤い黄褐色	普通	外・内面ナダ 5条1単位の縦目	覆土中層	5%
13	瓦質土器	縦跡	-	(8.3)	[170]	長石・石英	に赤い黄褐色	普通	外・内面ナダ 8条1単位の縦目	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 8	輪汎金具	(3.0)	3.4	1.7	(179)	鋼	形金加工 芸術文様	PL18	

表6 室町時代地下式坑一覧表

番号	位置	軸方向	平面図		軸長 (m)	主窓規格			堅坑規格			覆土	主な出土遺物	備考
			主窓	堅坑		奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (m)	奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (m)			
1	C 4 d6	N - 0°	長方形	長方形	494	3.55	202	189	129	205	167	人為、 自然	土師質土器片、陶器片	
2	C 4 e8	N - 79° - W	長方形	長方形	526	4.16	266	216	110	142	157 ~ 203	人為		本跡 → SD 4
3	C 4 g0	[N - 42° - W]	[長方形]	[長方形]	[3.35]	1.80	(1.18)	(1.50)	(0.50)	(0.30)	(1.50)	人為	土師質土器片、鐵片、灰 磚片々、軽石、自然礫	
4	C 4 f0	N - 81° - W	長方形	輪汎形	251	1.27	211	179	124	146	182	人為	鐵片	
5	C 5 e2	[N - 29° - W]	[長方形]	[長方形]	296	1.95	284	156	101	227	156	人為	土師質土器片、瓦質土器 片、陶器片、輪汎	

(5) 土坑

今回の調査で、出土遺物や形状、覆土の堆積状況から、室町時代とみられる土坑57基を確認した。以下、遺構の形状や遺物の出土状況が特徴的な5基について解説し、それ以外のものは実測図と土層解説、一覧表で記載した。

第43号土坑（第43図）

位置 調査区中央部のC 5 e2 区、標高13 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第57号土坑に掘り込まれている。

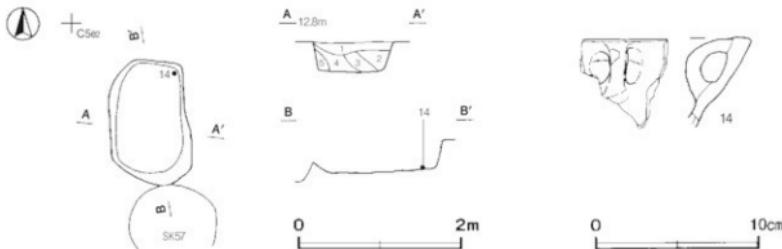
規模と形状 長軸1.56 m、短軸0.98 mの隅丸長方形で、長軸方向はN - 7° - Wである。深さは38cmで、底面はほぼ平坦である。壁は直立している。

覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 色 ロームブロック微量

- 4 暗褐色 色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 色 ローム粒子中量



第43図 第43号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片3点(内耳鍋)が出土している。14は覆土下層から出土している。

所見 形状や覆土の状況から墓坑の可能性がある。時期は、出土土器から16世紀前葉と考えられる。

第43号土坑出土遺物観察表(第43図)

番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
14	土師質土器	内耳鍋	-	(5.5)	-	長石・石英・ 珪母	灰	普通	耳部貼り付け後、外・内面ナデ	覆土下層	5% PL16

第54号土坑(第44図)

位置 調査区中央部のC4e0区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第56号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.10mほどの円形で、深さは101cmで、底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

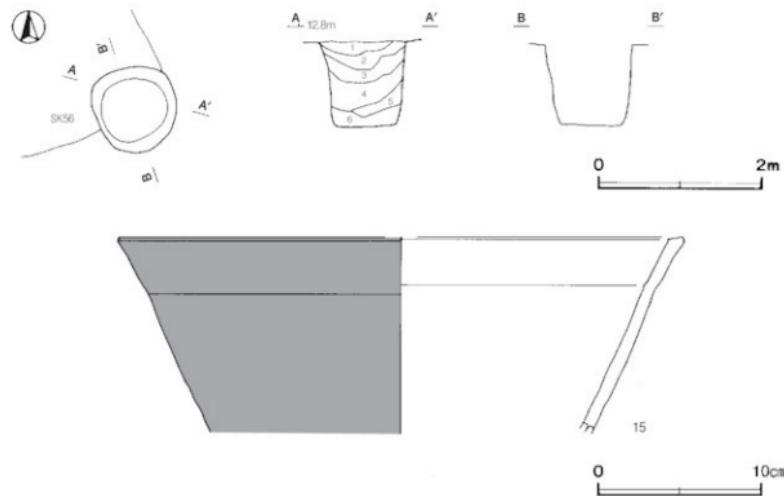
覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 明褐色	ロームブロック多量、黒褐色土ブロック少量、燒土粒子、炭化粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック多量
2 黒褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量	5 暗褐色	ロームブロック多量
3 黒褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	6 明褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 瓦質土器片1点(内耳鍋)、自然礫3点が出土している。15は覆土上層から出土している。

所見 形状や覆土の状況から墓坑の可能性がある。時期は、出土土器から16世紀前葉と考えられる。



第44図 第54号土坑・出土遺物実測図

第54号土坑出土遺物観察表(第44図)

番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
15	瓦質土器	内耳鍋	(344)	(121)	-	長石・石英	灰黄	普通	外・内面ナデ 外面擦付着	覆土上層	10% PL16

第 57 号土坑（第 45 図）

位置 調査区中央部の C 5 e2 区、標高 13 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 42・43 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径 1.05 m ほどの円形で、深さは 56cm で、底面は平坦である。壁は直立している。

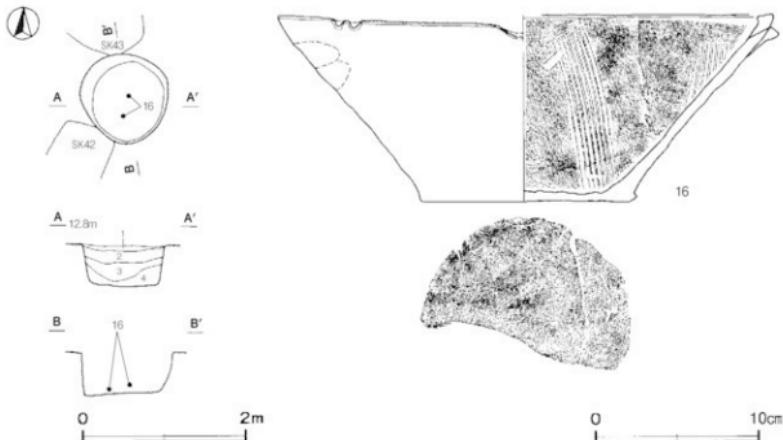
覆土 4 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量	燒土粒子・炭化粒子微量	3 黒褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック微量		4 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（片口付擂鉢）が出土している。16 は覆土下層から逆位で出土している。

所見 形状や覆土の状況、遺物の出土状況から墓坑の可能性があり、時期は、出土土器から 16 世紀前葉と考えられる。擂目に使用瓶が認められない擂鉢の出土状況から、鉢被り葬の可能性がある。



第 45 図 第 57 号土坑・出土遺物実測図

第 57 号土坑出土遺物観察表（第 45 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
16	土師質土器	片口付擂鉢	[300]	115	129	長石・石英・奈母	明黄褐	普通	外・内面ナゲ 7 条 1 単位の擂目	覆土下層	40% PL16

第 80 号土坑（第 46 図）

位置 調査区中央部の C 5 f1 区、標高 13 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 79・92・117 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 2.50 m、短軸 1.34 m の長方形で、長軸方向は N - 68° - W である。深さは 65cm で、底面は平坦である。壁は直立している。

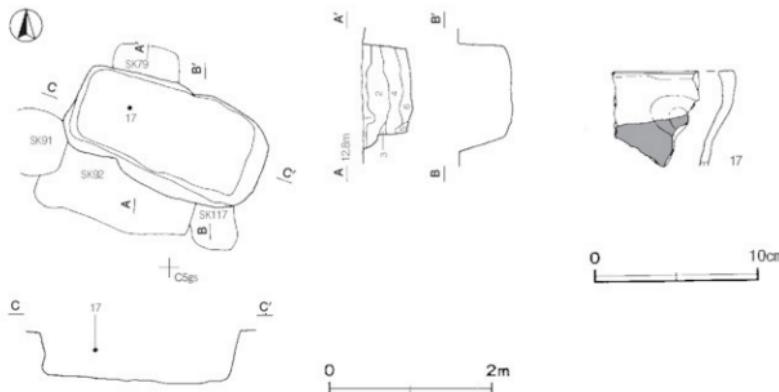
覆土 6 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗	褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	5	褐	色	ロームブロック多量
3	暗	褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量	6	黑	色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片 10 点（小皿 1, 内耳鍋 9）、自然礫 1 点が出土している。17 は覆土中層から出土している。

所見 形状や覆土の状況、遺物の出土状況から墓坑の可能性がある。時期は、出土土器から 16 世紀前葉と考えられる。



第 46 図 第 80 号土坑・出土遺物実測図

第 80 号土坑出土遺物観察表（第 46 図）

番号	種別	器種	口径	部高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	はか	出土位置	備考
17	土師乳口器	内耳鍋	-	(59)	-	長石・石英・ 雲母	にひい赤褐色	普通	河原付近の破片 外・内面ナデ	内面一部僅存 者	覆土中層	5%

第 89 号土坑（第 47 図）

位置 調査区中央部の C 5 g4 区、標高 13 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 1.70 m、短軸 0.73 m の隅丸長方形で、長軸方向は N - 16° - E である。深さは 40cm で、底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

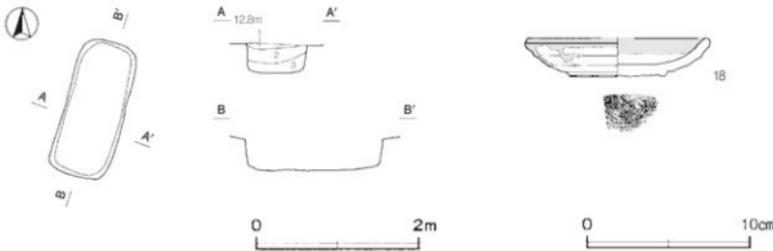
覆土 3 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗	褐色	ローム粒子中量	3	暗	褐色	ロームブロック少量
2	暗	褐色	ロームブロック中量				

遺物出土状況 陶器片 1 点（皿）が覆土下層から出土している。

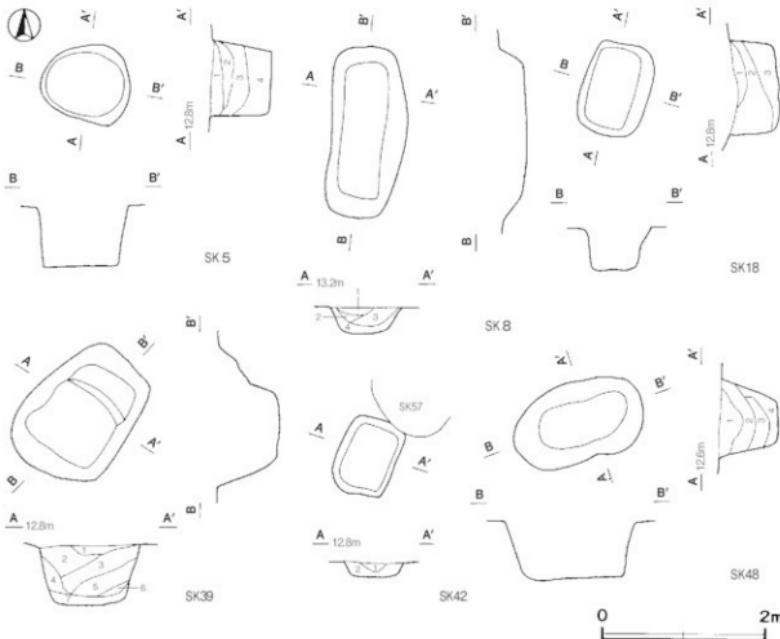
所見 形状や覆土の状況から墓坑の可能性がある。時期は、出土陶器から 15 世紀後葉～16 世紀初頭と考えられる。



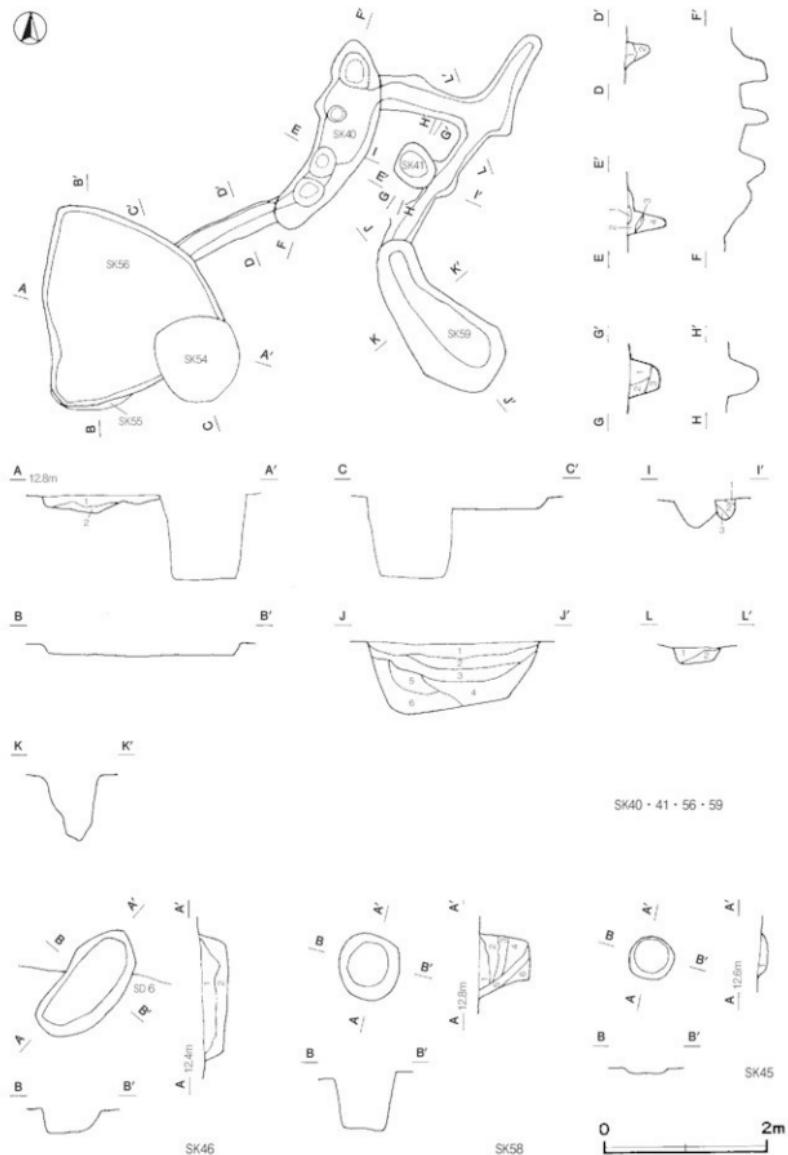
第47図 第89号土坑・出土遺物実測図

第89号土坑出土遺物観察表（第47図）

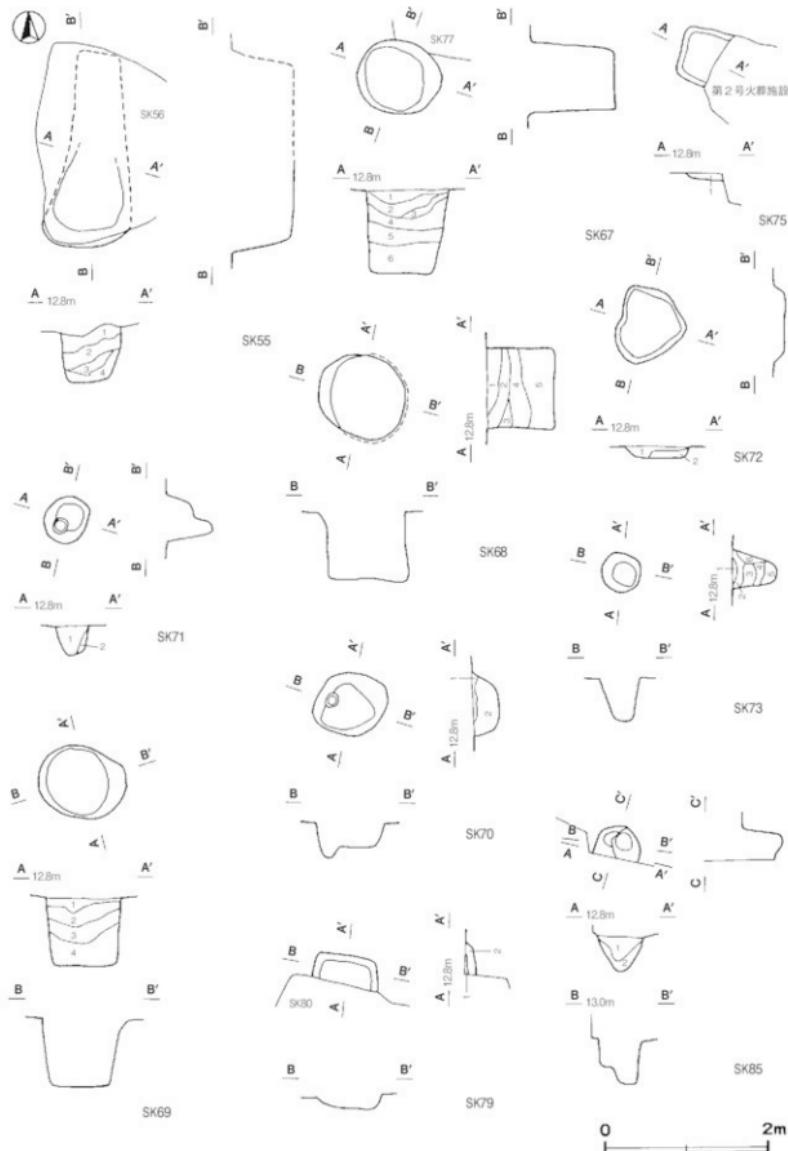
番号	種別	器種	口径	頂高	底径	胎土	色調	絞付	釉色	產地	年代	出土位置	備考
18	陶器	瓶	[11.0]	2.4	5.8	長石・緻密	にぶい黄橙	-	灰オリーブ	瀬戸	15世紀後葉～ 16世紀初期	覆土下層	30% PL.16



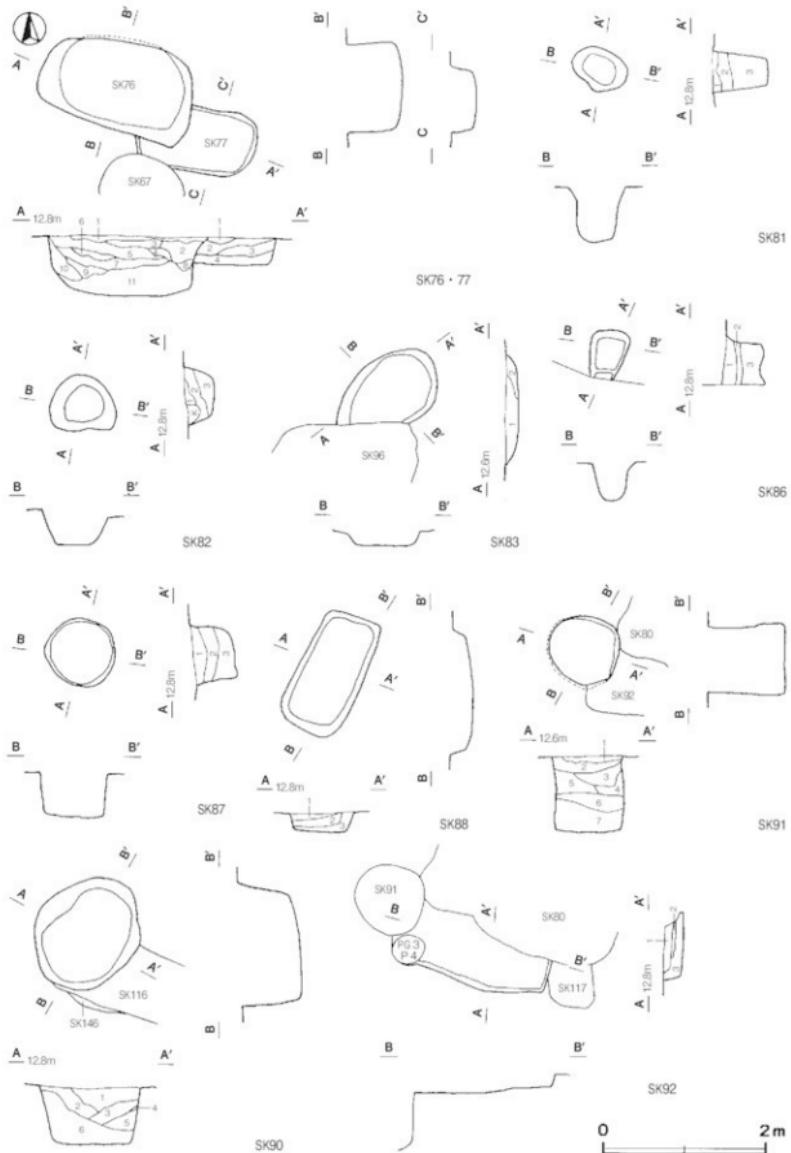
第48図 室町時代土坑実測図（1）



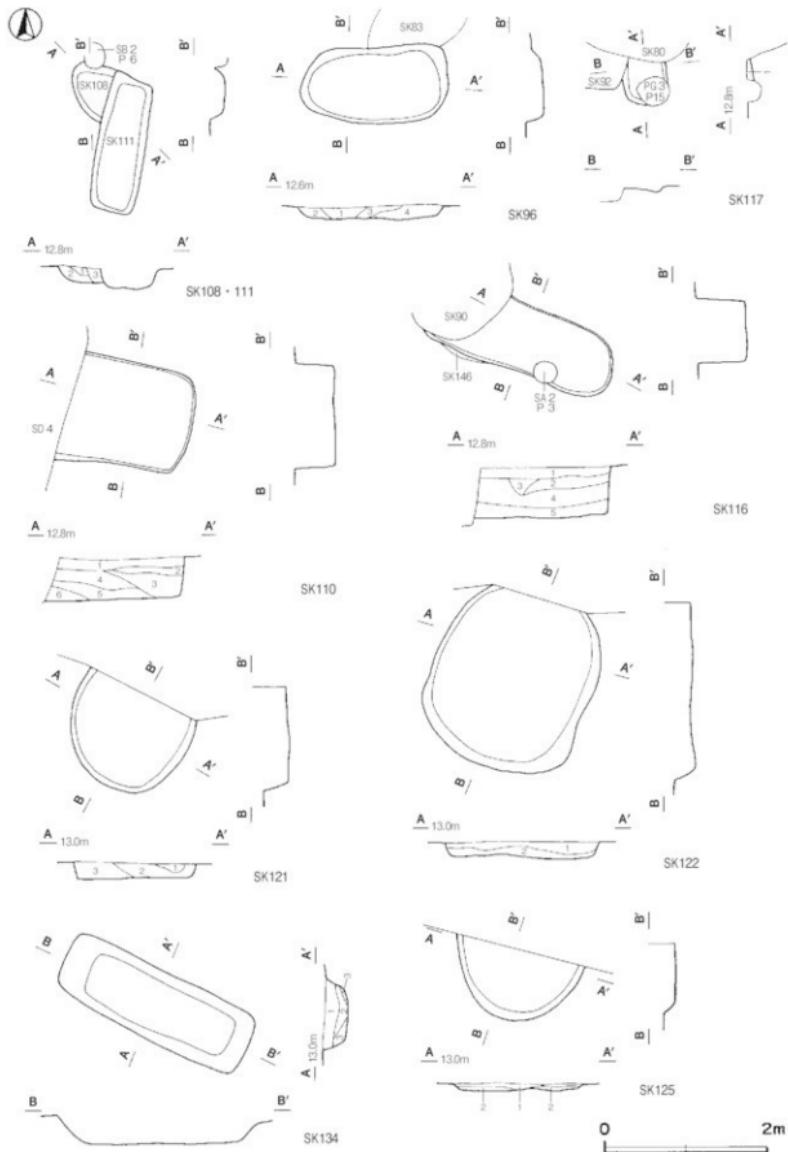
第49図 室町時代土坑実測図（2）



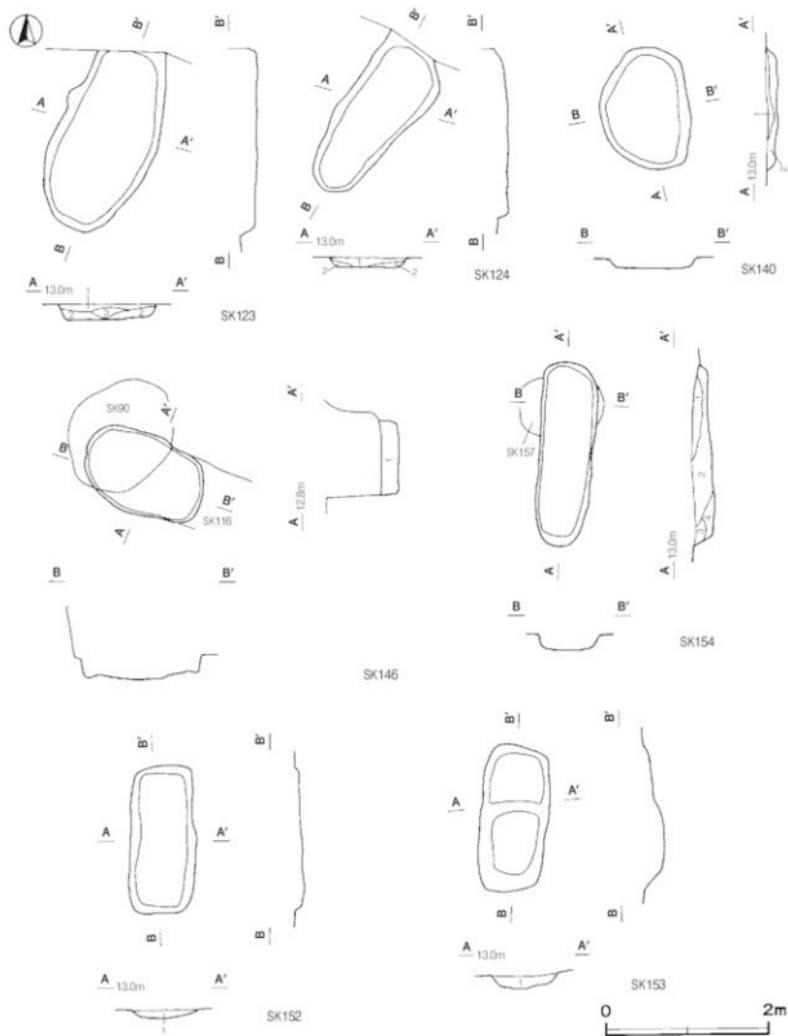
第50図 室町時代土坑実測図（3）



第 51 図 室町時代土坑実測図 (4)



第52図 室町時代土坑実測図（5）



第53図 室町時代土坑実測図（6）

第 5 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量

第 6 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量（粘性普通・締まり強）
- 2 暗褐色 ロームブロック少量（粘性・締まり普通）
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量

第 18 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量

第 39 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ローム粒子少量、燒土ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量（粘性・締まり普通）
- 5 黑褐色 ロームブロック多量、燒土ブロック・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量（粘性・締まり強）
- 7 黑褐色 ローム粒子・燒土粒子微量

第 40 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量、灰色粘土ブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック多量、灰色粘土ブロック中量

第 41 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第 42 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黑褐色 ロームブロック微量

第 45 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック微量

第 46 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第 48 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック多量

第 55 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック中量
- 2 黑褐色 ロームブロック多量
- 3 黑褐色 ロームブロック少量
- 4 黑褐色 ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量

第 56 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック多量、灰色粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック多量、黑褐色土ブロック少量

第 58 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量

第 59 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 5 黑褐色 ローム粒子多量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック多量

第 67 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・青灰色粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 にふ・黄褐色 ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 4 黑褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 5 黑褐色 ロームブロック微量
- 6 黑褐色 ローム粒子中量

第 68 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック中量（粘性・締まり強）
- 2 黑褐色 ロームブロック少量（粘性普通・締まり強）
- 3 黑褐色 ロームブロック少量（粘性・締まり普通）
- 4 黑褐色 ロームブロック中量（粘性普通・締まり弱）
- 5 黑褐色 ロームブロック微量

第 69 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック多量

第 70 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第 71 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 青灰色粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第 72 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・青灰色砂質粘土ブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第 73 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック多量
- 4 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック多量
- 6 褐色 ロームブロック少量

第 75 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子微量

第76号土坑土層解説

- 1 明褐色 明褐色砂質粘土ブロック多量。ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量。燒土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量 (粘性弱・締まり弱)
- 4 褐色 ロームブロック多量
- 5 黒褐色 ロームブロック多量。燒土粒子・炭化粒子微量
- 6 黑褐色 ロームブロック多量
- 7 褐色 ロームブロック少量
- 8 にい褐色 ロームブロック多量
- 9 暗褐色 ロームブロック多量 (粘性弱・締まり普通)
- 10 暗褐色 ロームブロック中量
- 11 暗褐色 ロームブロック多量。炭化粒子微量

第77号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量。燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量。燒土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量。燒土粒子・炭化粒子微量
- 4 黑色 ロームブロック少量

第79号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・燒土粒子少量
- 2 明褐色 ロームブロック中量。炭化粒子微量

第81号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量。燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量。炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第82号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量。炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第83号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量。炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量。炭化粒子微量

第85号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黑褐色 ロームブロック微量

第86号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第87号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第88号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第90号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量。炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック中量。燒土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量。炭化粒子微量
- 5 黑褐色 ロームブロック多量
- 6 黑褐色 ロームブロック多量。炭化粒子微量

91号土坑土層解説

- 1 青褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量。燒土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量 (粘性弱・締まり普通)
- 5 暗褐色 ロームブロック多量 (粘性弱・締まり強)
- 6 暗褐色 ロームブロック中量。炭化粒子少量。燒土粒子微量
- 7 黑色 ロームブロック多量。炭化粒子微量

第92号土坑土層解説

- 1 黑色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量。炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ロームブロック多量

第96号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量。炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量。炭化粒子微量

第108号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック多量。炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 明褐色 ロームブロック多量

第110号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック多量。炭化粒子微量
- 2 暗褐色 黑色土ブロック中量。ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・黑色土ブロック多量
- 4 黑色 ロームブロック・黑色土ブロック多量
- 5 黑色 ロームブロック多量。黑色土ブロック少量
- 6 黑褐色 ロームブロック多量

第116号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量。燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ローム粒子多量。炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量。炭化粒子微量 (粘性弱・締まり強)
- 5 暗褐色 ロームブロック少量。炭化粒子微量 (粘性・締まり弱)

第117号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック多量。黄灰色粘土ブロック少量。燒土粒子・炭化粒子微量

第121号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量。炭化粒子微量
- 3 にい黃褐色 ローム粒子少量。炭化粒子微量

第122号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量。炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ローム粒子中量

第123号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第124号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック微量

第 125 号土坑土層解説

- 1 埋 梶 色 ロームブロック、炭化粒子微量
2 梶 色 ロームブロック微量

第 134 号土坑土層解説

- 1 埋 梶 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 梶 色 ロームブロック少量
3 埋 梶 色 ロームブロック中量

第 140 号土坑土層解説

- 1 埋 梶 色 ローム粒子中量
2 埋 梶 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第 146 号土坑土層解説

- 1 黒 梶 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、燒土粒子微量

第 152 号土坑土層解説

- 1 埋 梶 色 ロームブロック多量

第 153 号土坑土層解説

- 1 黒 梶 色 ロームブロック多量、燒土粒子、炭化粒子微量

第 154 号土坑土層解説

- 1 黒 梶 色 ロームブロック多量、燒土粒子、炭化粒子微量
2 黒 梶 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
3 明 梶 色 ロームブロック多量
4 黒 梶 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

表 7 室町時代土坑一覧表

番号	位 置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径 × 短径 (m)	深さ (cm)					
5	C 5 f1	N - 84° - W	楕円形	1.12 × 0.96	75	平底	直立	人為		
8	C 6 h3	N - 7° - E	隅丸長方形	2.10 × 0.94	31	平底	傾斜	人為	鉄滓	
18	C 4 g9	N - 15° - E	隅丸長方形	1.16 × 0.82	58	平底	直立	人為		
39	C 4 e0	N - 44° - E	隅丸長方形	1.72 × 1.30	75	平底	傾斜	人為		
40	C 4 d0	N - 22° - E	不定形	2.47 × 0.48	16	平底	傾斜	人為		
41	C 4 d9	N - 52° - W	隅丸方形	0.52 × 0.48	36	平底	外傾	人為		
42	C 5 e2	N - 24° - E	隅丸長方形	0.98 × 0.72	19	平底	外傾	人為		本跡 → SK57
43	C 5 e2	N - 7° - W	隅丸長方形	1.56 × 0.98	38	平底	直立	人為	土師質土器片	本跡 → SK57
45	C 4 b8	-	円形	0.54 × 0.53	6	平底	傾斜	人為		
46	C 4 a8	N - 40° - E	楕円形	1.57 × 0.77	29	平底	傾斜	人為		SD 6 → 本跡
48	C 4 b9	N - 66° - E	楕円形	1.66 × 0.95	72	平底	外傾	人為		
54	C 4 e0	-	円形	1.10 × 1.08	101	平底	直立	人為	土師質土器片、自然縫	SK56 → 本跡
55	C 4 e9	N - 7° - E	不定形	[2.41] × 1.05	26	平底	外傾	人為	土師質土器片	本跡 → SK56
56	C 4 e0	N - 3° - E	不定形	2.45 × 2.22	16	平底	直立	人為	土師質土器片	SK55 → 本跡 → SK54
57	C 5 e2	-	円形	1.08 × 1.05	56	平底	直立	人為	土師質土器片	SK42 - 43 → 本跡
58	C 5 f2	N - 20° - W	楕円形	0.84 × 0.76	62	平底	外傾	人為	鉄片	
59	C 5 e1	N - 36° - W	不定形	2.17 × 1.05	70 ~ 88	粗状	外傾	人為	石片	
67	C 5 f8	N - 84° - W	楕円形	1.05 × 0.89	106	平底	外傾	人為	土師質土器片	SK77 → 本跡
68	C 5 f4	N - 58° - W	楕円形	1.13 × 1.01	85	平底	外傾	人為		
69	C 5 g2	N - 71° - W	楕円形	1.07 × 0.87	86	平底	直立	人為		
70	C 5 f2	N - 63° - E	楕円形	0.93 × 0.79	30	平底	外傾	人為		
71	C 5 f1	N - 28° - E	楕円形	0.60 × 0.52	36	粗状	外傾	人為		
72	C 5 f2	N - 29° - E	不定形	0.95 × 0.83	12	平底	傾斜	人為		
73	C 5 g2	-	円形	0.48	54	粗状	外傾	人為		
75	C 5 e3	[N - 20° - E]	不明	(0.70) × 0.52	10	粗状	傾斜	人為		本跡 → 第2号火葬場
76	C 5 f8	N - 75° - W	隅丸長方形	1.95 × 1.11	68	平底	直立	人為	土師質土器片、磁器片、軽石	SK77 → 本跡
77	C 5 f4	N - 81° - W	隅丸長方形	1.43 × 0.89	21	平底	外傾	人為	土師質土器片	本跡 → SK67 - 76
79	C 5 f8	[N - 76° - W]	不明	0.83 × (0.48)	18	平底	傾斜	人為	土師質土器片	本跡 → SK80
80	C 5 f8	N - 68° - W	長方形	2.50 × 1.34	65	平底	直立	人為	土師質土器片、自然縫	SK79-92-II7 → 本跡
81	C 5 g1	N - 64° - W	楕円形	0.70 × 0.49	57	平底	外傾	人為		
82	C 5 f1	N - 61° - W	不整楕円形	0.82 × 0.74	36	平底	外傾	人為		
83	C 4 b0	N - 51° - E	[楕円形]	1.43 × 0.89	16	平底	傾斜	人為		本跡 → SK96

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
85	C 5 g3	N - 16° - E	【椭円形】	0.56 × 0.39	54	皿状	外傾	人為		
86	C 5 h3	N - 7° - E	【椭円形】	0.60 × 0.47	47	有段	外傾	人為		
87	C 5 h4	-	円形	0.86 × 0.83	55	平坦	外傾	人為	土師質土器片	
88	C 5 g4	N - 26° - E	隅丸長方形	1.54 × 0.81	30	平坦	外傾	人為		
89	C 5 g4	N - 16° - E	隅丸長方形	1.70 × 0.73	40	平坦	直立	人為	陶器片	
90	C 5 g4	-	円形	1.49 × 1.42	75	平坦	外傾	人為	土師質土器片	SK146 → SK146 → 82
91	C 5 f4	-	円形	0.92 × 0.86	95	平坦	直立	人為		SK92 → 本跡
92	C 5 f4	N - 72° - W	不定形	1.95 × 0.80	25	平坦	外傾	人為	土師質土器片	SG07 → 本跡 → SG08-9
96	C 4 b0	N - 86° - W	隅丸長方形	1.86 × 0.95	22	平坦	外傾	人為		SK63 → 本跡
108	C 5 g5	N - 15° - E	【椭円形】	0.68 × 0.51	19	平坦	紙絆	人為		本跡 → SG2, SKIII
110	C 4 e9	N - 79° - W	【隅丸長方形】	(1.55) × 1.27	50	平坦	直立	人為	瓦質土器片, 自然理	本跡 → SD 4
111	C 5 g5	N - 8° - E	長方形	1.71 × 0.61	24	平坦	外傾	人為		SK108 → 本跡
116	C 5 g4	N - 68° - W	【隅丸長方形】	(2.36) × 0.85	60	平坦	直立	人為		SG06 → 本跡 → SG05-2
117	C 5 f5	N - 9° - W	【隅丸長方形】	0.56 × 0.55	8	平坦	紙絆	人為		本跡 → SK08-9-2
121	C 6 d4	N - 59° - W	【椭円形】	1.51 × (1.25)	32	平坦	外傾	人為		
122	C 6 d2	N - 23° - E	【隅丸長方形】	(2.20) × 1.97	25	平坦	外傾	人為		
123	C 6 d3	N - 19° - E	隅丸長方形	(2.23) × 1.25	21	平坦	紙絆	人為		
124	C 6 d3	N - 35° - E	隅丸長方形	(2.09) × 0.95	14	平坦	紙絆	人為		
125	C 6 d4	[N - 75° - W]	【椭円形】	1.60 × (0.88)	14	平坦	紙絆	人為		
134	C 6 h4	N - 64° - W	隅丸長方形	2.48 × 0.84	37	平坦	紙絆	人為		
140	C 6 g5	N - 18° - W	椭円形	1.51 × 1.12	12	平坦	紙絆	人為	土師質土器片, 自然理	
146	C 5 g4	N - 65° - W	椭円形	1.55 × 1.03	93	平坦	外傾	人為	土師質土器片	本跡 → SK116 → SK0
152	C 6 f4	N - 2° - E	隅丸長方形	1.80 × 0.80	11	平坦	紙絆	人為		
153	C 6 f4	N - 8° - E	隅丸長方形	1.81 × 0.85	24	平坦	紙絆	人為		
154	C 6 f5	N - 3° - E	隅丸長方形	2.25 × 0.69	23	平坦	紙絆	人為	土師質土器片	SK157 → 本跡

(6) 堀跡

堀跡 1条を確認した。以下、遺構・遺物について記述するが、平面図は遺構全体図に示す。

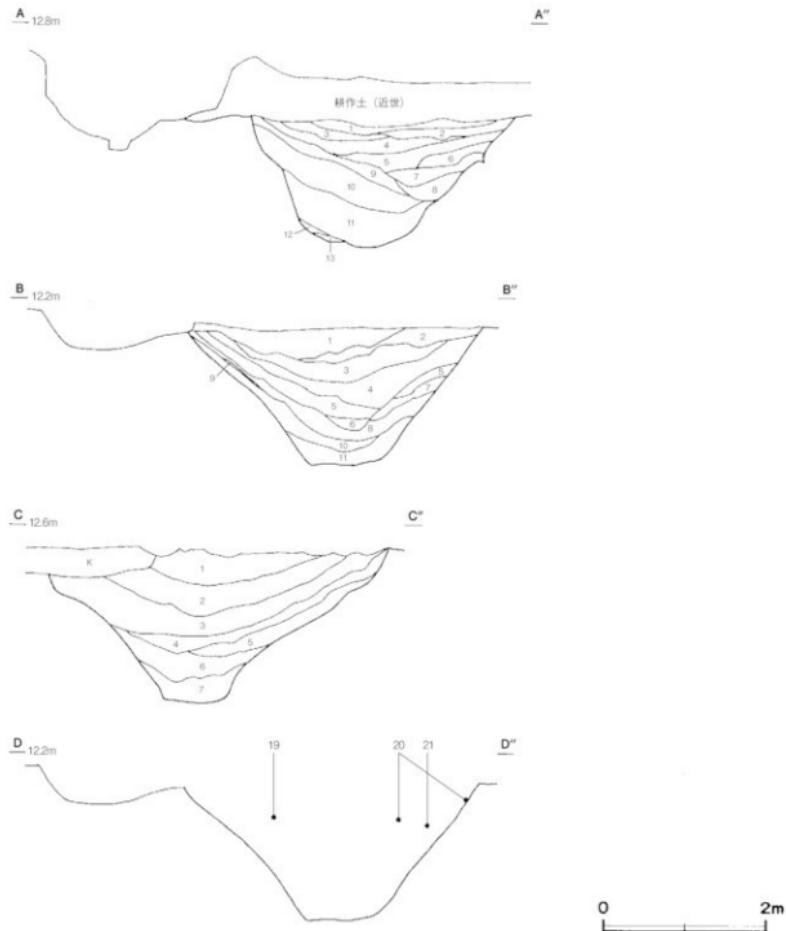
第1号堀跡（第3・54・55図）

位置 調査区西部のB 2h0～C 3c7区、標高12 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7号溝に掘り込まれている。

規模と形状 調査区西部のB 2h0区から南東方向（N - 127° - E）方向へ直線状に延びている。C 3a5区付近では、幅9 mにわたって途切れおり、土橋を形成している。なお、土橋部で硬化面は確認できなかった。長さは、北西端部と南東端部がそれぞれ調査区域外に延びているため、土橋を挟んで東側は550 m、西側は220 mしか確認できなかった。また、平面では確認できなかつたが、土層の観察状況から、2次期あることを確認した。古い方の第1次期は、上幅3.20～4.12 m、下幅0.50～1.14 mである。深さは1.50～1.90 mで、東部ほど深くなっている。断面形は逆台形で、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。第2次期が、上幅3.10～3.20 m、下幅0.28～0.32 mである。深さは1.05～1.28 mで、東部ほど深くなっている。断面形は緩やかなV字形で、底面は浅いU字形である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 13層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。なお、第9～13層は、南側から一度に埋め戻されていることから、内側に築かれた土塁を崩したものと考えられる。さらに、第1～8層は、覆土の様相が下層と異なり、時期差が観察できる。埋め戻した塁を掘り返し、第1次期より浅い堀として使用している。その後、廃絶に伴い埋め戻していることが確認できる。



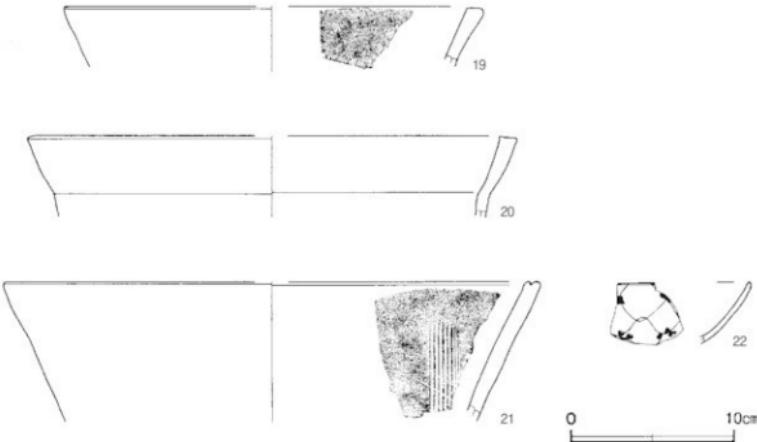
第54図 第1号堀跡実測図

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック多量、白色粘土ブロック・黒色土 ブロック少量	6 暗褐色	ロームブロック多量、黒色土ブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック・黒色土ブロック少量、燒土粒子・ 炭化粒子微量	7 褐色	ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量
3 褐灰色	ロームブロック・白色粘土ブロック少量、燒土粒子 炭化粒子微量	8 褐色	ロームブロック多量、黒色土ブロック少量
4 灰褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	9 褐色	ロームブロック多量、灰白色粘土少量
5 黑褐色	ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量
		11 黄褐色	ロームブロック多量、黒色土ブロック中量
		12 明褐色	ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量
		13 黑褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師質土器片4点(皿1、内耳鉢2、擂鉢1)、瓦質土器片14点(鉢10、内耳鉢1、擂鉢3)、陶器片1点(鉢)、磁器片1点(染付碗)、石器2点(石臼、火打ち石)、石製品1点(石塔)、軽石10点、自然礫1点が第1層と第4層から出土している。なお、陶器、石臼や石塔は細片のため、図示できなかった。19～21は第4層から出土している。22は第1層から出土している。

所見 時期は、出土土器から第2次期は16世紀前葉と考えられる。第1次期は遺物の出土はみられなかつたが、室町時代には機能していたと考えられる。なお、覆土上層から出土している磁器から、本跡は17世紀後半には第1層まで埋められたものと考えられる。



第55図 第1号堀跡出土遺物実測図

第1号堀跡出土遺物観察表(第55図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	寸法	出土位置	備考	
19	土面乳突	擂鉢	[25.4]	(3.8)	—	長石・雲母	棕	普通	外・内面ナメ 内面3条1単位の撻目	カ	第4層	5%	
20	瓦質土器	内耳鉢	[29.0]	(5.0)	—	長石・石英	黒褐	普通	外・内面ナメ		第4層	5%	
21	瓦質土器	擂鉢	[32.8]	(8.6)	—	長石・石英・ 雲母	灰黄	普通	外・内面ナメ 内面8条1単位の撻目		第4層	5% PL19	
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	給付	釉色	產地	年代	出土位置	備考
22	染付組器	碗	—	(3.8)	—	緻密	明オリーブ灰 黒褐色	重翻目に 織菊文	透明	肥前	17世紀後半	第1層	5%

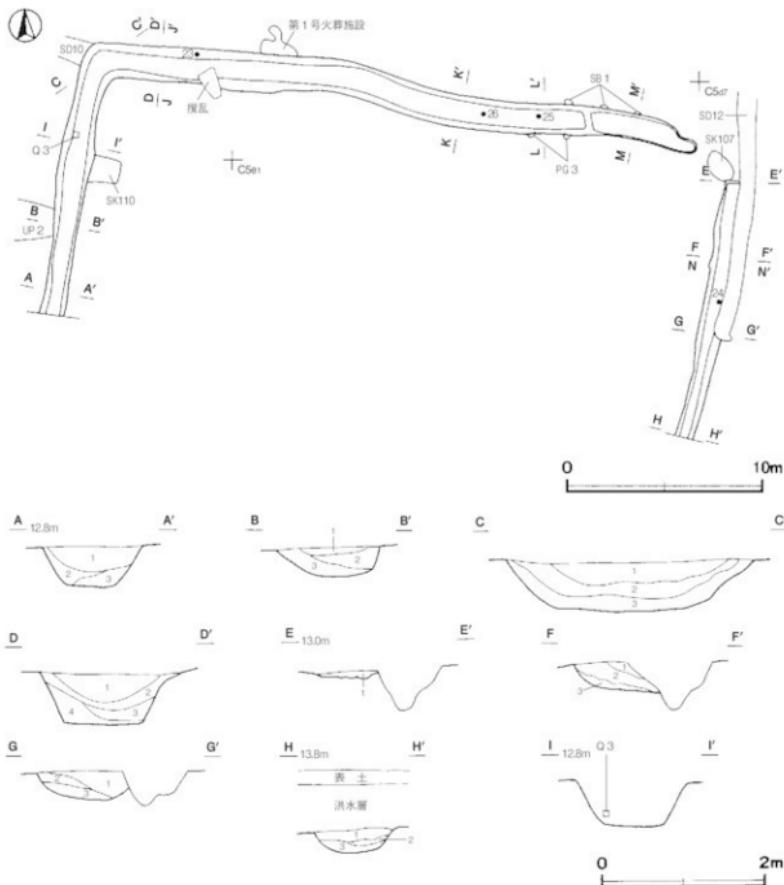
(7) 溝跡

溝跡 7 条を確認した。以下、遺構・遺物について記述するが、第 4 号溝跡以外の平面図は、遺構全体図に示す。

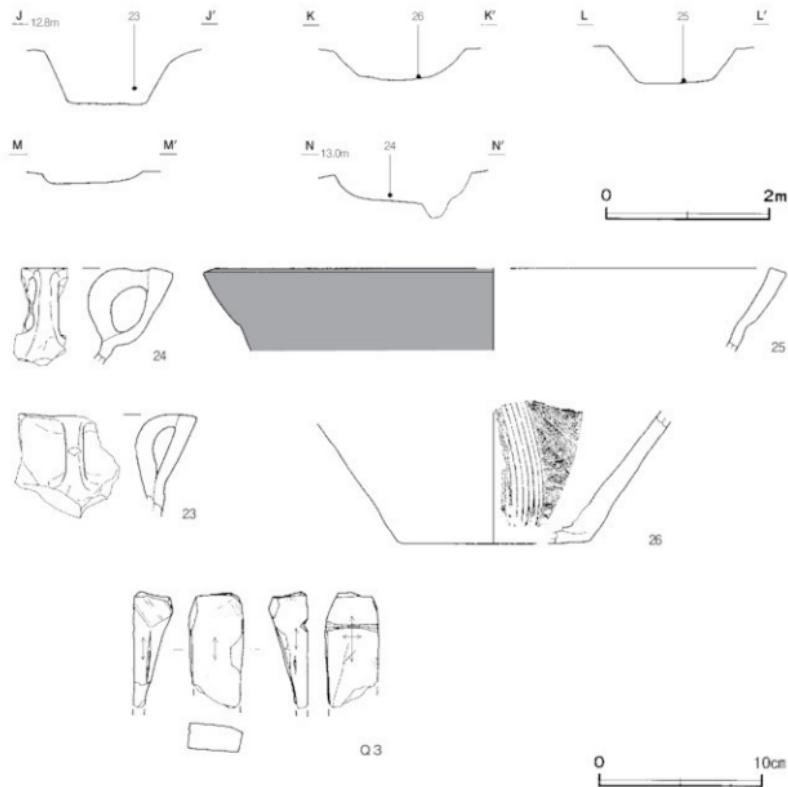
第 4 号溝跡（第 56・57 図）

位置 調査区中央部の C 4 c9 ~ C 5 h6 区、標高 13 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1 号掘立柱建物跡、第 1 号火葬施設、第 2 号地下式坑、第 107・110 号土坑、第 10 号溝跡を掘り込み、第 12 号溝に掘り込まれている。



第 56 図 第 4 号溝跡実測図



第57図 第4号溝跡・出土遺物実測図

規模と形状 C 5 d6区から西方向 (N - 82° - W) へ直線状に延び、C 4 c9区で南方向 (N - 171° - W) へL字形に屈曲し、調査区域外に延びている。東部はC 5 d6区で掘り込みが20cmほど浅くなっている。また、東側は南方向 (N - 169° - W) へ直線状に調査区域外に延びている。なお、北東の隅 (C 5 d7区) は、220mにわたって途切れている。確認できた長さは57.86m、上幅0.56~2.06m、下幅0.38~1.78mである。深さは10~62cmで、北部ほど深くなっている。断面形は逆台形で、底面は平坦である。

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	3 暗褐色 ロームブロック多量
2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	4 明褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師質土器片4点(小皿1、内耳鍋3)、瓦質土器片11点(内耳鍋3、鉢7、擂鉢1)、陶器片7点(天目茶碗1、鉢2、常滑窯4)、石器1点(砥石)、不明鉄片1点、粘土塊1点、自然疊2点が覆土下

層から出土している。なお、土師質土器、陶器は細片のため、図示できなかった。23・Q 3 は北西部、24 は東部、25・26 は北部の東側寄りのそれぞれ覆土下層から出土している。

所見 当跡は地下式坑群と土坑群を併むように掘り込まれていることから、墓域を併む区画構と考えられる。時期は、出土土器から 16 世紀前葉と考えられる。

第 4 号溝跡出土遺物観察表（第 57 図）

番号	種 別	器種	口径	高さ	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
23	瓦質土器	内耳罐	—	(6.3)	—	長石・石英	灰黄	普通	耳部貼り付け後、外・内面ナデ	外面に煤付着	覆土下層 5% PL.19
24	瓦質土器	内耳罐	—	(6.0)	—	長石・石英	灰白	普通	耳部貼り付け後、外・内面ナデ	外面に煤付着	覆土下層 5% PL.19
25	瓦質土器	内耳罐	[34.2]	(5.1)	—	長石・石英	灰白	普通	外・内面ナデ	外面に煤付着	覆土下層 5% PL.19
26	瓦質土器	罐体	—	(8.1)	[11.8]	長石・石英 赤色粒子	灰白	普通	外・内面ナデ	7 条 1 単位の階段	覆土下層 5% PL.19

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重 量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 3	砥石	(7.1)	3.4	2.4	[63.5]	凝灰岩	砥面 4 面	覆土下層	

第 5 号溝跡（第 3・58 図）

位置 調査区中央部の C 4 c1 ~ C 4 e2 区、標高 12 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1 号堅穴建物跡、第 10 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南端部が調査区域外へ延びていて、確認できた長さは 7.71m である。C 4 c1 区から南方向 (N - 175° - E) に直線的に延びている。上幅 0.72 ~ 1.02 m、下幅 0.42 ~ 0.61 m である。深さは 32 ~ 52cm で、南部ほど深くなっている。断面形は逆台形で、底面は平坦である。

覆土 4 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------------|---------|-----------|
| 1 黒 無 色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・
炭化粒子微量 | 3 暗 暗 色 | ロームブロック中量 |
| 2 黑 無 色 | ローム粒子微量 | 4 黑 無 色 | ロームブロック少量 |

所見 時期は、伴う遺物が出土していないため不明であるが、形状から室町時代後期と考えられる。



第 58 図 第 5 号溝跡実測図

第 6 号溝跡（第 3・59 図）

位置 調査区中央部の B 3 j0 ~ C 5 c7 区、標高 12 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 52 号土坑を掘り込み、第 2 号井戸、第 16・46 号土坑、第 9 号溝に掘り込まれている。

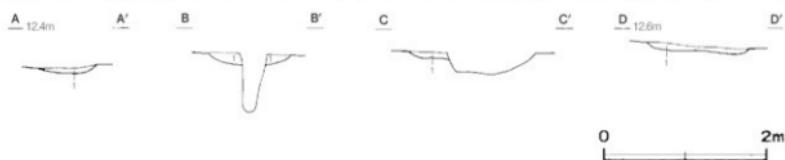
規模と形状 西端部が調査区域外へ延びていて、確認できた長さは 67.60m である。B 3 j0 から東方向 (N - 98° - E) へ直線的に延びている。上幅 0.57 ~ 1.47 m、下幅 0.34 ~ 1.42 m である。深さは 6 ~ 24cm で、西部ほど深くなっている。断面形は浅い U 字状で、底面は平坦である。

覆土 単一層である。ロームブロックが多量に含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック多量、灰白色砂粒少量

所見 時期は、伴う遺物が出土していないため不明であるが、形状や重複状況から室町時代後期と考えられる。



第 59 図 第 6 号溝跡実測図

第 8 号溝跡（第 3・60 図）

位置 調査区中央部の C 3 c9 ~ C 3 e9 区、標高 12 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北端部と南端部が調査区域外へ延びているため、確認できた長さは 6.22m である。C 3 c9 区から南方向 (N = 170° - W) へ直線的に延びている。上幅 0.50 ~ 0.87 m、下幅は 0.23 ~ 0.49 m である。深さは 11 ~ 18cm で、南部ほど深くなっている。断面形は浅い U 字形で、底面は平坦である。

覆土 2 層に分層できる。ロームブロック、白色粘土が含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子・白色粘土粒子微量

2 黒 褐 色 ロームブロック少量、白色粘土ブロック・炭化粒子微量

所見 時期は、伴う遺物が出土していないため不明であるが、形状から室町時代後期と考えられる。



第 60 図 第 8 号溝跡実測図

第 10 号溝跡（第 3・61 図）

位置 調査区中央部の C 4 b4 ~ C 4 c9 区、標高 12 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 11 号溝跡を掘り込み、第 4 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東端部が第 4 号溝に掘り込まれているため、確認できた長さは 18.04 m である。C 4 b4 区から東方向 (N = 105° - E) へ直線的に延びている。上幅 0.85 ~ 1.31 m、下幅 0.34 ~ 0.66 m で、深さは 39cm である。断面形は箱型研状で、底面は平坦である。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 明 褐 色 ロームブロック多量

2 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

所見 性格は、第 1・2 号地下式坑と第 1 号井戸を区画する溝と考えられる。時期は、遺物が出土していないため不明であるが、重複関係から第 4 号溝より古く、第 1 号井戸に伴うとみられることから 16 世紀前葉と考えられる。



第61図 第10・11号溝跡実測図

第11号溝跡（第3・61図）

位置 調査区中央部のC 4 b8 ~ C 4 d8区、標高12 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第10号溝に掘り込まれている。

規模と形状 C 4 b8区から南方向（N - 171° - W）へ直線的に延び、第10号溝と直交している。長さは6.82 mである。上幅0.24 ~ 0.91 m、下幅0.10 ~ 0.51 mである。深さは5 ~ 16cmで、南部ほど深くなっている。断面形は浅いU字状で、底面は平坦である。

覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、燒土粒子微量

所見 時期は、遺物が出土していないため不明であるが、第10号溝に掘り込まれていることや形状から、16世紀前葉より古い室町時代と考えられる。

第13号溝跡（第3・62図）

位置 調査区東部のC 6 e7 ~ C 6 h0区、標高13 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北端部と東端部が調査区域外へ延びているため、確認できた長さは26.50 mで、上幅0.32 ~ 1.30 m、下幅0.18 ~ 0.84 mである。深さは17 ~ 32cmで、南部と東部が深くなっている。C 6 e7区から南西方向（N - 167° - W）へ直線的に延び、幅2.00 mの土橋を挟んだ南部はC 6 f6区で桥形で二重構造となり、東側の溝は全長3.3 m、幅0.3 ~ 0.5 m、深さ22cmである。西側の溝はC 6 g6区から南方向（N - 167° - W）へ直線的に延び、C 6 h6区で東方向（N - 96° - E）へL字状に屈曲し、東側に延び、調査区域外に至っている。断面形は浅いU字状で、底面はほぼ平坦である。

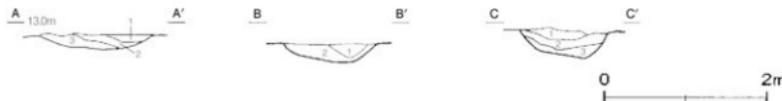
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック中量

2 暗褐色 ロームブロック少量

所見 時期は、遺物が出土していないため、不明であるが、形状や第4号溝と同軸上の配置状況から室町時代後期と考えられる。



第62図 第13号溝跡実測図

表8 室町時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規 模			断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考	
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
4	C 4e9～C 5b6	N - 82° - W N - 171° - W N - 169° - W	コの字形	(57.86)	0.56 ~ 206	0.38 ~ 178	10 ~ 62	逆台形	外傾	人為	瓦質土器片、瓦質土器片 陶器片、砾石、瓦片、粘土地、 自然堆	SD1、第1号柱穴列 UP 2、SK107・110、 SD04→SD1→SD2
5	C 4e1～C 4e2	N - 175° - E	直線	(7.71)	0.72 ~ 102	0.42 ~ 061	32 ~ 52	逆台形	外傾	人為		SI 1、SK10 → 本跡
6	B 3j0～C 5e7	N - 98° - E	直線	(67.60)	0.57 ~ 147	0.34 ~ 142	6 ~ 24	直立壁	傾斜	人為		SK52 → 本跡 → SD 2 SK16・46、SD9
8	C 3e9～C 3e9	N - 170° - W	直線	(6.22)	0.50 ~ 0.87	0.23 ~ 0.49	11 ~ 18	直立壁	傾斜	人為		
10	C 4b4～C 4e9	N - 105° - E	直線	(18.04)	0.85 ~ 131	0.34 ~ 066	29	垂直壁	外傾	人為		SD11 → 本跡 → SD4
11	C 4g8～C 4g8	N - 171° - W	直線	6.82	0.24 ~ 0.91	0.10 ~ 0.51	5 ~ 16	直立壁	傾斜	人為		本跡 → SD10
13	C 6e7～C 6b0	N - 167° - W N - 90° - E	L字状	(26.50)	0.32 ~ 130	0.18 ~ 084	17 ~ 32	直立壁	傾斜	人為		

(8) 柱穴列

第1号柱穴列（第63図）

位置 調査区中央部のC 5c1～C 5c3区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

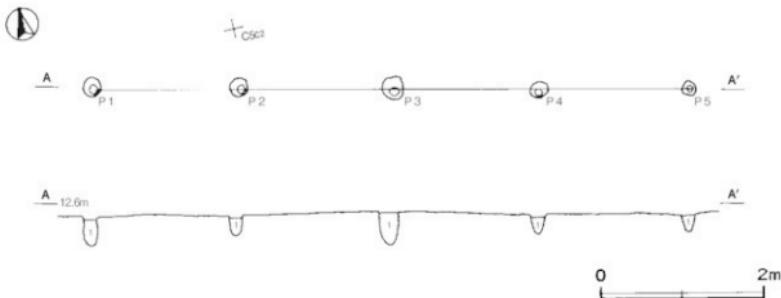
規模と形状 C 5c1区から東方向（N - 77° - W）へ直線的に並ぶピット5か所を確認した。P 1からP 5の長さは7.4mで、柱間寸法は1.8m（6尺）を基準としている。柱筋は通っている。

柱穴 平面形は円形もしくは梢円形で、深さは20～41cmで、断面形はU字形である。覆土は暗褐色を基調とした単一層で、柱抜き取り後に自然堆積したものとみられる。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

所見 時期は、確定できる遺物の出土がなかったが、第2号柱穴列と軸方向がほぼ同一であることから15世紀後半以降と考えられる。



第63図 第1号柱穴列実測図

第2号柱穴列（第64図）

位置 調査区中央部のC 5g3～C 5g5区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第116号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 C 5g3区から東方向（N - 70° - W）へ直線的に並ぶピット5か所を確認した。P 1からP 5

までの長さは84mで、柱間寸法は2.1m（7尺）を基調としている。柱筋は通っている。

柱穴 平面形は円形もしくは楕円形で、深さは18~46cmで、断面形はU字形である。覆土は、第1層が柱抜き取り後に自然堆積したものとみられ、第2層は埋土である。柱のあたりが、P2, P3の底面で確認できた。

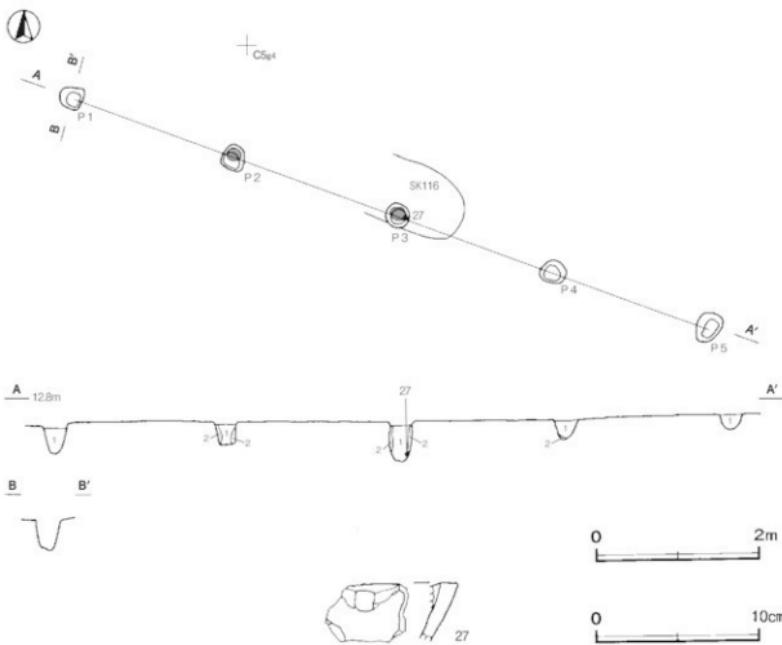
土層解説

1 黒 間 色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

2 暗 棕 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点（皿）、瓦質土器片1点（内耳鍋）が出土している。27はP3の覆土中から出土している。なお、土師質土器皿は細片のため、図示できなかった。

所見 第2号掘立柱建物の南側に並列しているため、建物の南側を区画する機能をもっていたと推測できる。時期は、出土土器から15世紀後半以降と考えられる。



第64図 第2号柱穴列・出土遺物実測図

第2号柱穴列出土遺物観察表（第64図）

番号	種 別	器種	口径	覆高	底径	胎 土	色 調	施成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
27	瓦質土器	内耳鍋	-	(3.6)	-	長石・石英	にせい・黄褐色	普通	底部貼り付け後、外・内面ナメ	P.3 覆土中	5%

第3号柱穴列（第65図）

位置 調査区中央部のC 5 e6～C 5 g6区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

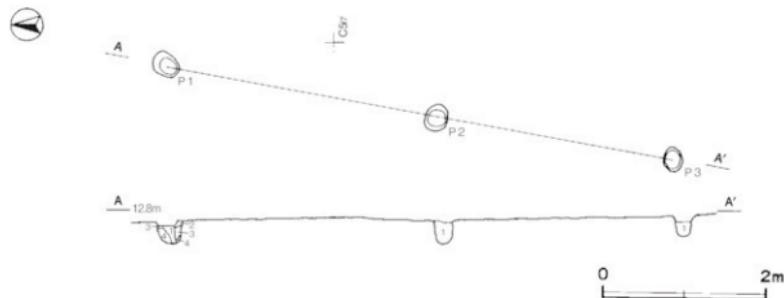
規模と形状 C 5 e6から南方方向（N-11°-E）へ直線的に並ぶピット3か所を確認した。P 1からP 3までの長さは6.3mで、柱間寸法は2.9m(9尺)～3.4m(11尺)である。柱筋は通っている。

柱穴 平面形は円形で、深さは25～29cmで、断面形はU字形である。覆土は、第1層が柱抜き取り後の埋め戻し土とみられ、第2～4層は埋土である。

土層解説

1 黒褐色 植土粒子多量 ロームブロック中量 炭化粒子微量	3 黑褐色 ロームブロック中量
2 明褐色 ロームブロック多量 炭化粒子微量	4 明褐色 ロームブロック多量

所見 第2号掘立柱建物の東側に並列しているため、建物の東側を区画する機能をもっていたものと推測できる。時期は15世紀後半以降と考えられる。



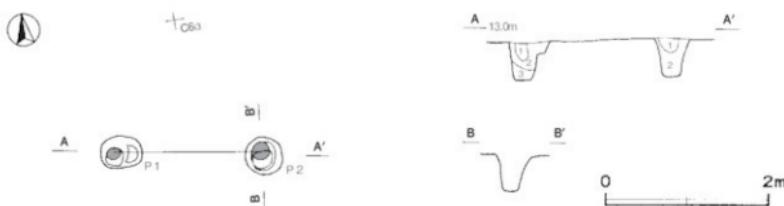
第65図 第3号柱穴列実測図

第4号柱穴列（第66図）

位置 調査区東部のC 6 i2～C 6 i3区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 C 6 i2区から東方向（N-81°-W）へ直線的に並ぶピット2か所を確認した。P 1とP 2の距離は18m(6尺)である。

柱穴 平面形は円形もしくは椭円形で、深さは45～47cmで、断面形はU字形である。覆土は、第1層が柱抜き取り後の自然堆積土とみられ、第2・3層は埋土である。P 1、P 2とともに、柱のあたりが、底面で確認できた。



第66図 第4号柱穴列実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 明褐色 ロームブロック多量、黒褐色土ブロック少量

所見 調査区の南端部に位置し、当遺構も調査区域外へ延びる可能性がある。性格は掘立柱建物に伴う構か、掘立柱建物の一部の可能性が考えられる。時期は、調査区域内で確認できた掘立柱建物と軸方向がほぼ同一であるため、15世紀後半以降と考えられる。

表9 室町時代柱穴列一覧表

番号	位置	方向	長さ(m)	柱間(m)	柱 穴					備考
					柱穴数	平面形	直径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
1	C5e1～C5e3	N-77°-W	7.4	18～19	5	円形 楕円形	19～29	17～26	20～41	
2	C5g3～C5g5	N-70°-W	8.4	21	5	円形 楕円形	29～32	28～30	18～46	SK116→本跡
3	C5e6～C5g6	N-11°-E	6.3	29～34	3	円形	32～34	24～28	25～29	
4	C6i2～C6i3	N-81°-W	1.8	18	2	円形 楕円形	46～50	38～46	45～47	

3 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、溝跡3条を確認した。以下、遺構・遺物について記述するが、平面図は第12号溝跡以外は遺構全体図に示す。

溝跡

第7号溝跡（第3・67図）

位置 調査区西部のB2i0～C3e6区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号堀跡を掘り込んでいる。

規模と形状 B2i0区から南東方向（N-122°-E）へ直線的に延びている。南東端と北西端は調査区域外へ延びているため、確認できた長さは32.68mである。上幅1.08～2.32m、下幅は0.14～0.84mである。深さは24～84cmで、南東部ほど60cm深くなっている。断面形は浅いU字状で、底面は平坦である。

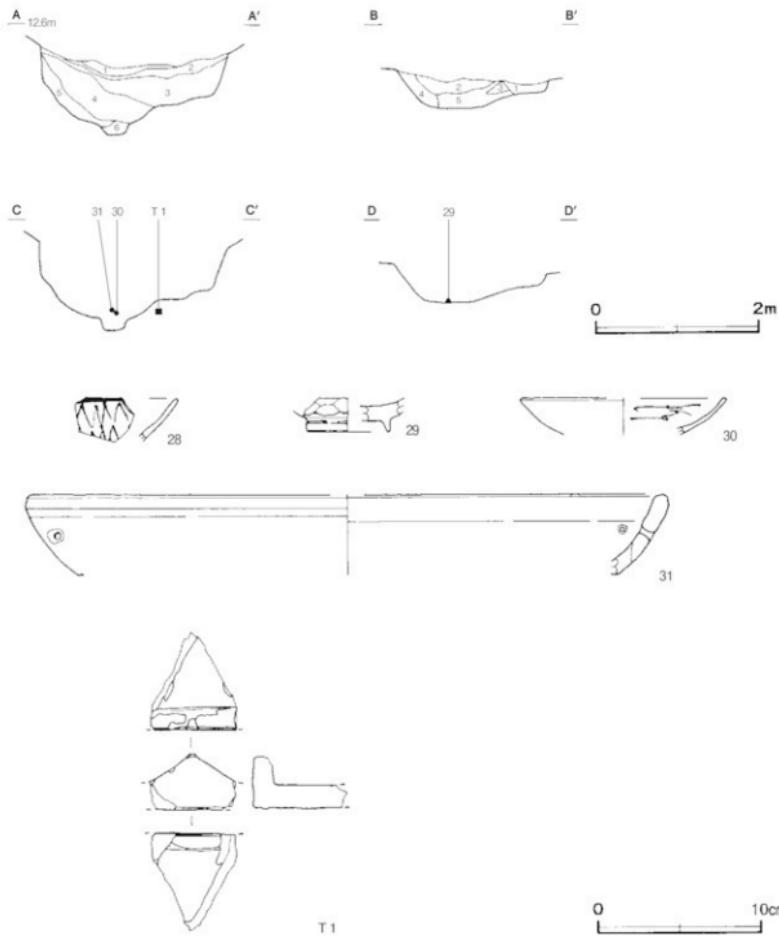
覆土 6層に分層できる。第1～5層は、灰黄褐色砂質土を基調とする洪水による堆積層である。第6層はロームブロックが多量に含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------------------------|
| 1 灰黄褐色 砂質土主体 | 5 褐色 灰色 灰黄褐色砂質土粒子少量、ローム粒子、炭化粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 シルト多量 | 6 褐色 ロームブロック多量 |
| 3 灰黄褐色 シルト多量、ロームブロック微量 | |
| 4 灰黄褐色 黒褐色砂質土ブロック少量、ローム粒子微量 | |

遺物出土状況 土師質土器片2点（培塿）、陶器片1点（壺）、磁器片3点（碗2、皿1）、瓦片1点（棟止瓦）、石器1点（砥石）が第6層から出土している。なお、陶器片は細片のため、図示できなかった。また、土師質土器培塿（31）には補修孔から銅線が確認できたが、これも細片で図示できないため、装着状況を写真で復元した。（PL20参照）

所見 時期は、出土土器、磁器から17世紀後葉と考えられる。



第67図 第7号溝跡・出土遺物実測図

第7号溝跡出土遺物観察表（第67図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	繪文	種色	產地	年代	出土位置	備考
28	剝離器	碗	-	(2.7)	-	緻密	灰白	網目文	透明	肥面	17世紀後葉	第6層	5% PL20
29	剝離器	碗	-	(2.1)	(5.0)	長石	灰白	2条の圓潤文	透明	肥面	17世紀後葉	第6層	10%
30	剝離器	皿	[124]	(2.3)	-	緻密	灰白	唐草文	透明	肥面	17世紀後葉	第6層	30% PL20

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
31	土器質土器	砂器	[390]	(4.9)	-	長石・石英・ 赤母	灰黒 内灰黄褐	普通	外・内面ナデ 補修孔外側からの穿孔	第6解	5% PL20

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
T 1	焼成瓦	[5.3]	[5.3]	3.3	[590]	長石・石英・ 赤母	青灰	普通	外・内面ナデ 一枚造り	第6解	5% PL20

第9号溝跡（第3・68図）

位置 調査区中央部のB 4j4 ~ C 4c3区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 B 4j4区から南方向（N - 179° - W）へ直線的に延びている。北端部は調査区域外へ延びていて、確認できた長さは12.58mで、上幅0.53~0.78m、下幅0.34~0.49mである。深さは11~18cmで、南部ほど7cm深くなっている。断面形は浅いU字状で、底面はほぼ平坦である。

覆土 4層に分層できる。混入物が少なく周囲から流れ込んだ堆積状況から自然堆積である。

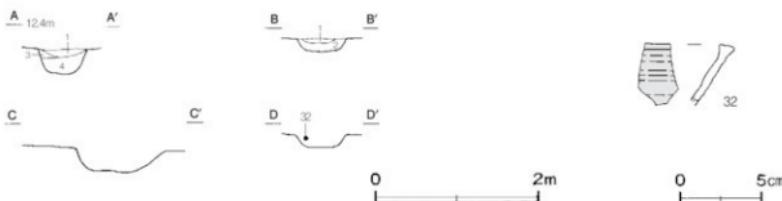
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量
2 褐色 ローム粒子中量

3 暗褐色 ローム粒子少量
4 黒褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 陶器片1点（鉢）が出土している。32は第1層から出土している。

所見 時期は、出土陶器から17世紀前葉と考えられる。



第68図 第9号溝跡・出土遺物実測図

第9号溝跡出土遺物観察表（第68図）

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎土	色調	絵付	釉色	產地	年代	出土位置	備考
32	陶器	鉢	-	(3.8)	-	長石	淡黄	-	オーリーブ褐	關口	17世紀前葉	第1解	5% PL20

第12号溝跡（第69図）

位置 調査区中央部のC 5c7 ~ C 5g7区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号溝跡を掘り込み、第142号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 C 5c7区から南方向（N - 171° - W）へ直線的に延びている。北端部は調査区域外へ延びていて、確認できた長さは16.72mで、上幅0.50~1.06m、下幅0.08~0.20mである。深さは50~70cmで、南部ほど20cm深くなっている。断面形はU字状で、底面はほぼ平坦である。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

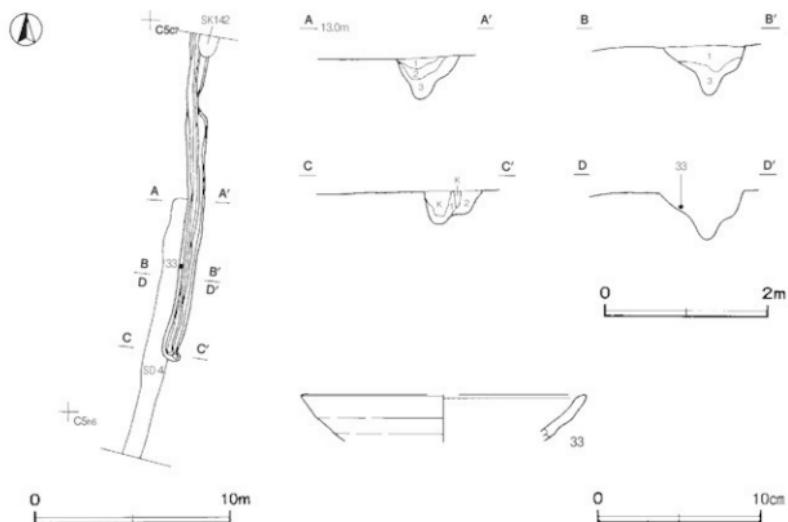
土層解説

1 褐褐色 炭化粒子多量、ロームブロック少量
2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

3 明褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 陶器片 1 点（皿）が出土している。33 は第 1 層から出土している。

所見 時期は、出土陶器から 17 世紀前葉と考えられる。



第 69 図 第 12 号溝跡・出土遺物実測図

第 12 号溝跡出土遺物観察表（第 69 図）

番号	種別	器種	口径	基高	底深	胎土	色調	繪付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
33	陶器	皿	[17.4]	(29)	-	長石・石英	灰白	-	灰白	美濃(尾身焼)	17世紀前葉	第 1 層	10%

表 10 江戸時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規 模			断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)					
7	B 2.0 - C 3.6	N - 122° - E	直線状	(32.68)	1.08 ~ 2.32	0.14 ~ 0.81	21 ~ 84	5~7T#	外傾	自然・人為 土師質土器片・瓦片・磁石	第 1 号窯跡 → 本跡
9	B 4.14 - C 4.43	N - 179° - W	直線状	(12.58)	0.53 ~ 0.78	0.34 ~ 0.49	11 ~ 18	5~7T#	外傾	自然 陶器片	SD 6 → 本跡
12	C 5.67 - C 5.67	N - 171° - W	直線状	(16.72)	0.50 ~ 1.06	0.08 ~ 0.20	50 ~ 70	U字状	外傾 人為	陶器片	SD 4 → 本跡 - SK142

4 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期不明の炉跡 3 基、土坑 26 基、溝跡 2 条、ピット群 5 か所を確認した。以下、遺構・遺物について記述する。

(1) 炉跡

第 1 号炉跡（第 70 図）

位置 調査区中央部の C 5 f2 区、標高 12 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 3 号ピット群 P 15 に掘り込まれている。

規模と形状 第3号ピット群P15に掘り込まれているため、東西軸0.54m、南北軸0.45mしか確認できなかった。楕円形と推定できる。掘方は、深さ17~24cmで底面は平坦である。立ち上がりは緩やかである。

覆土 3層に分層できる。第1層上面が火床面で、第2・3層は掘方への埋土である。

土層解説

1	赤褐色	燒土ブロック多量	3	褐色	ロームブロック多量、燒土ブロック少量
2	明褐色	ロームブロック多量、燒土ブロック少量			

所見 周辺にピット群が散在し、縄文時代以降の堅穴建物の炉の可能性があるが、周囲は室町時代の土坑群に掘り込まれ、出土土器がないため、時期や性格は不明である。



第70図 第1号炉跡実測図

第2号炉跡（第71図）

位置 調査区中央部のC5丘区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

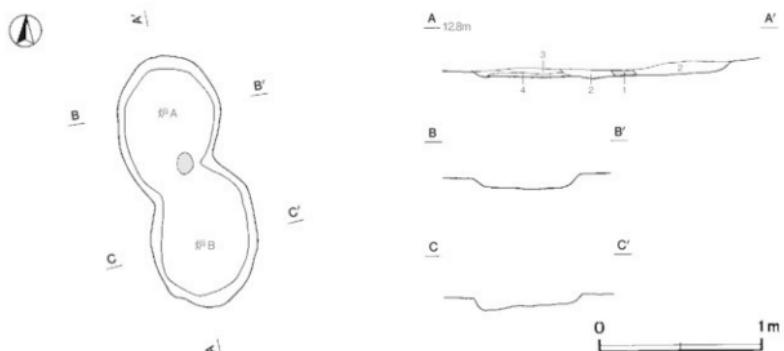
規模と形状 2基が重複しており、北部を炉A、南部を炉Bとする。炉Aは長径1.04m、短径0.66mの楕円形で、長径方向はN-15°-Wである。掘方は深さ7cmで、底面は平坦である。立ち上がりは緩やかである。炉Bは、炉Aに掘り込まれているため、確認できた規模は長径0.90m、短径0.68mの楕円形で、長径方向は炉Aと同軸であると考えられる。掘方は深さ7cmで、底面は平坦である。立ち上がりは緩やかである。

覆土 4層に分層できる。第1層上面が火床面で、第2~4層は掘方への埋土である。

土層解説

1	暗赤褐色	燒土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子微量	3	暗褐色	ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量
2	明褐色	ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量	4	明褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量

所見 周辺にピット群が散在し、縄文時代以降の堅穴建物の炉の可能性があるが、周囲は室町時代の土坑群に掘り込まれ、出土土器がないため、時期や性格は不明である。



第71図 第2号炉跡実測図

第3号炉跡（第72図）

位置 調査区東部のC 6e3区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

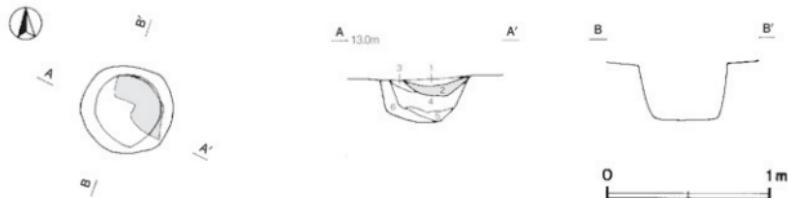
規模と形状 径58cmの円形をした地床炉である。第1層は流れ込んだ自然堆積層で、火床面は第2層上面で、床面を34cmほど鍋底状に掘り込み、ロームブロックを含んだ第3～6層を埋土して構築されている。火床面は火熱を受け赤変硬化している。

覆土 6層に分層できる。第2層上面が火床面で、第3～6層は掘方への埋土である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量	4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、灰化粒子微量
2 赤灰色 焼土ブロック多量、灰化粒子・灰微量	5 黒褐色 ロームブロック少量
3 暗灰色 ローム粒子・焼土粒子・灰化粒子微量	6 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

所見 第3号掘立柱建物跡内に位置し、建物に伴う炉の可能性もあるが、遺物の出土がなく、根拠に乏しいため別造構とした。時期や性格は不明である。



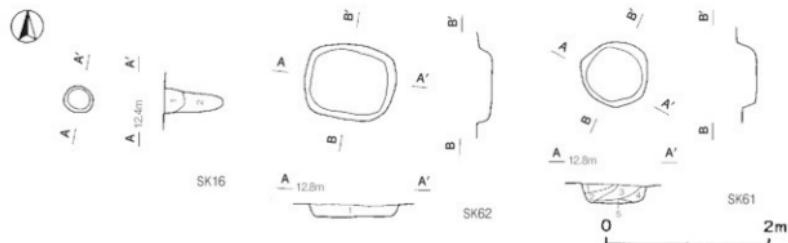
第72図 第3号炉跡実測図

表11 その他の炉跡一覧表

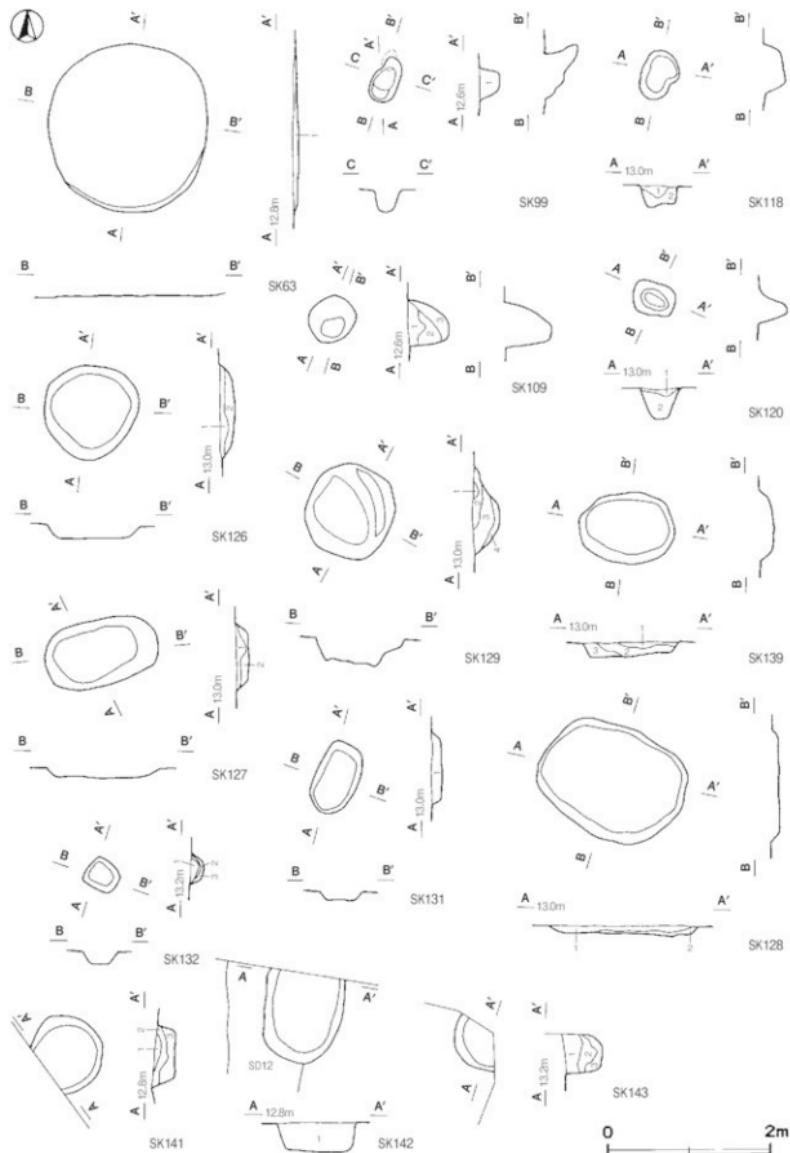
番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 (古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1 C 5f2	—	—	【椭円形】 東西0.54m×東北0.65m	17～24	平坦	破鉢	—	—	—	本跡→PG 3P15
2A C 5f8	N-15°-W	椭円形	1.04×0.66	7	平坦	破鉢	—	—	炉2B→本跡	
2B C 5f8	[N-15°-W]	【椭円形】 0.90×0.68	7	平坦	破鉢	—	—	—	—	本跡→炉2A
3 C 6e3	—	—	円形	58	34	平坦	外傾	—	—	—

(2) 土坑（第73～75図）

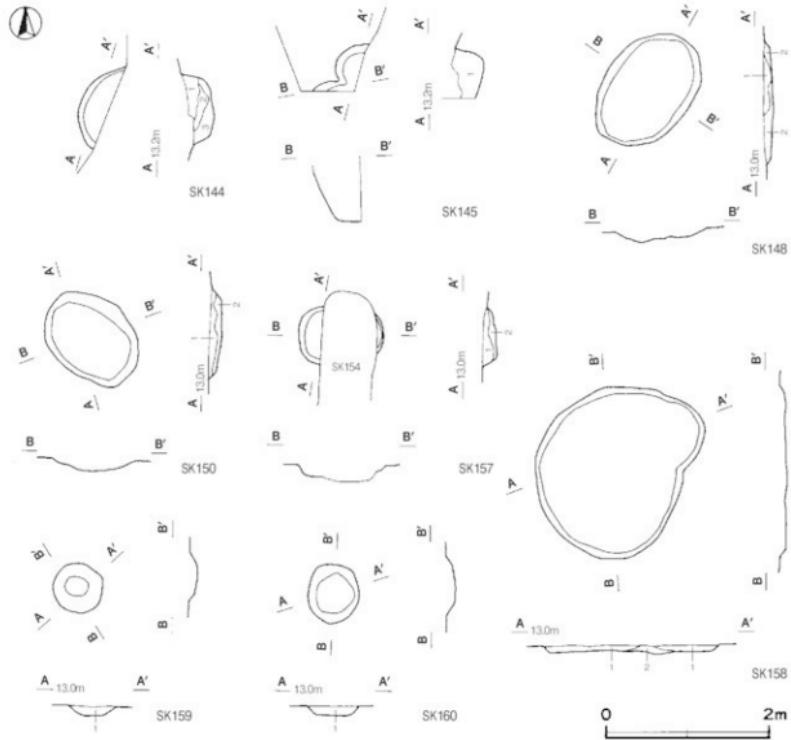
今回の調査で、時期不明の土坑26基を確認した。以下、実測図と土層解説、一覧表を掲載する。



第73図 その他の土坑実測図（1）



第74図 その他の土坑実測図（2）



第75図 その他の土坑実測図（3）

第 16 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第 61 号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 4 黒色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック多量

第 62 号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

第 63 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

第 99 号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量

第 109 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・青灰色粘土ブロック多量、炭化粒子微量

第 118 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黑色 ローム粒子多量

第 120 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック微量
- 2 黑色 ローム粒子多量

第 126 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 127 号土坑土層解説

- 1 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子多量

第 128 号土坑土層解説

- 1 條 極 色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量
2 明 極 色 ロームブロック多量

第 129 号土坑土層解説

- 1 暗 極 色 燃土ブロック少量、燒土粒子微量
2 暗 極 色 炭化粒子微量
3 暗 極 色 ロームブロック微量
4 黒 極 色 ロームブロック少量

第 131 号土坑土層解説

- 1 暗 極 色 ロームブロック中量

第 132 号土坑土層解説

- 1 暗 極 色 ロームブロック少量
2 暗 極 色 ロームブロック微量
3 極 色 ロームブロック少量

第 139 号土坑土層解説

- 1 黒 極 色 ローム粒子微量
2 暗 極 色 ローム粒子少量
3 暗 極 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第 141 号土坑土層解説

- 1 極 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 明 極 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
3 明 極 色 ロームブロック多量

第 142 号土坑土層解説

- 1 黒 極 色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量

第 143 号土坑土層解説

- 1 暗 極 色 ロームブロック・黃灰地粘土ブロック・燒土粒子・炭化粒子少量
2 暗 極 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
3 明 極 色 ロームブロック多量

第 144 号土坑土層解説

- 1 暗 極 色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 極 色 ロームブロック多量、炭化粒子少量
3 明 極 色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量

第 145 号土坑土層解説

- 1 黑 極 色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量
2 暗 極 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第 148・150 号土坑土層解説

- 1 暗 極 色 ローム粒子・炭化粒子微量

- 2 暗 極 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第 157 号土坑土層解説

- 1 黑 極 色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
2 黑 極 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第 158 号土坑土層解説

- 1 黑 極 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

- 2 明 極 色 ロームブロック多量

- 3 明 極 色 ロームブロック微量

第 159 号土坑土層解説

- 1 黑 極 色 ロームブロック微量

- 2 極 極 色 ロームブロック微量

- 3 黑 極 色 ロームブロック微量

第 160 号土坑土層解説

- 1 極 極 色 ロームブロック少量

表 12 その他の土坑一覧表

番号	位置	長辺方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長辺×短辺 (m)	深さ (cm)					
16	B 4 3	—	円形	0.35 × 0.32	73	U字状	直立	自然		SD 6 → 本跡
61	C 5 e3	—	円形	0.84 × 0.79	25	平坦	外傾	人為		
62	C 5 e4	N - 82° - W	隅丸長方形	1.11 × 0.93	18	平坦	傾斜	人為		
63	C 5 e3	—	円形	2.08 × 1.98	5	平坦	傾斜	人為		
99	C 4 c8	N - 20° - E	不整椭円形	0.56 × 0.33	40	粗状	有段	自然		
109	C 5 g3	—	円形	0.57 × 0.53	60	粗状	外傾	人為		
118	C 6 b4	N - 24° - E	不整椭円形	0.60 × 0.46	25	平坦	外傾	自然		
120	C 6 g5	N - 74° - W	椭円形	0.54 × 0.40	35	平坦	外傾	自然		
126	C 6 e3	—	円形	1.17 × 1.14	18	平坦	外傾	自然		
127	C 6 e4	N - 75° - E	椭円形	1.42 × 0.81	14	平坦	外傾	人為		
128	C 6 e5	N - 61° - W	隅丸長方形	1.76 × 1.37	10	平坦	傾斜	人為		
129	C 6 e1	—	円形	1.12 × 1.07	36	凹凸	外傾	人為		
131	C 6 e3	N - 25° - E	椭円形	0.91 × 0.53	13	平坦	傾斜	人為		
132	C 6 e3	N - 55° - W	隅丸長方形	0.42 × 0.35	15	平坦	傾斜	人為		
139	C 6 i5	N - 81° - W	椭円形	1.20 × 0.87	16	平坦	外傾	自然		
141	C 5 c8	N - 36° - W	【円形】	0.95 × 0.78	27	平坦	外傾	人為		
142	C 5 c7	N - 12° - E	【楕円形】	(1.09) × 0.97	37	平坦	直立	人為		SD 12 → 本跡
143	C 5 c8	N - 31° - W	円形-楕円形	0.80 × 0.50	47	平坦	外傾	人為		
144	C 5 c8	N - 20° - E	円形-楕円形	1.10 × 0.35	33	平坦	外傾	人為		
145	C 5 d8	N - 15° - E	【不定形】	(0.61) × 0.38	53	平坦	外傾	人為		
148	C 6 i6	N - 32° - E	楕円形	1.51 × 1.11	13	平坦	傾斜	自然		
150	C 6 i7	N - 45° - W	楕円形	1.30 × 1.00	14	平坦	傾斜	自然		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
157	C 6 65	N - 87° - W	【楕円形】	1.05 × 0.73	16	平坦	外傾	人為		本跡→SK154
158	C 6 68	N - 33° - E	不整格円形	2.18 × 1.82	8	平坦	傾斜	人為		
159	C 6 g6	-	円形	0.63 × 0.58	11	平坦	傾斜	自然		
160	C 6 68	N - 9° - E	楕円形	0.71 × 0.62	11	平坦	傾斜	自然		

(3) 溝跡

今回の調査で、出土遺物がなく、形状からも時期を確定できなかった溝跡2条を確認した。以下、遺構について記述する。平面図は遺構全体図に示す。

第2号溝跡（第3・76図）

位置 調査区西部のB 3h3～C 3a7区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 B 3h3区から南東方向（N - 126° - E）へ緩やかに曲線を描いて調査区域外へ延びている。確認できた長さは21.04mで、上幅0.50～1.30m、下幅0.18～1.02mである。深さは14～37cmで、南部ほど23cm深くなっている。断面形は浅いU字状で、底面は平坦である。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック中量

所見 時期は、遺物が出土していないことと、今回の調査で確認した室町時代、江戸時代の溝跡とは形状が異なっていることから不明である。



第76図 第2号溝跡実測図

第3号溝跡（第3・77図）

位置 調査区東部のC 5g0～C 6g1区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 C 6g1区から西方向（N - 81° - W）へ直線状に調査区域外へ延びている。確認できた長さは1.60mで、上幅0.47～0.57m、下幅0.24～0.38mである。深さは14cmである。断面形は浅いU字状で、底面は平坦である。

覆土 2層に分層できる。混入物が少なく、周囲からの流れ込んだ堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子中量

所見 時期は、遺物が出土していないことと、確認できた部分がわずかで形状も不明確であるため不明である。



第77図 第3号溝跡実測図

表13 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規 模			断面	壁面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)					
2	B 3b3-C 3a7	N-126°-E	楕円形 曲線状	(21.04)	0.50-1.30	0.18-1.02	14-37	浅い U字状	傾斜	人為	
3	C 5go-C 6gl	N-81°-W	直線状	(1.60)	0.47-0.57	0.24-0.38	14	浅い U字状	傾斜	自然	

(4) ピット群

今回の調査では、径21~61cmの円形で、建物跡と想定できなかった柱穴状のまとまり5か所を確認した。以下、遺構について記述する。

第1号ピット群（第78図）

位置 調査区中央部の標高12mほど、C 4b2~C 4c3区にかけての東西7m、南北3mの範囲から、柱穴状のピット4か所を確認した。

規模と形状 長径36~58cm、短径35~51cmの円形または楕円形で、深さは15~20cmである。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

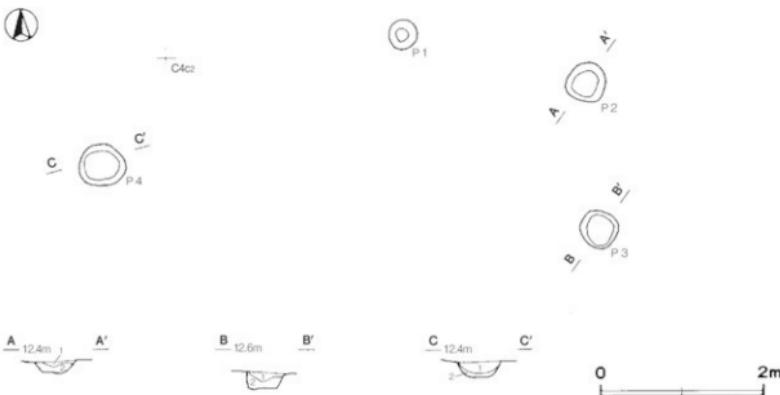
覆土 P 1~P 4は2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

P 1~P 4土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 黒褐色 ロームブロック多量

所見 時期、性格ともに不明である。



第78図 第1号ピット群実測図

表14 第1号ピット群ピット一覧表

番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C 4b2	円形	36	35	17	3	C 4c3	楕円形	50	48	20
2	C 4c3	円形	49	47	15	4	C 4c1	楕円形	58	51	19

第2号ピット群（第79図）

位置 調査区中央部の標高12mほど、C 4e7～C 4f8区にかけての東西6m、南北5mの範囲から、柱穴状のピット3か所を確認した。

規模と形状 長径47～74cm、短径45～59cmの円形または椭円形で、深さは57～82cmである。ピットの分布状況から調査区域内の範囲では建物跡は想定できない。

覆土 P 1・P 2は單一層である。P 3は2層に分層でき、第1層は柱痕跡で、第2層は埋土である。

P 1・P 2土層解説

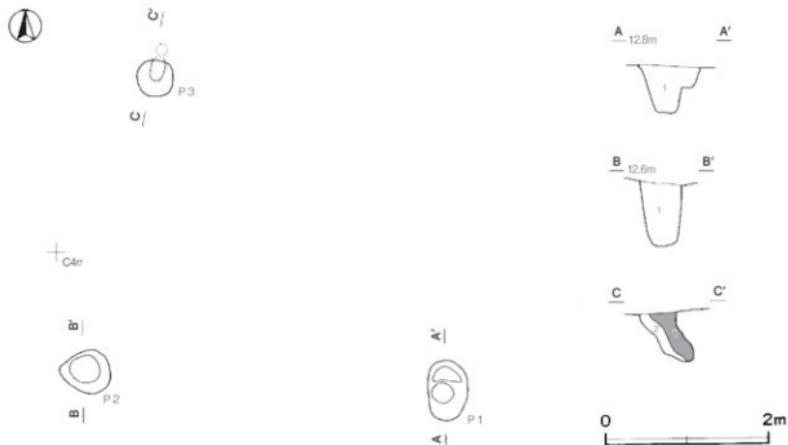
1 黒褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量

P 3土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック多量

所見 時期、性格ともに不明であるが、ピットは調査区域外へ延びる可能性があり、掘立柱建物跡や柵跡の一部の可能性がある。



第79図 第2号ピット群実測図

表15 第2号ピット群ピット一覧表

番号	位置	形状	規 模 (cm)			番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C 4f8	椭円形	74	59	62	3	C 4e7	円形	47	45	57
2	C 4f7	椭円形	61	54	82						

第3号ピット群（第80図）

位置 調査区中央部の標高13mほど、C 4f0～C 5f5区にかけての東西20m、南北12mの範囲から、柱穴状のピット15か所を確認した。

重複関係 P 13は第117号土坑を、P 15は第1号炉跡を掘り込み、P 4・P 5は第4号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径 28 ~ 58cm、短径 17 ~ 47cm の円形または椭円形で、深さは 10 ~ 58cm である。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

覆土 P 1 ~ P 9、P 12 ~ P 14 は単一層で、埋め戻されている。P 10 は 2 層に分層でき、埋め戻されている。P 11 は 3 層に分層でき、埋め戻されている。

P 1 ~ P 9・P 12 ~ P 14 土層解説

1 黒 暗 色 ロームブロック多量、炭化物・焼土粒子微量

P 11 土層解説

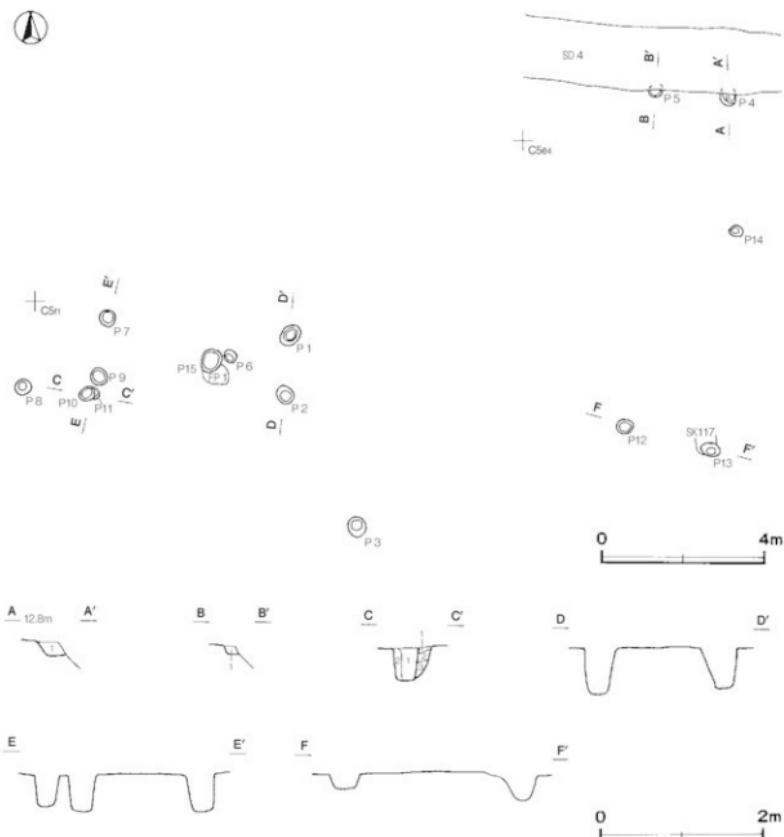
1 暗 暗 色 ロームブロック多量、炭化物・焼土粒子微量

P 10 土層解説

1 黑 暗 色 ロームブロック多量

2 黑 暗 色 ロームブロック少量

所見 時期、性格ともに不明である。



第 80 図 第 3 号ピット群実測図

表16 第3号ピット群ピット一覧表

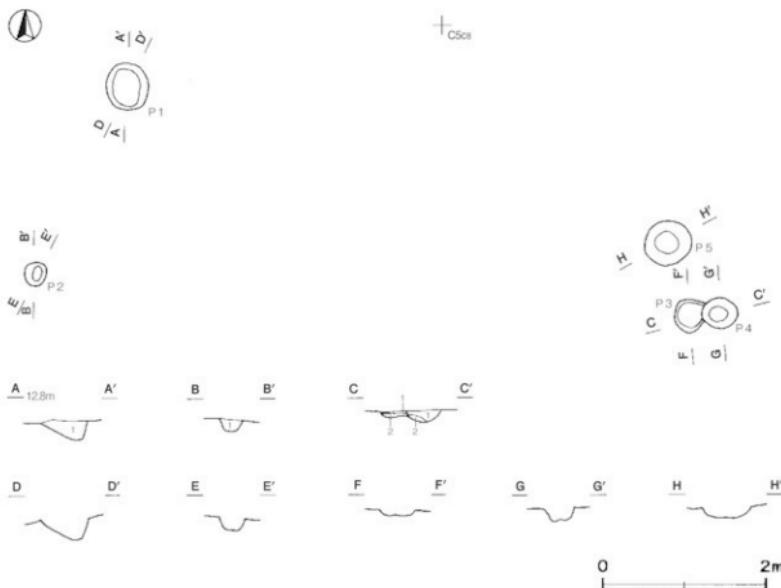
番号	位置	形状	規模(cm)			番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C 5f2	楕円形	54	44	52	9	C 5f1	楕円形	43	38	42
2	C 5f2	楕円形	43	37	58	10	C 5f1	円形	30	29	44
3	C 5g2	円形	43	41	54	11	C 5f1	[円瓶]	29	(28)	41
4	C 5d5	[楕円形]	40	(36)	18	12	C 5f1	楕円形	41	34	18
5	C 5d4	[円瓶]	35	(17)	10	13	C 5f5	楕円形	42	35	33
6	C 5f2	楕円形	31	26	18	14	C 5e5	楕円形	28	25	39
7	C 5f1	椭丸方形	35	34	47	15	C 5f2	楕円形	58	47	16
8	C 4f9	円形	39	38	24						

第4号ピット群（第81図）

位置 調査区中央部の標高13mほど、C 5c6～C 5c8区にかけての東西9m、南北4mの範囲から、柱穴状のピット5か所を確認した。

規模と形状 長径29～57cm、短径26～55cmの円形または楕円形で、深さは7～26cmである。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

覆土 P 1・P 2・P 5は単一層で、埋土である。P 3・P 4は2層に分層でき、ともに埋土である。



第81図 第4号ピット群実測図

P 1 土層解説

1 黒 極 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

P 2・P 5 土層解説

1 暗 極 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

P 3 土層解説

1 黒 極 色 ロームブロック・炭化粒子微量

2 極 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

P 4 土層解説

1 黒 極 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

2 極 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

所見 時期、性格ともに不明である。

表17 第4号ビット群ビット一覧表

番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C 5c7	椭円形	57	51	26	4	C 5c8	椭円形	45	37	18
2	C 5c6	椭円形	29	26	17	5	C 5c8	円形	56	55	13
3	C 5c8	椭円形	42	38	7						

第5号ビット群（第82図）

位置 調査区東部の標高13mほど、C 6h2～C 6h3区にかけての東西4m、南北2mの範囲から、柱穴状のビット2か所を確認した。

規模と形状 長径45～54cm、短径34～50cmの円形または椭円形で、深さは32～36cmである。ビットの分布状況から建物跡は想定できない。

覆土 P 1は2層に分層でき、ともに埋土である。P 2は単一層で、埋土である。

P 1 土層解説

1 黒 極 色 ロームブロック多量

2 明 極 色 ロームブロック多量

P 2 土層解説

1 明 極 色 ロームブロック多量

所見 P 1の底面から、柱のあたりを確認したが、対するP 2とは形状が異なり、周囲に対応する柱穴が確認できないため、P 1・P 2ともに時期、性格が不明である。



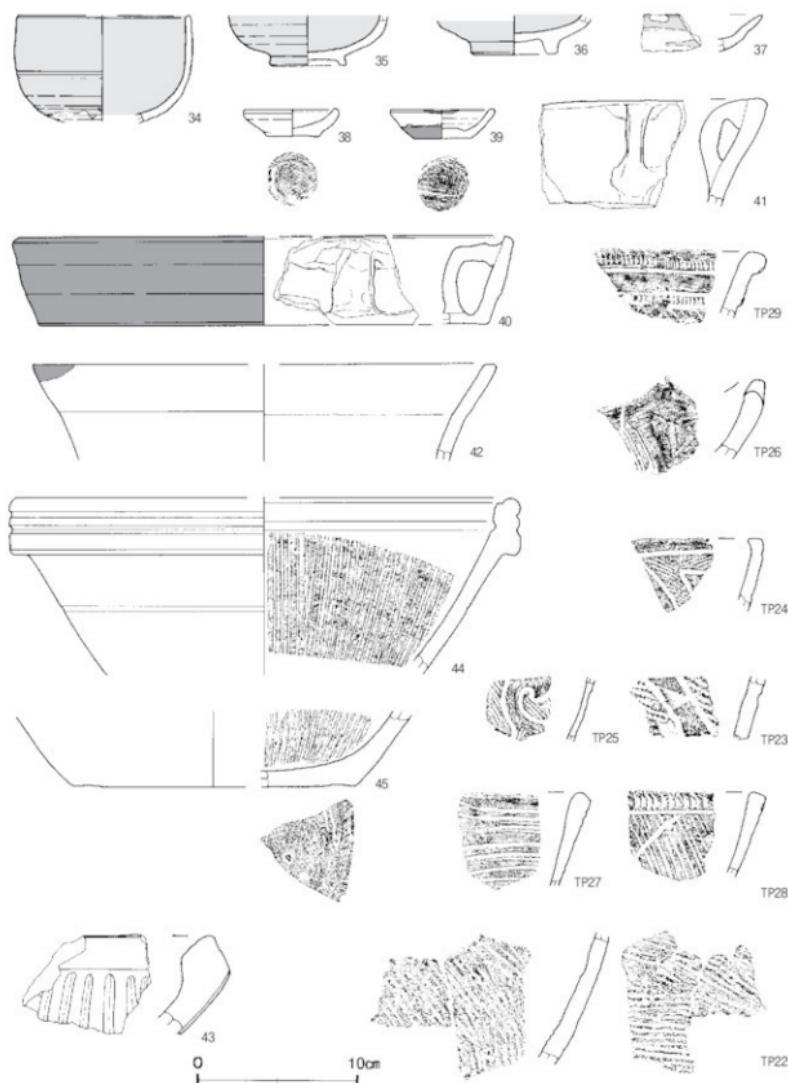
第82図 第5号ビット群実測図

表18 第5号ビット群ビット一覧表

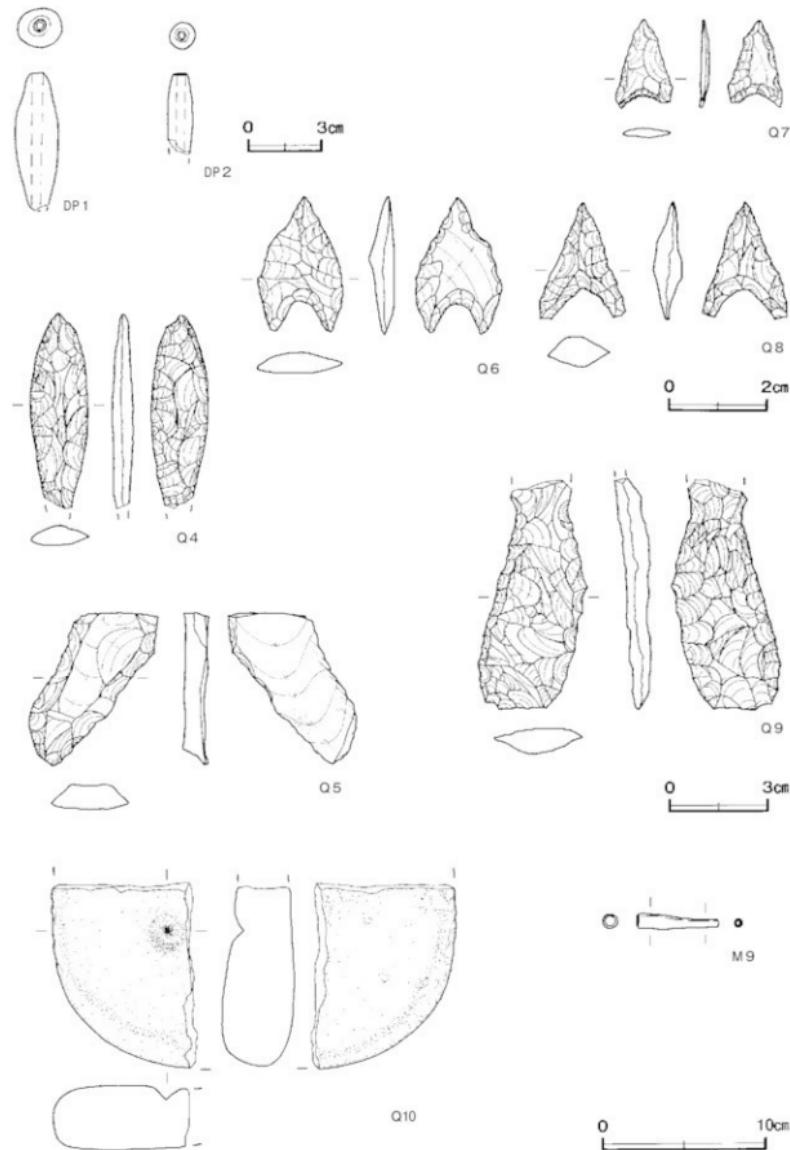
番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C 6h2	円形	54	50	32	2	C 6h3	椭円形	45	34	36

(5) 遺構外出土遺物（第 83・84 図）

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表を掲載する。



第 83 図 遺構外出土遺物実測図（1）



第84図 遺構外出土遺物実測図（2）

遺構出土土器観察表（第83・84図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	繪付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
34	陶器	碗	[108]	(6.8)	—	長石	灰	—	灰オリーブ	唐津	17世紀前半	東部洪水層	40% PL22
35	陶器	碗	—	(3.2)	4.6	織密	灰白	—	黒繩	唐津	17世紀前半	東部洪水層	30% PL23
36	陶器	碗	—	(2.5)	5.4	長石	灰	—	灰	唐津	17世紀前半	表土	30%
37	陶器	小皿	—	(2.3)	—	長石	灰黄	—	灰オリーブ	瀬戸	15世紀後半	表土	5% PL23

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の脊微はか	出土位置	備考
38	土質土器	小皿	5.8	17	3.3	長石・石英・青母	棕	普通	クロコナデ 底部希切り後ナデ調整	表土	90% PL22
39	土質土器	灯明皿	[6.4]	18	3.6	長石・石英・青母	黒繩・棕	普通	クロコナデ 底部希切り後ナデ調整 口縁部油	表土	50% PL23
40	土質土器	焰格	[30.4]	5.6	[28.0]	長石・石英・赤色粒子	黒繩・棕	普通	耳部貼り付け後 外・内面ナデ 外面保付着	表土	10% PL23
41	瓦質土器	内耳鍋	—	(6.8)	—	長石・石英	にふい・黄	普通	耳部貼り付け後 外・内面ナデ	表土	5% PL24
42	瓦質土器	内耳鍋	[29.0]	(6.1)	—	長石・石英	灰青繩	普通	外・内面ナデ 外面にわずかに保付着	SDII	5%
43	土質土器	火鉢	—	(6.2)	—	長石・石英・青母	にふい・赤繩	普通	口縁部外側縦方向の隆帶文 外・内面ナデ	表土	5% PL24
44	陶器	搖籃	[31.0]	(11.1)	—	長石・石英	灰赤	普通	クロコナデ 7条1单型の搖目 外・内面鉄泥	表土	10% PL24
45	陶器	搖籃	—	(4.8)	[17.7]	長石・石英	褐色手繩・赤繩	普通	耳部貼り付け後	表土	5% PL24

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP22	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤繩	胴部外・内面貝殻条痕文	SI 1 PL21	早期後半
TP23	陶文土器	深鉢	長石	棕	胴部外側單節 RL 純文を沈綱文で区画	Jトレンチ PL21	名古屋1式
TP24	陶文土器	深鉢	長石・石英	にふい・黃棕	胴部外側單節純文を沈綱文で区画	表土 PL21	名古屋1式
TP25	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にふい・棕	胴部外側單節 RL 純文を沈綱文で区画	表土 PL21	名古屋1式
TP26	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にふい・棕	波状口縁 沈綱による条綱文	表土 PL21	之内1式
TP27	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	棕	口縁部外側沈綱間に磨消綱文を光沢	表土 PL21	之内1式
TP28	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にふい・赤繩	口縁部 条綱文を沈綱で区画 脇部沈綱による斜位の条綱文	表土 PL21	之内1式
TP29	陶文土器	深鉢	長石・雲母	にふい・棕	口縁部脇に削目を施し、沈綱で区画 外・内面剥き	表土 PL21	安行式

番号	部種	長さ	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	等微	出土位置	備考
DP 1	管狀土鉢	5.7	1.8	0.5	(12.4)	長石・赤色粒子	施暗赤繩	外面ナデ後剥き 一方向からの穿孔	SK86	PL24
DP 2	管狀土鉢	(3.3)	1.1	0.3	(3.0)	長石・赤色粒子	施暗赤繩	外面ナデ後剥き 一方向からの穿孔	表土	PL24

番号	部種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	等微	出土位置	備考
Q 4	有舌形器	(6.0)	1.8	0.6	(7.0)	頁岩	両面押圧消難 基部欠損	表土	繩文早後期 片状の牛頭形
Q 5	刮削器	4.7	3.9	0.8	13.3	チャート	両縁押圧消難	表土	繩文早後期 牛頭形
Q 6	繩	2.8	1.8	0.5	1.9	チャート	凹基無条繩・両面押圧消難	表土	繩文早後期 牛頭形
Q 7	繩	1.8	1.2	0.2	0.4	黒色頁岩	凹基無条繩・両面押圧消難	表土	繩文早後期 牛頭形
Q 8	繩	2.4	1.8	0.6	1.1	チャート	無条繩・両面押圧消難	表土	繩文後期 牛頭形
Q 9	石範	(7.1)	3.4	1.1	(18.1)	黑曜石	縦型 両面押圧消難 つまみ部欠損	表土	繩文早後期 牛頭形
Q 10	石組	(11.5)	(9.0)	(4.5)	(22.0)	安山岩	約4分の1の残存 両面とも機能面が顕在に認め 四石兼用	SK89	

番号	部種	長さ	小口径	口径	重量	材質	等微	出土位置	備考
M 9	鍵管	5.1	0.9	0.5	5.4	銅	吸口 鍛造→銅板巻き糊付け 管内に本質一部残存	表土	18世紀後半 古銀錠付古物 PL24

第4節 まと め

1はじめに

今回の調査で、堅穴建物跡1棟、掘立柱建物跡3棟、井戸跡2基、火葬施設3基、地下式坑5基、土坑147基、堀跡1条、溝跡12条、柱穴列4条、炉跡3基、ピット群5か所を確認した。それらの遺構は出土遺物から縄文時代、室町時代、江戸時代に位置づけられ、断続的な土地利用の状況が明らかとなった。

ここでは、時代順に特徴ある遺物と遺構について概観し、各時代においての若干の考察を加え、まとめとしたい。

2 縄文時代

当時代の遺構は堅穴建物跡1棟、土坑64基を確認した。出土土器から早期後半、前期前半、中期後半、後期前半に時期区分ができる。当時代の海岸線は内陸部まで入り込み、当時の五霞町域は奥東京湾と古鬼怒湾に挟まれ、半島状に残った陸地部分に遺跡が点在している。奥東京湾の水域が形成されるのは6500年前～5500年前とされる¹⁾。土器編年で言えば早期後半から前期前半に相当するため、五霞町域には奥東京湾の水域が形成された頃から集落が営まれたことが今回の調査で明確となった。以下、時期別に概観する。

早期後半

出土土器は、貝殻条痕文を外・内面に施した深鉢である。該当する遺構は、第6・25号土坑で、調査区の中央部の西側に散在している。調査区域が狭小なため、性格は不明である。五霞町内では、当該期の調査例は少なく、当遺跡から南東約1kmに位置する石畠遺跡²⁾や南東約5.5kmの山王浦B遺跡³⁾で表面採集されているが、遺構に伴う例は当遺跡が初めてである。

前期前半

出土土器は、口縁部に山形の集合沈線文を刺突線文で区画する特徴をもつ、花積下層式期の深鉢である。該当する遺構は、第155号土坑で、調査区東部の南東寄りで確認した。五霞町の前期の遺跡は、石畠遺跡、板間遺跡、桜井貝塚、土塔貝塚、川岸貝塚、山王浦B遺跡が確認され、当遺跡から南東方向へ、約1～4kmのいすれも洪積台地に立地している。他の時期より多く確認されている。これは、縄文海進（奥東京湾の海岸線）が、最も内陸まで及んだ時期と合致している。

中期後半

出土土器は、胴部に単節LR縄文や櫛描き条線文を懸垂文で区画する特徴をもつ、加曾利E式期の深鉢である。該当する遺構は、第22・26・28・34・52号土坑で、調査区中央部の西寄りと北寄りで確認した。特に西側に集中している。出土土器を細分すると、加曾利EⅡ式が第22・28・34号土坑、加曾利EⅢ式が第35号土坑、加曾利EⅣ式が第52号土坑で、加曾利EⅡ式期は調査区中央部西寄りに集中し、加曾利EⅢ式期が西寄り、加曾利EⅣ式期が北寄りに散在している。五霞町内の中期の遺跡では、前述の石畠遺跡で、堅穴建物跡1棟、当遺跡から東方へ約1.5kmの駿迎新田遺跡は中期後葉の堅穴建物跡2棟、土坑2基が確認され、南東約1kmの小手指貝塚では勝坂式期～加曾利EⅠ式期の土器が出土しており、この時期の五霞町小手指の地は海岸線であったことが確認できる。従って、中期の遺跡はそれより北側に分布していることが判明している。

後期前半

出土土器は称名寺2式期と堀之内1式期の深鉢である。称名寺2式は、口縁部に刺突文、胴部外面にJ字状の沈線区画文の中に列点文を施文する特徴をもつ。該当する遺構は第1号堅穴建物跡で、調査区中央部の西寄りで確認した。堀之内1式では、胴部外・内面に磨き、単節LR繩文を沈線で区画する特徴をもつ。該当する遺構は第10号土坑で、第1号堅穴建物跡を掘り込んでいる。調査区域が狭小なので、集落の様相は明確でないが、遺構外出土遺物でも、堀之内1式期以降の土器は認められず、この時期をもって、集落は途絶える。

町域では前期前半の遺構が確認された土塔貝塚では当該期の堅穴建物跡4棟と土坑3基が確認されている。また、遺跡の南東約4kmの冬木A貝塚で同時期の堅穴建物跡が19棟確認されている。後期では、海岸線がさらに南下していることが確認できる。

小結

土塔貝塚等の前期と後期の複合遺跡、中期の帆遊新田遺跡、瀬沼遺跡等の単独遺跡の分布状況から、繩文海進期の前期に集落が海岸線の変化に伴い、中期では、集落が他地域に移動し、さらに後期になると再び集落が前期と同じ地域に形成されていることから、集落が海岸線を追いかけて移動したというのが従来の説であった。しかし、当遺跡では、断続的ながら中期にも遺構が存在していることが調査で明らかとなつた。

3 室町時代

当時代の遺構は調査区域の全域にわたり、掘立柱建物跡3棟、井戸跡2基、火葬施設3基、地下式坑5基、土坑57基、堀跡1条、溝跡7条、柱穴列4条を確認した。当遺跡の中心となる時代である。出土遺物は、土師質土器（皿、鉢、擂鉢、内耳鍋）、瓦質土器（擂鉢、内耳鍋）、陶器（皿、碗、鉢）、石器（砥石）、金属製品（鉄鍔、鞘尻金具、錢貨）である。出土土器、陶器の特徴から15世紀後葉から16世紀前葉に比定できる。以下遺構別に概観し、遺跡の性格について考察する。

掘立柱建物跡

3棟の掘立柱建物跡は、出土遺物がないため、時期は、明確にできないが、第1号掘立柱建物跡との新旧関係から、16世紀前葉以前に機能していたと考えられる。他の第2・3号掘立柱建物跡も軸方向が同じであることから、同時期に存在した可能性がある。性格は倉庫と考えられ、建て替えが認められないことから、短期間に機能した建物と考えられる。

井戸跡

第1号井戸跡は、出土土器の特徴から16世紀前葉と考えられる。第4・10号溝跡に囲まれた配置状況から当遺構と溝跡はほぼ同時期に機能していたと考えられる。また、第2号井戸跡は調査区中央部の北寄りに位置し、出土土器の特徴から第1号井戸跡と同じ16世紀前葉と考えられる。

火葬施設

第2・3号火葬施設は出土土器の特徴から16世紀前葉と考えられる。第2・3号火葬施設ともに第4号溝跡の内側で確認したことから、出土遺物が第4号溝跡とはほぼ同時期であると考えられる。

地下式坑

第1・2号地下式坑からは出土遺物がないため、時期は明確ではないが、主室は大形の長方形のもので、形状が似ていることから、同時期に存在した可能性がある。また、第2号地下式坑が、第4号溝に掘り込

まれているため、16世紀前葉以前に機能していたと考えられる。

他の3基は第4号溝跡の内側に配置されている。第3号地下式坑は調査区域外へ延びるため、形状が不明である。時期は、出土土器の特徴から16世紀前葉と考えられる。第4号地下式坑は凸字形の小ぶりで、底面から六道銭と考えられる銭貨6枚が出土している。第5号地下式坑は凸字形で、豊坑部分の東西壁に棚状あるいは出入りする時の足掛け状の段を有している。また、主室の東壁際の底面には長方形の掘り込みが付設されている。管見する類例としては、千葉県千葉市の山王遺跡¹⁾第12号地下式土坑の底面に掘り込まれたやや瓢箪形の長方形の穴の東端に鉄鍋の完形品が逆位で出土している。

土坑

当時代の土坑の大半は、第4号溝跡の内側に位置している。時期は、陶器皿が15世紀後葉で、その他は16世紀前葉に比定される。性格は、人骨は出土していないが、区画溝と考えられる第4号溝跡に囲まれた火葬施設、地下式坑の配置状況から、土坑墓と考えられる。

堀跡

調査区西部に位置し、調査区中央部では確認できなかったため、南東側の調査区域外へ曲がっていくものと考えられる。時期は、出土土器の特徴から16世紀前葉である。第3章で記述しているように、2次期の使用が認められた。当遺構は幅9mの土橋を有している。土橋の多くは人間一人が通れる程の幅である。幅9mは街道クラスの道幅と合致しているが、調査区が狭小なため不明な点が多い。

溝跡

調査区中央部と東部に位置している。配置状況から第4・10・11・13号溝跡は区画溝と考えられる。第4号溝跡は出土土器から16世紀前葉と考えられる。他の溝跡は出土遺物がなく、時期が確定できないが、同一軸線上のため、同時期に機能した可能性が高い。また、第5・8号溝跡は確認した部分がわずかため性格不明である。

小結

以上のように当時代の遺構は、出土遺物から16世紀前葉には廃絶している。遺構の変遷をみていくと、掘立柱建物跡と道路状の溝が16世紀前葉以前に機能し、その後、火葬施設が設けられ、区画溝と地下式坑、井戸を伴う土坑墓群を中心とした墓域と幅9mの土橋を付設した堀が16世紀前葉まで存続している。当遺跡の所在する川妻（河妻）地区は古河城と栗橋城を結ぶ路線上に位置し、周辺には小字名の宿北、宿東、舟渡戸や一色神社、石像物、屋敷割りなど、河岸や宿にかかる景観が現在も残っていることからも、市や宿場に関わる施設や墓域の一部の可能性もあるが、今回の調査区は狭小で、詳細は不明である。また、火葬施設等の遺構や、出土遺物で天目茶碗、鞘尻金具から武士階級の存在が窺える。15世紀後葉から16世紀前葉の頃は、時代の動乱期で、古河公方足利政氏と子の高基の対立があり、16世紀後半には、当地域に後北条氏が台頭してくるため⁵¹⁾、当遺跡が16世紀前葉に廃絶するのは後北条氏によるなんらかの影響があったものと考えられる。

4 江戸時代

当時代の遺構は溝跡3条を確認した。第9・12号溝跡が17世紀前葉で第7号溝跡が17世紀後葉である。時代背景をみていくと、川妻村が幕府代官伊奈備前守の支配下にあった元和7年（1621）、家臣富田助左右衛門によって、赤堀川の開削が川妻村の北端と帆遊村、前林村の南端で行われた⁵²⁾。『川妻村文書』これが今日の利根川の流路となっている。この利根川東遷事業により、五霞町域は利根川、逆川、権現堂川によっ

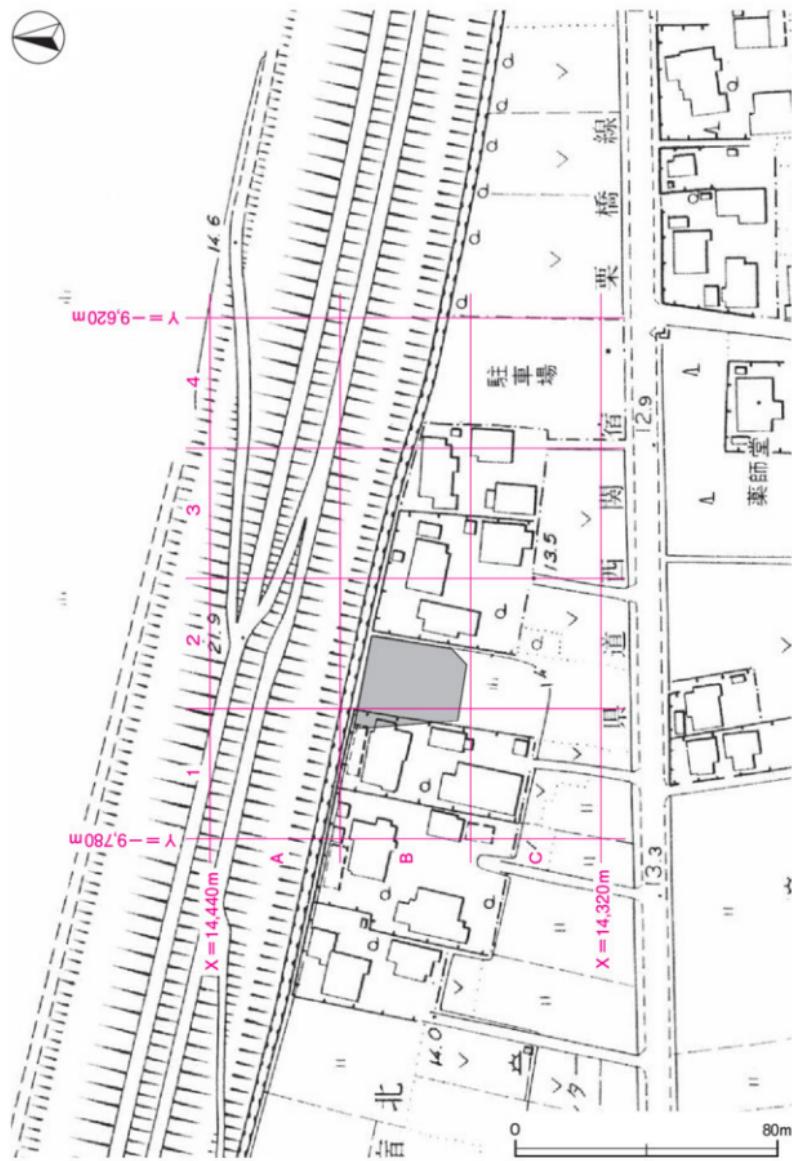
て埋まれ、以前にも増して洪水の被害を被ることになる⁷⁾。そのようなことから、当遺跡で確認した溝跡は赤堀川（現利根川）の方向に深くなっていることからも、低い土地に溜まつた悪水を排水する用途で掘られた可能性がある。当時代の溝跡の覆土上層には洪水層が確認でき、洪水層からは19世紀前葉の陶器碗の破片が出土している。洪水層の上層で近・現代の耕作土が確認できることから、江戸時代後期に洪水のため土地利用が中断し、明治以降に耕作地として再び利用されたと考えられる。

5 おわりに

今回の調査では、遺跡の一部を調査したにすぎないが、縄文時代に断続的に集落が営まれた後、空白の時代において、室町時代後期に墓域として土地利用され、江戸時代では、洪水対策として水路が掘削されていたことが判明した。今後の調査により当遺跡の性格がより明確となることを期待したい。

註

- 1) 小川岳人『縄文時代の生業と集落－古奥東京湾沿岸の社会－』 2001年5月
- 2) a 瓦吹堅『石畳遺跡』 茨城県猿島郡五霞村教育委員会 1977年3月
b 成爲一也『石畳遺跡 12号墓単道改12-03-261-0-052号埋蔵文化財調査報告書』『茨城県教育財团文化財調査報告』第192集 2002年3月
- 3) 佐々木守 小村正之『山王浦B遺跡 町道55号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 五霞町教育委員会 2003年9月
- 4) 大賀健 近江屋成陽 菊地健一『千葉県千葉市山王遺跡発掘調査報告書』 山王遺跡発掘調査団 2000年3月
- 5) 五霞町史編さん委員会『町史 五霞の生活史 水と五霞』 五霞町 2010年3月
- 6) 5)と同じ
- 7) 森朋久『第二章 第三節 水害継発と水利・治水政策』『町史 五霞の生活史 水と五霞』 五霞町 2010年3月





北
E
X = 14,400m Y = -9772m
B1a8



B2a8

X = 14,356m
Y = -9772m
C1b8

0 20m

第86図 宿東遺跡遺構全体図

第4章 宿 東 遺 跡

第1節 調査の概要

宿東遺跡は、猿島郡五霞町の北西部に位置し、利根川右岸の標高約12mの低台地上に立地している。遺跡の範囲は南北200m、東西300mほどであり、今回の調査区は遺跡の北部にあたる。調査面積は768m²である。

調査の結果、堅穴建物跡1棟（縄文時代）、掘立柱建物跡2棟（江戸時代）、土坑65基（縄文時代49、室町時代16）、炉跡1基（時期不明）、柱穴列2条（時期不明）、ピット群1か所（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に6箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、土師質土器（皿）、陶器（皿）、磁器（碗）、石器（鐵・搔器・削器・石皿）などである。

第2節 基 本 層 序

調査区は平坦な標高12mの台地上に立地している。調査区北部のB1b9区にテストピットを設定して、深さ2mまで掘り下げて基本土層の観察を行った。

第1層は、表土層で宅地の盛土整地層である。層厚は35～55cmである。

第2層は、暗褐色を呈する河川の氾濫堆積層である。鉄分、砂粒を含み、粘性は普通で締まりが弱く、層厚は21～42cmである。

第3層は、黒褐色を呈する河川の氾濫堆積層である。鉄分、砂粒を含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は15～19cmである。

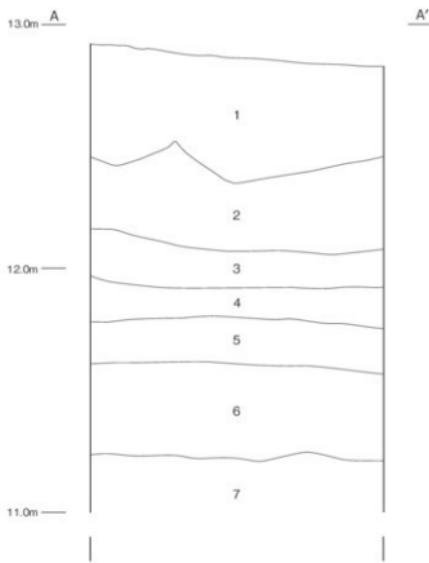
第4層は、暗褐色を呈する旧耕作土層である。鉄分、粘土ブロック、砂粒を含み、粘性・締まりとともに弱く、層厚は10～26cmである。

第5層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとともに普通で、層厚は31～43cmである。

第6層は、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で締まりは強く、層厚は48～62cmである。第II黒色帯と考えられる。

第7層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとともに強い。層厚は90cmまで確認したが、下層は未掘のため、不明である。

なお、遺構は、第5層の上面で確認した。



第87図 宿東遺跡基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 繩文時代の遺構と遺物

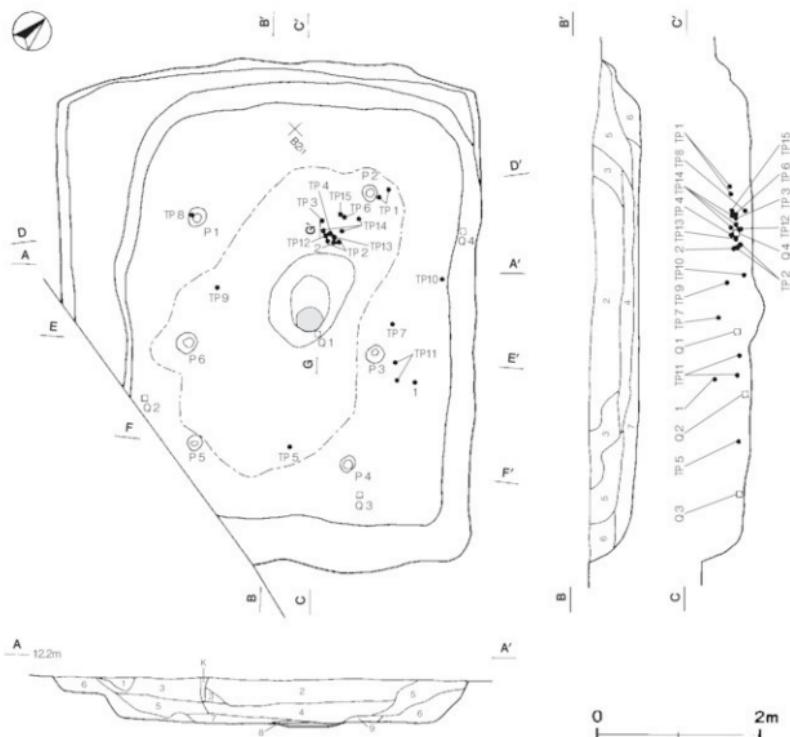
当時代の遺構は、堅穴建物跡1棟、土坑49基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 堅穴建物跡 (第88~91図)

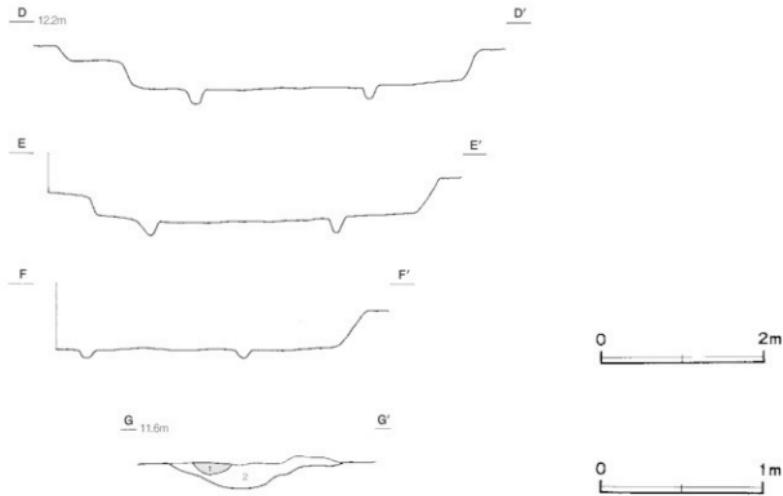
位置 調査区南部のB2i1区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸6.25m、短軸5.21mの長方形で、北部から西部にかけて、幅10~90cmの棚状の張り出しが付設されている。主軸方向はN-55°-Wである。壁高は18~50cmの有段状で、外傾して立ち上がっていいる。

床 平坦で、炉の周囲の中央部が踏み固められている。



第88図 第1号堅穴建物跡実測図(1)



第89図 第1号竪穴建物跡実測図（2）

炉 中央部に付設されている。長径 126cm、短径 84cm の梢円形をした地床炉である。火床面は赤変硬化している。火床面は第1層上面で、床面を 15cm ほど皿状に掘り込み、ロームブロックを含んだ第2層を埋土して構築されている。

炉土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------|-------|--------------------|
| 1 ぶい赤褐色 | 燒土ブロック多量、炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 2 黒褐色 | ロームブロック少量、燒土ブロック微量 |
|---------|---------------------------|-------|--------------------|

ピット 6か所。P 1～P 6 は深さ 12～20cm で、規模と配置から主柱穴と考えられる。

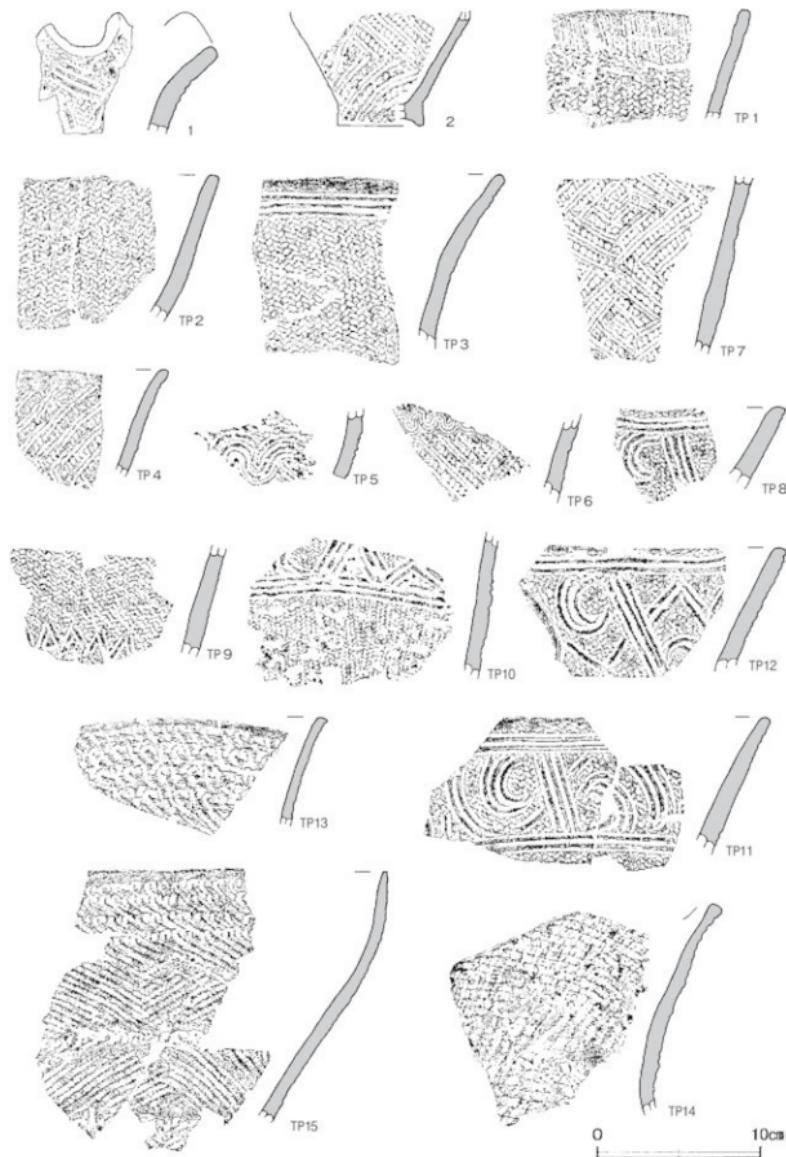
覆土 9層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

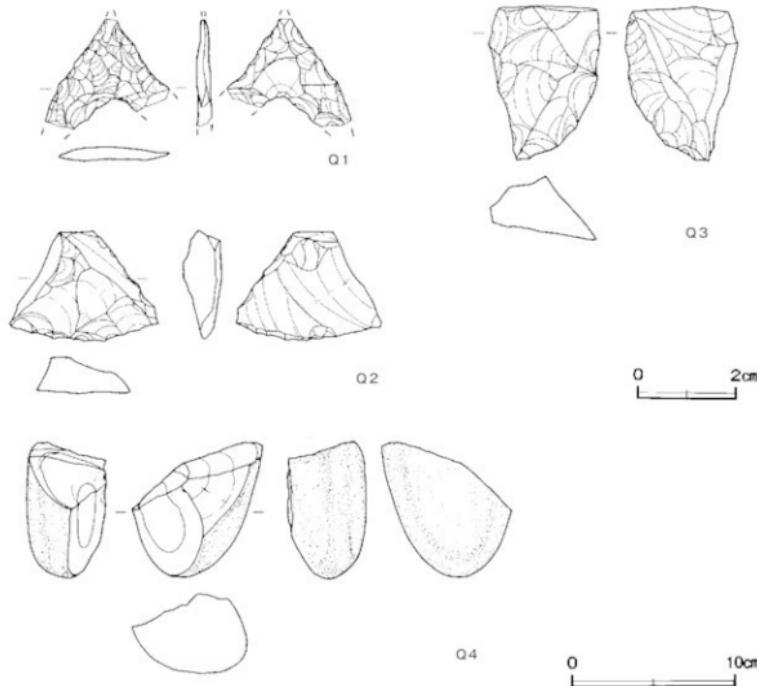
- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物・燒土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、燒土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、燒土粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・燒土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック、炭化粒子少量、燒土粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック中量、燒土粒子少量 |
| 5 明褐色 | ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 繩文土器片 593 点（深鉢）のはか、石器 4 点（鎌 2、搔器 1、削器 1）、石核 1 点、剥片 15 点（チャート 14、黒曜石 1）、粘土塊 4 点、自然礫 1 点が覆土中層から下層にかけて、全体に散在して出土している。TP 2 は中央部、TP 5 は中央部の南寄り、TP 8 は北西部、TP 10 は北東壁際、TP 11 は南東部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。Q 1 は中央部、Q 2 は南西壁際、Q 3 は南東壁際、Q 4 は北東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。1 は南東部、TP 1 は北東部、2・TP 2～TP 4・TP 6・TP 12～TP 15 は中央部、北西寄りに集中して、TP 7 は中央部東寄り、TP 9 は中央部西寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 覆土中から砂岩の石核 1 点や剥片が 15 点出土しているが、いずれも剥片であることから廃絶後に投棄されたものと考えられる。本跡周辺で石器製作を行った可能性がある。時期は、出土土器から前期前半（関山 II 式期）と考えられる。



第90図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）



第91図 第1号堅穴建物跡出土遺物実測図（2）

第1号堅穴建物跡出土遺物観察表（第90・91図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	圓文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい褐色	口部直前段多条文施文化。手截竹管による平行斜線文。	覆土中層	5% 圖面Ⅰ式 PL.31	
2	圓文土器	深鉢	-	(7.0)	(5.2)	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐色	普通直前段。正反合の羽状縞文	覆土中層	10% 圖面Ⅱ式 PL.31	

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 1	圓文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい褐色	口縁部無筋し純文。脇部平組縞文（0段3条）	覆土中層	開山Ⅰ式 PL.31
TP 2	圓文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐色	平組縞文（0段3条）	覆土下層	開山Ⅰ式 PL.31
TP 3	圓文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐色	口縁部手截竹管による平行沈継文。脇部平組縞文（0段3条）	覆土中層	開山Ⅰ式 PL.32
TP 4	圓文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	明褐色	附加条第2種の羽状縞成	覆土中層	開山Ⅰ式 PL.31
TP 5	圓文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	脇部手截竹管によるコンパス文	覆土下層	開山Ⅰ式 PL.31
TP 6	圓文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	脇部手截竹管によるコンパス文。地文は附加条第2種	覆土中層	開山Ⅰ式 PL.31
TP 7	圓文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐色	脇部正反合燃	覆土中層	開山Ⅰ式 PL.31
TP 8	圓文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	明褐色	口縁部平組縞文（0段3条）→手截竹管による平行沈継文	覆土下層	開山Ⅰ式 PL.31
TP 9	圓文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい褐色	脇部平組縞文（0段3条）→手截竹管による山形の平行沈継文	覆土中層	開山Ⅰ式 PL.32
TP10	圓文土器	深鉢	長石・赤色粒子・繊維	明赤褐色	脇部平組縞文（0段3条）→手截竹管による平行沈継文	覆土下層	開山Ⅰ式 PL.32
TP11	圓文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	橙	脇部平組縞文（0段3条）→手截竹管によるコンパス文→平行沈継文	覆土下層	開山Ⅰ式 PL.32

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴は	出土位置	備考
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 繊維	明赤褐色	口縁部平組縦彌文（0段3条）→手執苔管による山形の平行花 被文→平行沈被文→コインバスク文	覆土中層	関山B式 PL32
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	に赤い橙	口縁部丸組縦彌文（0段4条）	覆土中層	関山B式 PL32
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐色	口縁部外面羽状彌文 内面丁寧な着き	覆土中層	関山B式 PL32
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・ 繊維	暗褐色	口縁部ループ文 脱部結束彌文（第1種）	覆土中層	関山B式 PL32

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	鏡	(22)	(26)	0.3	(1.2)	黒曜石	円孔無系縫、両面押捺凹	覆土下層	PL33
Q 2	鏡	23	30	0.7	4.5	黒色頁岩	片面縫部調整	覆土下層	PL33
Q 3	削器	32	23	13	7.7	頁岩	片面縫部調整	覆土下層	PL33
Q 4	石核	83	80	49	3529	鈍岩	河原石を大きく分割した後、小形の崩片を剥がし取っている。	覆土下層	PL33

(2) 土坑

今回の調査で、出土遺物や形状、覆土の堆積状況から、縄文時代とみられる土坑49基を確認した。以下、遺構の形状や遺物の出土状況が特徴的な17基について解説し、それ以外は実測図と土層解説、一覧表で記載した。

第14号土坑（第92図）

位置 調査区南東部のB2g3区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径0.30mほどの円形である。深さは19cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

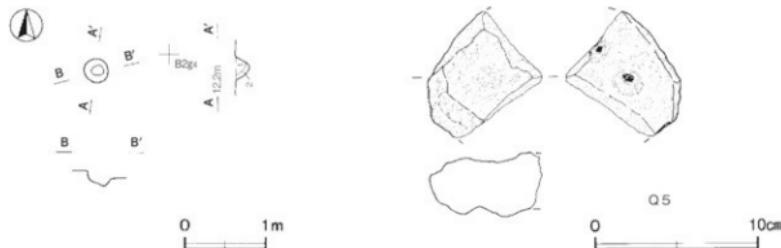
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）のほか、石器1点（石皿）が覆土中から出土している。縄文土器片は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代と考えられる。



第92図 第14号土坑・出土遺物実測図

第14号土坑出土遺物観察表（第92図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 5	石皿	(7.7)	(7.0)	(3.6)	(1146)	安山岩	橢形面が皿状にわざかに凹む 四石兼用	覆土中	PL33

第20号土坑（第93図）

位置 調査区南東部のB 2 g2 区、標高 12 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.82 m、短径 1.25 m の楕円形で、長径方向は N - 32° - W である。深さは 19 cm で、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

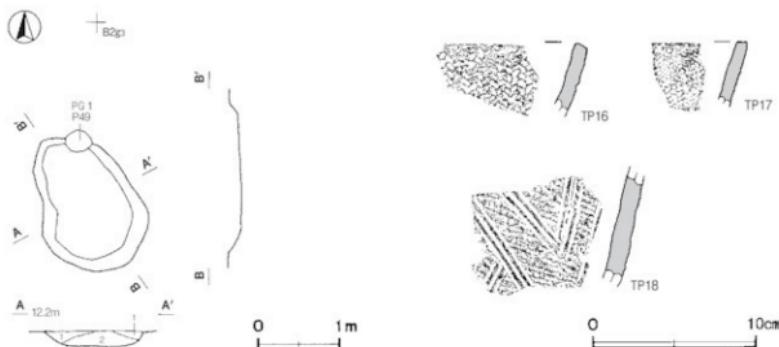
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 繩文土器片 8 点（深鉢）が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半（関山Ⅱ式期）と考えられる。



第93図 第20号土坑・出土遺物実測図

第20号土坑出土遺物観察表（第93図）

番号	種別	型種	胎土	色調	文様の特徴はいか	出土位置	備考
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・磁鐵	褐	口縁部平組織文（段3条）	覆土中	関山Ⅱ式 Pz.34
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英・磁鐵	に赤い模	口縁部平組織文（段3条）	覆土中	関山Ⅱ式 Pz.34
TP18	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・磁鐵	に赤い模	側部渦文→手執管による平行沈織文	覆土中	関山Ⅱ式 Pz.34

第21号土坑（第94図）

位置 調査区南東部のB 2 g3 区、標高 12 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.77 m、短径 1.37 m の不整楕円形で、長径方向は N - 33° - W である。深さは 20 cm で、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がり、北壁は有段状である。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

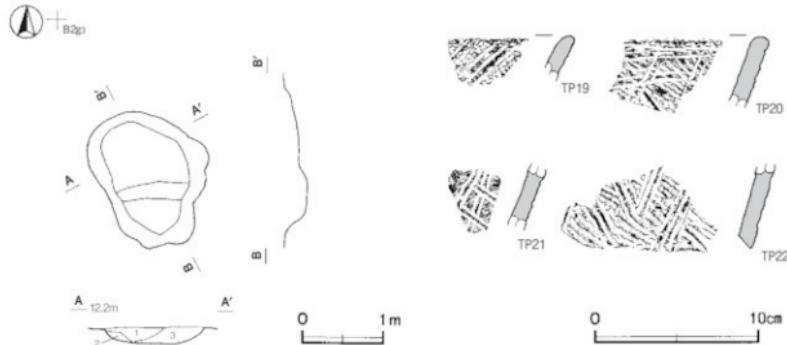
1 黒褐色 ロームブロック中量

3 暗褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 10 点（深鉢）が覆土中から出土している。うち 6 点は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から前期前半（関山Ⅱ式期）と考えられる。



第94図 第21号土坑・出土遺物実測図

第21号土坑出土遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴は	出土位置	備考
TP19	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	棕	口縁部平組繩文→半截竹管による平行沈綬文	覆土中	関山Ⅱ式
TP20	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	棕	口縁部撚糸文→半截竹管による平行沈綬文→山形の平行沈綬文	覆土中	PL34
TP21	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	暗褐	腹部半截竹管による格子目の沈綬文	覆土中	関山Ⅱ式 PL34
TP22	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	暗褐	腹部撚糸文→半截竹管による平行沈綬文	覆土中	関山Ⅱ式 PL34

第23号土坑（第95図）

位置 調査区南東部のB2g3区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第27号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部を第27号土坑に掘り込まれているため、南北径は1.20mで、東西径は0.67mしか確認できなかった。楕円形と推定できる。深さは15cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

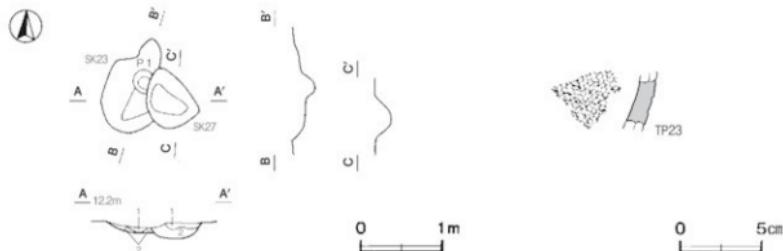
ピット 北壁際に位置している。径30cmほどの円形で、深さ17cmである。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量

2 黄褐色 ロームブロック中量



第95図 第23・27号土坑・第23号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 繩文土器片4点（深鉢）が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半（関山Ⅱ式期）と考えられる。

第23号土坑出土遺物観察表（第95図）

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	文様の特徴はか	出土位置	備 考
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 磁鐵	棕	網部平組繩文（0段3条）	覆土中	関山Ⅱ式

第25号土坑（第96図）

位置 調査区北東部のB 2 e4 区、標高 12 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 0.54 m、短径 0.47 m の楕円形で、長径方向は N - 2° - W である。深さは 9 cm で、底面はほぼ平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半（関山Ⅱ式期）と考えられる。



第96図 第25号土坑・出土遺物実測図

第25号土坑出土遺物観察表（第96図）

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	文様の特徴はか	出土位置	備 考
TP24	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 磁鐵	にぶい褐	口縁部平組繩文（0段3条）→手裁竹管によるコンパス文	覆土中	関山Ⅱ式 PL34

第27号土坑（第95図）

位置 調査区南東部のB 2 g3 区、標高 12 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第23号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 0.73 m、短径 0.66 m の楕円形で、長径方向は N - 43° - W である。深さは 21 cm で、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 繩文土器片 1点（深鉢）が覆土中から出土している。細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から前期と考えられる。

第 28 号土坑（第 97 図）

位置 調査区南東部のB 2 b4 区、標高 12 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.06 m、短径 0.70 m の楕円形で、長径方向は N - 72° - W である。深さは 16 cm で、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

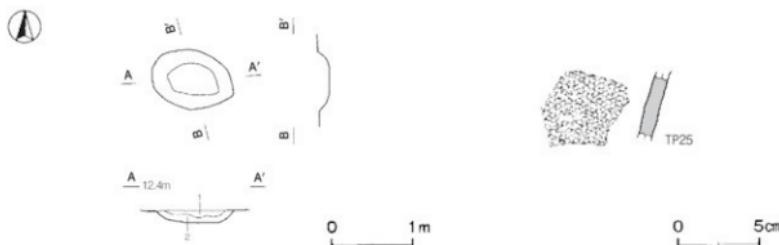
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 繩文土器片 10 点（深鉢）が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半（関山Ⅱ式期）と考えられる。

**第 97 図 第 28 号土坑・出土遺物実測図****第 28 号土坑出土遺物観察表（第 97 図）**

番号	種別	器種	胎 土	色 調	文様の特徴は	出土位置	備考
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・ 繊維	褐	腹部平粗研縄文（0段3条）	覆土中	関山Ⅱ式

第 29 号土坑（第 98 図）

位置 調査区北東部のB 2 e4 区、標高 12 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.13 m、短径 1.00 m の楕円形で、長径方向は N - 72° - W である。深さは 20 cm で、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

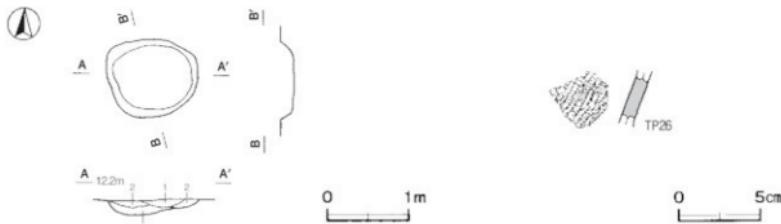
1 黒褐色 ロームブロック中量

3 暗褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 4 点（深鉢）が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半（関山Ⅰ式期）と考えられる。



第98図 第29号土坑・出土遺物実測図

第29号土坑出土遺物観察表（第98図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 磁鐵	明赤褐色	腹部O段多条LR縄文	覆土中	関山I式

第30号土坑（第99図）

位置 調査区南東部のB 2 b3区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径0.60mほどの円形で、深さは20cmである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

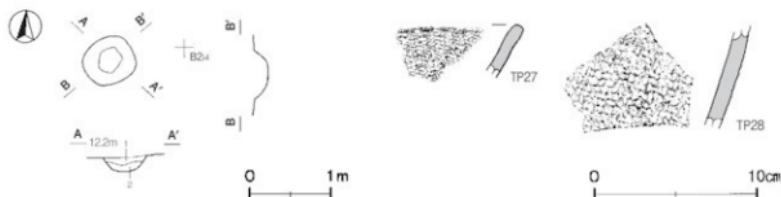
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片3点（深鉢）が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半（関山II式期）と考えられる。



第99図 第30号土坑・出土遺物実測図

第30号土坑出土遺物観察表（第99図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP27	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 磁鐵	にじい赤褐色	口縁部平組縦縄文（O段3条）	覆土中	関山II式 PL34
TP28	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 磁鐵	褐	腹部平組縦縄文（O段3条）	覆土中	関山II式 PL34

第31号土坑（第100図）

位置 調査区南東部のB 2 b4区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.14 m、短径 0.75 m の橢円形で、長径方向は N - 24° - E である。深さは 11cm で、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

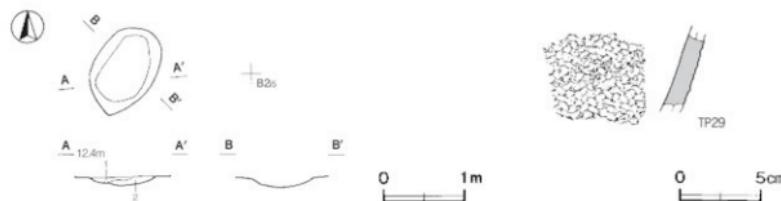
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 繩文土器片 7 点（深鉢）が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半（関山Ⅱ式期）と考えられる。



第 100 図 第 31 号土坑・出土遺物実測図

第 31 号土坑出土遺物観察表（第 100 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・ 鐵錆	明赤褐色	腹部外面粗粒繩文（4段3束） 内面丁寧な磨き	覆土中	関山Ⅱ式 PL.34

第 32 号土坑（第 101 図）

位置 調査区南東部の B 2 h5 区、標高 12m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 0.95 m、短径 0.71 m の橢円形で、長径方向は N - 44° - E である。深さは 17cm で、底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

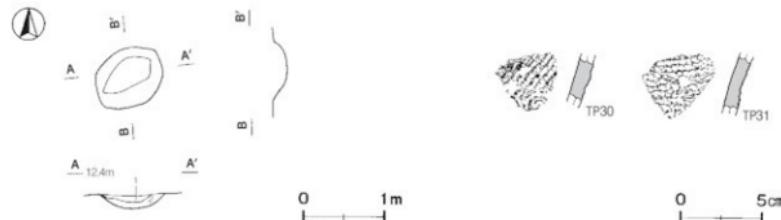
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 5 点（深鉢）が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半（関山Ⅱ式期）と考えられる。



第 101 図 第 32 号土坑・出土遺物実測図

第32号土坑出土遺物観察表（第101図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP30	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 磁鐵	明赤褐色	側部外面複数LRL 縄文→コンバス文 内面丁寧な磨き	覆土中	関山Ⅱ式
TP31	縄文土器	深鉢	長石・石英・磁鐵	棕	側部外面平継縄文(0段3条) 内面丁寧な磨き	覆土中	関山Ⅱ式

第45号土坑（第102図）

位置 調査区南東部のB 2 h5 区、標高 12 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.11 m、短径 0.97 m の楕円形で、長径方向は N - 77° - W である。深さは 19 cm で、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

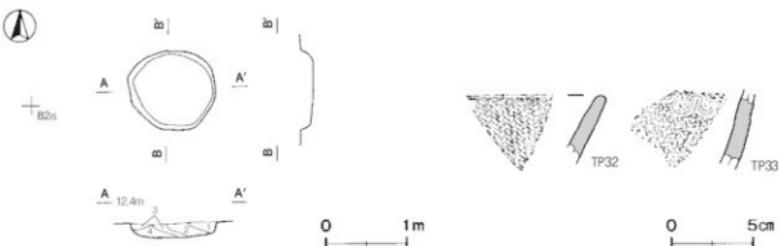
覆土 4 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 (粘性・締まり普通) |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 (粘性弱・締まり普通) |

遺物出土状況 縄文土器片 10 点 (深鉢) が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半（関山Ⅱ式期）と考えられる。



第102図 第45号土坑・出土遺物実測図

第45号土坑出土遺物観察表（第102図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP32	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 磁鐵	に赤い網	口縁部平継縄文(0段3条)	覆土中	関山Ⅱ式 PL34
TP33	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 磁鐵	明赤褐色	側部平継縄文(0段3条) → 手抜竹管によるコンバス文	覆土中	関山Ⅱ式 PL34

第50号土坑（第103図）

位置 調査区南東部のB 2 i3 区、標高 12 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 0.58 m ほどの円形で、深さは 14 cm である。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

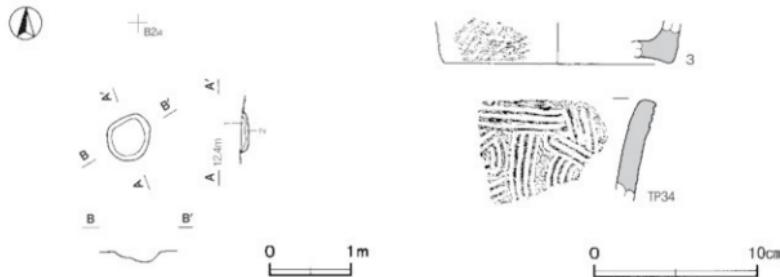
覆土 2 層に分層できる。混入物が少なく周囲からの流入を示す堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 2 暗褐色 | ローム粒子中量 |
|-------|---------|-------|---------|

遺物出土状況 縄文土器片 4 点 (深鉢) が覆土中から出土している。うち 2 点は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から前期前半（関山Ⅱ式期）と考えられる。



第103図 第50号土坑・出土遺物実測図

第50号土坑出土遺物観察表（第103図）

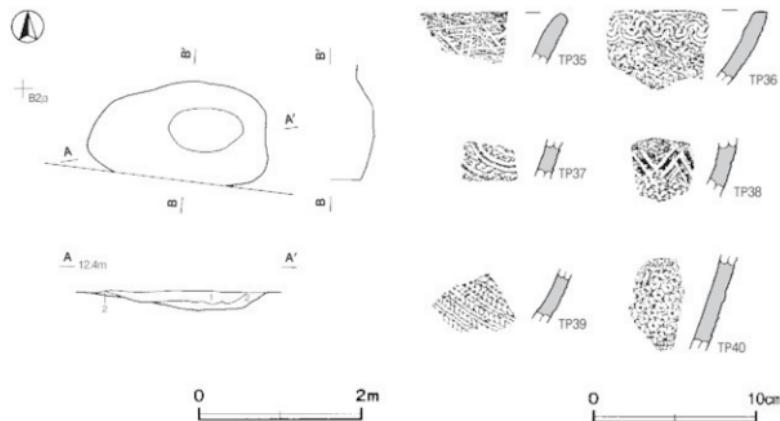
番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
3	繩文土器	深鉢	-	(27)	(140)	長石・石英・ 雲母・磁鐵	灰褐色	普通	底部丸組織文（0段4条）	覆土中	5号 山田式

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP34	縄文土器	深鉢	長石・石英・磁鐵	明赤褐色	口縁部平組織文（0段3条）→半截竹管による平行沈織文	覆土中	山田式 PL-34

第53号土坑（第104図）

位置 調査区南東端部のB 23区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南部が調査区域外へ延びるため、東西径は2.20mで、南北径は1.18mしか確認できなかった。楕円形と推定できる。深さは20cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。



第104図 第53号土坑・出土遺物実測図

覆土 2層に分層できる。混入物が少なく周囲からの流入を示す堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1 噴 白 ローム粒子少量

2 黒 白 ローム粒子中量

遺物出土状況 繩文土器片 40点（深鉢）が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半（関山Ⅱ式期）と考えられる。

第53号土坑出土遺物観察表（第104図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	黒褐色	口縁部平組織縦文（0段3条）→手裁竹管による平行沈澱文→山形の平行沈澱文	覆土中	関山Ⅱ式 PL34
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	棕	口縁部平組織縦文（0段3条）→手裁竹管によるコンパス文	覆土中	関山Ⅱ式 PL34
TP27	縄文土器	深鉢	長石・繊維	明赤褐色	胴部外面平組織縦文（0段3条）→手裁竹管による平行沈澱文	覆土中	関山Ⅱ式 PL34
TP28	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐色	胴部外面平組織縦文（0段3条）→手裁竹管による山形の平行沈澱文	覆土中	関山Ⅱ式 PL34
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	明褐色	胴部附加条1種附加2条縦文	覆土中	関山Ⅱ式 PL34
TP30	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	棕	胴部ループ文（末端埋付の縄）	覆土中	関山Ⅱ式 PL34

第54号土坑（第105図）

位置 調査区南東端部のB 214区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.28mほどの円形で、深さは9cmである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。混入物が少なく周囲からの流入を示す堆積状況から自然堆積である。

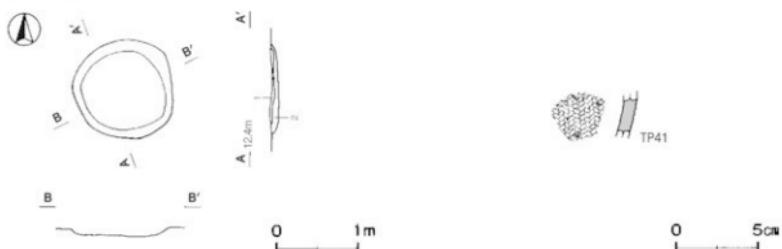
土層解説

1 噴 白 ローム粒子少量

2 黒 白 ローム粒子中量

遺物出土状況 縄文土器片 3点（深鉢）が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半（関山Ⅱ式期）と考えられる。



第105図 第54号土坑・出土遺物実測図

第54号土坑出土遺物観察表（第105図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP41	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子・繊維	赤褐色	胴部外面平組織縦文（0段3条）内面丁寧な磨き	覆土中	関山Ⅱ式 PL34

第56号土坑（第106図）

位置 調査区南東部のB 241区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 0.70 m、短径 0.47 m の橢円形で、長径方向は N - 49° - W である。深さは 30cm で、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

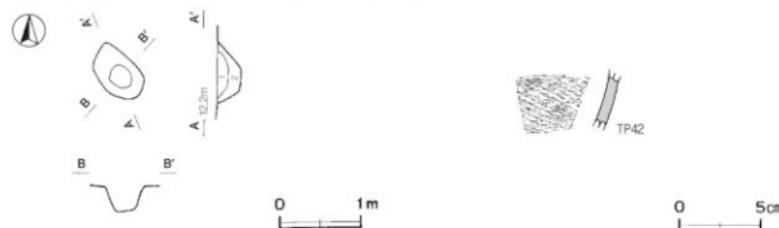
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片 1 点（深鉢）が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半（関山Ⅱ式期）と考えられる。



第 106 図 第 56 号土坑・出土遺物実測図

第 56 号土坑出土遺物観察表（第 106 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴	出土位置	備考
TP42	縄文土器	深鉢	長石・雲母・磁鐵	にぶい褐色	側部撚糸文	覆土中	関山Ⅱ式 PL.34

第 59 号土坑（第 107 図）

位置 調査区南東部の B 2 gl 区、標高 12 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 124 m、短径 087 m の橢円形で、長径方向は N - 82° - E である。深さは 20cm で、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

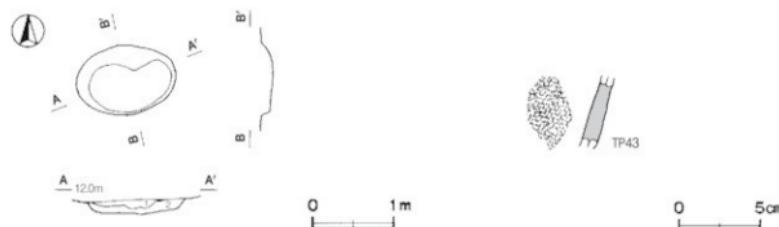
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 繩文土器片 2 点（深鉢）が覆土中から出土している。うち 1 点は細片のため、図示できなかった。

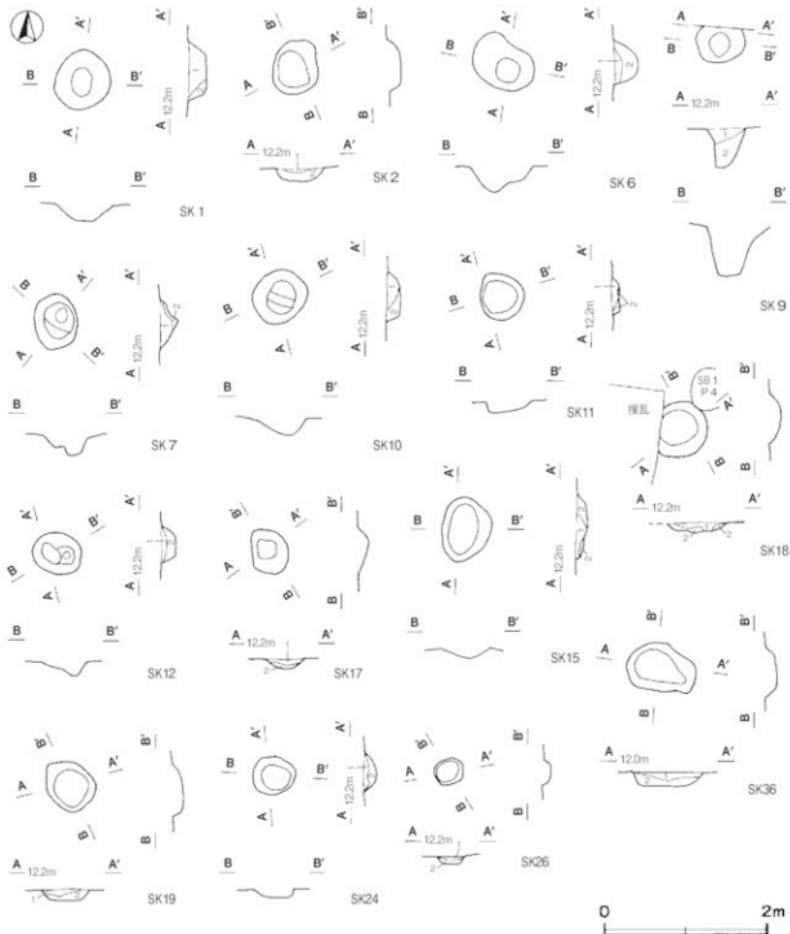
所見 時期は、出土土器から前期前半（関山Ⅱ式期）と考えられる。



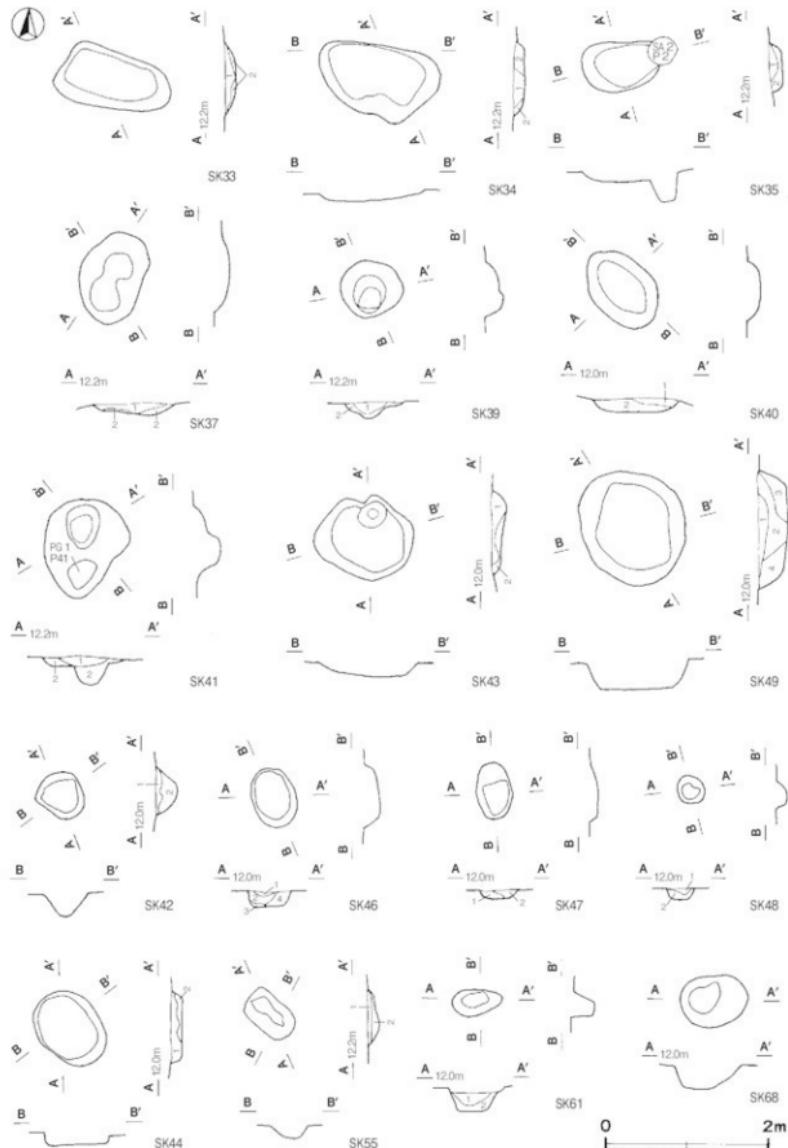
第 107 図 第 59 号土坑・出土遺物実測図

第59号土坑出土遺物觀察表（第107図）

番号	種別	器種	胎士	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP43	縄文土器	深鉢	粘土・石英・雲母・ 磁鐵	褐	側部外面平繩紋（0段3条）内面丁寧な磨き	覆土中	開山Ⅱ式



第108図 縄文時代土坑実測図（1）



第109図 繩文時代土坑実測図（2）

表19 繩文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	横面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	B 2c5	N - 5° - E	椭円形	0.74 × 0.68	23	平坦	縦斜	人為		
2	B 2f4	N - 32° - E	椭円形	0.73 × 0.60	18	黒状	縦斜	人為		
6	B 2f4	N - 61° - W	椭円形	0.78 × 0.56	33	黒状	縦斜	人為		
7	B 2d3	N - 9° - W	椭円形	0.67 × 0.52	25	平坦	外傾	人為		
9	B 2b6	N - 53° - E	〔椭円形〕	0.61 × 0.53	58	平坦	外傾	人為		
10	B 2c2	N - 21° - E	椭円形	0.70 × 0.62	21	黒状	縦斜	人為		
11	B 2e2	N - 34° - W	椭円形	0.61 × 0.55	14	平坦	縦斜	人為		
12	B 2e2	N - 79° - W	椭円形	0.60 × 0.50	19	黒状	縦斜	人為		
14	B 2g3	-	円形	0.30 × 0.27	19	黒状	外傾	人為	縄文土器片、石盤片	
15	B 2e4	N - 5° - E	椭円形	0.79 × 0.60	14	黒状	縦斜	人為		
17	B 2d4	N - 31° - W	椭円形	0.61 × 0.47	14	黒状	縦斜	人為		
18	B 2d4	N - 29° - E	〔椭円形〕	0.73 × 0.60	14	平坦	縦斜	人為		本跡→SB 1 P 4
19	B 2d4	N - 44° - W	椭円形	0.67 × 0.54	15	平坦	縦斜	人為		
20	B 2g2	N - 32° - W	椭円形	1.82 × 1.25	19	平坦	縦斜	人為	縄文土器片	
21	B 2g3	N - 33° - W	不整格円形	1.77 × 1.37	20	平坦	縦斜	人為	縄文土器片	
23	B 2g3	N - 22° - E	〔椭円形〕	1.20 × 0.67	15	平坦	縦斜	人為	縄文土器片	本跡→SK27
24	B 2e4	N - 71° - E	椭円形	0.53 × 0.47	13	平坦	縦斜	人為		
25	B 2e4	N - 2° - W	椭円形	0.54 × 0.47	9	平坦	縦斜	人為	縄文土器片	
26	B 2e4	N - 59° - E	椭円形	0.36 × 0.30	9	平坦	縦斜	人為		
27	B 2g3	N - 43° - W	椭円形	0.73 × 0.66	21	平坦	縦斜	人為	縄文土器片	SK23→本跡
28	B 2h4	N - 72° - W	椭円形	1.06 × 0.70	16	平坦	縦斜	人為	縄文土器片	
29	B 2e4	N - 72° - W	椭円形	1.13 × 1.00	20	平坦	縦斜	人為	縄文土器片	
30	B 2i3	-	円形	0.60 × 0.56	20	平坦	縦斜	人為	縄文土器片	
31	B 2h4	N - 24° - E	椭円形	1.14 × 0.75	11	平坦	縦斜	人為	縄文土器片	
32	B 2h5	N - 44° - E	椭円形	0.95 × 0.71	17	黒状	縦斜	人為	縄文土器片	
33	B 2e4	N - 70° - W	椭円形	1.39 × 0.76	15	平坦	縦斜	人為	縄文土器片	
34	B 2e4	N - 68° - W	椭円形	1.50 × 0.89	14	平坦	縦斜	人為		
35	B 2e1	N - 76° - E	〔椭円形〕	0.89 × 0.62	12	平坦	縦斜	人為	縄文土器片	本跡→SA 2 P 2
36	B 2f1	N - 25° - W	椭円形	0.73 × 0.61	18	平坦	縦斜	人為		
37	B 2e3	N - 10° - E	椭円形	1.13 × 0.76	19	平坦	縦斜	人為		
39	B 2f3	-	円形	0.76 × 0.70	25	黒状	縦斜	人為		
40	B 2e3	N - 51° - W	椭円形	1.22 × 0.75	17	平坦	縦斜	人為		
41	B 2f2	N - 8° - E	不整格円形	1.23 × 0.93	33	黒状	縦斜	人為		
42	B 1e0	-	円形	0.59 × 0.56	30	黒状	縦斜	人為		
43	B 1f0	N - 66° - W	不整格円形	1.16 × 1.01	20	黒状	縦斜	人為		
44	B 1e0	N - 40° - W	椭円形	1.02 × 0.76	13	平坦	縦斜	人為		
45	B 2h5	N - 77° - W	椭円形	1.11 × 0.97	19	平坦	外傾	人為	縄文土器片	
46	B 1g0	N - 23° - W	椭円形	0.74 × 0.53	21	平坦	縦斜	人為		
47	B 1g0	N - 6° - W	椭円形	0.70 × 0.45	10	平坦	縦斜	人為		
48	B 1g0	N - 34° - W	椭円形	0.38 × 0.33	13	平坦	縦斜	人為		
49	B 1c0	N - 41° - W	椭円形	1.48 × 1.33	36	平坦	縦斜	人為		
50	B 2i3	-	円形	0.58 × 0.53	14	平坦	外傾	自然	縄文土器片	
53	B 2j3	-	〔椭円形〕	2.20 × (1.18)	20	平坦	縦斜	自然	縄文土器片	
54	B 2i4	-	円形	1.28 × 1.26	9	平坦	縦斜	自然	縄文土器片	
55	B 2f4	N - 52° - W	椭円形	0.66 × 0.42	16	平坦	縦斜	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
56	B 2g4	N - 49° - W	椭円形	0.70 × 0.47	30	平坦	外傾	人為	縄文土器片	
59	B 2g1	N - 82° - E	椭円形	1.26 × 0.87	30	平坦	外傾	人為	縄文土器片	
61	B 2f1	N - 80° - E	椭円形	0.63 × 0.34	30	平坦	外傾	人為		
68	B 2g1	N - 85° - E	椭円形	0.84 × 0.62	30	平坦	傾斜	人為		

2 室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、土坑16基を確認した。以下、遺構の形状や遺物の出土状況が特徴的な2基について解説し、それ以外のものは実測図と土層解説、一覧表で記載した。

土坑

第64号土坑（第110図）

位置 調査区北部のB 2d2区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第60・63号土坑を掘り込み、第2号掘立柱建物P 10、第69号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.87m、短軸0.89mの隅丸長方形で、長軸方向はN - 89° - Eである。深さは43cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

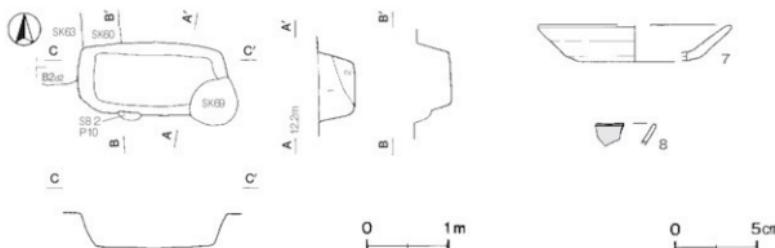
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片3点（皿1、内耳鍋2）、瓦質土器片1点（内耳鍋）、陶器片1点（皿）が覆土中から出土している。

所見 形状や覆土の状況から墓坑の可能性があり、時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。



第110図 第64号土坑・出土遺物実測図

第64号土坑出土遺物観察表（第110図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	施成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
7	土師質土器	皿	[11.8]	2.2	[7.0]	長石、有美、赤色粒子	棕	普通	ロクロ成形	覆土中	10% 16世紀前半

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	紋 付	釉 色	産 地	年 代	出土位置	備 考
8	陶器	皿	-	(1.4)	-	緻密	にごい黄	-	橙(結晶)	瀬戸	室町	覆土中	5%

第65号土坑（第111図）

位置 調査区北部のB 2c2区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.72m、短軸0.58mの隅丸長方形で、長軸方向はN-88°-Wである。深さは26cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

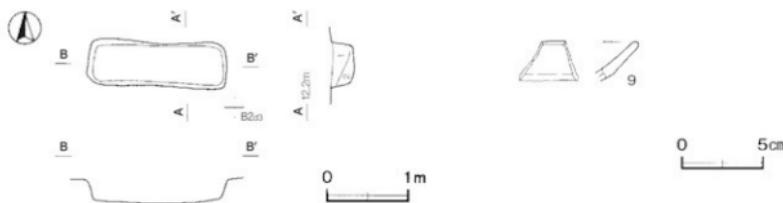
土層解説

1 噴褐色 ロームブロック中量、炭化粘土微量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片3点（皿）が覆土中から出土している。

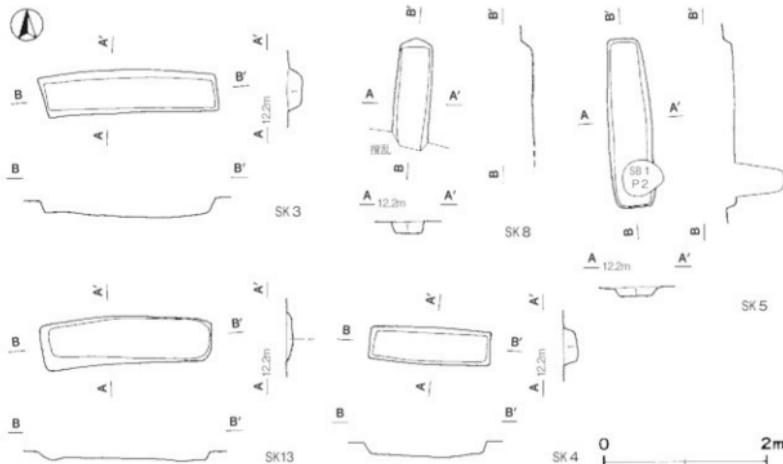
所見 形状や覆土の状況から墓坑の可能性があり、時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。



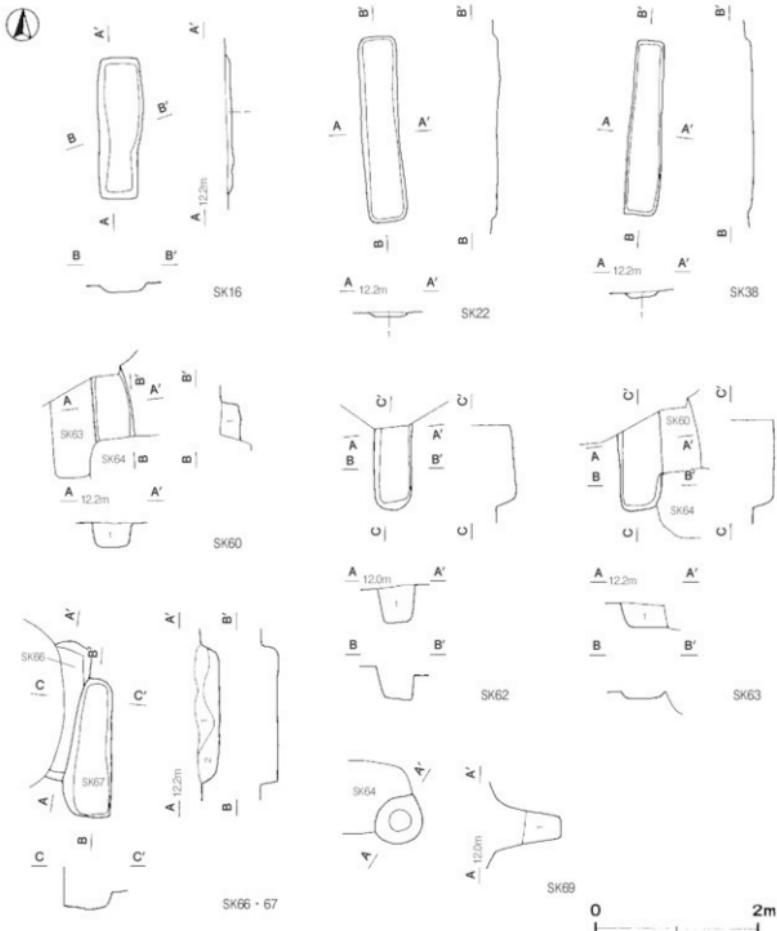
第111図 第65号土坑・出土遺物実測図

第65号土坑出土遺物観察表（第111図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
9	土師質土器	皿	-	(24)	-	長石・雲母・金剛石粒子	棕	普通	ロクロ成形	覆土中	5% 16世紀前半



第112図 室町時代土坑実測図（1）



第113図 室町時代土坑実測図（2）

第3号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第4号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第5号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第6号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第13号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第16号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第22号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第38号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第60号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

第62号土坑土層解説

1 喙褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第63号土坑土層解説

1 喙褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第66号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック少量

第69号土坑土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

表20 室町時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
3	B 2e3	N - 88° - E	長方形	2.36 × 0.54	20	平坦	外傾	人為		
4	B 2e2	N - 86° - W	長方形	1.50 × 0.47	20	平坦	外傾	人為		
5	B 2e3	N - 4° - W	長方形	2.06 × 0.52	14	平坦	外傾	人為		本跡→SB 1 P 2
8	B 2e4	N - 4° - E	【長方形】	(1.35) × 0.45	15	平坦	外傾	人為		
13	B 2d3	N - 81° - E	隅丸長方形	2.30 × 0.58	10	平坦	外傾	人為		
16	B 2f3	N - 0°	長方形	1.73 × 0.57	11	平坦	統計	人為		
22	B 2d3	N - 6° - W	隅丸長方形	2.27 × 0.48	6	平坦	統計	人為		
38	B 2f3	N - 6° - E	長方形	2.14 × 0.43	8	平坦	外傾	人為		
60	B 2e2	N - 8° - W	【長方形】	(0.28) × 0.49	28	平坦	外傾	人為		SK63→本跡 →SK64
62	B 2e2	N - 1° - E	隅丸長方形	(1.00) × 0.47	40	平坦	外傾	人為		
63	B 2e2	N - 3° - W	隅丸長方形	(1.22) × 0.53	26	平坦	外傾	人為		本跡→SK60・64
64	B 2d2	N - 89° - E	隅丸長方形	1.87 × 0.89	43	平坦	外傾	人為	土師質土器片、瓦質土器片、 馬蹄形	SK60・63→本跡 →SK69→SB 2 P10
65	B 2e2	N - 88° - W	隅丸長方形	1.72 × 0.58	26	平坦	外傾	人為	土師質土器片	
66	B 2e2	N - 8° - E	【隅丸長方形】	1.72 × (0.46)	21	平坦	統計	人為		本跡→SK67
67	B 2e2	N - 3° - E	隅丸長方形	1.70 × 0.62	21	平坦	外傾	人為		SK66→本跡
69	B 2d2	N - 28° - E	椭円形	0.65 × 0.57	80	平坦	外傾	人為		SK64→本跡

3 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、掘立柱建物跡2棟を確認した。以下、遺構・遺物について記述する。

掘立柱建物跡

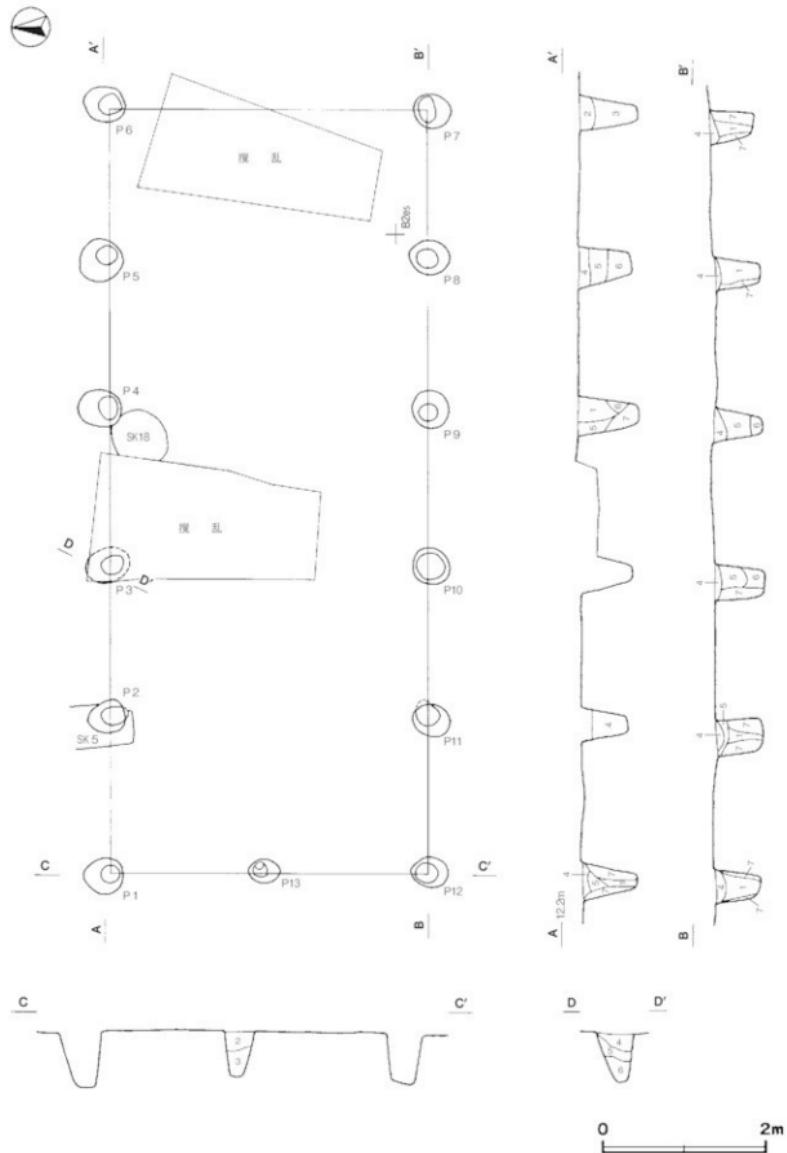
第1号掘立柱建物跡（第114・115図）

位置 調査区北東部のB 2d3区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第5・18号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造 衍行5間、梁行2間の側柱建物跡で、衍行方向がN - 90° - Wの東西棟である。規模は衍行9.44m、梁行3.92mで、面積は37.00m²である。柱間寸法は衍行が1.90m(6.5尺)、梁行が1.95m(6.5尺)を基調とし、均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 13か所。東の支柱は、搅乱のため、確認できなかったか、あるいは、遺構が調査区域外の東側へ延びる可能性もあるが不明である。平面形は円形または楕円形で、長径42～48cm、短径28～38cm、深さは56～75cmである。土層は、第1～6層が柱抜き取り後の覆土で、第7層は掘方への埋土である。



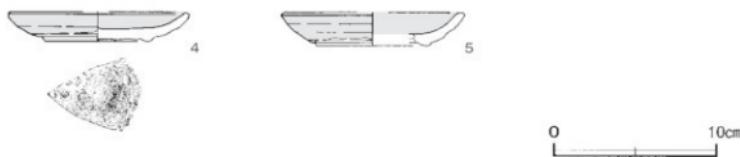
第 114 図 第 1 号掘立柱建物跡実測図

土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色 ロームブロック中量	5 黒褐色 ロームブロック少量（粘性・締まり普通）
2 黒褐色 ロームブロック少量（粘性普通、締まり弱）	6 暗褐色 ロームブロック少量（粘性・締まり弱）
3 暗褐色 ロームブロック少量（粘性・締まり普通）	7 暗褐色 ロームブロック中量
4 暗褐色 ロームブロック少量（粘性弱、締まり普通）	

遺物出土状況 陶器片2点（皿）のほか、自然縫1点が出土している。4はP4、5はP5の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 性格は形状から倉庫等の建物と想定される。時期は、出土陶器から17世紀前半と考えられる。



第115図 第1号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第115図）

番号	種別	器種	口径	部高	底径	胎土	色調	繪付	釉色	產地	年代	出土位置	備考
4	陶器	皿	[109]	18	[66]	長石	灰黃	-	灰白	志野	17世紀前半	P4 覆土中	20% 大慶V期 [P.36]
5	陶器	皿	[107]	21	[70]	長石・石英	灰黃	-	灰オリーブ	志野	17世紀前半	P5 覆土中	5% 大慶V期 [P.36]

第2号掘立柱建物跡（第116図）

位置 調査区北西部のB2d1区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第64号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造 衍行3間、梁行2間の側柱建物跡で、衍行方向がN-2°-Wの南北棟である。規模は衍行5.94m、梁行3.20mで、面積は19.01m²である。柱間寸法は衍行が190~200m(6.5尺)、梁行が120m(4尺)を基準とし、均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は円形または梢円形で、長径22~40cm、短径22~38cm、深さは35~59cmである。

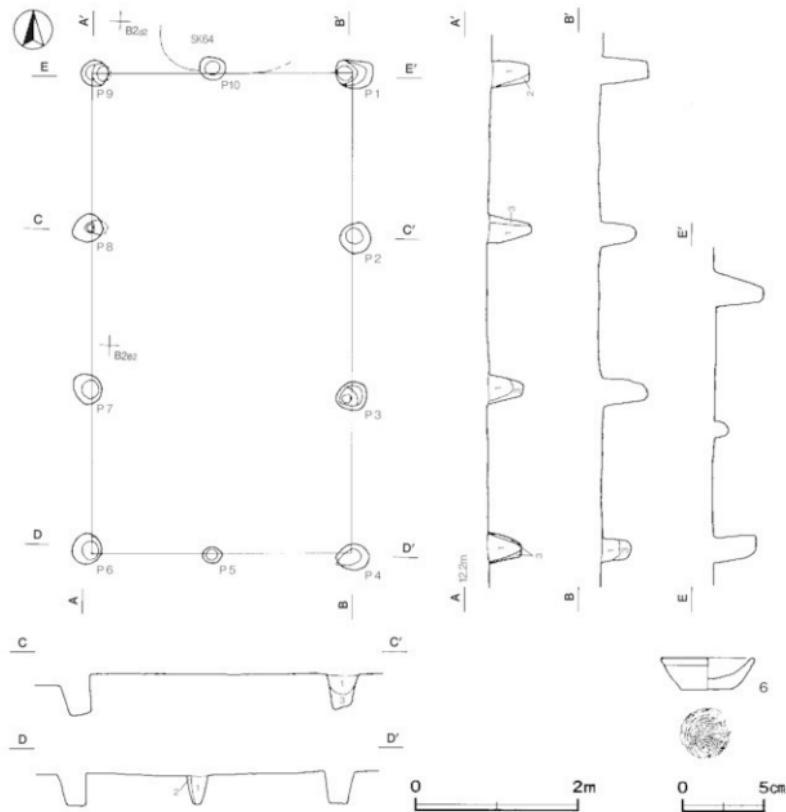
第1層が柱抜き取り後の覆土で、第2・3層は掘方への埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色 ロームブロック中量	3 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック少量	

遺物出土状況 士師質土器片1点（皿）が出土している。6はP3の覆土中から出土している。

所見 性格は、形状から倉庫または納屋と想定される。時期は、重複関係、出土土器から17世紀前半と考えられる。



第116図 第2号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第116図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
6	土師質土器	皿	5.6	2.0	3.2	長石・石英	棕	普通	口クロ成形 底部回転糸切り	P 3 覆土中	80% 17世紀前半 [11.36]

表21 江戸時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	軸行方向	柱間寸法		柱穴			半な出土遺物	時期	備考				
			柱間数	規模	面積	柱間(m)	梁間(m)	構造	柱数	平面形	深さ(cm)			
1	B 2 d3	N - 90° - W	5 × 2	9.44 × 3.92	37.00	1.90	1.96 ~ 2.00	側柱	13	円形、 楕円形	56 ~ 75	陶器片、自然礫	17世紀前半	SK 5 ~ 18 → 本跡
2	B 2 d1	N - 2° - W	3 × 2	5.94 × 3.20	19.01	1.90 ~ 2.00	1.30	側柱	10	円形、 楕円形	35 ~ 59	土師質土器片	17世紀前半	SK 64 → 本跡

4 その他の遺構と遺物

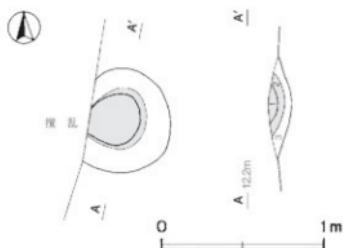
今回の調査で、時期不明の炉跡 1 基、柱穴列 2 条、ピット群 1 か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 炉跡

第 1 号炉跡（第 117 図）

位置 調査区北東部の B 2 d4 区、標高 12 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 西部が搅乱を受けているため南北軸は 61 cm で、東西軸は 56 cm しか確認できなかった。平面形は円形と推定でき、地床炉である。炉床は、床面を 15 cm ほど皿状に掘り込み、ロームブロックを含んだ第 3 層を埋土して構築されている。火床面は第 1 層上面で火熱を受け赤変硬化している。



第 117 図 第 1 号炉跡実測図

覆土 3 層に分層できる。第 1 層上面が火床面で、第 3 層は掘方への埋土である。

土層解説

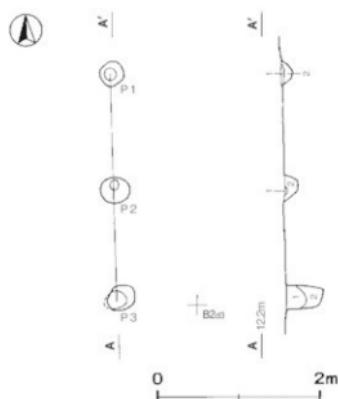
- 1 赤褐色 沈土主体、灰少量
- 2 暗赤褐色 地土粒子中量、ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、黒色土ブロック微量

所見 第 1 号掘立柱建物跡内のはば中央部に位置しており、付設する炉跡の可能性も考えられるが、遺物の出土がなく、根拠に乏しいため、別遺構とした。時期は、出土遺物がないため不明である。

(2) 柱穴列

第 1 号柱穴列（第 118 図）

位置 調査区北部の B 2 c2 区、標高 12 m ほどの台地平坦部に位置している。



規模と形状 B 2 c2 区から南方向 (N - 2° - W) へ直線的に並ぶピット 3 か所を確認した。P 1 から P 3 までの長さは 2.80 m で、柱間寸法は 1.40 m (4.5 尺) である。柱筋は通っている。

柱穴 平面形は円形または梢円形で、深さは 18 ~ 48 cm である。各ピット共に第 1 層は柱抜き取り後の覆土で、第 2 層は掘方への埋土である。

P 1・P 2 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

P 3 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黑褐色 ロームブロック微量

所見 柱穴の規模や形状から、樋跡と考えられる。時期は、出土遺物がないため不明である。

第 118 図 第 1 号柱穴列実測図

第2号柱穴列（第119図）

位置 調査区北部のB 2 d1～B 2 e1区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第35号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 B 2 d1区から南方向（N - 0°）へ直線的に並ぶピット3か所を確認した。P 1からP 3までの長さは3.92mで、柱間寸法は1.91m(6.5尺)～2.01m(7尺)である。柱筋は通っている。

柱穴 平面形は円形または楕円形で、深さは38～42cmである。各ピット共に、第1層は柱抜き取り後の覆土で、第2層は掘方への埋土である。

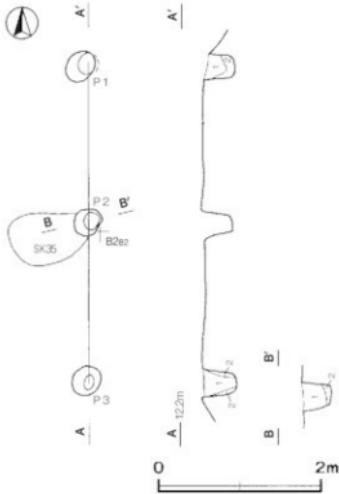
P 1 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
2 黄褐色 ロームブロック中量

P 2・P 3 土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック中量
2 黄褐色 ロームブロック少量

所見 柱穴の規模や形状から、構跡と考えられる。時期は、出土遺物がないため不明である。



第119図 第2号柱穴列実測図

表22 その他の柱穴列一覧表

番号	位 置	方 向	長さ(m)	柱間(m)	柱 穴				備 考
					柱穴数	平面形	長径(cm)	短径(cm)	
1	B 2 d2	N - 2° - W	280	1.40	3	円形・楕円形	28～33	31～35	18～48
2	B 2 d1～B 2 e1	N - 0°	392	1.91～2.01	3	円形・楕円形	36～41	31～36	38～42 SK35 → 本跡

(3) ピット群

今回の調査では、径18～58cmの円形または楕円形で、建物跡と想定できなかった柱穴状のまとまり1か所を確認した。以下、遺構について記述する。平面図は全体図に示す。

第1号ピット群（第86図）

位置 調査区中央部のB 1 d0～B 2 d4区、標高12mほどの東西23.5m、南北26.0mの範囲から、柱穴状のピット50か所を確認した。

重複関係 P 41は第41号土坑を、P 49は第20号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径18～58cm、短径18～52cmの円形または楕円形で、深さは12～32cmである。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

覆土 単一層で、埋め戻されている。

土層解説（各柱穴共通）

- 1 黄褐色 ロームブロック中量

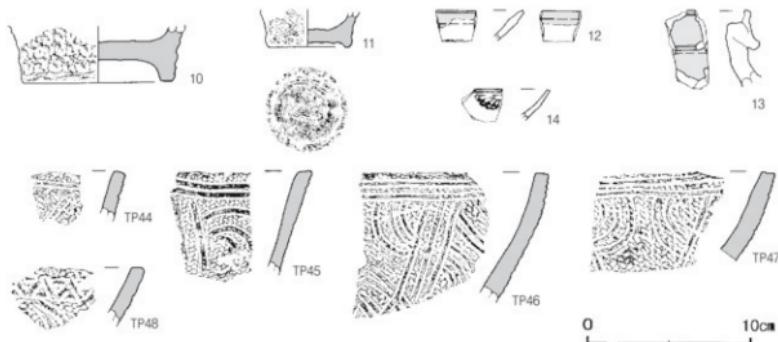
所見 ピットの分布状況から建物跡は想定できない。時期、性格共に不明である。

表23 第1号ピット群ピット一覧表

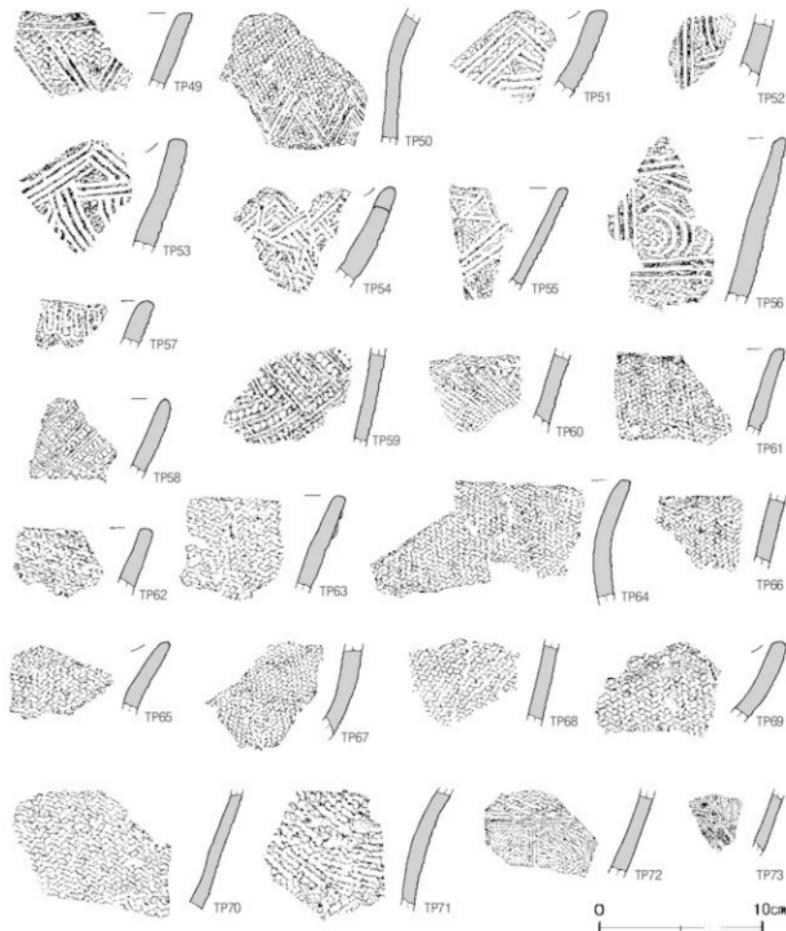
番号	位置	形状	規 模 (cm)			番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	B 1 d0	楕円形	40	34	20	26	B 2 g5	楕円形	46	40	15
2	B 1 e9	楕円形	58	52	26	27	B 2 h4	円形	44	42	28
3	B 2 d1	楕円形	34	28	23	28	B 2 h4	円形	44	41	21
4	B 1 e0	円形	44	43	19	29	B 2 g1	円形	46	42	21
5	B 1 e0	円形	18	18	21	30	B 2 f3	楕円形	34	30	18
6	B 1 f0	円形	48	44	23	31	B 2 f2	円形	24	22	16
7	B 1 f9	円形	30	28	13	32	B 2 i3	楕円形	28	24	23
8	B 1 f0	円形	42	40	15	33	B 2 h4	円形	28	26	18
9	B 2 g1	円形	38	38	20	34	B 2 i4	楕円形	52	44	20
10	B 2 f2	円形	34	32	12	35	B 2 g1	楕円形	40	36	17
11	B 1 g0	円形	36	36	13	36	B 2 e2	円形	22	20	17
12	B 2 f1	円形	32	30	22	37	B 2 e2	楕円形	36	32	17
13	B 1 g0	円形	38	38	23	38	B 2 e2	円形	42	42	24
14	B 2 g1	楕円形	34	30	24	39	B 2 d3	円形	22	22	15
15	B 2 g1	楕円形	40	34	17	40	B 2 d2	円形	30	30	23
16	B 2 h2	円形	22	20	28	41	B 2 f2	楕円形	38	28	22
17	B 2 h2	円形	22	22	19	42	B 2 e2	楕円形	34	30	16
18	B 2 g2	円形	30	30	16	43	B 2 e2	楕円形	24	20	32
19	B 2 f2	円形	48	44	15	44	B 2 d2	円形	30	28	18
20	B 2 f2	円形	40	38	17	45	B 2 d2	楕円形	44	38	16
21	B 2 g2	円形	42	40	26	46	B 2 e3	楕円形	30	26	15
22	B 2 f3	円形	48	48	26	47	B 2 d3	楕円形	42	38	17
23	B 2 f4	楕円形	44	36	26	48	B 2 e3	楕円形	34	30	14
24	B 2 g5	楕円形	44	40	20	49	B 2 g2	楕円形	36	28	15
25	B 2 h4	円形	48	44	26	50	B 2 g2	楕円形	28	24	17

(4) 遺構外出土遺物（第120・121図）

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表を掲載する。



第120図 遺構外出土遺物実測図（1）



第121図 遺構外出土遺物実測図（2）

遺構外出土遺物観察表（第120・121図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴は	出土位置	備考
10	圓文土器	深鉢	-	(3.5)	9.1	長石・石英、赤色粒子・鐵斑	にぶい褐色	普通	底部丸組紐繩文（0段4条）	表土	10% 開山Ⅱ式
11	圓文土器	深鉢	-	(2.3)	4.9	長石・石英、鐵斑	褐色	普通	底部平組紐繩文（0段3条）	表土	5% 開山Ⅱ式

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	絞付	釉色	産地	年代	出土位置	備考
12	陶器	皿	-	(19)	-	緻密	明黄褐	-	灰オリーブ	瀬戸	16世紀代	表土	5% PL36
13	陶器	甕	-	(49)	-	長石	に赤い黄褐	-	灰オリーブ	常滑	15世紀前半	表土	5% PL36
14	染付器皿	碗	-	(26)	-	緻密	灰白	半菊唐草文	灰白	肥前	17世紀後半	表土	5% PL36

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴は?					出土位置	備考
TP44	陶文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	赤褐色	口縁部平組繩文→手裁竹管による平行沈綻文				PG 1	関山Ⅱ式 PL35	
TP45	陶文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	橙	口縁部平組繩文→手裁竹管によるコンバス文→平行沈綻文				表土	関山Ⅱ式 PL35	
TP46	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	口縁部平組繩文→手裁竹管によるコンバス文→平行沈綻文				表土	関山Ⅱ式 PL35	
TP47	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	口野花文・繊維 → 口縁部平組繩文→手裁竹管によるコンバス文→平行沈綻文				表土	関山Ⅱ式 PL35	
TP48	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	に赤い橙	口縁部平組繩文→手裁竹管によるコンバス文→山形の平行沈綻文				PG 1	関山Ⅱ式 PL35	
TP49	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	口縁部平組繩文→手裁竹管による横筋の平行沈綻文→斜筋の平行沈綻文				表土	関山Ⅱ式 PL35	
TP50	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	明褐色	側部平組繩文→手裁竹管による山形の平行沈綻文				表土	関山Ⅱ式 PL35	
TP51	陶文土器	深鉢	長石・繊維	明赤褐色	波状口縁 口縁部平組繩文→手裁竹管による平行沈綻文				表土	関山Ⅱ式 PL35	
TP52	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	に赤い赤褐色	側部平組繩文→手裁竹管による平行沈綻文				PG 1	関山Ⅱ式	
TP53	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	橙	波状口縁 口縁部平組繩文→手裁竹管による平行沈綻文				表土	関山Ⅱ式 PL35	
TP54	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	橙	波状口縁 口縁部平組繩文→手裁竹管による平行沈綻文				表土	関山Ⅱ式 PL35	
TP55	陶文土器	深鉢	長石・繊維	明赤褐色	口縁部平組繩文→手裁竹管による平行沈綻文				表土	関山Ⅱ式 PL35	
TP56	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	橙	口縁部平組繩文→手裁竹管によるコンバス文→平行沈綻文				表土	関山Ⅱ式 PL35	
TP57	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐色	口縁部平組繩文→手裁竹管によるコンバス文				表土	関山Ⅱ式 PL35	
TP58	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐色	口縁部附加条1種繩文				表土	関山Ⅱ式 PL35	
TP59	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐色	側部正合2種LR繩文+附加条2種LR繩文で羽状構成				表土	黒田式 PL35	
TP60	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐色	側部直段合捺繩文				表土	関山Ⅱ式 PL35	
TP61	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	口縁部平組繩文				表土	関山Ⅱ式 PL35	
TP62	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	に赤い黄褐色	口縁部平組繩文				PG 1	関山Ⅱ式	
TP63	陶文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	に赤い赤褐色	口縁部平組繩文→瘤狀附付文				表土	関山Ⅱ式 PL35	
TP64	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	口縁部平組繩文				表土	関山Ⅱ式 PL35	
TP65	陶文土器	深鉢	長石・繊維	明赤褐色	波状口縁 口縁部平組繩文				表土	関山Ⅱ式 PL35	
TP66	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐色	側部平組繩文				PG 1	関山Ⅱ式	
TP67	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	側部平組繩文				PG 1	関山Ⅱ式 PL36	
TP68	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐色	側部平組繩文				表土	関山Ⅱ式	
TP69	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	に赤い橙	波状口縁(波頭部欠損) 口縁部平組繩文				表土	関山Ⅱ式 PL36	
TP70	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	側部平組繩文				表土	関山Ⅱ式 PL36	
TP71	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	側部平組繩文				表土	関山Ⅱ式 PL36	
TP72	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	明褐色	側部平組繩文→手裁竹管による平行沈綻文				表土	関山Ⅱ式 PL36	
TP73	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	橙	側部鶯雀状沈綻文				表土	黒田式 PL36	

第4節 ま　　と　　め

1 はじめに

今回の調査で、堅穴建物跡1棟、掘立柱建物跡2棟、土坑65基、炉跡1基、柱穴列2条、ピット群1か所を確認した。それらの遺構は出土遺物から縄文時代、室町時代、江戸時代に位置づけられ、断続的な土地利用の状況が明らかとなった。ここでは、時代順に特徴ある遺物と遺構について概観し、各時代についての若干の考察を加え、まとめとしたい。

2 縄文時代

当時代の遺構は堅穴建物跡1棟、土坑49基を確認した。出土土器から前期前半の一時期にまとまる。第3章 宿北遺跡 第4節まとめ述べたように、当時代の海岸線は内陸部まで入り込み、当時の五霞町域は奥東京湾と古鬼怒溝に挟まれ、半島状に残った陸地部分に遺跡が点在している。奥東京湾の水域が形成されたのは、前期前半に相当するため、同時期に集落が営まれたことが明確となった。今回確認できた堅穴建物跡と土坑の出土土器は、胎土に纖維を含み、瘤状貼付文、0段多条縄文、組紐縄文、半截竹管によるコンパス文、平行沈線文を施す特徴を持つ関山式期の深鉢である。文様の特徴を細かくみていくと、瘤状貼付文と0段多条縄文の特徴をもつ関山I式、瘤状貼付文がほとんど消失し、口縁部に片口が付くもの、地文に組紐縄文が主体的で、半截竹管によるコンパス文が波状化して櫛歯状工具で描く特徴をもつ関山II式に細分できる。

遺構別では、堅穴建物跡は出土土器から関山II式期と考えられる。形状は、関山式期に多くみられる長軸に沿って6か所の主柱穴をもつ建物である¹⁾。調査区域の南端部で確認されている。土坑は土器が出土しているものは、第20・21・23・25・27・28・29・30・31・32・45・50・53・54・56・59号土坑の16基である。出土土器の特徴から、第29号土坑は関山I式で、その他は、第27号土坑が不明の他は、関山II式期である。分布状況をみていくと、関山I式期の土坑は調査区域の北東部に位置し、関山II式期の土坑群は、調査区域の南部に集中している。調査区域が狭小なため、不明な点が多いが、同時期の第1号堅穴建物跡を囲んでいるように見える。

3 室町時代

当時代の遺構は土坑16基を確認した。規模は長軸1.80m前後、短軸0.70m前後の隅丸長方形である。調査区域内の北東部を中心に集中している。土坑内からは土師質土器（皿、内耳鍋）、瓦質土器（内耳鍋）、瀬戸産の陶器（皿）が出土している。出土土器、陶器の特徴から16世紀前半と考えられる。出土遺物のない土坑も、形状や規模が同様なことから、同時期前後のものと考えられる。長軸方向は、東西軸方向のものと、南北軸方向のものとに分かれる。遺構の重複関係からみると、東西軸の第64号土坑が南北軸の第60号土坑を掘り込んでいるため、東西軸のものが時期的に新しいと考えられる。遺物が出土したものは、第64号土坑と第65号土坑の東西軸のもので、時期は16世紀前半であるため、南北軸のものはそれよりも古い時期と考えられる。

性格は形状や配置状況から墓坑と考えられる。先述の宿北遺跡では、墓坑の形状が長方形、隅丸長方形、方形、円形、橢円形の5形状であることと、長軸方向が様々であったが、当遺跡では、形状が同じで、長軸

方向は、2通りのみであることから、宿北遺跡より短期間の墓域であったと考えられる。

4 江戸時代

当時代の遺構は掘立柱建物跡2棟を確認した。出土遺物は、第1号掘立柱建物跡の柱穴内から志野焼の皿が、第2号掘立柱建物跡の柱穴内からは土師質土器の皿が出土している。時期は、出土土器、陶器の特徴から17世紀前半で、同時期に存在したものと考えられる。

第1号掘立柱建物跡には建物の内側に炉が所在している。配置状況から伴う可能性もあるが、遺物の出土がなく、根拠に乏しいことから、別遺構と考えた。建物の性格は、当時代の、主屋の建物は、礎石建物になることや、台所や鍛冶の作業建物は掘立柱建物の例が多い²⁾ことから、作業場的な建物や倉庫等の建物であることが考えられる。また、地方の農村では、母屋も掘立柱建物が残るが、第1号掘立柱建物跡の形状から想定しても作業場的な建物と考えられる。

第2号掘立柱建物跡は第1号掘立柱建物跡に比べ規模が小さく、L字形の位置関係から、納屋や倉庫等の付属の建物と考えられる。

5 おわりに

今回の調査では、調査区域が狭小なため、不明な点が多いが、縄文時代では前期前半の集落、室町時代では後期の墓域、江戸時代では屋敷の、それぞれ一部分が明らかとなった。今後の調査によって、当遺跡の性格や隣接する宿北遺跡との関係がより明確になることを期待したい。

註

- 1) a 笠森健一 成瀬正和 川名広文 「鶯森遺跡の調査－縄文時代前期の集落調査－」『郷土史料』 第33集 埼玉県上福岡市教育委員会 1987年2月
b 早坂廣夫 荒井幹夫 「水子貝塚」 埼玉県富士見市教育委員会 1995年3月
c 小川貴行 田村雅樹 佐藤一也 「然山西遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』 第379集 2013年3月
- 2) 浅川滋男 稲崎知久編 「埋もれた中近世のすまい」『奈良国立文化財研究所シンポジウム報告』 同成社 2001年5月

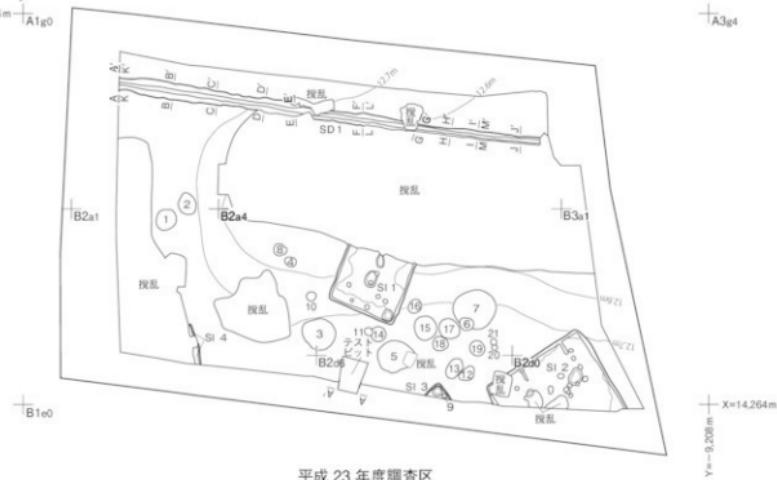


第122図 寺山遺跡調査区設定図（猿島郡五霞町都市計画図2,500分の1から作成）



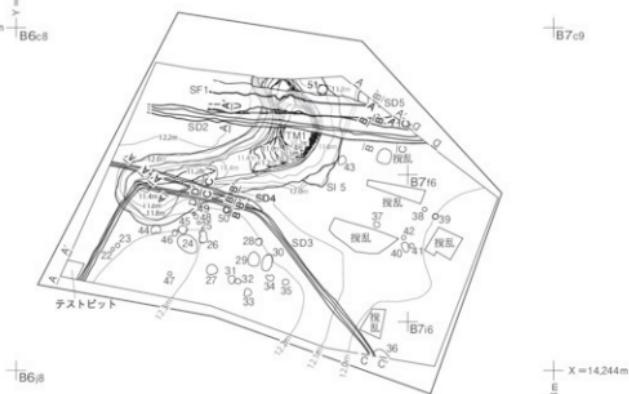
X=14,296m
Y=-9,204m
A1g0

+ A3g4



X = 14,272m
Y = -9,072m
B6c8

+ B7c9



+ X = 14,244m
Y = -9,052m

0 20m

第 123 図 寺山遺跡遺構全体図

第5章 寺 山 遺 跡

第1節 調査の概要

寺山遺跡は、猿島郡五霞町の北西部に位置し、利根川右岸の標高約12～13mの低台地上に立地している。遺跡の範囲は南北350m、東西300mほどであり、調査区域は平成23年度が遺跡の北西部、平成24年度が遺跡の北東部にある。調査面積は平成23年度が1,397m²、平成24年度が730m²である。なお、本文中では、平成23年度調査区を調査区西部、平成24年度調査区を調査区東部と呼称する。

調査の結果、堅穴建物跡5棟（古墳時代）、古墳1基（古墳時代）、土坑51基（縄文時代49、時期不明2）、道路跡1条（江戸時代）、溝跡5条（古墳時代1、江戸時代3、時期不明1）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に11箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、土師器（壺・椀・高壺・壺・小形壺・甕・小形甕・甕・手捏土器）、須恵器（壺・高壺・甕・長頸壺）、土師質土器（結焰・鉢・竈鶴・焜炉）、瓦質土器（火鉢）、陶器（皿・天目茶碗）、磁器（碗）、土製品（埴輪片）、石器（鎌・搔器・削器・磨製石斧・敲石・砥石）、石製模造品（勾玉・有孔円板）、鉄器（直刀）などである。

第2節 基本層序

調査区は平坦な標高13mほどの台地上に立地している。平成23年度は調査区南部のB2d6区に、平成24年度は調査区南部のB6h9区にそれぞれテストピットを設定し、深さ2mまで掘り下げて基本土層の観察を行った。

平成23年度調査区

第1層は、表土層で宅地の盛土整地層である。層厚は35～55cmである。

第2層は、黒褐色を呈する耕作土層である。ロームブロックを少量、炭化粒子を微量に含み、粘性・締まりとともに弱く、層厚は26～40cmである。

第3層は、暗褐色を呈する旧耕作土層である。ロームブロックを多量に含み、粘性が弱く、締まりは普通で、層厚は13～36cmである。

第4層は、黄褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりとともに強く、層厚は17～38cmである。

第5層は、黒褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとともに強く、層厚は58～66cmである。第II黒色帯と考えられる。

第6層は、黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとともに極めて強い。層厚は1.2mまで確認したが、下層は未掘のため不明である。

なお、遺構は、第4層の上面で確認した。

平成24年度調査区

第1層は、表土層で耕作土である。粘性は普通で締まりが弱く、層厚は8～15cmである。

第2層は、暗褐色を呈する旧耕作土層である。ロームブロックを少量含み、粘性は普通で締まりが弱く、層

厚は6～14cmである。

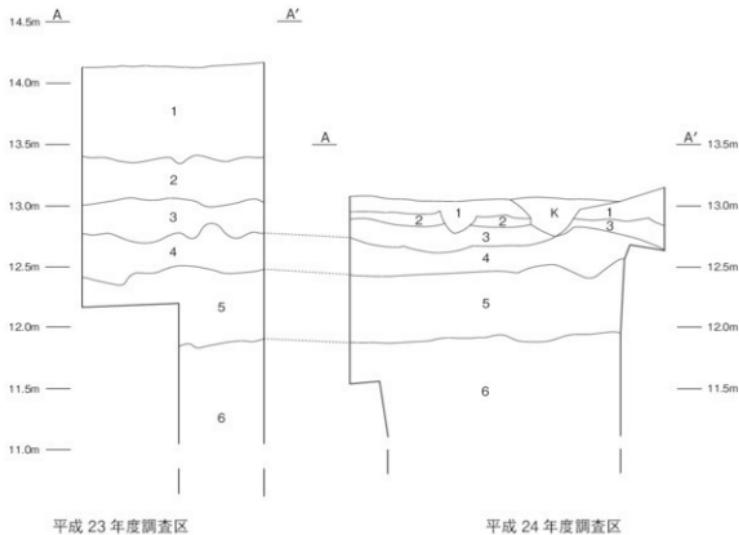
第3層は、暗褐色を呈するローム層への漸移層である。粘性・締まりとともに普通で、層厚は15～25cmである。

第4層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとともに普通で、層厚は18～42cmである。

第5層は、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で締まりは強く、層厚は44～56cmである。
第II黒色帯と考えられる。

第6層は、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強い。層厚は95cmまで確認したが、下層は未掘のため不明である。

なお、遺構は第4層の上面で確認した。



第124図 寺山遺跡基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 繩文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、土坑49基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

土坑

今回の調査で、出土遺物や形状、覆土の堆積状況から、繩文時代とみられる土坑49基を確認した。以下、遺構の形状や遺物の出土状況が特徴的な9基について解説し、それ以外は実測図と土層解説、一覧表で記載した。

第1号土坑（第125図）

位置 調査区西部のB2a2区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.64mほどの円形で、深さは20cmである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

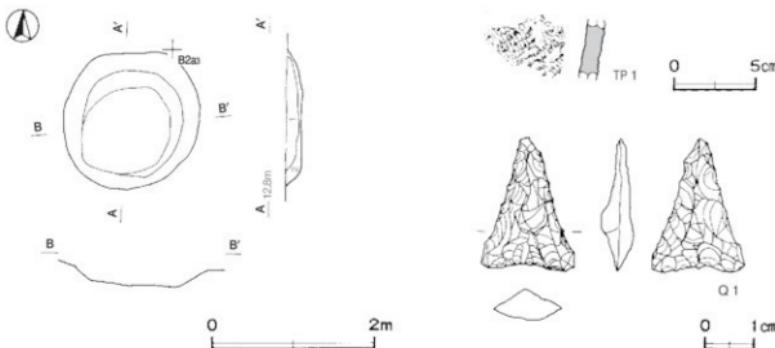
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量 2 明褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 繩文土器片9点（深鉢）、石器1点（鐵）が出土している。TP1・Q1は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半（黒浜式期）と考えられる。



第125図 第1号土坑・出土遺物実測図

第1号土坑出土遺物観察表（第125図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴	はか	出土位置	備考
TP 1	繩文土器	深鉢	長石・雲母・磁鐵	にぶい黄橙	胴部單面LX繩文		覆土中 黒浜式 PL47	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	鐵	27	19	0.7	1.9	チャート	円錐無茎鐵 背面押圧削離	覆土中 PL48	

第3号土坑（第126図）

位置 調査区西部のB 2c6区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径2.80mほどの円形で、深さは30cmである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

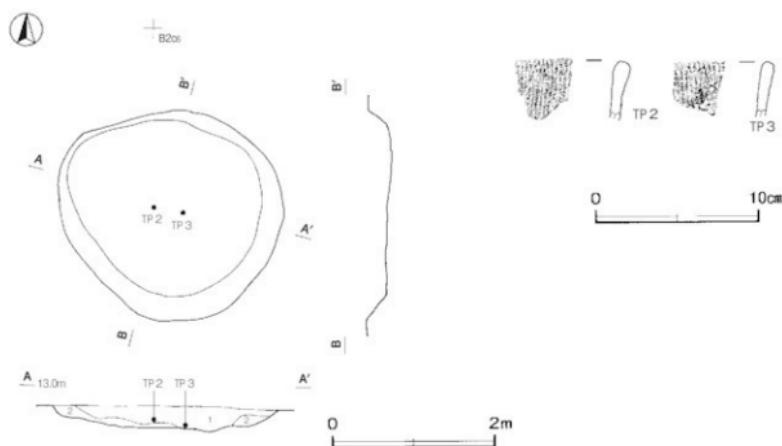
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量 2 明褐色 ロームブロック多量、暗褐色ブロック少量

遺物出土状況 繩文土器片28点（深鉢）、剥片16点（チャート）、自然縄7点が出土している。TP 2・TP 3は、第1層の下部から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期前半（夏島式期）と考えられる。



第126図 第3号土坑・出土遺物実測図

第3号土坑出土遺物観察表（第126図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP 2	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	口縁部撲糸文	第1層下部	夏島式 PL47
TP 3	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	口縁部撲糸文	第1層下部	夏島式 PL47

第4号土坑（第127図）

位置 調査区西部のB 2b5区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.01m、短径0.75mの楕円形で、長径方向はN-67°-Wである。深さは20cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。混入物が少なく周囲からの流入を示す堆積状況から自然堆積である。

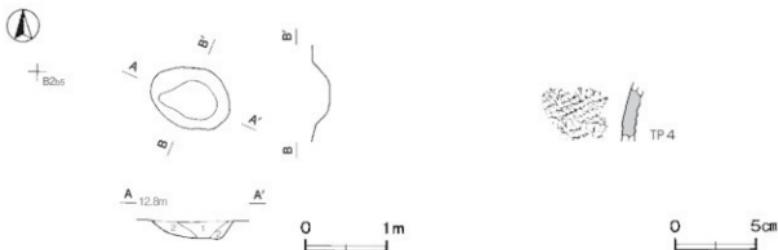
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 2 明褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片19点（深鉢）、自然縄1点が出土している。TP 4は覆土中から出土している。そ

の他の縄文土器片は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から前期前半（関山式期）と考えられる。



第127図 第4号土坑・出土遺物実測図

第4号土坑出土遺物観察表（第127図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴	出土位置	備考
TP 4	縄文土器	深鉢	長石・石英・磁鐵	にぶい橙	側部結束縄文	覆土中	関山式 Pn.47

第5号土坑（第128図）

位置 調査区西部のB 2 d7 区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東部が搅乱されているため、南北軸は2.61mで、東西軸は3.12mしか確認できなかった。梢円形であると推定できる。深さは19cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。混入物が少なく周囲からの流入を示す堆積状況から自然堆積である。

土層解説

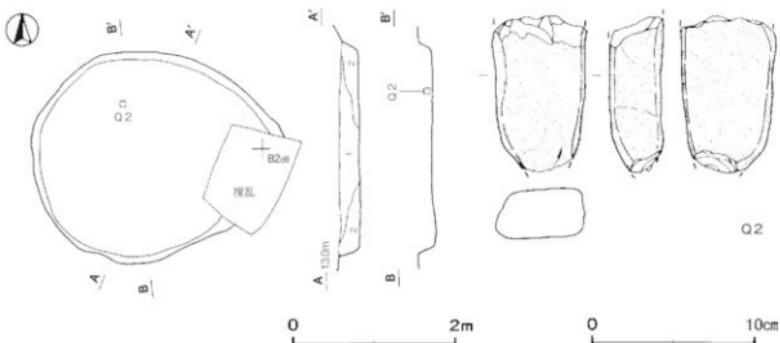
1 層：褐色 ローム粒子微量

2 層：暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片4点（深鉢）、石器1点（敲石）、洞片5点（頁岩）、自然疊3点が出土している。

縄文土器片は細片のため、図示できなかった。Q 2は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器、石器から縄文時代と考えられる。



第128図 第5号土坑・出土遺物実測図

第5号土坑出土遺物観察表（第128図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 2	鐵石	(96)	58	(3.4)	(297.5)	安山岩	先端部打撃痕 脊線部一面に磨り痕 鐵石兼用	覆土下層	PL48

第10号土坑（第129図）

位置 調査区西部のB 2b5区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.80m、短径0.71mの楕円形で、長径方向はN-52°-Eである。深さは25cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 3か所。中央部と壁際に位置し、深さは、P 1が14cm、P 2が42cm、P 3が22cmである。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

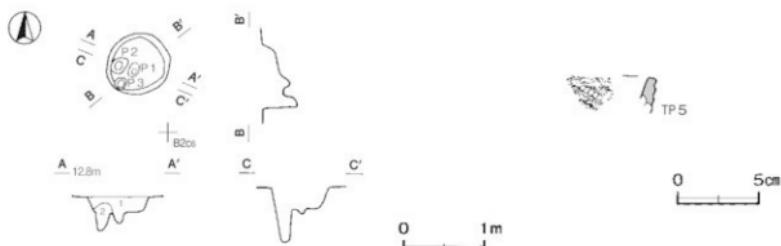
土層解説

1 級 極色 雲母片少量、ロームブロック・炭化粒子微量

2 級 極色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片1点（深鉢）、剥片8点（チャート）が出土している。TP 5は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期初頭（花積下層式期）と考えられる。



第129図 第10号土坑・出土遺物実測図

第10号土坑出土遺物観察表（第129図）

番号	種別	器種	始土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 5	繩文土器	深鉢	長石・石英・構造	明赤褐色	口唇部無文以下單縫 RL 繩文	覆土中	花積下層式 PL47

第11号土坑（第130図）

位置 調査区西部のB 2c7区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第14号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径0.70mほどの円形で、深さは26cmである。底面は平坦で、壁は直立している。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

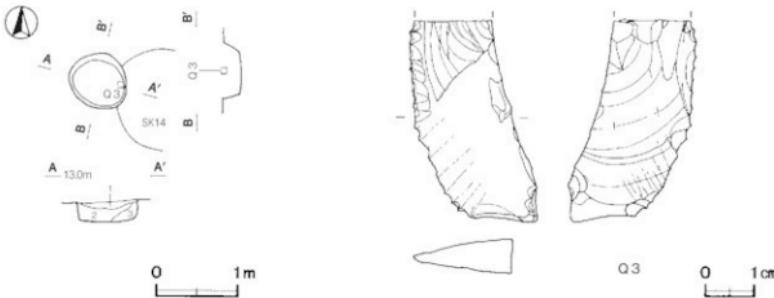
1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量

3 明褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 石器1点（削器）が出土している。Q 3は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土石器から繩文時代と考えられる。



第130図 第11号土坑・出土遺物実測図

第11号土坑出土遺物観察表（第130図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	削器	(4.1)	2.6	0.8	(7.8)	黒色頁岩	上部欠損 両部片面調整	覆土上層	PL.48

第12号土坑（第131図）

位置 調査区西部のB 2 d9 区、標高 13 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 14.4 m、短径 1.05 m の楕円形で、長径方向は N - 42° - E である。深さは 14 cm で、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっていている。

覆土 2 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

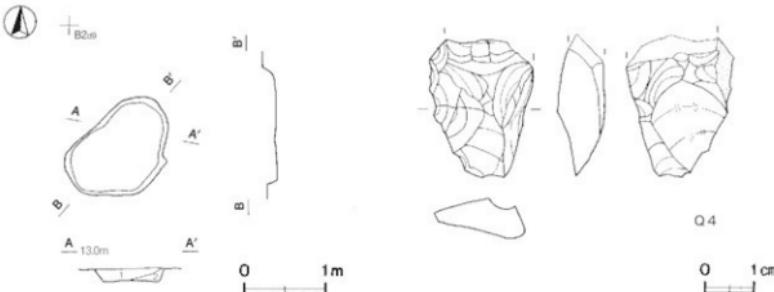
土層解説

1 層 色 ローム粒子中量

2 層 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 繩文土器片 1 点（深鉢）、石器 1 点（搔器）、自然礫 1 点が出土している。Q4 は覆土中から出土している。なお、縄文土器片は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土遺物から前期と考えられる。



第131図 第12号土坑・出土遺物実測図

第12号土坑出土遺物観察表（第131図）

番号	形 様	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 4	環状	(29)	21	10	(48)	チャート	上部欠損 刃部片面調整	覆土中	PL48

第19号土坑（第132図）

位置 調査区西部のB 2c9区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径130m、短径118mの椭円形で、長径方向はN-35°-Wである。深さは23cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

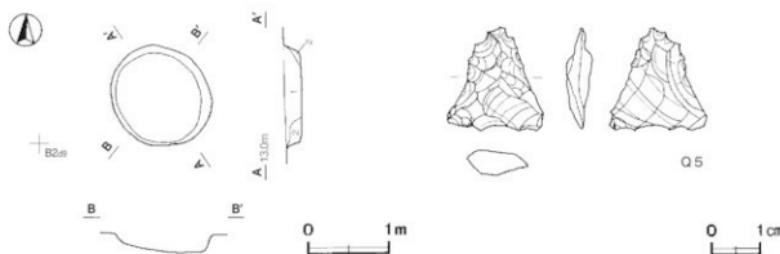
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 石器1点（鐵）、自然礫3点が出土している。Q 5は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土石器から早期と考えられる。



第132図 第19号土坑・出土遺物実測図

第19号土坑出土遺物観察表（第132図）

番号	形 様	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 5	鐵	21	20	15	15	黒色頁岩	平基無茎鐵 両面押注鋸歯	覆土中	PL48

第51号土坑（第133図）

位置 調査区東部のB 7d4区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号墳周溝に掘り込まれている。

規模と形状 径0.87mほどの円形で、深さは22cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

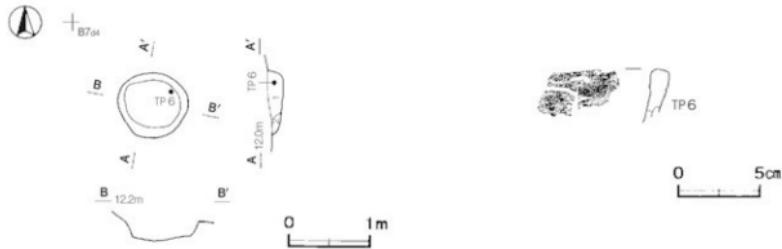
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック・砂粒少量

遺物出土状況 繩文土器片1点（深鉢）が出土している。TP 6は第1層中から出土している。

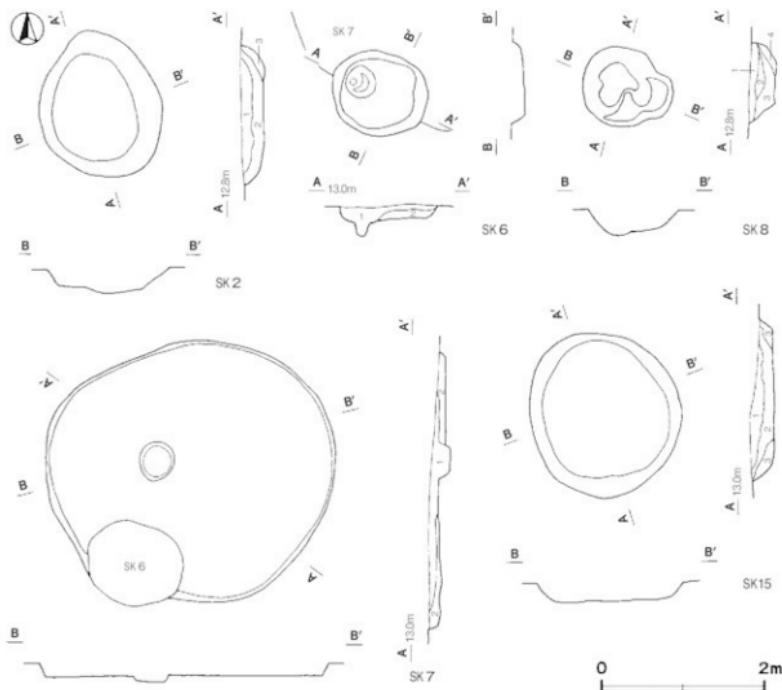
所見 時期は、出土土器から後期初頭（称名寺式期）と考えられる。



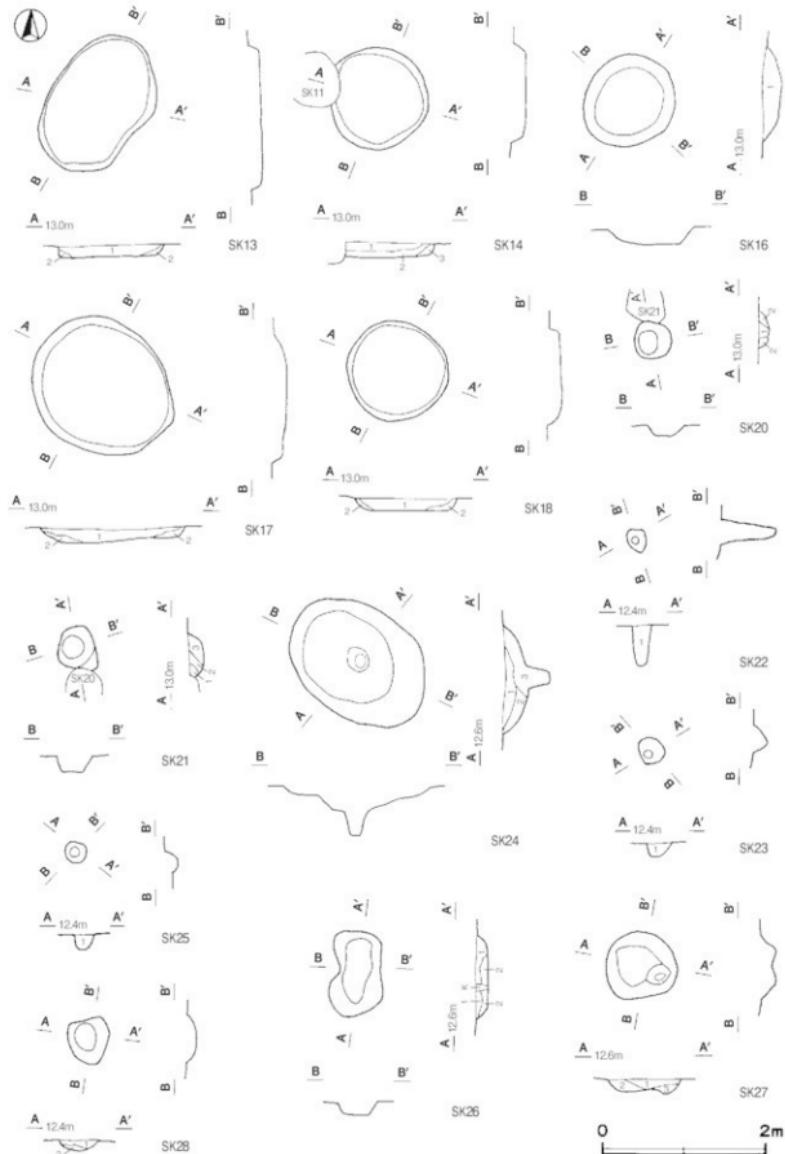
第133図 第51号土坑・出土遺物実測図

第51号土坑出土遺物観察表（第133図）

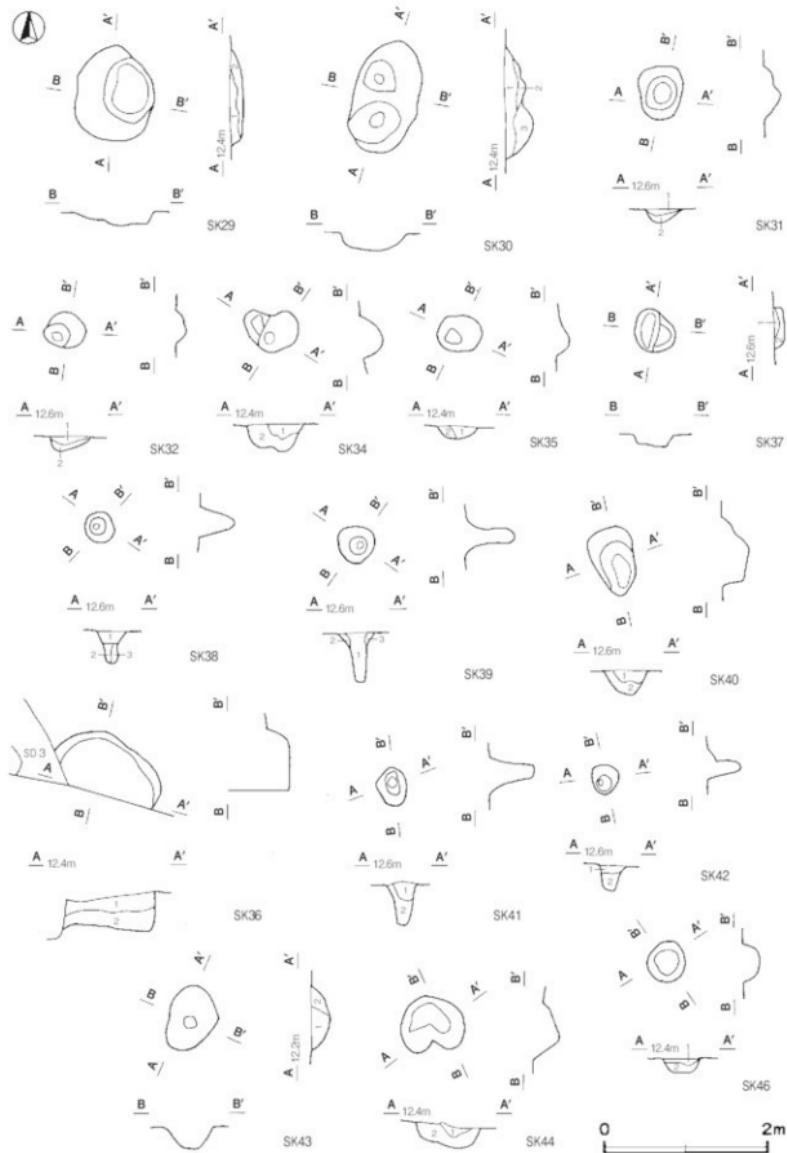
番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴はいか	出土位置	備考
TP 6	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	口縁部外側沈泥区画文、内面ヘラ巻き	第1層中	新名寺式 Tn.47



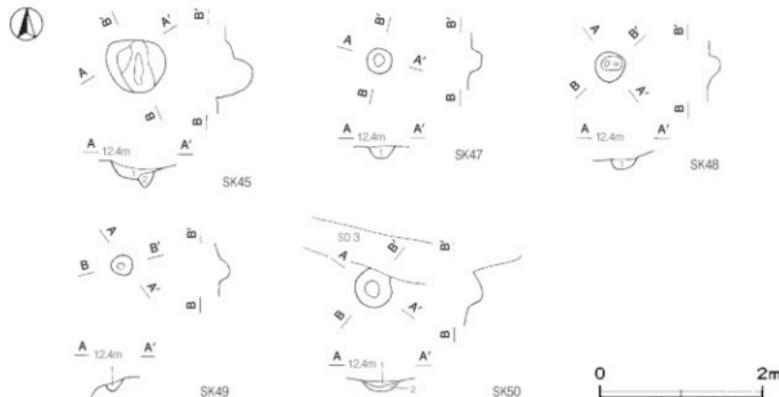
第134図 縄文時代土坑実測図（1）



第135図 繩文時代土坑実測図（2）



第136図 縄文時代土坑実測図（3）



第137図 繩文時代土坑実測図（4）

第2号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第6号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第7号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第8号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黑褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第13号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第14号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量、燒土粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第15号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第16号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量

第17号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、燒土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量

第18号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、燒土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量

第20号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量

第21号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 黑褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量、燒土粒子少量、炭化粒子微量

第22号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量

第23号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量

第24号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、砂粒微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第25号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子少量

第26号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第27号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第28号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第 29 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量

第 30 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量（粘性・締まり弱）
2 暗褐色 ロームブロック少量（粘性普通、締まり弱）
3 暗褐色 ロームブロック少量（粘性・締まり普通）

第 31 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・砂粒少量
2 暗褐色 ローム粒子中量

第 32 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・砂粒少量
2 暗褐色 ローム粒子中量

第 34 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
2 褐色 ロームブロック少量

第 35 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ローム粒子中量

第 36 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、砂粒少量
2 暗褐色 ロームブロック中量

第 37 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、黒色土ブロック微量
2 褐色 ローム粒子中量

第 38 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量
2 褐色 ロームブロック少量
3 褐色 ローム粒子中量

第 39 号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
2 褐色 ロームブロック少量
3 暗褐色 ローム粒子中量、黒色土ブロック微量

第 40 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・砂粒少量
2 褐色 ロームブロック少量

第 41 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・砂粒少量
2 黑褐色 ロームブロック少量

第 42 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量

第 43 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子中量

第 44 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック中量
2 黑褐色 ロームブロック少量

第 45 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック中量

第 46 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック中量

第 47 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第 48 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第 49 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第 50 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
2 褐色 ロームブロック中量

表 24 繩文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	B 2 a2	—	円形	1.64	20	平坦	傾斜	人為	純文土器片、鐵	黒沢式期
2	A 2 j3	N = 19° - W	楕円形	1.87 × 1.50	31	平坦	傾斜	人為	純文土器片	
3	B 2 c6	—	円形	2.80 × 2.62	30	平坦	傾斜	人為	純文土器片、洞片、自然礫	夏島式期
4	B 2 b5	N = 67° - W	楕円形	1.01 × 0.75	20	平坦	傾斜	自然	純文土器片、自然礫	開山式期
5	B 2 d7	—	〔楕円形〕	(3.12) × 2.61	19	平坦	外傾	自然	純文土器片、鐵石、洞片、自然礫	
6	B 2 c9	N = 65° - W	楕円形	1.22 × 1.03	15	平坦	外傾	人為		SK 7 → 本跡
7	B 2 c9	—	円形	3.52 × 3.23	16	平坦	外傾	人為	純文土器片、洞片、自然礫	本跡 → SK 6
8	B 2 a5	N = 68° - W	不整椭円形	1.13 × 0.98	33	塊状	傾斜	人為	純文土器片	
10	B 2 b5	N = 52° - E	楕円形	0.80 × 0.71	25	平坦	外傾	人為	純文土器片、洞片	花積下層式期
11	B 2 c7	—	円形	0.74 × 0.69	26	平坦	直立	人為	劍器	SK 14 → 本跡
12	B 2 d9	N = 42° - E	楕円形	1.44 × 1.05	14	平坦	外傾	人為	純文土器片、鐵器、自然礫	
13	B 2 d8	N = 31° - E	楕円形	1.79 × 1.22	15	平坦	外傾	自然		
14	B 2 c7	—	円形	1.26 × 1.24	18	平坦	外傾	人為	純文土器片、洞片	本跡 → SK 11
15	B 2 c8	N = 18° - W	楕円形	2.04 × 1.85	23	平坦	傾斜	人為	洞片	

番号	位置	長径方向	平剖面	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
16	B 2 b6	N - 32° - E	椭円形	1.19 × 1.08	21	平坦	板状	人為	陶片、軽石	
17	B 2 c8	N - 18° - W	椭円形	1.85 × 1.61	18	平坦	板状	人為	縄文土器片、調理	
18	B 2 c8	-	円形	1.24 × 1.21	18	平坦	外傾	人為	自然埋	
19	B 2 c9	N - 35° - W	椭円形	1.30 × 1.18	23	平坦	外傾	人為	礫、自然埋	
20	B 2 c9	-	円形	0.49 × 0.46	14	圓状	外傾	人為		SK21 → 本跡
21	B 2 c9	N - 37° - W	椭円形	0.59 × 0.49	20	平坦	外傾	人為	陶片	本跡 → SK20
22	B 6 g9	N - 16° - W	椭円形	0.30 × 0.22	68	圓状	板状	人為		
23	B 6 g9	-	円形	0.35 × 0.32	16	平坦	板状	人為		
24	B 7 g1	N - 51° - W	椭円形	1.86 × 1.33	58	平坦	板状	人為		
25	B 7 f1	-	円形	0.27 × 0.26	16	圓状	板状	人為		
26	B 7 g1	N - 6° - E	不整格円形	1.04 × 0.67	16	平坦	外傾	人為		
27	B 7 g1	N - 79° - W	不整格円形	0.90 × 0.82	18	平坦	外傾	人為		
28	B 7 g2	N - 13° - W	不整格円形	0.55 × 0.50	11	平坦	板状	人為		
29	B 7 g2	N - 4° - E	椭円形	1.19 × 0.95	18	平坦	板状/外傾	人為	縄文土器片	
30	B 7 g3	N - 15° - E	椭円形	1.41 × 0.84	22	平坦	板状/外傾	人為	自然埋	
31	B 7 h2	N - 12° - E	椭円形	0.69 × 0.57	21	圓状	板状	人為		
32	B 7 h2	N - 80° - E	椭円形	0.52 × 0.43	13	平坦	板状	人為		
34	B 7 h3	N - 71° - W	不定形	0.70 × 0.55	34	圓状	板状	人為		
35	B 7 h3	N - 79° - E	椭円形	0.57 × 0.45	15	圓状	板状	人為		
36	B 7 i5	N - 47° - W	[椭円形]	1.40 × 0.78	29	平坦	外傾	人為		本跡 → SD 3
37	B 7 g5	N - 45° - W	椭円形	0.57 × 0.46	16	平坦	外傾	人為		
38	B 7 f6	-	円形	0.38 × 0.36	46	平坦	外傾	人為		
39	B 7 f6	-	円形	0.45	60	平坦	外傾	人為		
40	B 7 g5	N - 12° - W	椭円形	0.86 × 0.54	32	平坦	外傾	人為		
41	B 7 g6	N - 11° - W	椭円形	0.46 × 0.36	56	平坦	外傾	人為		
42	B 7 g5	N - 8° - W	椭円形	0.37 × 0.32	44	平坦	外傾	人為		
43	B 7 e4	N - 16° - E	椭円形	0.80 × 0.60	28	平坦	板状	人為		
44	B 6 g0	N - 65° - E	不定形	0.80 × 0.71	28	圓状	板状	人為		
45	B 7 g1	-	円形	0.73 × 0.68	40	圓状	板状	人為		
46	B 7 g1	N - 23° - E	椭円形	0.51 × 0.46	20	平坦	板状	人為		
47	B 7 h1	-	円形	0.31	13	平坦	外傾	人為		
48	B 7 f1	-	円形	0.39 × 0.36	13	平坦	板状	人為		
49	B 7 f1	N - 87° - E	椭円形	0.27 × 0.22	11	平坦	板状	人為		
50	B 7 f2	-	[円形]	0.47 × 0.46	18	平坦	板状	人為		本跡 → SD 3
51	B 7 d4	-	円形	0.87 × 0.81	22	平坦	外傾	人為	縄文土器片	本跡 → TM 1 件名寺火闇

2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡5棟、古墳1基、溝跡1条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。なお、溝跡の平面図は全体図に示す。

(1) 竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡（第138～140図）

位置 調査区西部のB 2 b7区、標高13 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北側は搅乱を受けているため、東西軸は 5.98 m で、南北軸は 5.42 m しか確認できなかった。平面形は長方形または方形で、主軸方向は N - 24° - E である。壁高は 12 ~ 23cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で炉の周囲の中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

炉 2か所。炉 1 は中央部の北壁寄りに、炉 2 は中央部にそれぞれ付設されている。炉 1 は北部が搅乱を受けているため、東西軸は 0.58 m で、南北軸は 1.20 m しか確認できなかった。平面形は楕円形と推定できる。炉 2 は長径 1.31 m、短径 0.96 m の楕円形である。北東隅を P 4 に掘り込まれ、南部は、P 5 を掘り込んでいる。炉 1 は床面を 10cm ほど皿状に、炉 2 は床面を 18cm ほど鍋底状にそれぞれ掘り込み、ロームブロックを含んだ第 2 層を埋土して構築されている。炉 1・炉 2 ともに火床面は第 1 層上面で赤変硬化している。

炉 1 土層解説

1 赤 暗 色 烧土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量 2 暗 色 ロームブロック多量、烧土粒子微量

炉 2 土層解説

1 赤 暗 色 烧土ブロック多量、黒褐色土ブロック少量、炭化粒子微量 2 明 暗 暗 色 烧土ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子微量
粒子微量

ピット 7 か所。P 1 ~ P 3 は深さ 0.52 ~ 1.01 m で、規模と配置から主柱穴である。P 6 は深さ 18cm で、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 4・P 5・P 7 は性格不明である。

P 1 土層解説

1 黒 暗 色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗 暗 色 ロームブロック中量
2 暗 暗 色 ロームブロック多量

P 2 土層解説

1 黒 暗 色 烧土粒子・炭化粒子微量 3 暗 暗 色 ロームブロック中量
2 暗 暗 色 ロームブロック多量

P 3 土層解説

1 黑 暗 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗 暗 色 ロームブロック多量

P 4 土層解説

1 黑 暗 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 黑 暗 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

P 5 土層解説

1 暗 暗 色 ロームブロック多量

P 6 土層解説

1 黑 暗 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 明 暗 色 ロームブロック多量
2 暗 暗 色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 4 暗 暗 色 ロームブロック多量

P 7 土層解説

1 黑 暗 色 ロームブロック少量

貯藏穴 南東コーナー部に付設されている。長軸 92cm、短軸 81cm の隅丸長方形で、深さは 72cm である。

底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

貯藏穴土層解説

1 黑 暗 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 黑 暗 色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 暗 色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

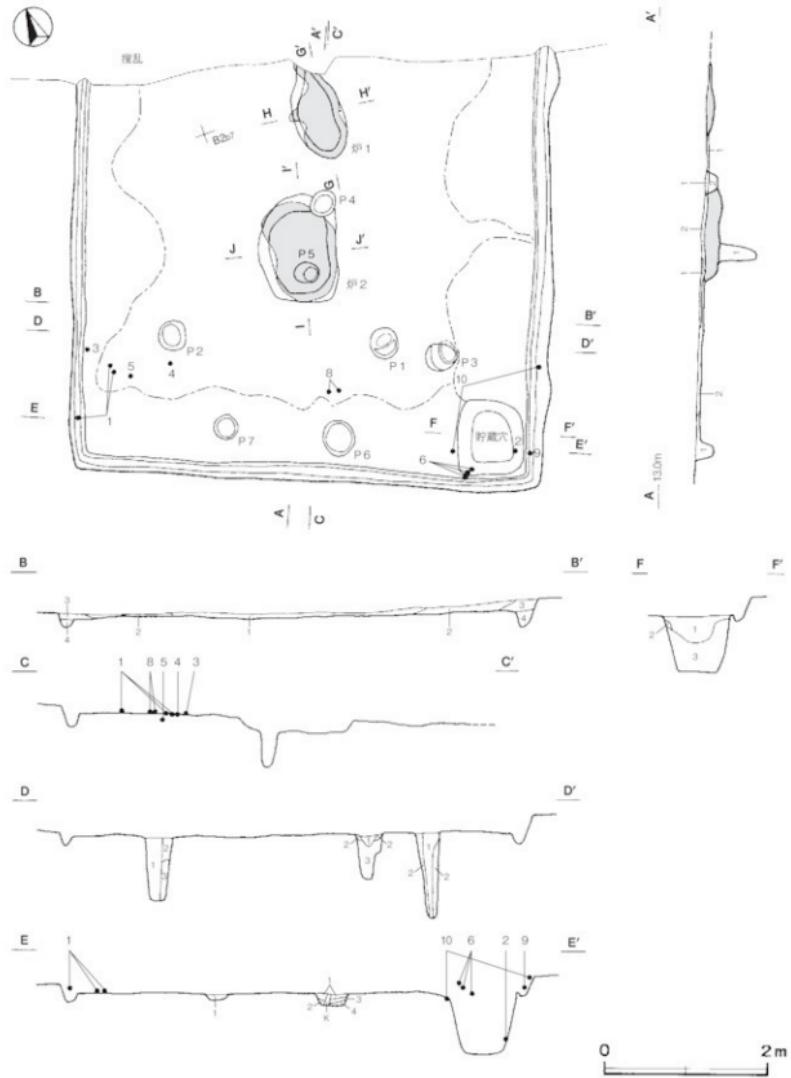
覆土 4 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

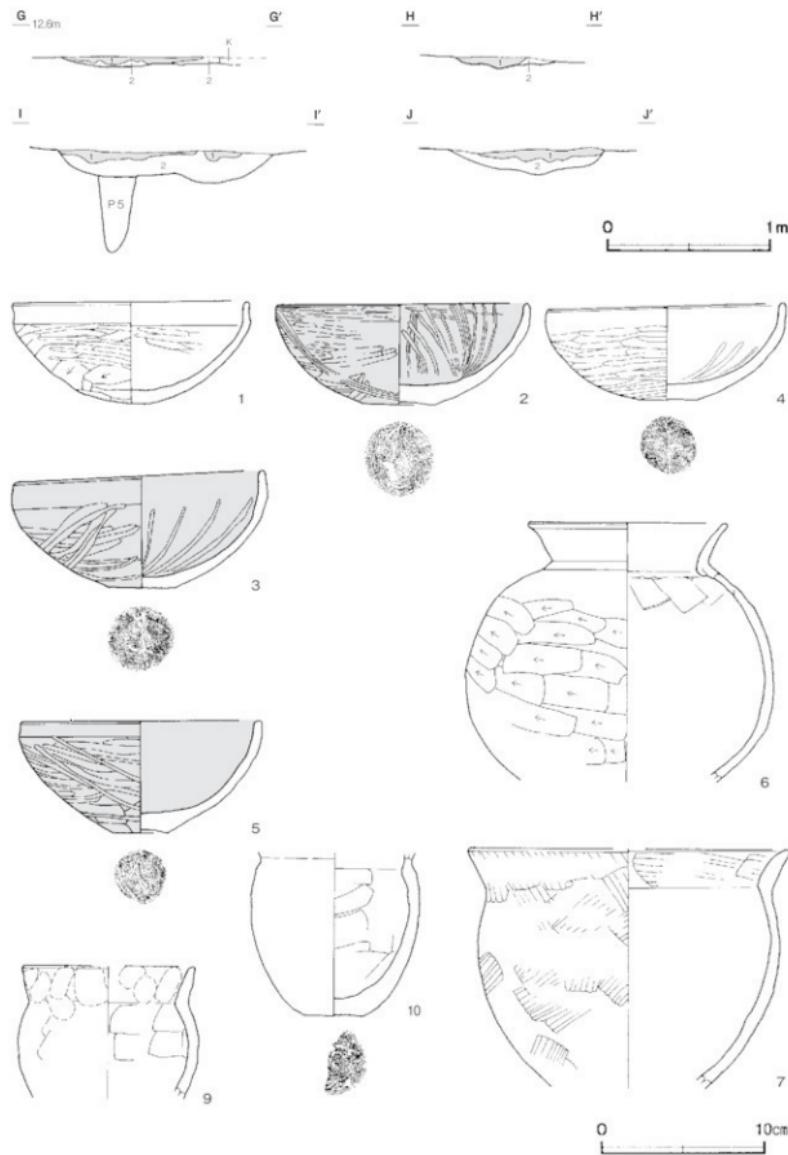
1 黑 暗 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗 暗 色 ロームブロック多量 (粘性弱・締まり普通)
2 黑 暗 色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 4 暗 暗 色 ロームブロック多量 (粘性弱・締まり強)

遺物出土状況 土師器片 268 点 (环 25, 梱 3, 小形壺 2, 小形壺 1, 壺 237), 石製模造品 1 点 (勾玉) が出土している。2・6 は貯藏穴内から出土している。1・3~5 は南西コーナー部、8 は南部の P 6 付近、10 は南東部の貯藏穴付近の床面からそれぞれ出土している。なお、1 は南西部、10 は南東部の床面と壁溝内から出土した破片が接合したものである。Q 6 は南西部の覆土中から出土している。

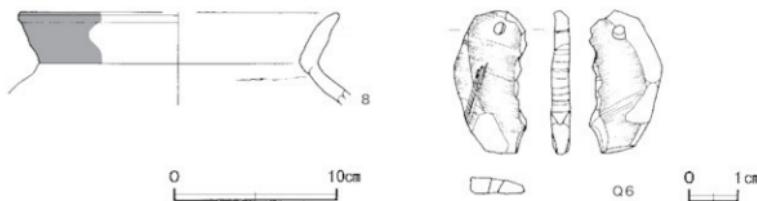
所見 時期は、出土土器から 5 世紀後葉に比定できる。



第138図 第1号堅穴建物跡実測図



第139図 第1号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第140図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図

第1号竪穴建物跡出土遺物観察表（第139・140図）

番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎	土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土器器	坪	144	63	—	長石・石英・ 雲母	橙	普通	口縁部外・内面擦ナデ ヘラ削り後、ヘラ削り	床面	95% PL49	
2	土器器	坪	154	63	43	長石・石英・ 雲母	赤褐	普通	口縁部横手子ナデ ヘラ削り後、ヘラ削り 底部外側へラ削り後、 内面擦ナデ	貯藏穴内	90% PL49	
3	土器器	坪	151	72	41	長石・石英・ 雲母	赤褐	普通	口縁部外・内面擦ナデ ヘラ削り後、ヘラ削り	床面	70% PL49	
4	土器器	坪	144	60	37	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面擦ナデ ヘラ削り後、ヘラ削り	床面	75% PL49	
5	土器器	楕	145	69	32	長石・石英・ 雲母	赤褐	普通	口縁部外・内面擦ナデ ヘラ削り後、ヘラ削り	床面	60% PL49	
6	土器器	小形甌	120	(159)	—	長石・石英・ 雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面擦ナデ ヘラ削り後、ヘラ削り	貯藏穴内	30% PL49	
7	土器器	甌	[19.4]	(147)	—	長石・石英・ 雲母	橙	普通	口縁部外・内面ハケ日焼後、 ナデ	土部外	覆土中 30% PL49	
8	土器器	甌	[19.4]	(57)	—	長石・石英・ 雲母	明赤褐	普通	口縁部横手子ナデ 内面付着	床面	5%	
9	土器器	小形甌	[104]	(82)	—	長石・石英・ 雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面擦ナデ ヘラ削り後、ヘラナデ	床面	20% PL49	
10	土器器	小形甌	—	(10.0)	[36]	長石・石英・ 雲母	明赤褐	普通	口縁部内ヘラ削り後、 ナデ	底部外・内面ヘラ ナデ	床面 30%	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	勾玉	29	15	0.4	(26)	粘板岩	孔径0.2cm 片面穿孔 腹面に山形の刻み目 子持勾玉を模した もの	覆土中	PL49

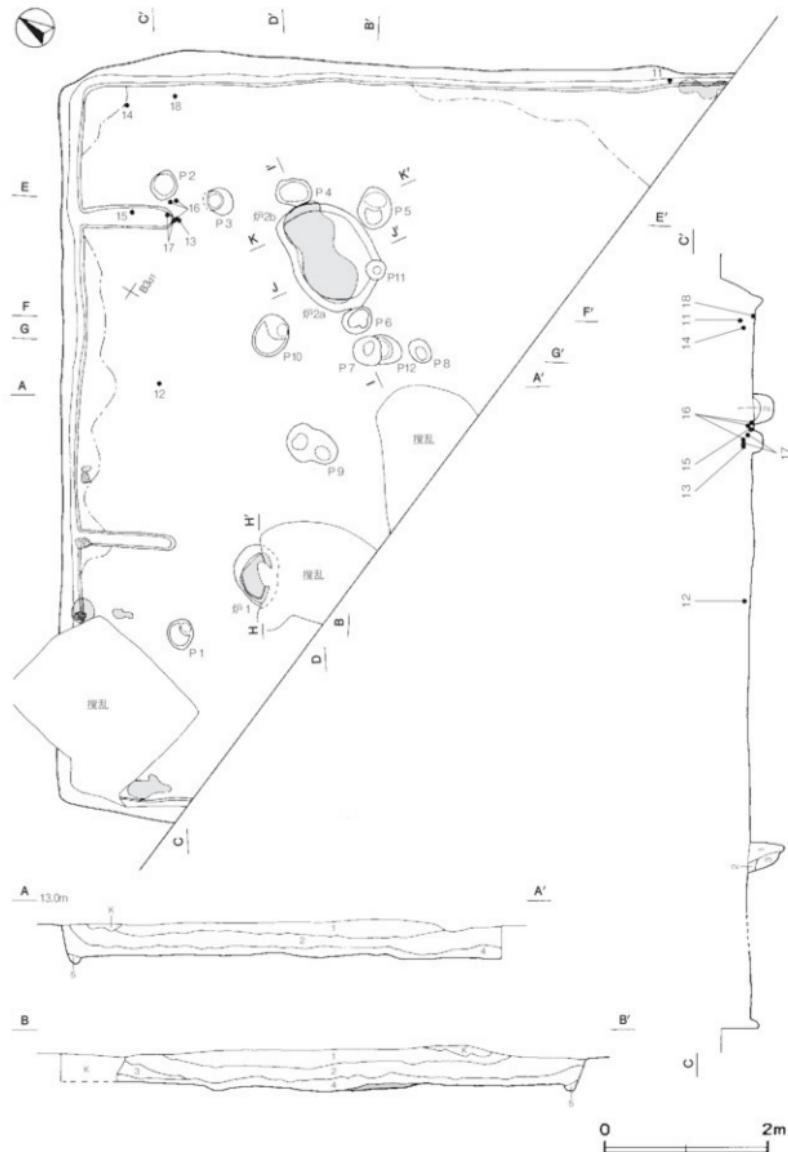
第2号竪穴建物跡（第141～143図）

位置 調査区西部のB 3d1区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南半部は調査区域外に延びているため、北東・南西軸9.46mで、北西・南東軸は8.20mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で、長軸方向はN-58°Eと推定できる。壁高は40～47cmで、外傾して立ち上がりっている。

床 平坦で南東部を除いて全域が踏み固められている。壁下には撤溝が巡っている。主柱穴より外側に炭化材と焼土が出土している。

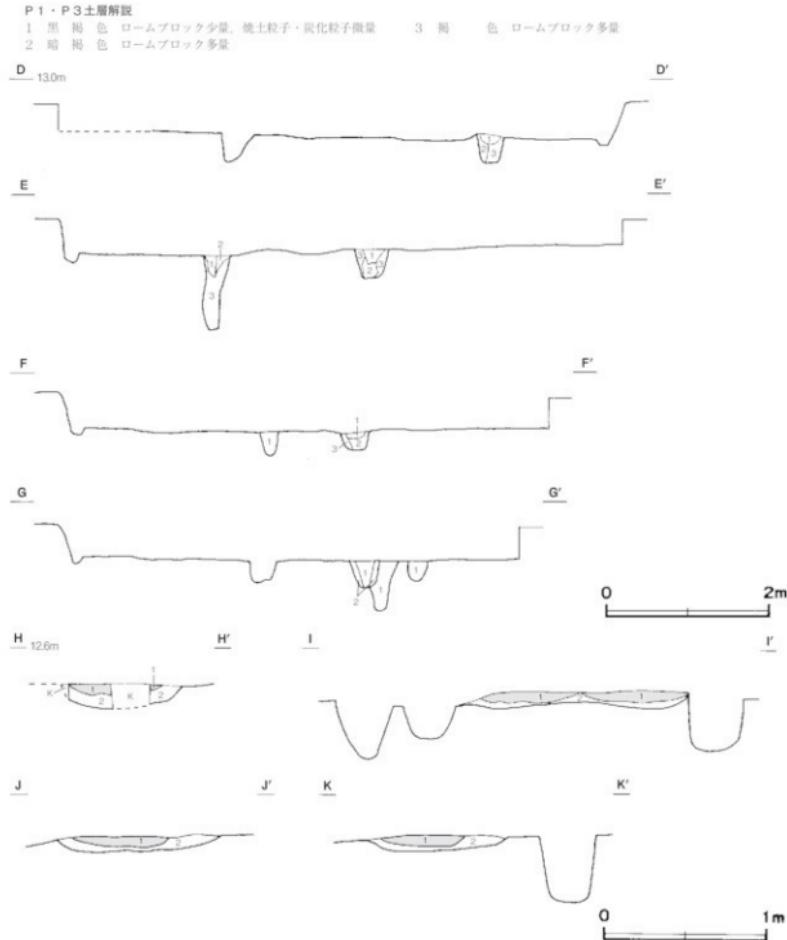
炉 2か所。炉1は北西部壁寄りに、炉2は北東部壁寄りにそれぞれ付設されている。炉1は南側が荒乱を受けているため、東西軸0.72m、南北軸は0.46mしか確認できなかった。平面形は楕円形と推定できる。炉2は長径1.42m、短径1.04mの楕円形である。西部をP6、南東隅をP11に掘り込まれている。炉1は床面を15cmほど、炉2は床面を10cmほど、それぞれ掘り込み、ロームブロックを含んだ第2層を埋土して構築されている。炉2は長径方向の焼土の土層を観察すると、2つに分かれるよう見え、2連式の可能性も考え、南側をa、北側をbと呼称した。炉1・炉2ともに火床面は第1層上面で赤夷硬化している。



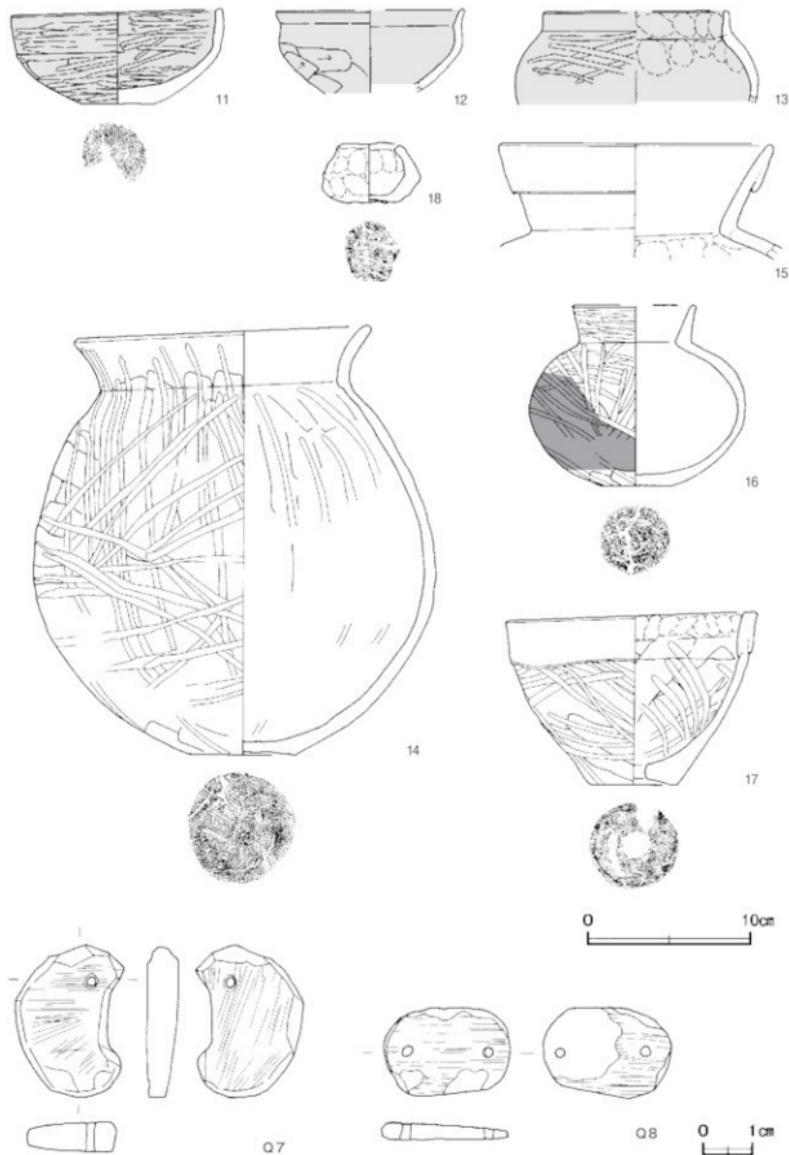
第141図 第2号竪穴建物跡実測図(1)

炉1 土層解説		
1 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子微量	2 黑褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量	
炉2 a 土層解説		
1 明赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量	2 黑褐色 ロームブロック多量、焼土粒子微量	
炉2 b 土層解説		
1 明赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	2 黑褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量	

ピット 12か所。P 1～P 3は深さ 26～91cm で、規模と配置から主柱穴で、P 3はP 2の立て替え前の柱穴と考えられる。その他のP 4～P 12は、28～62cm で、性格は不明である。



第142図 第2号竪穴建物跡実測図（2）



第143図 第2号竪穴建物跡出土遺物実測図

P 2・P 7 土層解説

1 黒褐色 ロームブロック多量、燒土粒子少量、炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック多量

P 4 土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック多量
2 黒褐色 ローム粒子少量

P 5 土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量 3 明褐色 ロームブロック中量
2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

P 6 土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量

P 8 土層解説

1 黒褐色 ロームブロック多量、燒土ブロック・炭化粒子微量

P 9・P 10・P 12 土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量 4 暗褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量 5 暗褐色 ロームブロック多量
3 黒褐色 ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 1,167 点（坏 103、椀 6、小形壺 2、甕 1,053、瓶 2、手捏土器 1）、須恵器片 2 点（甕）、土製品 8 点（土玉）、石製模造品 2 点（勾玉、有孔円板）、粘土塊 23 点が間仕切り溝内と全体に散在して覆土下層から床面にかけて、炭化材 4 点が壁際の床面から出土している。12 は北西壁中央部寄りから、18 は北東部壁際から正位の状態で、15 は北西側の間仕切り溝内から正位の状態で、床面からそれぞれ出土している。16 は P 2 付近の覆土下層から床面にかけての破片が接合したものである。11 は南東壁溝内、13・17 は間仕切り溝内、14 は北東壁際の覆土下層から出土したものである。Q 7・Q 8 は北東部の覆土中から出土している。須恵器片、土玉は細片のため、図示できなかった。

所見 床面から焼土及び炭化材が確認されていることから、焼失建物と考えられる。時期は、出土土器から 5 世纪後葉と考えられる。

第 2 号堅穴建物跡出土遺物観察表（第 143 図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
11	土師器	坏	129	59	42	長石・石英、雲母	赤褐色	普通	口縁部外・内面擦ナラ削り後、ヘラ削き 体部外面ハラ削り後、ヘラ削き 内面擦ナラ削り後、ヘラ削き 内面擦ナラ削り後、ヘラ削き	覆土下層	90% PL50
12	土師器	坏	[116]	(52)	-	長石・石英	赤褐色	普通	口縫部外・内面擦ナラ削り後、ヘラ削き 体部外面ハラ削り後、ヘラ削き 内面擦ナラ削り後、ヘラ削き	床面	40% PL50
13	土師器	小形壺	[112]	(57)	-	長石・石英、雲母	赤褐色	普通	口縫部外・内面擦ナラ削り後、ヘラ削き 体部外面ハラ削り後、ヘラ削き 内面擦ナラ削り後、ヘラ削き	覆土下層	20% PL50
14	土師器	壺	179	265	67	長石・石英、雲母	橙	普通	口縫部外・内面擦ナラ削り後、ヘラ削き 体部外面ハラ削り後、ヘラ削き	覆土下層	90% PL50
15	土師器	壺	166	(70)	-	長石・石英、雲母	橙	普通	口縫部外・内面擦ナラ削り後、ヘラ削き 体部外面擦ナラ削り後、ヘラ削き	覆土下層	20% PL50
16	土師器	小形壺	[73]	111	42	長石・石英、雲母	明赤褐色	普通	口縫部外・内面擦ナラ削り後、ヘラ削き 体部外面ハラ削り後、ヘラ削き 内面擦ナラ削り後、ヘラ削き	覆土下層	60% PL50
17	土師器	瓶	152	107	54	長石・石英	橙	普通	口縫部外・内面擦ナラ削り後、ヘラ削き 体部外面ハラ削り後、ヘラ削き	覆土下層	95% PL50
18	土師器	手捏土器	34	37	31	長石・石英、赤色粒子	橙	普通	指標による押さえ	床面	100% PL50

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 7	勾玉	31	22	06	65	滑石	孔径0.2cm 片面穿孔	覆土中	PL50
Q 8	有孔円板	18	26	04	24	粘板岩	孔径0.2cm 2孔 片面穿孔	覆土中	PL50

第3号竪穴建物跡（第144図）

位置 調査区西部のB 2 d8区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第9号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 大半が調査区域外に延びているため、北コーナー部のみを確認した。北東・南西軸は1.35m、北西・南東軸は1.62mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で、北西・南東軸方向はN-37°-Wである。

壁高は20~40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で硬化面は認められない。

貯蔵穴 北コーナー部に付設されている。長軸82cm、短軸79cmの隅丸方形で、深さは42cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

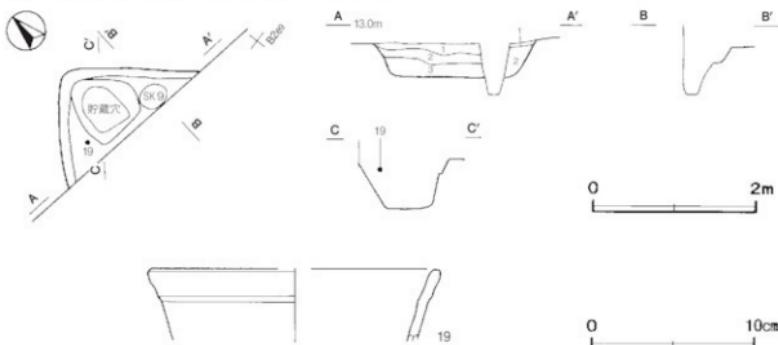
土層解説

1	暗 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	3	暗 褐色	ロームブロック多量
2	黒 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 士師器片19点（環5、甕13、壺1）が出土している。19は貯蔵穴付近の床面から出土している。

その他、環、甕の破片が覆土中から出土しているが、細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第144図 第3号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第3号竪穴建物跡出土遺物観察表（第144図）

番号	種別	器種	口径	壁高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
19	土師器	甕	[17.7]	(4.5)	-	長石・石英	暗赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ	床面	5%

第4号竪穴建物跡（第145図）

位置 調査区西部のB 2 c3区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 大半が搅乱を受けており、東壁部のみを確認した。南部は調査区域外に延びているため、東西軸は0.56m、南北軸は3.41mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定できる。壁高は4~8cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、硬化面は認められない。

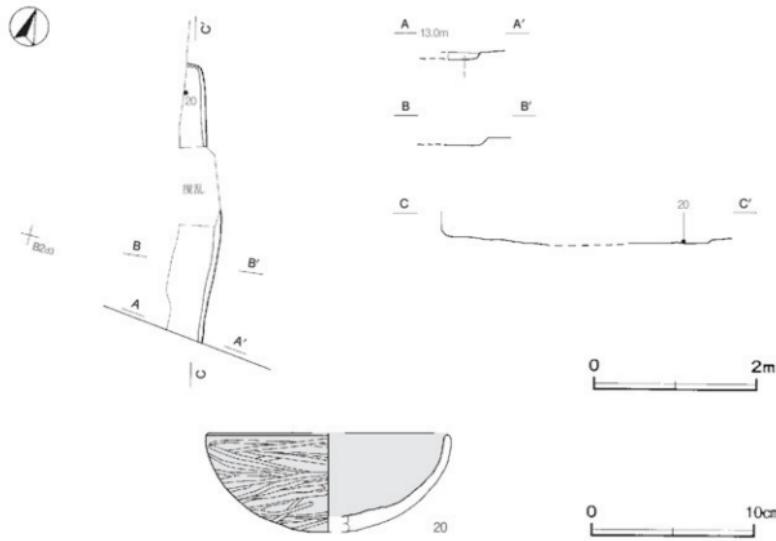
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片5点（壺1、甕4）が出土している。20は北東部の床面から出土している。その他、甕の破片が20を覆うように出土しているが、細片のため図示できなかった。（PL42参照）

所見 時期は、出土土器から5世紀後葉と考えられる。



第145図 第4号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第4号堅穴建物跡出土遺物観察表（第145図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	はか	出土位置	備考
20	土師器	壺	[148]	(6.0)	-	長石・石英・ 赤母	赤褐色	普通	本部外側面へテクスチャ 赤褐色 内面も赤彩痕あり	内面風化のため不明	外面 床面	30% PL51

第5号堅穴建物跡（第146図）

位置 調査区東部のB7e4区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号墳の周溝に掘り込まれている。

規模と形状 大半が第1号墳に掘り込まれており、南東コーナー部のみを確認したため、東西軸は1.74m、南北軸は2.28mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で、北東・南西軸方向はN-21°-Eと推定できる。壁高は10~15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、硬化面は認められない。

覆土 2層に分層できる。混入物が少なく周囲の流入の堆積状況から自然堆積である。

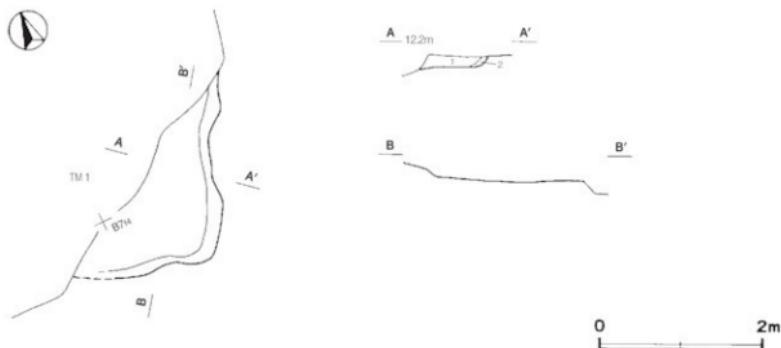
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 290 点(环 58, 壺 232), 粘土塊 2 点が出土している。いずれも、細片のため、図示できなかった。赤彩が施された壺や壺の破片がみられる。

所見 時期は、出土土器の特徴から中期(5世紀代)と考えられる。



第 146 図 第 5 号竪穴建物跡実測図

表 25 古墳時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (長軸×短軸m)	壁高 (cm)	床面	周溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考	
								主軸	玄関口	ビット	井戸・墓穴					
1	B 2b7	N - 24° - E	[方角] - [長方形]	5.98 × (5.42)	12 ~ 23	平坦	全周	3	1	3	井戸 2	1	人馬	土師器片、石製椎 頭品	5世紀後葉	
2	B 3d1	N - 58° - E	[方角] - [長方形]	9.66 × (8.20)	40 ~ 47	平坦	全周	3	-	9	井戸 2	-	人馬	土師器片、漆器 頭品、粘土塊	5世紀後葉	
3	B 2d8	N - 37° - W	[方角] - [長方形]	(1.62) × (1.35)	20 ~ 40	平坦	-	-	-	-	-	1	人馬	土師器片	5世紀中葉	本跡 → SK 9
4	B 2c3	-	[方角] - [長方形]	(3.41) × (0.56)	4 ~ 8	平坦	-	-	-	-	-	-	人馬	土師器片	5世紀後葉	
5	B 7e1	N - 21° - E	[方角] - [長方形]	(2.28) × (1.24)	10 ~ 15	平坦	-	-	-	-	-	-	自然	土師器片、粘土塊	5世紀代	本跡 → TM1

(2) 古墳

第 1 号墳 (第 147 ~ 149 図)

位置 調査区西部の B 7 d3 区、標高 12 m ほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 調査前は平坦な畑地で、新発見の古墳である。墳丘は削平されており、周溝のみを確認した。

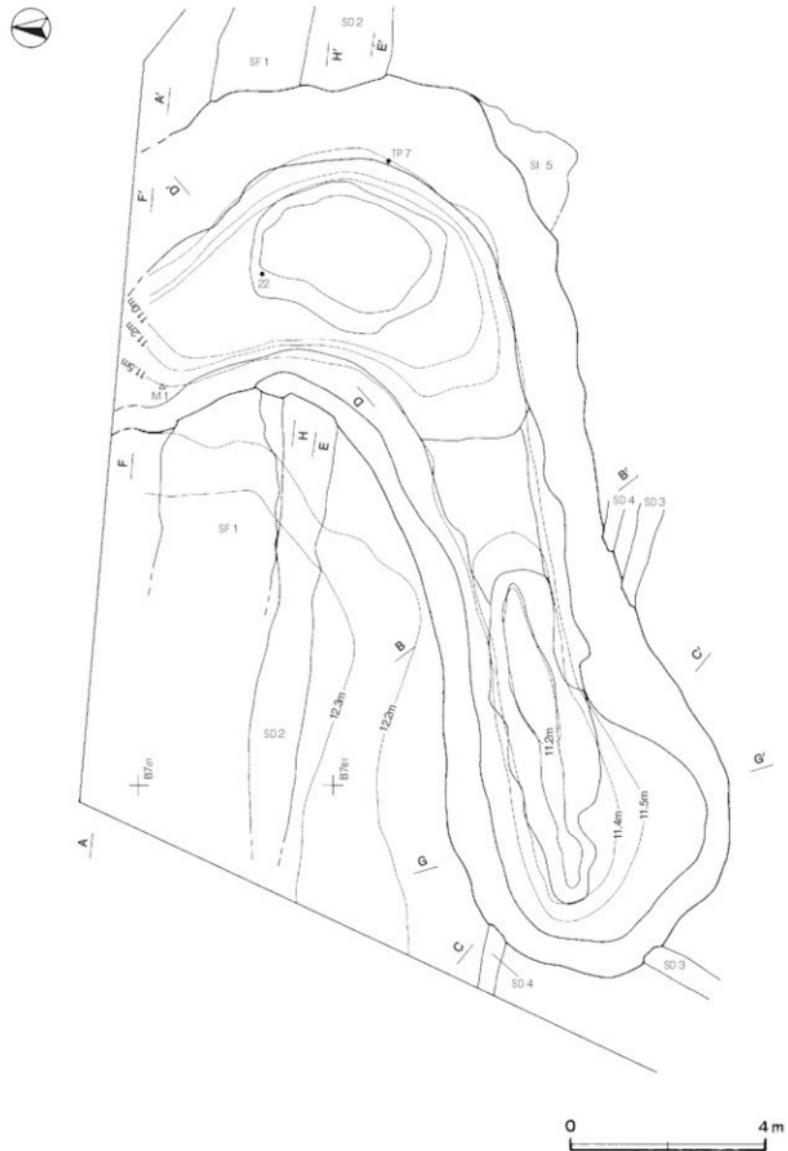
重複関係 第 5 号竪穴建物跡、第 51 号土坑を掘り込み、第 1 号道路、第 2 ~ 4 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西側と北側は調査区外に延びているため、東西軸 8.2 m、南北軸 7.6 m しか確認できなかった。

周溝を含めた外縁軸は、東西軸 14.8 m、南北軸 12.9 m しか確認できなかった。調査範囲からは、墳形は不明である。

墳丘 現況でローム漸移層まで削平されており、構築状況は不明である。

周溝 上幅 3.30 ~ 5.61 m、下幅 0.30 ~ 2.10 m、深さ 0.80 ~ 1.94 m で L 字状に確認できた。断面形は、南西部



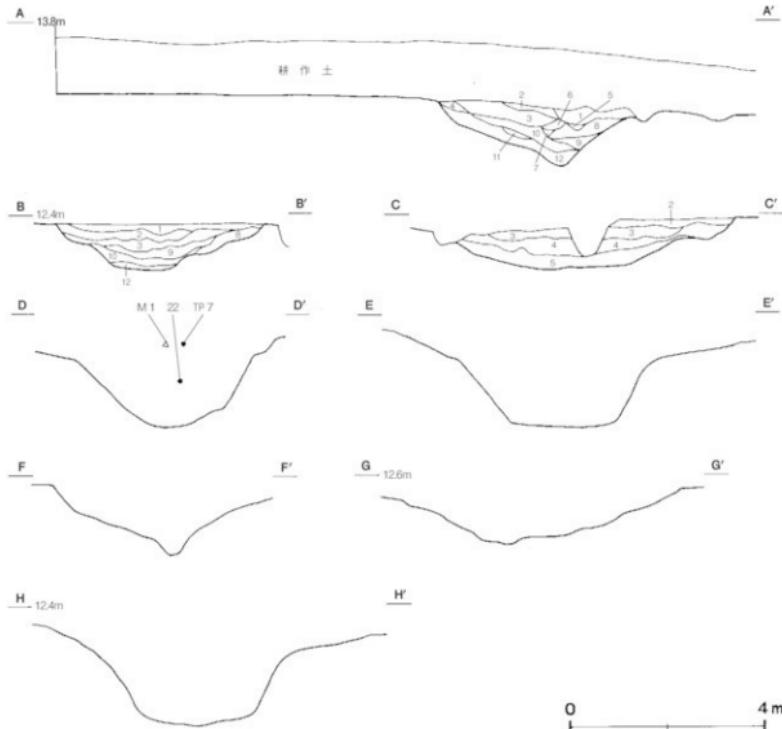
第147図 第1号墳実測図（1）

は緩やかなU字状で、東部は逆台形である。西側はB 60区で立ち上がる。周溝内の堆積土は12層に分層できる。ロームブロックや軽石、緑泥片岩、鉄器、完形の須恵器が含まれていることから墳丘の封土を崩して埋め戻されている。

周溝土層解説

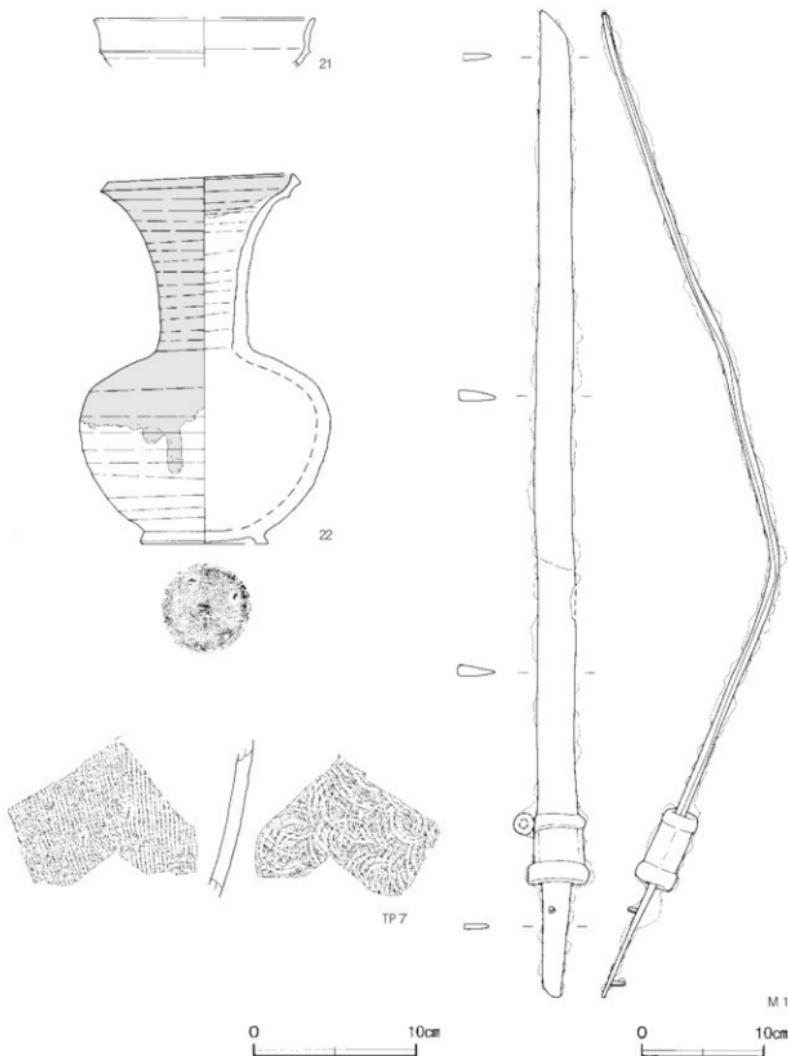
1 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子、炭化粒子少量
2 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 黒褐色	軽石・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量、 鉄器混入	9 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック・軽石少量
5 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	11 灰褐色	細軽石中量、ロームブロック微量
6 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	12 褐灰色	細軽石多量、ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片392点(坪109、高坏4、壺279)、須恵器片4点(坪1、高坏1、壺1、長頭壺1)、鉄器1点(直刀)、土製品1点(管状土錘)の他、軽石841点(28.7kg)、緑泥片岩170点(2.0kg)が、周溝の覆土上層から中層にかけて出土している。22は北東部の覆土中層、TP 7は東部崖際、M 1は北部の覆土上層の墳丘側からそれぞれ多量の人頭大の軽石とともに混入した状態で出土している。21は覆土中から出土している。土師器、須恵器片、土製品は細片のため、図示できなかった。



第148図 第1号墳実測図（2）

所見 周溝からの出土遺物は、約1km西に離れた穴薬師古墳石室の石材と共に出土しているため、古墳の石室にともなう石材と考えられ、副葬品と考えられる。時期は、出土土器から7世紀後葉と考えられる。なお、直刀が切先から48cm程でくの字状に湾曲しており、副葬時に意図的に折り曲げられたと考えられる。



第149図 第1号墳出土遺物実測図

第1号墳出土遺物観察表(第149図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
21	須恵器	高杯	[136]	31.0	-	長石	黄灰	普通	外・内面ロクロナデ	周溝覆土中	10% 西西北 PL52
22	須恵器	長瓶	113	228	7.8	長石・石英・ 赤母	灰	普通	口縁部の一部灰褐色 口クロ成形 白線部から全体 上半にかけて自然施付着 弦部貼り付高台	周溝覆土中層	95% 西西北 PL52
番号	種別	器種	口径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考		
TP 7	須恵器	要	長石	黄灰	外面部本状の叩き目 内面同心円状の当て具痕			周溝覆土上層	PL52		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
M 1	直刀	81.5	6.2	3.5	1014.2	鉄	劍身長71.5cm、茎長10cm、茎厚0.5cm 平様平造り 合金具、 劍口全具造有開刃 目釘の一部遺存 目釘孔立か所	周溝覆土上層	PL52		

(3) 溝跡

第1号溝跡(第123・150・151図)

位置 調査区西部のA 2 b1 ~ A 2 i0 区、標高13 mほどの台地平坦部に位置している。

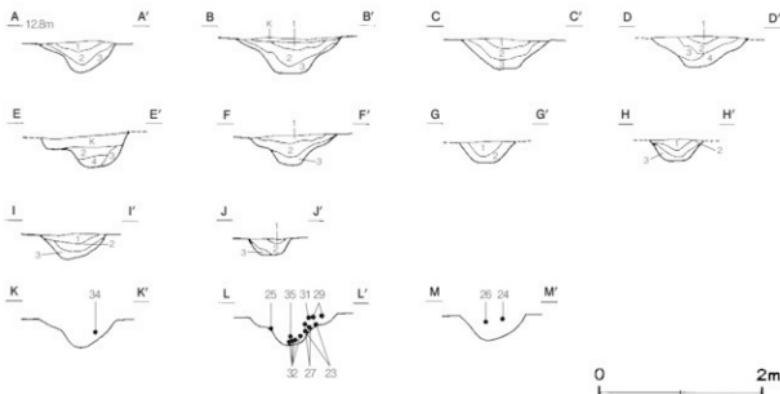
規模と形状 A 2 i0 区から西方向(N - 82° - W)へ直線状に延び調査区域外へ至っている。確認できた長さは35.4 mで、上幅0.60 ~ 1.43 m、下幅0.18 ~ 0.55 mである。深さは20 ~ 44 cmである。断面形は逆台形で、底面は平坦である。

覆土 4層に分層できる。第1層は混入物が少なく周囲からの流入を示す状況から自然堆積で、第2層以下はロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

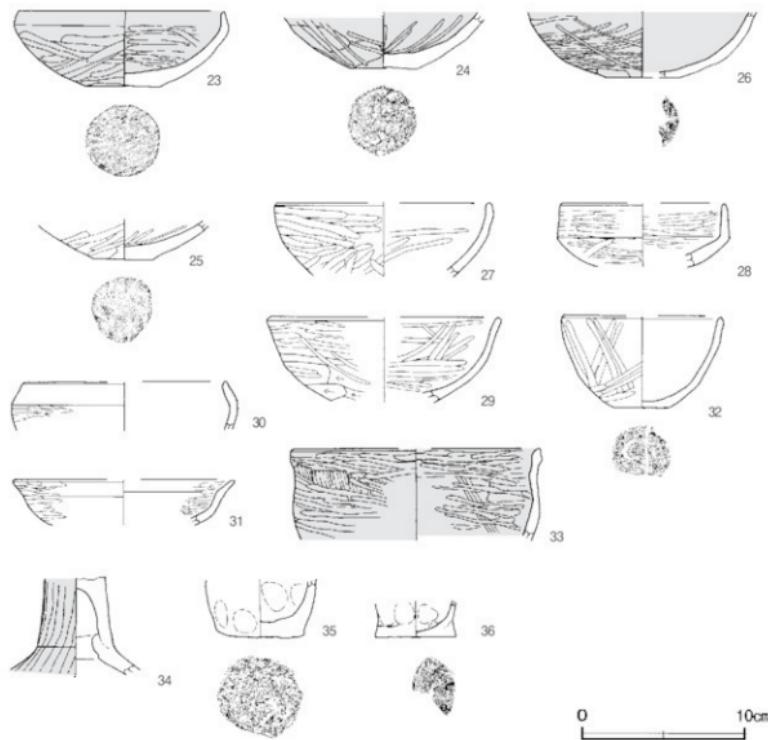
1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	3 黒褐色	ロームブロック中量
2 黑褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4 黒褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片415点(环103、楕2、高环16、甕292、手捏土器2)、粘土塊1点、自然礫63点が、全城に散在して、覆土中層から下層を中心に出土している。23・25・32・35は中央部の覆土下層、27は中央部、34は西部の覆土中層、24・26は東部、29・31は中央部の覆土上層、30は中央部、33は西部の覆土中からそれぞれ出土している。



第150図 第1号溝跡実測図

所見 時期は、出土土器から5世紀後葉と考えられる。性格は、堅穴建物跡と同時期であるため、集落の区画溝の可能性がある。



第151図 第1号溝跡出土遺物実測図

第1号溝跡出土遺物観察表（第151図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
23	土器器	环	126	47	45	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ・体部外・内面ヘラ磨き 底部外面ヘラ削り後・ヘラ磨き・外・内面赤彩	覆土下層	90% PL51	
24	土器器	环	-	(35)	41	長石・石英	にい赤褐色	普通	体部外面ヘラ削り後・ヘラ磨き・外・内面赤彩	覆土上層	20%	
25	土器器	环	-	(25)	37	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外面ヘラ削り後・ヘラ磨き・内面ヘラナダ 内面ヘラナダ後・ヘラ磨き	覆土下層	30%	
26	土器器	环	-	(41)	[44]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面ヘラ磨き・内面横ナデ・体部外面ヘラ削り後・ヘラ磨き・内面ヘラナダ・底部外面 ヘラ削り後・ヘラ磨き・外・内面赤彩	覆土上層	30%	
27	土器器	环	[132]	(45)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	普通	内面横ナデ・ヘラ磨き・体部外	覆土中層	20%
28	土器器	环	[10.0]	(39)	-	長石・石英	普通	普通	口縁部外・内面横ナデ後・ヘラ磨き・体部外・内 面ヘラ磨き・内面黒斑	覆土中層	30% PL51	
29	土器器	环	[140]	(52)	-	長石・石英・黄母	普通	普通	体部外面ヘラ削り後・ヘラ磨き・内面ヘラナダ 後・ヘラ磨き	覆土上層	10%	
30	土器器	环	[124]	(30)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ・体部外面ヘラ磨き・内 面ヘラナダ	覆土中	5%	
31	土器器	环	[136]	(27)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外・内面ヘラ磨き	覆土上層	5%	

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
32	土師器	輪	[9.6]	5.6	3.4	灰石・石英・赤色粒子	褐色	普通	体部外側へラナデ後、ヘラ磨き 内面ヘラナデ 体部外・内面へラナデ	覆土下層	40% PL51
33	土師器	輪	[15.2]	(5.6)	-	灰石・石英・赤色粒子	赤褐色	普通	体部外側ハケ目調整後、ヘラ磨き 内面ヘラナデ アラシ、ヘラ磨き 外・内面赤彩	覆土中	10% PL51
34	土師器	高环	-	(6.0)	-	灰石・石英・赤色粒子	赤褐色	普通	脚部外側へラ磨き 内面ヘラナデ 外面赤彩	覆土中層	20% PL51
35	土師器	手捏土器	-	(3.6)	5.4	灰石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	手捏成形 体部下半に指添痕	覆土下層	30% PL51
36	土師器	手捏土器	-	(2.3)	(5.0)	灰石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	手捏成形 外・内面下部横積み痕	覆土中	40% PL51

3 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、道路跡1条、溝跡3条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。なお、道路跡及び溝跡の平面図は全体図に示す。

(1) 道路跡

第1号道路跡（第123・152図）

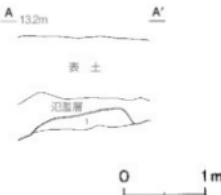
位置 調査区東部のB 7 d2～B 7 d5区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 上部は削平されているため、硬化範囲しか確認できなかった。

重複関係 第1号墳、第2・5号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 西端部と東端部が調査区域外へ延びているため、硬化範囲は、長さ14.80m、幅1.25～1.65mしか確認できなかった。B 7 d2区から東方向（N-85°-E）に直線的に延び、硬化面は凸凹している。

構築土 第1号墳周溝、第5号溝跡の上部に積み上げて道路を構築して



おり、上面が硬化している。

構築土土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

所見 時期は、出土遺物がないが、宿北遺跡で確認できた江戸後期に相当する利根川氾濫層に埋もれているため、江戸時代後期まで使用された道路と考えられる。

第152図 第1号道路跡実測図

(2) 溝跡

第2号溝跡（第123・153図）

位置 調査区東部のB 6 d0～B 7 e6区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号墳を掘り込み、第1号道路に掘り込まれている。

規模と形状 B 7 e6区から北西方向（N-84°-W）へ直線状に延び、調査区域外へ至っている。確認できた長さは23.45mで、上幅0.66～1.75m、下幅0.15～0.86mである。深さは34～43cm掘りくぼめ、西部が約10cmほど深くなっている。断面形は逆台形で、底面は平坦である。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

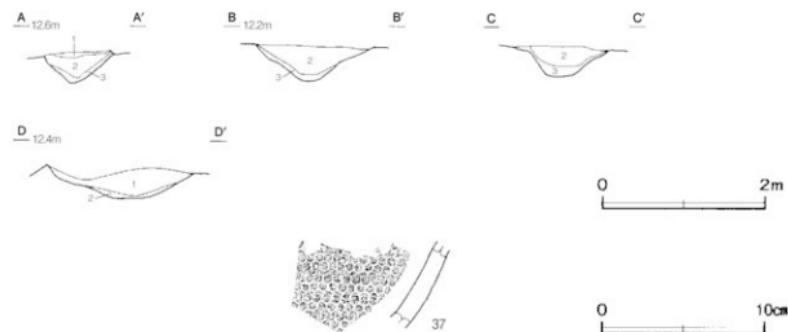
1 黒褐色 ロームブロック少量、燒土粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

3 黑褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(焰烙), 瓦質土器片1点(火鉢)が出土している。土師質土器片は細片のため、図示できなかった。37は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から18世紀後葉と考えられる。性格は形態から排水用の溝と考えられる。



第153図 第2号溝跡・出土遺物実測図

第2号溝跡出土遺物観察表（第153図）

番号	種別	器種	口径	基高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
37	瓦質土器	火鉢	-	(5.3)	-	長石・石英	灰褐色	普通	体部外回転印刷文 内面ヘラナデ	覆土中	5%

第3号溝跡（第123・154・155図）

位置 調査区東部のB 6h9～B 7i5区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号墳、第36・50号土坑、第4号溝跡を掘り込んでいる。

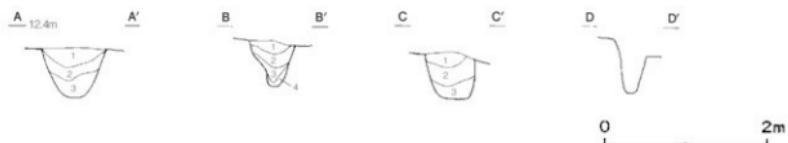
規模と形状 B 7i5区から北西方向(N=35°-W)へ直線状に延び、B 7i3区で西方向(N=73°-W)への字状に屈曲し、さらにB 6f0区で、南西方向(N=150°-W)へL字状に湾曲している。南西部と南東部が調査区域外に延びているため、確認できた長さは34.32mで、上幅0.39～0.69m、下幅0.06～0.32mである。深さは58～70cmで、南西部が12cmほど深くなっている。断面形はU字形である。

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 底 極 色	ロームブロック少量	3 埋 極 色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量
2 埋 極 色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量	4 極 色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量

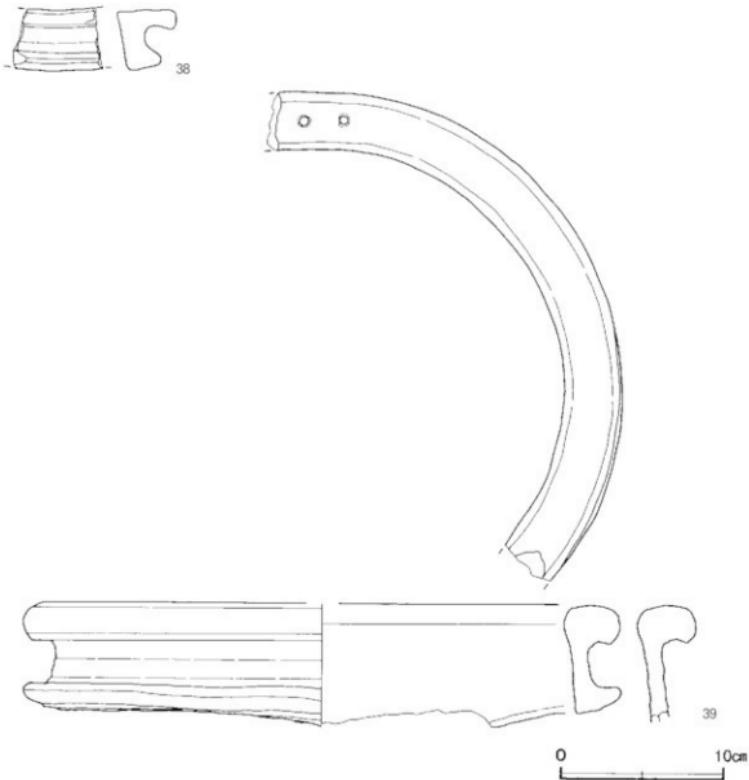
遺物出土状況 土師質土器片9点(焰烙6、竈釣3)、陶器片2点(碗、擂鉢)、磁器片8点(碗7、小鉢1)、粘土塊1点、自然縫3点が出土している。39は南東端部の覆土下層、38は南東部の覆土上層からそれぞれ出



第154図 第3号溝跡実測図

土している。陶器、磁器は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から江戸時代後期と考えられる。性格は形状から第4号溝跡の後に流路を変えた排水用の溝と考えられる。



第155図 第3号溝跡出土遺物実測図

第3号溝跡出土遺物観察表（第155図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
38	土師質土器	甕	—	3.7	—	長石・石英・ 滑石	にぶい橙	普通	外・内面ナデ	覆土下層	5%
39	土師質土器	甕	[34.0]	(7.5)	—	灰白・石英・ 滑石	にぶい橙	普通	外・内面ナデ	覆土下層	30% PL53

第4号溝跡（第123・155図）

位置 調査区東部のB 6 e9～B 7 f3区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号墳を掘り込み、第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 B 6 e9 区から南東方向 (N = 110° - E) へ直線状に延び、B 7 f3 区で第3号溝に掘り込まれて失われている。北西端部は調査区域外に延びているため、確認できた長さは 12.96 m で、上幅 0.41 ~ 0.50 m、下幅 0.17 ~ 0.36 m である。深さは 30 ~ 46 cm で、南東部が 16 cm ほど深くなっている。断面形は U 字形である。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 黑褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック少量

3 黑褐色 砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量

遺物出土状況 陶器片 1 点 (擂鉢)、瓦片 1 点が覆土中から出土している。細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土陶器から江戸時代後期と考えられる。性格は第3号溝以前の排水用の溝と考えられる。



第 156 図 第 4 号溝跡実測図

表 26 江戸時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規 模			断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)					
2	B 6 d0 ~ B 7 e6	N = 84° - W	直線状	(2345)	0.66 ~ 1.25	0.15 ~ 0.86	34 ~ 43	逆台形	外傾	人為	土師質土器片、瓦質土器片 TM1 → 本路 → SF1
3	B 6 h9 ~ B 7 i5	N = 85° - W N = 73° - W N = 150° - W	U字形	(3432)	0.39 ~ 0.69	0.06 ~ 0.32	58 ~ 70	U字形	外傾	人為	土師質土器片、陶器片、瓦質土器片 TM1、SK36・50 → SD 4 → 本路
4	B 6 e9 ~ B 7 f3	N = 110° - E	直線状	(1296)	0.41 ~ 0.50	0.17 ~ 0.36	30 ~ 46	U字形	外傾	人為	陶器片、瓦片 TM1 → 本路 → SD3

4 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期不明の土坑 2 基、溝跡 1 条を確認した。以下、遺構について記述する。なお、溝跡の平面図は全体図に示す。

(1) 土坑

第 9 号土坑（第 157 図）

位置 調査区西部の B 2 d8 区、標高 13 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区域外へ延びているが、径 0.40 m ほどの円形と推定できる。深さは 72 cm である。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上っている。

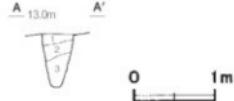
覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量

2 黑褐色 ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量

3 黑褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量



第 157 図 第 9 号土坑実測図

所見 時期は、第3号堅穴建物跡を掘り込んでいるため、5世紀中葉以降と考えられるが、出土遺物がないため、詳細な時期は不明である。また、性格も不明である。

第33号土坑（第158図）

位置 調査区東部のB7h2区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

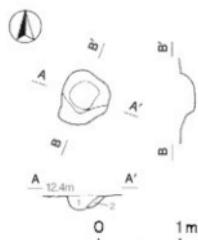
規模と形状 長径0.67m、短径0.61mの楕円形で、長径方向はN-40°-Eである。深さは17cmである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、黒色土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

所見 時期は、出土遺物がないため不明である。また、性格も不明である。



第158図 第33号土坑実測図

表27 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
9	B7d8	-	(円形)	0.43×0.40	72	平坦	外傾	人為		SI3-本跡
33	B7h2	N-40°-E	楕円形	0.67×0.61	17	平坦	緩斜	人為		

(2) 溝跡

第5号溝跡（第123・159図）

位置 調査区東部のB7d4～B7d5区、標高12mほどの台地平坦部に位置している。

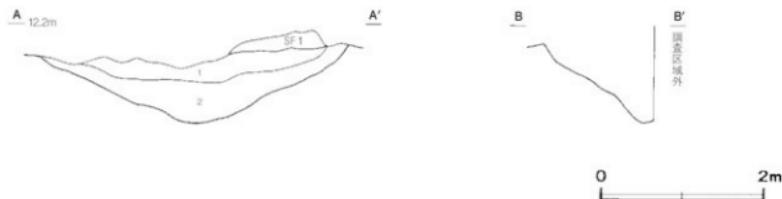
重複関係 第1号道路に掘り込まれ、積み上げられている。

規模と形状 B7d4区から北方向(N-0°)へ直線状に延び、調査区外へ至っているため、長さは1.48m、上幅3.54m、下幅0.80m、深さ96cmしか確認できなかった。断面形、底面ともに不明である。

覆土 2層に分層できる。混入物が少なく周囲からの流入を示す状況から自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量



第159図 第5号溝跡実測図

所見 時期は、第1号道路に掘り込まれ、積み上げられているため、江戸時代後期よりも古いが、出土遺物がないため時期は不明である。また、覆土が第1号墳周溝の覆土と似ており、古墳の周溝の可能性があるが、調査区域内の範囲では根拠に乏しいため、性格も不明である。

(3) 遺構外出土遺物（第160図）

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表を掲載する。



第160図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第160図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	繪付	釉色	產地	年代	出土位置	備考
40	陶器	天目茶碗	-	(2.2)	[4.6]	長石	にい・黄澄	-	黒	瀬戸	16世紀前葉	表土	20% PL53

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	特徴ほか	出土位置	備考
41	土師質土器	鉢	-	(6.5)	-	長石・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ・底部外面乳状沈殿文	表土	19世紀前葉	5% PL53
42	土師質土器	深鉢	[17.6]	(7.6)	-	長石・石英・赤母	にい・赤褐	普通	内面ナデ・透し穴外側からの丸孔・外面に横行着	表土	19世紀前葉	5% PL53

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 8	陶文土器	深鉢	長石・石英	灰褐	口縁部無文帶・脇部擦痕文・口縁部に補修孔	SD 1 覆土中	箱根古式 PL47
TP 9	陶文土器	深鉢	長石・織維	棕	脇部直前段合撫・LR 繩文	調査区西部 表土	箱根古式 PL47
TP10	陶文土器	深鉢	長石・石英	明黄褐	脇部手裁竹管による集合沈殿文	SD 1 覆土中	箱根C式 PL47
TP11	陶文土器	深鉢	長石・石英・織維	にい・橙	口縁部目般圧痕文・細い縦帶文に刻目・脇部擦痕文	調査区西部 表土	箱根D式 PL47
TP12	陶文土器	深鉢	長石・石英	にい・褐	波紋口縁・口縁部手裁竹管による糸形文とその間刺突文・脇部擦痕文	調査区西部 表土	箱根A式 PL47
TP13	陶文土器	深鉢	長石・雲母	にい・赤褐	口縁部突出・角押による条線文・脇部角押による区画文・外・内削り穿孔釘目	調査区西部 表土	箱根1b式 PL47
TP14	陶文土器	深鉢	長石・石英	にい・赤褐	脇部粘土被貼付け・單壠 LR 繩文	SD 1 覆土中	箱根E式 PL47
TP15	陶文土器	深鉢	長石・雲母	明黄褐	口縁部斜起輪文・單壠 RL 繩文・貼痕文	調査区西部 表土	安行1式 PL47
TP16	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にい・赤褐	脇部条綱文・接觸貼付文	調査区西部 表土	安行2式 PL47
TP17	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	棕	口縁部手裁竹管による条線文	SD 1 覆土中	安行2式 PL47

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	円筒埴輪	(47)	(4.3)	1.5	(249)	長石・石英・赤色粒子	棕	外周凸帯下に輪状のハケ目・内面ヘラナデ・外周に黒斑	調査区東部 表土	PL53

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 9	鐵	26	1.5	0.4	1.3	チャート	無系繩・両面押圧剥離	TM 1 到達 覆土中	鍛冶後期 PL48
Q 10	鐵	24	1.6	0.6	2.4	チャート	円基無系繩・両面押圧剥離	調査区東部 表土	鍛冶後期 PL48
Q 11	帶製石斧	(6.0)	(4.0)	(1.6)	(60.8)	ホルンフェルス	基部欠損・定角式・全面研磨	調査区東部 表土	PL48
Q 12	砥石	7.0	4.9	2.5	(139.5)	凝灰岩	砥面4面・一部側付着	調査区東部 表土	PL53

第4節 まと め

1 はじめに

今回の調査で、堅穴建物跡5棟、古墳1基、土坑51基、道路跡1条、溝跡5条を確認した。それらの遺構は縄文時代、古墳時代、江戸時代に位置づけられ、断続的な土地利用の状況が明らかとなった。ここでは、時代順に特徴ある遺物と遺構について概観し、各時代についての若干の考察を加え、まとめとしたい。

2 縄文時代

当時代の遺構は土坑49基を確認した。出土土器から早期前半（夏島式期）、前期前半（花積下層式期・関山式期・黒浜式期）、後期前半（称名寺式期）の大きく3時期にまとまる。のことから、宿北遺跡、宿東遺跡共に、奥東京湾の水域が形成されたのは、前期前半に相当するため、奥東京湾の水域が形成された頃から集落が営まれたことが当遺跡でも明確となった。

今回は、調査区が西部と東部に分かれているため、調査区別にみていくと、西部で土器の出土している土坑は、第1・3・4・5・10・12号土坑の6基である。出土土器から早期前半が第3号土坑、前期前半が第1・4・5・10・12号土坑である。他に、遺構外から前期後半（諸磯式・興津式）、中期前半（阿玉台式）、後期（堀之内式、安行1・2式）土器片の出土が若干みられたが、遺構は確認できなかった。

遺構の分布状況は調査区域が狭小なため、不明な点が多いが、早期では土坑1基が調査区域内の南寄り、前期は弧を描くような形で南側へ展開しているようにみられる。調査区東部では土器の出土している土坑は第29・51号土坑である。出土土器から後期前半で、遺構の分布状況は調査区域の北側と南側に散在している。その他の土坑は形状や覆土の状況が似ているが、出土遺物がないため、詳細な時期は不明である。

以上のように今回の調査区では、堅穴建物跡は確認できなかった。調査区が約120m離れているため、不明な点が多いが、早期、前期の遺構は西側に展開する可能性がある。いずれも当時代の土坑の性格は、形状や配置状況¹⁾から、貯蔵穴や墓坑の可能性はあるが掘り込みが浅く遺物が少ないため不明である。

3 古墳時代

当時代の遺構は、堅穴建物跡5棟、古墳1基、溝跡1条を確認した。当遺跡の中心となる時代である。出土遺物は、土師器（壺、桶、甕、小形甕、瓶、手捏土器）、須恵器（壺、長頸甕、甕）、石製模造品（勾玉、有孔円盤）である。出土土器の特徴から5世紀中葉から後葉及び7世紀後葉に比定できる。以下遺構別に概観し、遺跡の性格について考察する。

堅穴建物跡

調査区西部で4棟、調査区東部で1棟を確認した。出土土器は土師器壺は有段口縁が退化し、わずかに段を有し、頭部は直立ぎみの特徴をもつ5世紀中葉のものと、土師器の壺は、体部の調整にヘラ磨き、器形に平底と丸底のものがみられ、須恵器壺の模倣が特徴の5世紀後葉に分けられる。

出土土器から5世紀中葉のものが第3号堅穴建物跡、5世紀後葉のものが第1・2・4号堅穴建物跡で、第5号堅穴建物跡は出土土器片が細片のため不明である。また、第1・2号堅穴建物跡以外の3棟は調査区域外へ伸びている部分が多いこと、搅乱や後世の遺構に掘り込まれているため形状や遺物出土状況など不明な点が多い。調査区域が狭小なため、不明な点もあるが、明確な範囲内で第1・2号堅穴建物跡の出

土状況、遺構の性格について概観する。

第1号堅穴建物跡では、土師器の壺、瓶、甕が南部や貯蔵穴内に集中して出土している。特に赤彩が施された壺はほぼ完形で3点出土し、2点が南西部に床面から正位の状態で、残りの1点が貯蔵穴内に投げ込まれた状態で覆土中から出土している。その他、南東部から石製模造品の勾玉が1点出土している。このような出土状況から、堅穴建物の廃絶後に行われたマツリの痕跡と考えられる。

第2号堅穴建物跡は焼失建物で、主柱穴より外側に炭化材と焼土が確認できる。土師器の壺、甕片が全体に散在しており、特に北東部に集中してみられる。手捏土器は正位の状態で北東部の隅に意図的に置かれたような状態で床面から出土している。また赤彩が施された壺は、北壁の中央部寄りの床面から逆位の状態で、南東部の壁際に正位の状態で覆土下層からそれぞれ出土している。さらに、石製模造品の勾玉は南東部の覆土中層から、有孔円板は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

炭化材と焼土の出土状況から、石野博信氏の火災住居（焼失堅穴建物跡）タイプ別分類²⁾によると、出土土器に破片が多いことと炭化材と焼土が主柱穴より外側に分布していることから、堅穴建物の中央部を火元とする意図的な放火とみられる。さらに赤彩土器や手捏土器が意図的に置かれたような状態で出土していることや、石製模造品の出土などから、堅穴建物の廃絶に伴う意図的な焼失によるマツリの痕跡と考えられる。

古墳

調査区東部で1基を確認した。調査区域が狭少で、一部分の調査にとどまっているため、不明な点が多い。調査区域の範囲では古墳の形状は方墳とも円墳ともみられ、判断し難い。南部で周溝が完結しているため、ブリッジ（陸橋部の掘り残し）が南部に存在するものと考えられる。

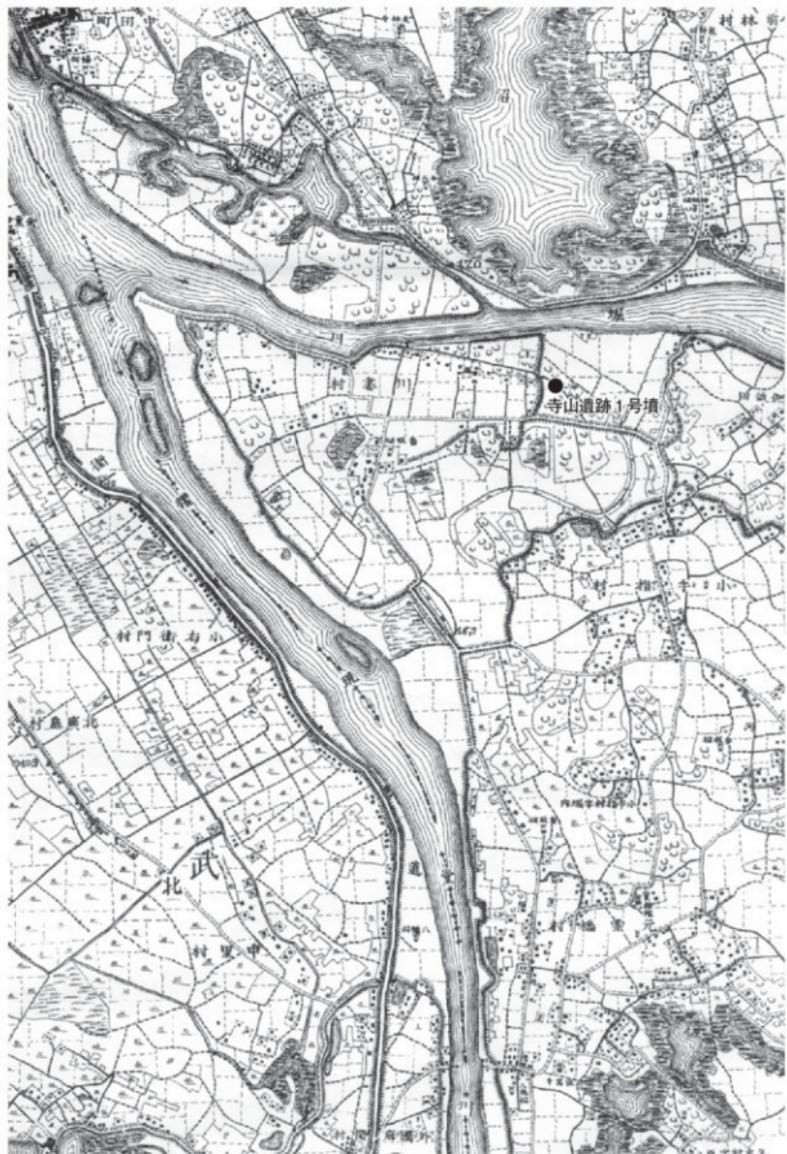
遺物は古墳の埴丘の土留めや石室の石材と考えられる軽石、緑泥片岩とともに完形の須恵器長頸壺と直刀が周溝から出土している。埴丘は古墳が築造されてから早い段階で、破壊されている可能性がある。したがって、副葬品と考えられ、須恵器長頸壺から7世紀後葉と考えられる。

同様の石材を横穴石室に使用している古墳に、当古墳から西へ約1kmほどに位置する直径30mの円墳である穴薬師古墳（時期は7世紀末と考えられている。）がある³⁾。穴薬師古墳は、北部武藏にみられる胴張りを示す石室と類似しており、類例として埼玉県行田市に所在する直径74mの円墳である八幡山古墳があり、榛名二ツ岳噴出の軽石（角閃石安山岩）と荒川上流の秩父で産出する緑泥片岩の両方を石室の石材に使用している⁴⁾。のことからも当古墳の石材も石室のものであったと考えられる。

江戸時代には、第2～4号溝によって破壊を受け、第1号道路の構築により埴丘は少なくとも切り通し状になっていたものと推測される。さらに、明治16年測量の參謀本部陸軍部測量局による地籍図『栗橋驛』（第161図）によると、当古墳の位置には道路がみえ、他の部分はすでに畠地となっているため、明治16年にはすでに開墾により古墳の埴丘は消滅したものと考えられる。次に出土遺物について検討する。

(1)須恵器について

須恵器は、高壺、甕、長頸壺が出土している。胎土が緻密で微砂粒を含み、色調に白味がある特徴から湖西窯産と考えられる。湖西窯の製品は、拡大期の7世紀から8世紀前半には伊豆諸島でも出土が確認されるなど海上ルートを通じて関東諸国に多量に流入し、東北地方までもその搬入が知られている⁵⁾。県内の古墳で湖西窯須恵器の出土例は、北茨城市神岡上第3号墳、日立市六ツヶ塚古墳、ひたちなか市大平1号墳、同市新道第2号墳、桜川市（旧岩瀬町）山ノ入第2・3・5・7・14・17号墳、東海村第12号墳、



第 161 図 地籍図「栗橋驛」(明治 16 年測量參謀本部陸軍部測量局測量) (一部加筆)

行方市（旧北浦町）成田第2・3・6・7号古墳、行方市（旧大洋村）梶山古墳、同市大峰山第4号墳、潮来市大生西西1号墳、石岡市染谷道祖神1号墳、つくば市羽成第7号墳、土浦市寺家ノB遺跡第3号墳、同市寿行地古墳、常総市（旧水海道市）大塚戸第5号古墳が挙げられ、県南から県北まで及んでいる。それらの地域は河川流域や太平洋沿岸に面しており、当時の交易ルートと考えられる。さらに古墳以外の横穴墓や集落跡からも出土がみられる⁶⁾。当古墳も古利根川の流域に立地していることから湖西産須恵器の交易ルートに位置していたとみられる。

(2)直刀について

直刀は、周溝覆土上層の墳丘側から多量の人頭大の軽石とともに流れ込んだ状態で出土している。平棟平造りの大刀で、切先から48cmほどでくの字状に曲がった状態で出土している。通常土圧等の自然の力が加われば折れてしまい、人為的に折り曲げたものと考えられる。さらに吊金具、鞘口金具が遺存することから、鞘ごと曲げられた可能性がある。この湾曲した直刀の出土例は、茨城県内では初の出土であり、県外で管見に触れるものとしては京都府城陽市西山2号墳（4世紀）⁷⁾、広島県神辺町道上5号墳（4世紀）⁸⁾、栃木県小山市溜ノ台遺跡1号古墳（5世紀後半）⁹⁾、奈良県御所市石光山古墳群8号墳（6世紀）¹⁰⁾、奈良県葛城市（旧新庄町）寺口忍海古墳群H-17号墳（7世紀）¹¹⁾、群馬県前橋市小堀荷遺跡3号墳（7世紀）¹²⁾が挙げられる。さらに古墳ではないが長野県上田市（旧丸子町）鳥羽山洞窟遺跡（5世紀中葉）¹³⁾では古墳を築かずして洞窟内に遺体を安置する風葬に似た特殊な葬り方の埋葬^{けうそう}と呼ばれる洞窟遺跡においても、曲げられた直刀が出土している。

これらは、埋葬施設からの出土例が多い。しかし、後世の盗掘や墳丘の破壊により必ずしも原位置を保っているかは不明である。当古墳の出土状況はこの中の溜ノ台遺跡1号古墳と似ているが、両者ともに墳丘が崩された時に、周溝内に埋没したものと考えられる。このように曲げられた直刀の古墳からの出土例は全国的にも少ない。同じ古墳群の中でも通常の直刀を副葬する古墳の中に、1基のみ副葬していることからもその被葬者に対して特別な意味があったものと考えられる。

この曲げられた直刀についての研究は佐々木隆彦氏¹⁴⁾が古く、その被葬者に対して現世に復活することへの畏怖を表現したものとしている。清家章氏¹⁵⁾は、中国の西晋時代の仙道学の葛洪が記した『神仙伝』（葛洪 1969）の内容に刀を曲げて鏡に変化させるという呪法が伝えられているという記述から、鏡が副葬されないあるいは少数しか副葬されない墳墓に鏡の代わりとして副葬したとしている。また、道上5号墳整理担当者の古瀬裕子氏は、「・・・折り曲げ」という行為の中に何らかの正當ではない事実を封じ込める意味があったのではないかと考えられるのである。たとえば、何らかの事故や疫病によって死亡した場合が折り曲げ鉄器の副葬に結びつく可能性を想定したいのである。」¹⁶⁾と推測している。以上のように類例も少なく、明確な根拠に結びつく結論が出ていない。後世になると、静岡県牧の原市堂ヶ谷経塚（平安時代）からも刀を折り曲げて埋納されている事例がある¹⁷⁾。鞘部分の木目が遺存するため、鞘ごと曲げられていることが判明している。後世の仏教の信仰にも思想の違いがあるにせよ古墳時代の行為との共通性から、比較検討することによって折り曲げる行為のヒントになるものと思われる。さらに、全国でも48地点60例と類例の少ない蛇行剣の出土例がある。その副葬に関する考察では「蛇行剣は葬送に伴う儀礼・祭祀行為の中で使用された祭祀具の一種として位置づけることができ、その性格は多分に靈威性を内包したものと判断する。」と論じられている¹⁸⁾。この蛇行剣と曲げられた直刀との意味の違いがあるか否かも今後の検討課題となる。

溝跡

調査区西部で1条確認した。調査区域の北部を東西方向に調査区域外へ延びている。断面形は逆台形で、堀の形状をしている。土師器片が全域に散在して、覆土中層から下層に集中して出土している。

器種は、土師器椀、坏、高坏、甕、手握土器で、坏は内面の稜がなくなり体部の調整にヘラ磨き、丸底と平底のものがある。また、高坏の脚部が短くなる特徴から時期は5世紀後葉と考えられる。赤彩を施した坏や手握土器が出土していることから廃絶に伴う祭祀が行われていたものと考えられる。溝の性格は、時期が堅穴建物跡と同時期であることから、集落を区画する溝と考えられる。

小結

当時代では、区画溝を伴う5世紀中葉から後葉の集落跡、7世紀後葉の古墳を確認した。5世紀の集落の範囲と性格、当古墳と時期の近い穴薬師古墳との関係と墓域の範囲が、今後の調査の課題となる。

4 江戸時代

当時代の遺構は、調査区東部で道路跡1条、溝跡3条を確認した。出土遺物は、土師質土器（焰焰、甕鉢）、瓦質土器（火鉢）、陶器（碗、擂鉢）、磁器（碗、火鉢）である。出土土器の特徴や利根川の氾濫層に埋れていることから18世紀後葉から19世紀前葉に比定できる。以下遺構別に概観し、遺跡の性格について考察する。

道路跡

調査区東部で1条確認した。調査区域の北部を東西方向に延び、調査区域外へ延びている。第1号埴、第2号溝跡を掘り込んでいる。第2号溝跡からは18世紀後葉の土器が出土しているため、道路は18世紀後葉以降に構築され、宿北遺跡で19世紀前葉の陶器片が確認できた利根川氾濫層に相当する洪水層に覆われていたため、19世紀前葉まで使われていたと考えられる。道路の方向は東が関宿、西は古河の方向を向いているが、調査範囲が狭小なため不明である。当道路跡の時期より古い享保14年（1729）作成の絵図『下総国高都合并郡色分図』（境町歴史民俗資料館寄託小松原康之助家文書）¹⁹⁾に、五霞町を東西に走向する一本の道路が描かれている。この道は関宿から江川を通り、川妻の赤堀川の渡しを渡り古河と結んでいる。絵図に描かれた道路の枝道、あるいは洪水によって造り変えたものかどうかは不明であるが、方向が同じであるため、古河と関宿を結んでいた可能性はある。

溝跡

調査区東部で3条確認した。調査区域内の北部と中央部を東西に走り区域外へ延びている。第2号溝跡は18世紀後葉である。第3号溝と第4号溝跡は前者が後者を掘り込んでいる。出土した土器、陶器、磁器片が細片のため、第3・4号溝跡の詳細な時期は不明であるが、利根川氾濫層に相当する洪水層に覆われていたため、19世紀前葉まで機能したと考えられる。

その性格は、宿北遺跡のまとめでも述べたように、元和7年（1621）の赤堀川（現在の利根川の流路）の開削によって、洪水の被害が多くなったため、低い土地に溜まった悪水を排水する用途で掘られた可能性がある。

5 おわりに

今回の調査では、遺跡の一部にすぎないが、縄文時代には断続的に貯蔵穴や墓域として土地利用されていた。その後、空白の時代をおいて古墳時代中期に集落が営まれ、古墳時代後期に墓域として土地利用されていた。江戸時代には、関宿と古河を結んでいたと考えられる道路や洪水対策として水路が掘削されていたことが判明

した。今後の調査により、近接する宿北・宿東遺跡の同時代の遺構との関係や時代による土地利用の違いがより明確となることを期待したい。

註

- 1) 石井寛「関東地方における集落変遷の画期と研究の現状」第1回研究集会発表要旨『縄文時代集落研究の現段階』縄文時代文化研究会 2001年12月
- 2) 石野博信「日本原始・古代の住居の研究」吉川弘文館 1991年5月
- 3) a 大森信英 高根信和「I 猿島都五霞村川妻穴薬師古墳」「茨城県埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」茨城県教育委員会 1970年3月
b 瓦次堅「穴薬師古墳」「茨城の考古学散歩」茨城県考古学協会 2010年5月
c 石室内を実見し、石室内の石材と寺山遺跡第1号墳出土の軽石とが内眼観察で同一であることが判明した。穴薬師古墳の軽石の産地は群馬県榛名山麓の二ツ岳から噴出した角閃石安山岩(軽石)と判明している。
- 4) a 原島礼二「第四章第三節 古墳社会の変容（四）横穴石室の石材分布」「新編埼玉県史 通史編1 原始・古代」埼玉県 1987年3月
b 大塚初重「大塚初重のレクチャー「古墳時代」の時間」学生社 2004年3月
c 角閃石安山岩(軽石)を用いた胴張り形石室は利根川流域に認められ、群馬県大泉町尊光寺付近遺跡3号墳の石室は穴薬師古墳の石室と良く似ている。(武部亮光「大泉町尊光寺付近遺跡 昭和63年度発掘調査概報」群馬県邑楽郡大泉町教育委員会 1989年3月)
- 5) a 木本靖「広域流通網の実態－湖西座を中心として－」『埼玉考古別冊9 埼玉県考古学会50周年記念シンポジウム古代武藏国の須恵器流通と地域社会』埼玉考古学会 2006年2月
b 佐藤敏幸 大久保弥生「宮城県の湖西座須恵器」「宮城考古学』第9号 宮城県考古学会 2007年5月
c 後藤健一「第2章 湖西座須恵器の流通」「古代窯業の基礎研究－須恵器窯の技術と系譜－」窯研究会編 真陽社 2010年5月
d 渥美賀吾「関東系土師器と湖西座須恵器と－土器のうごきからみた7世紀の東国－」『東国の地域考古学』川西宏幸編 六一書房 2011年3月
- 6) 黒澤秀雄「第6章 第4節まとめ」「茨城県教育財団文化財調査報告」第130集 1998年3月
- 7) a 堅田直 白石太一郎「京都府西山第1・2・5号墳発掘調査概報」「先史学研究」4 同志社大学 1962年3月
b 門田誠一「古墳出土の曲げられた鉄器について－同志社大学所蔵西山2号墳出土鉄劍の觀察から－」「文学部論集」第9号 同志社大学文学部 2006年3月
- 8) 三原稔宏 古瀬裕子 松下孝幸 小村美代子「道上第2・3・5号墳、門前2号墳跡 ローフェ株式会社本社拡張工事に係る理蟲文化財報告書」「財团法人広島県教育事業団発掘調査報告書」第6集 2004年3月
- 9) 秋山隆雄 武部亮光 福山俊彰「滝ノ台I 民間開発に伴う発掘調査報告－1－」「小山市文化財報告書」第49集 2000年3月
- 10) 白石太一郎 河上邦彦「葛城・石光山古墳群」「奈良県史跡名勝天然記念物調査報告」第31冊 奈良県教育委員会 1976年3月
- 11) 吉村幾温 千賀久「寺口忍海古墳群」「新庄村文化財調査報告書」第1冊 新庄村教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所 1988年11月
- 12) 荒井類二 平田貴正「群馬県前橋市小橋荷遺跡発掘調査報告書」前橋市教育委員会・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1987年3月
- 13) 関孝一 永峯光一「鳥羽山洞窟の調査－古墳時代葬所の素描と研究－」鳥羽山洞窟調査団 信毎書籍出版センター 2000年10月
- 14) 佐々木隆彦「折り曲げた副葬鉄器」「九州歴史資料館研究論集」23 九州歴史資料館 1998年3月
- 15) 清家章「折り曲げ鉄器とその意義」「待兼山論義」36 大阪大学大学院文学研究科 2002年3月
- 16) 註8)と同じ
- 17) 井鍋賢之「堂ヶ谷廢寺・堂ヶ谷経塚」「発掘された日本列島2012新発見考古速報」文化庁編 朝日新聞出版 2012年6月

- 18) 北山峰生 「第IX章2 副葬された蛇形剣－意義と特質に関する予察－」『石ノ形古墳』 静岡県袋井市教育委員会 1999年3月
- 19) 小野崎克己 「第六章 第二節 村の道と渡船場 1村の道」『町史 五霞の生活史 水と五霞』 五霞町 2010年3月

写 真 図 版

宿 北 遺 跡
宿 東 遺 跡
寺 山 遺 跡



調査区と周辺の地形（宿北遺跡）

PL1



遺跡全景



調査区全景

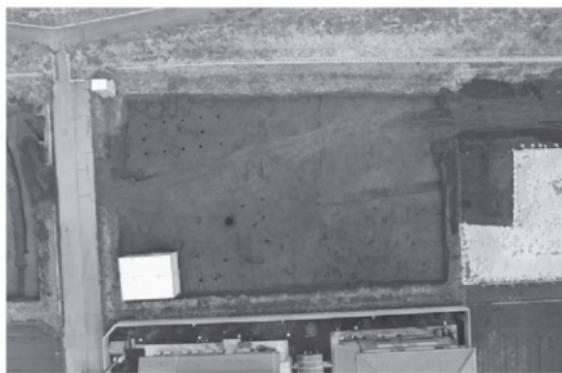
PL2



調査区西部



調査区中央部



調査区東部

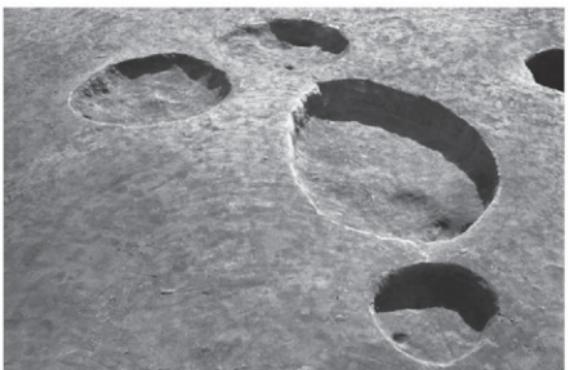
PL3



第 1 号 竖穴建物跡
完 挖 状 況



第 35 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況



第 29·30·34·35 号
土 坑 完 挖 状 況

PL4



第1号掘立柱建物跡
完 挖 状 況



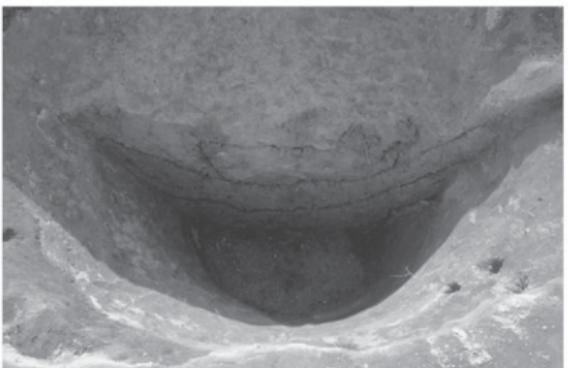
第2号掘立柱建物跡
完 挖 状 況



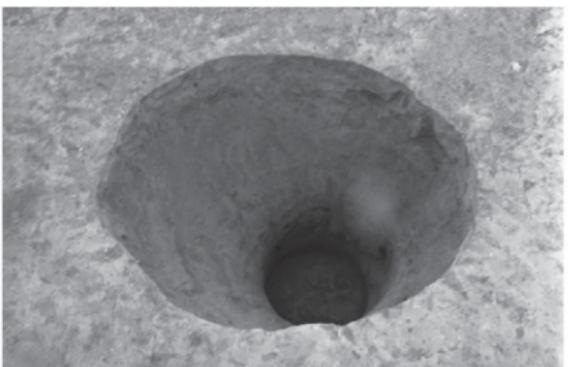
第3号掘立柱建物跡
完 挖 状 況

PL5

第 1 号 井戸跡
土層断面



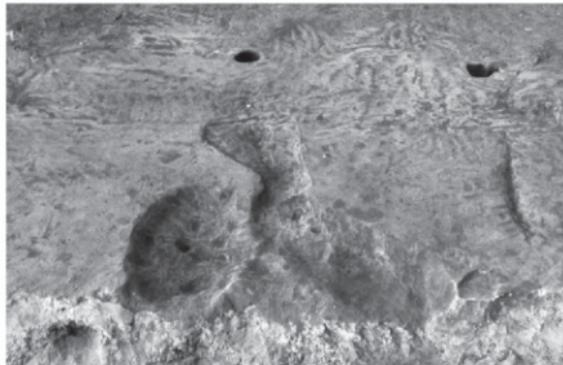
第 1 号 井戸跡
完掘状況



第 2 号 井戸跡
完掘状況



PL6



第 1 号 火 葬 施 設
完 挖 状 況



第 2 号 火 葬 施 設
完 挖 状 況



第 3 号 火 葬 施 設
遺 物 出 土 状 況

PL7



第1号地下式坑完掘状况①



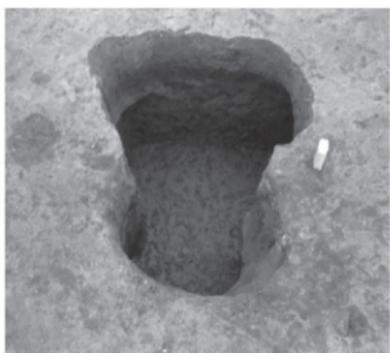
第1号地下式坑完掘状况②



第2号地下式坑完掘状况



第3号地下式坑完掘状况



第4号地下式坑完掘状况①



第4号地下式坑完掘状况②

PL8



第5号地下式坑炭化材出土状况



第5号地下式坑遗物出土状况①



第5号地下式坑遗物出土状况②



第5号地下式坑遗物出土状况③



第5号地下式坑完掘状况①



第5号地下式坑完掘状况②

PL9



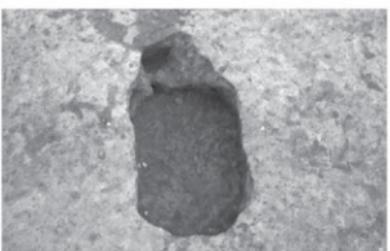
第5号土坑完掘状况



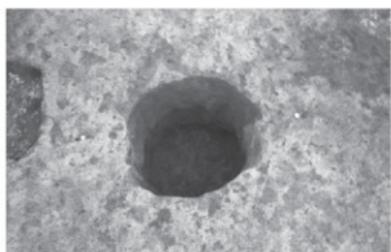
第18号土坑完掘状况



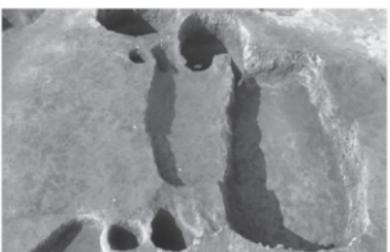
第42·43·57号土坑完掘状况



第43号土坑遗物出土状况



第58号土坑完掘状况



第80·91·92号土坑完掘状况



第87·88·89号土坑完掘状况



第134号土坑完掘状况



第1号堀跡土層断面



第1号堀跡遺物出土状況①



第1号堀跡遺物出土状況②



第1号堀跡完掘状況①

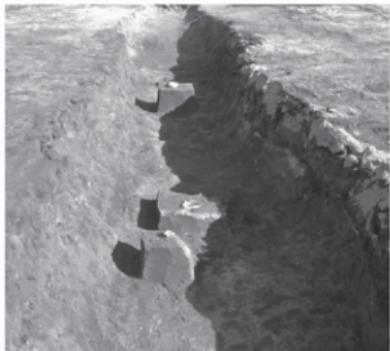


第1号堀跡完掘状況②・第7号溝跡完掘状況



第1号堀跡完掘状況③

PL11



第4号溝跡遺物出土状況①



第4号溝跡遺物出土状況②



第4号溝跡（北側）完掘状況①



第4号溝跡（北側）完掘状況②



第4号溝跡（東側）完掘状況



第4号溝跡（西側）完掘状況

PL12



第5号溝跡完掘状況



第6号溝跡完掘状況



第10号溝跡完掘状況



第11号溝跡完掘状況



第13号溝跡完掘状況①



第13号溝跡完掘状況②

PL13

第 1 号 柱 穴 列
完 挖 状 況

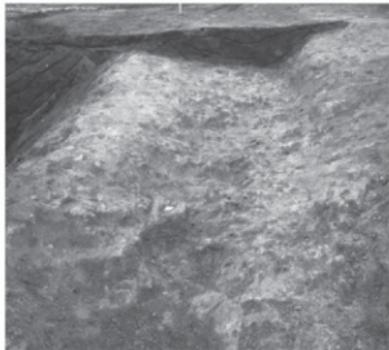


第 2 号 柱 穴 列
完 挖 状 況



第 3 号 柱 穴 列
完 挖 状 況

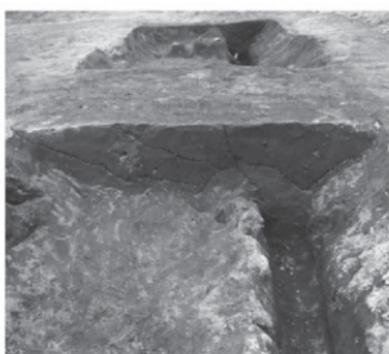




第7号溝跡土層断面



第9号溝跡完掘状況



第4・12号溝跡土層断面



第12号溝跡完掘状況

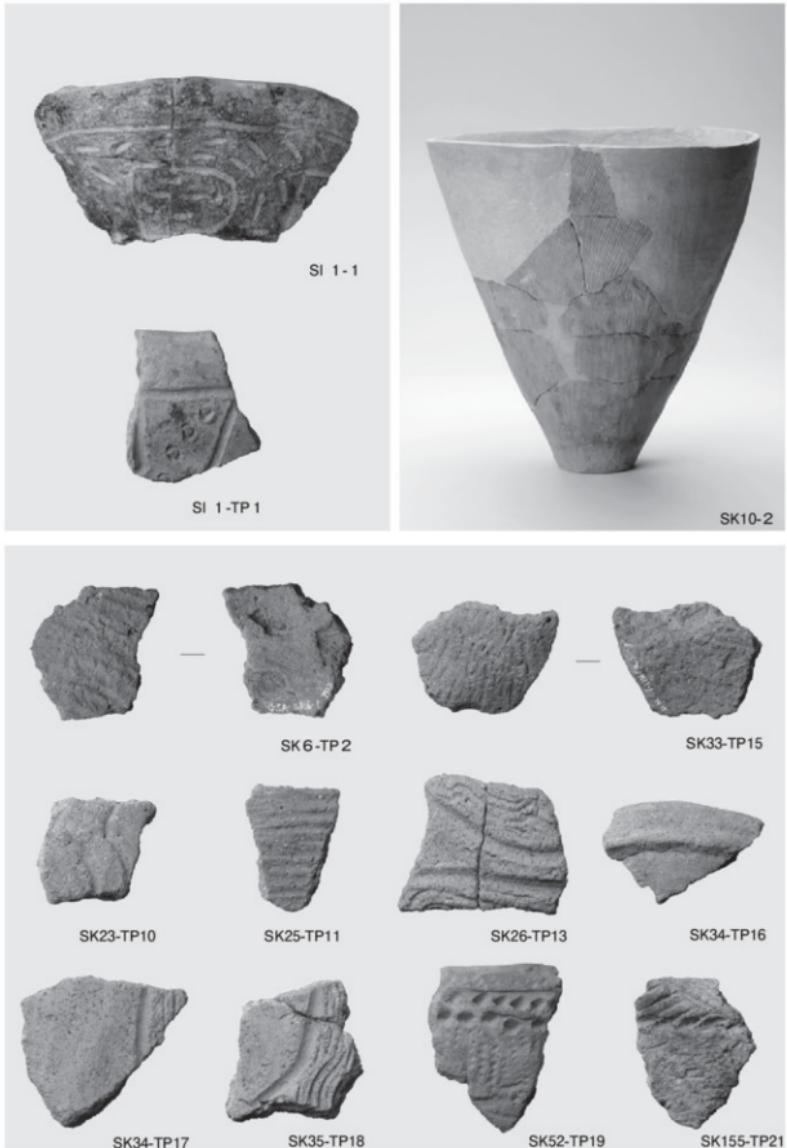


第2号溝跡完掘状況全景①



第2号溝跡完掘状況全景②

PL15



第1号竖穴建物跡、第6·10·23·25·26·33·34·35·52·155号土坑出土土器

PL16



第2号火葬施設-7



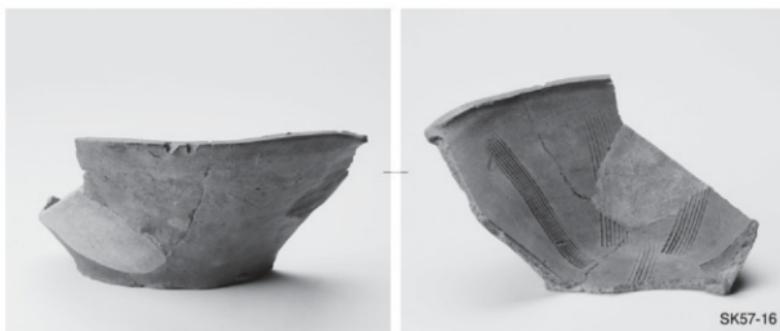
SK89-18



SK43-14



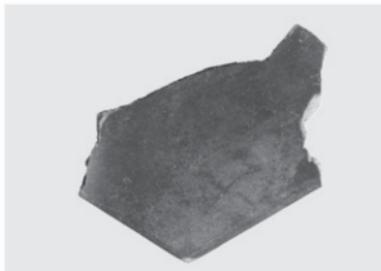
SK54-15



SK57-16

第2号火葬施設、第43・54・57・89号土坑出土土器

PL17

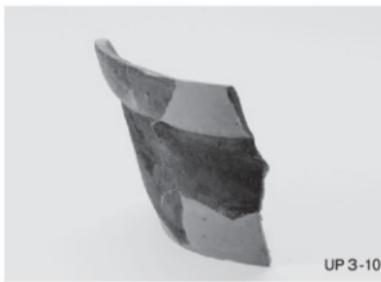
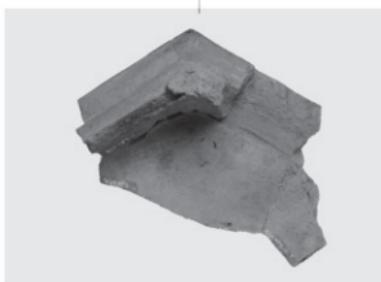


SE 1-M 1



UP 3-9

SE2-Q 1



UP 3-10

UP 4-Q 2

第1・2号井戸跡、第3・4号地下式坑出土土器・石器・金属製品



UP 4-M 2



UP 4-M 3



UP 4-M 4



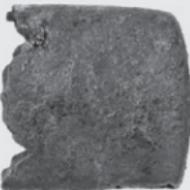
UP 4-M 5



UP 4-M 6



UP 4-M 7

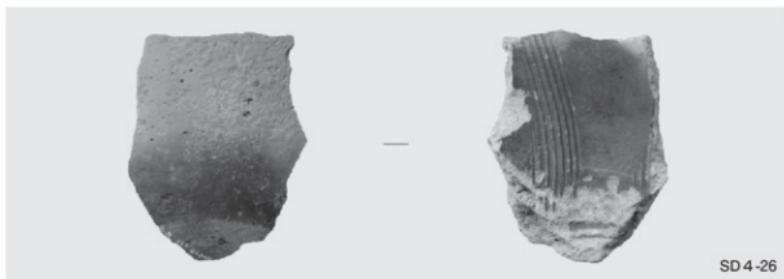


UP 5-M 8

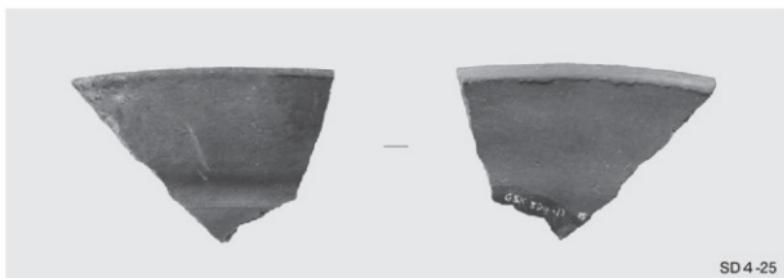
PL19



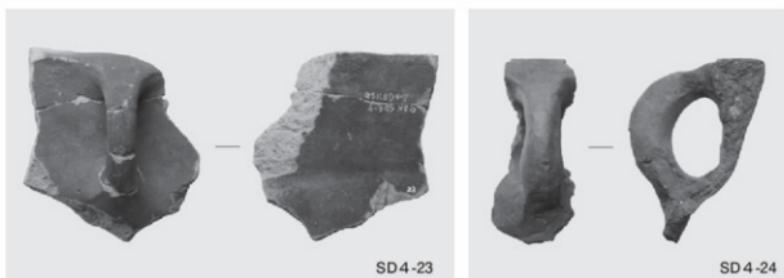
第1号堀跡-21



SD4-26



SD4-25



SD4-23

SD4-24

第1号堀跡，第4号溝跡出土土器



第7・9号溝跡出土土器・陶器・磁器・瓦・金属製品

PL21



TP22



TP24



TP25



TP23



TP26



TP27

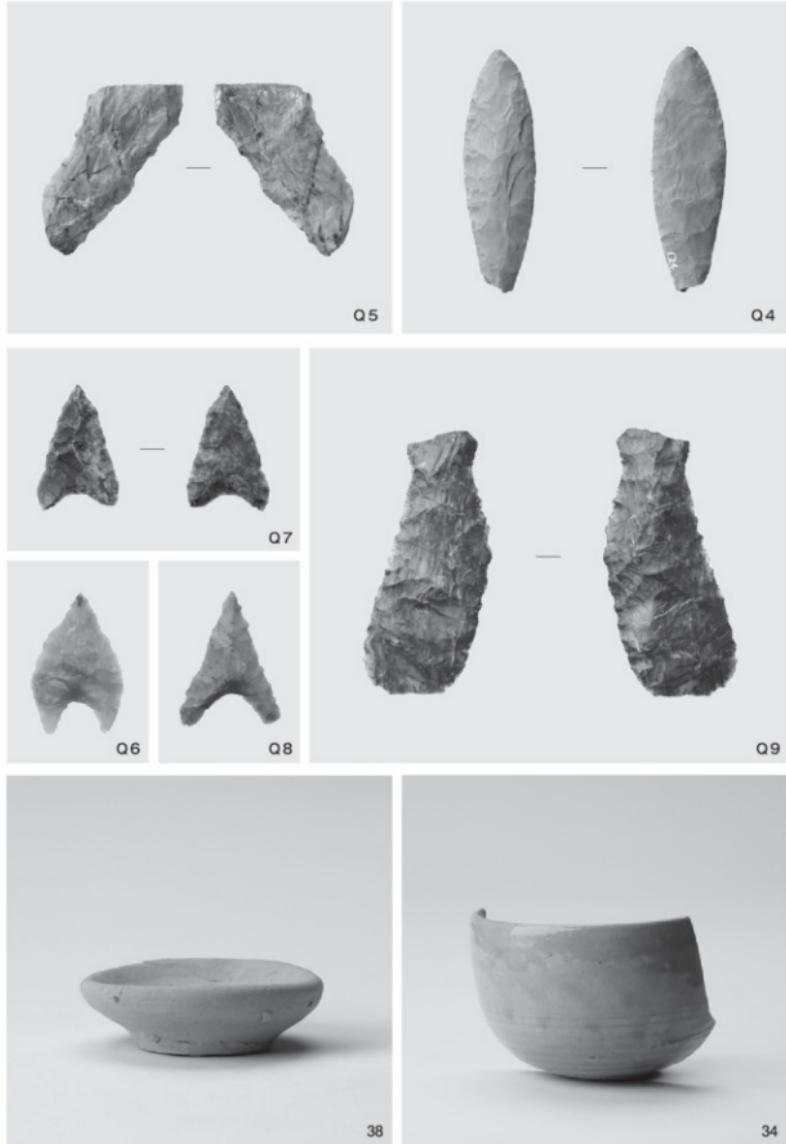


TP28



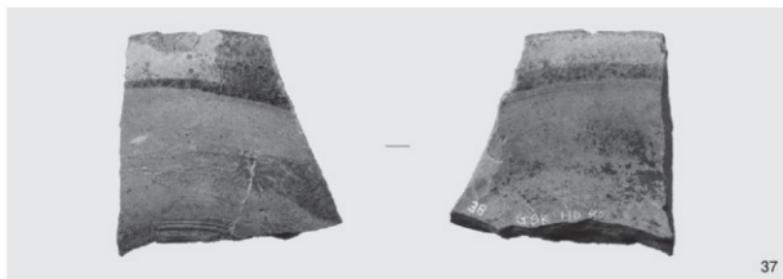
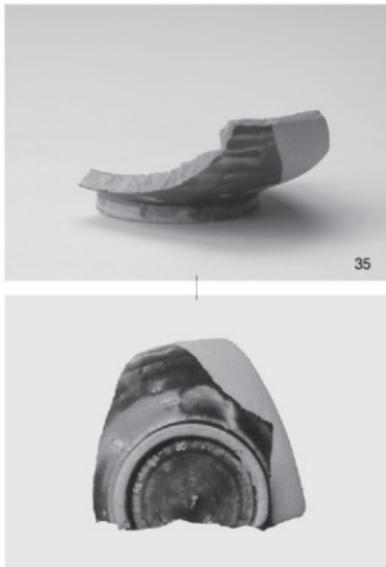
TP29

遺構外出土土器



遺構外出土土器・陶器・石器

PL23

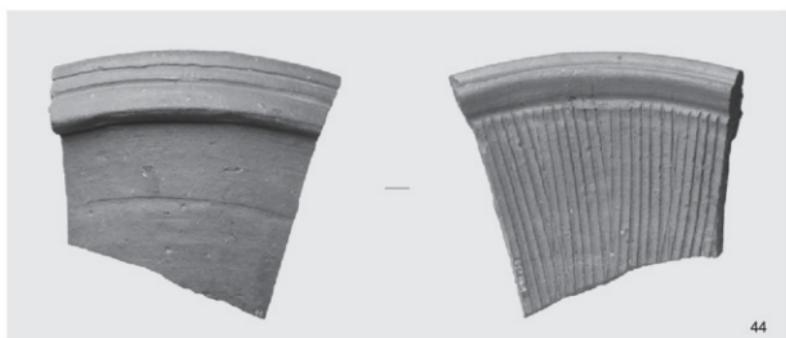


遺構外出土土器・陶器

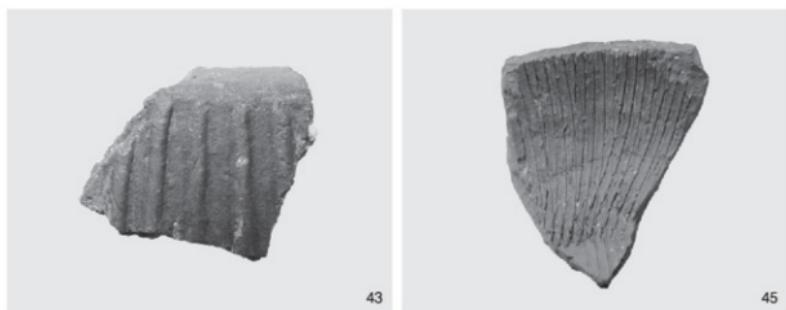
PL24



41



44



43

45



DP 1

DP 2

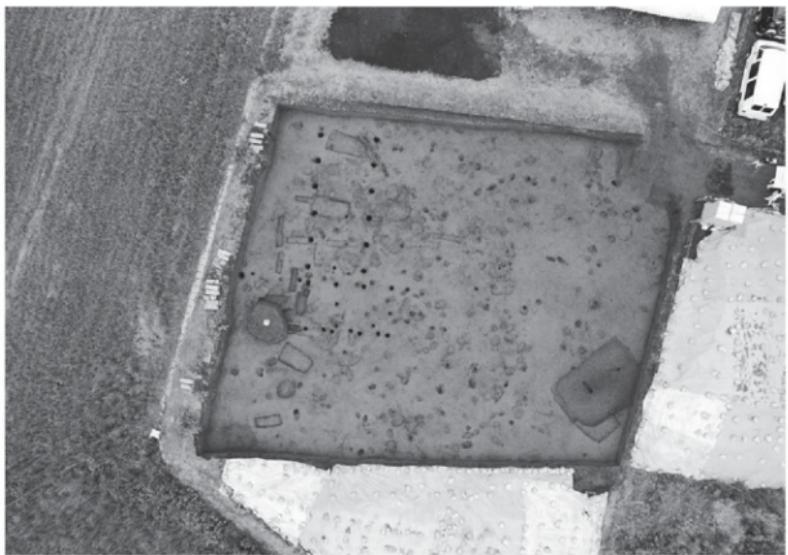
M 9

遺構外出土土器・陶器・土製品・金属製品

PL25



遺跡全景



調査区全景



第1号竪穴建物跡完掘状況



第1号竪穴建物跡遺物出土状況（上層）



第1号竪穴建物跡遺物出土状況（下層）①



第1号竪穴建物跡遺物出土状況（下層）②



第1号竪穴建物跡炉完掘状況

PL27



第1号土坑完掘状况



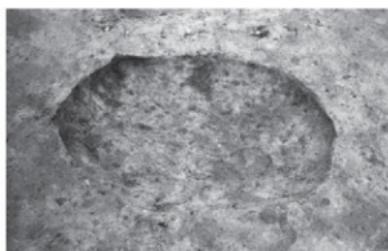
第2号土坑完掘状况



第20号土坑完掘状况



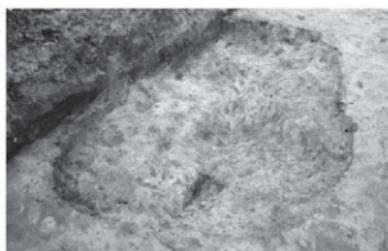
第21号土坑完掘状况



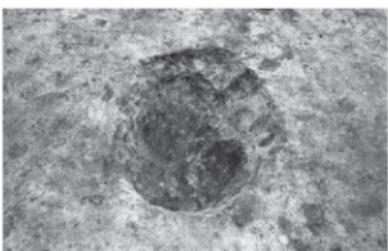
第31号土坑完掘状况



第45号土坑完掘状况



第53号土坑完掘状况



第68号土坑完掘状况

PL28



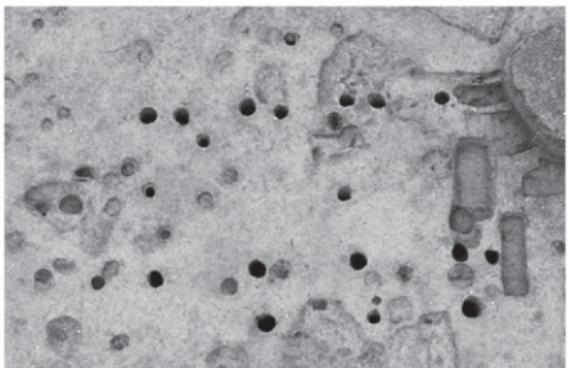
第1·2号掘立柱建物跡完掘全景



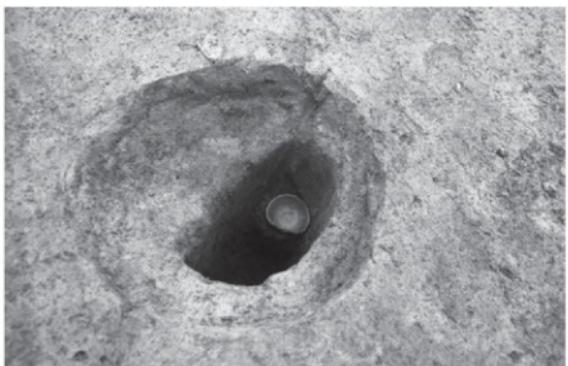
第1号掘立柱建物跡完掘状況

PL29

第2号掘立柱建物跡
完 挖 状 況



第2号掘立柱建物跡
P 3 遺 物 出 土 状 況



第 1 号 炉 跡
完 挖 状 況



PL30



第3・4号土坑完掘状況



第5号土坑完掘状況



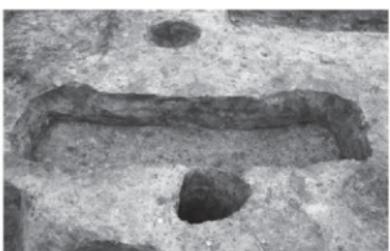
第16号土坑完掘状況



第38号土坑完掘状況



第64号土坑完掘状況



第65号土坑完掘状況

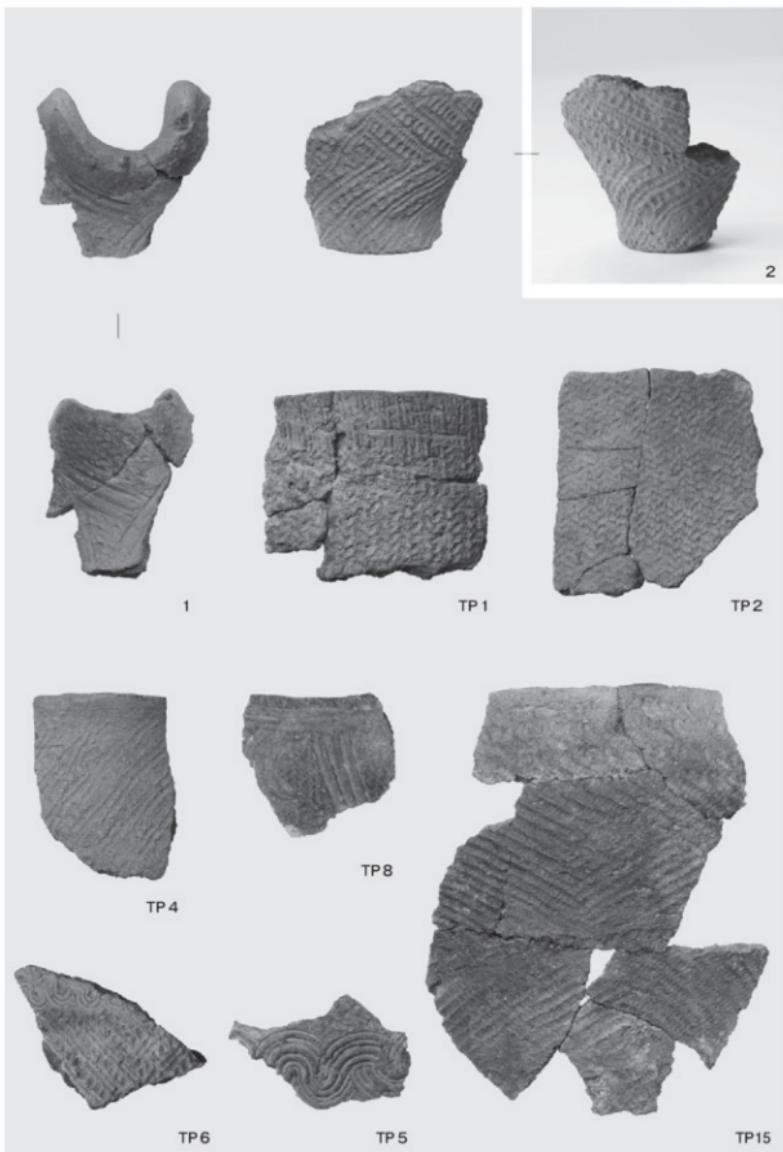


第66・67号土坑完掘状況



第1号ピット群P25・27・28・29完掘状況

PL31



第1号竪穴建物跡出土土器（1）



TP 7



TP 9



TP 3



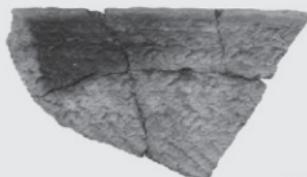
TP 10



TP 11



TP 12

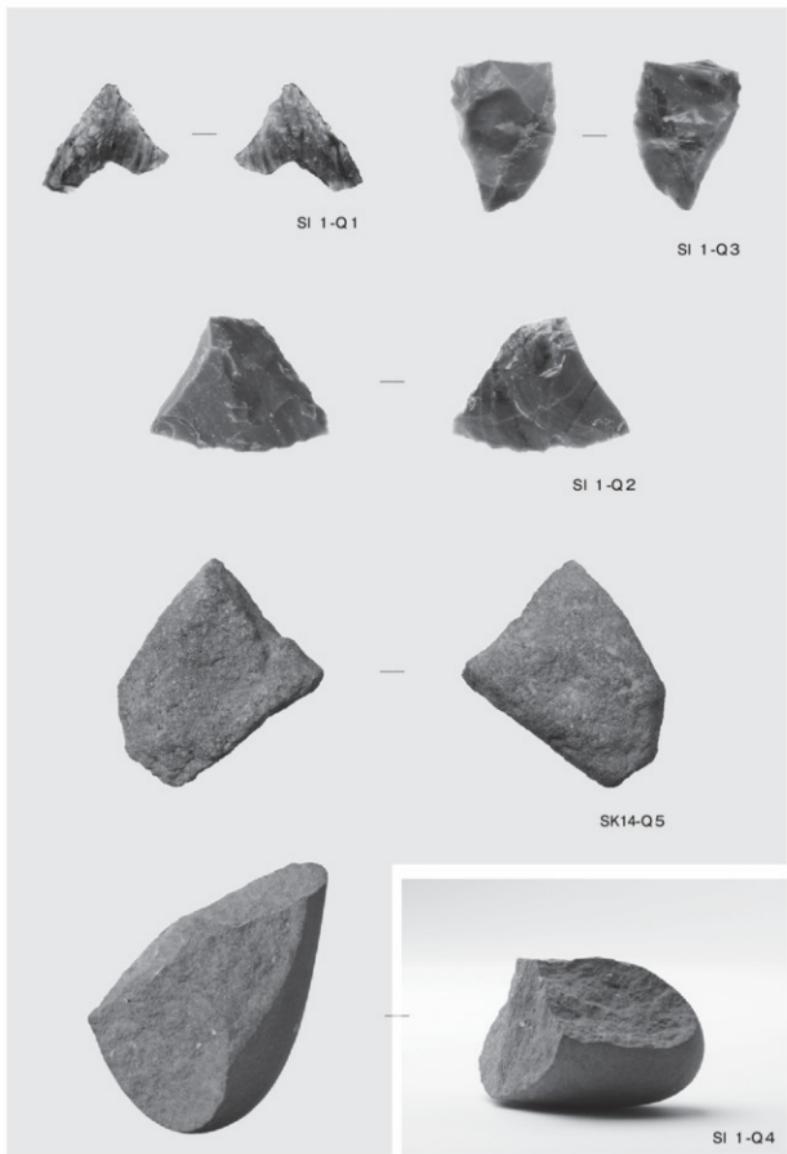


TP 13

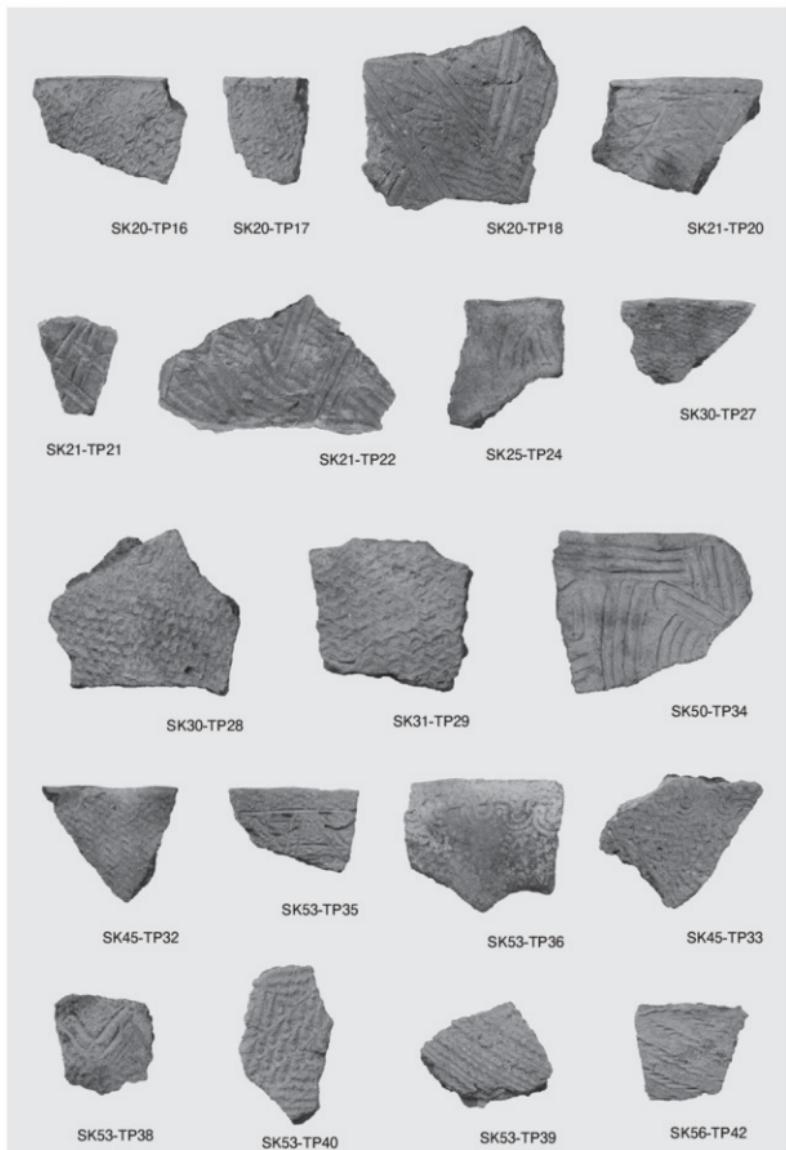


TP 14

PL33

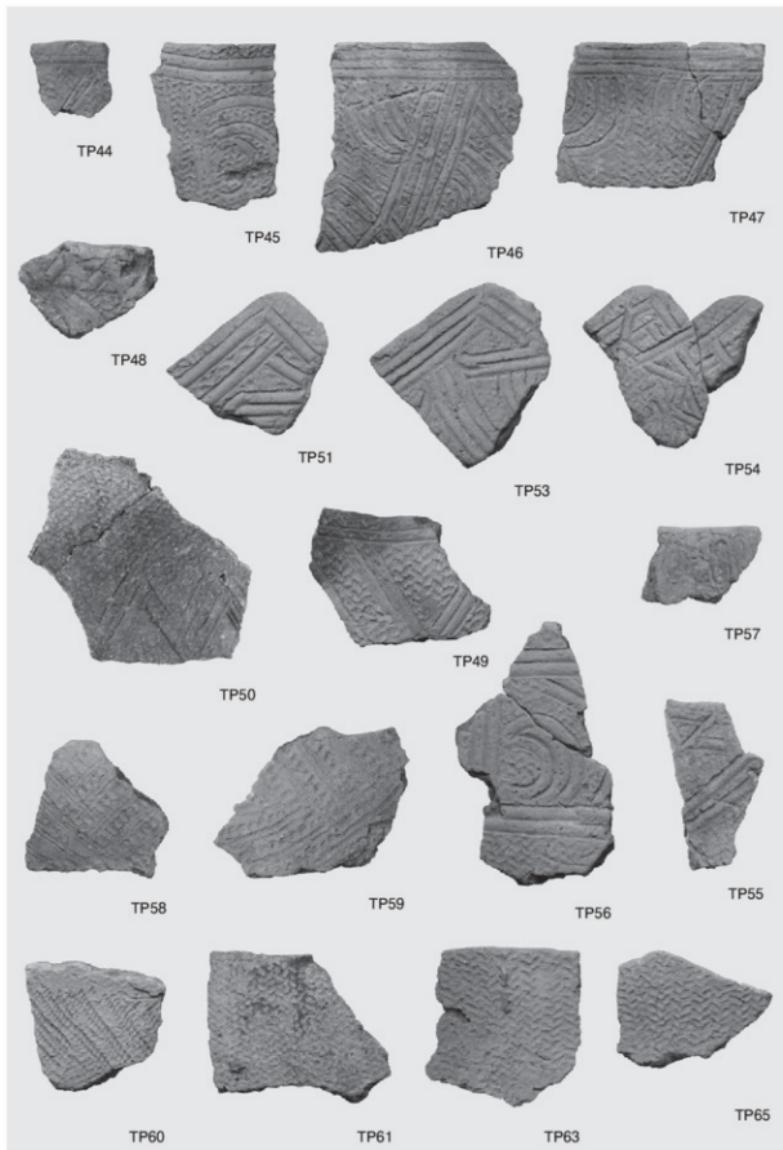


第1号竪穴建物跡、第14号土坑出土石器

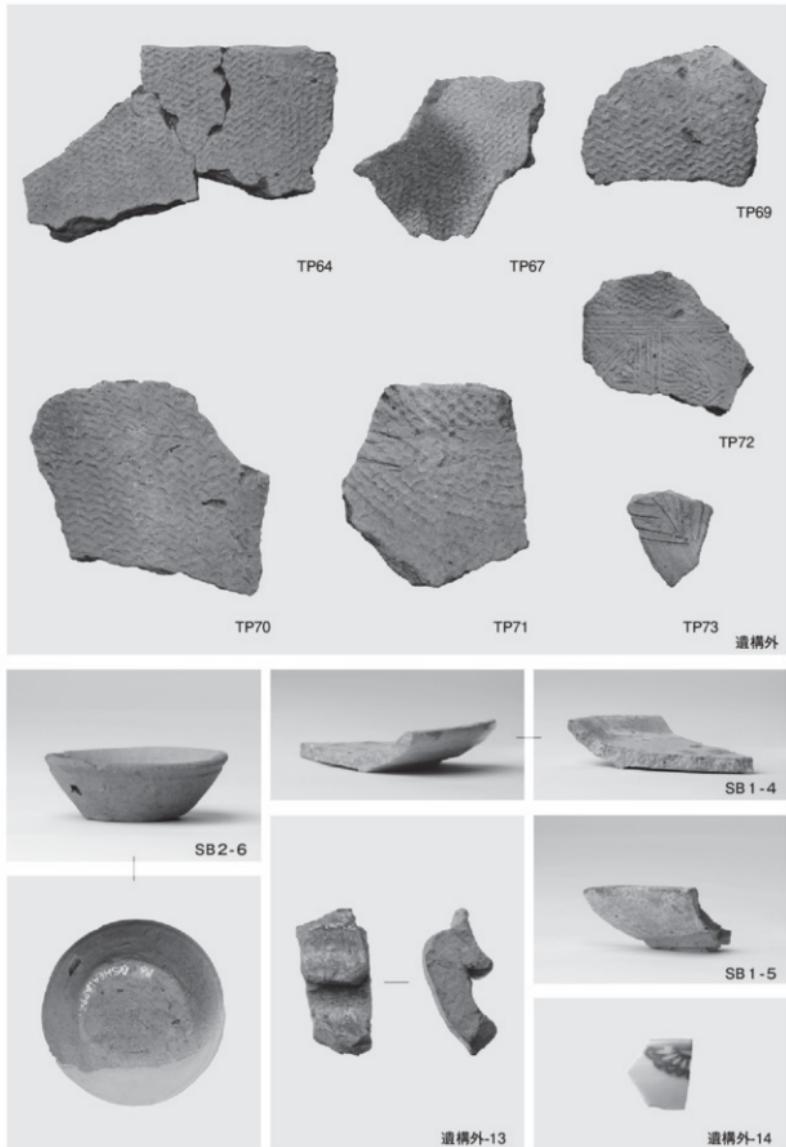


第20·21·25·30·31·45·50·53·56号土坑出土土器

PL35



遺構外出土土器



第1・2号掘立柱建物跡、遺構外出土土器・陶器・磁器

PL37



遺跡全景（平成23年度）

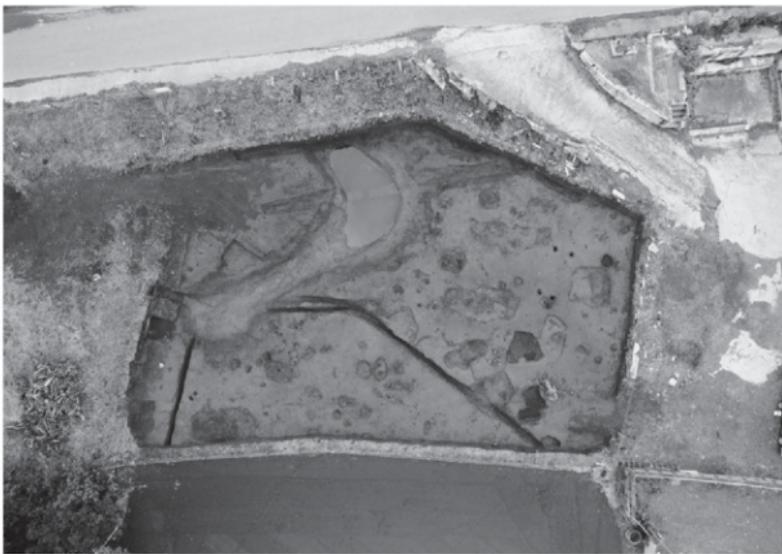


調査区全景（平成23年度）

PL38

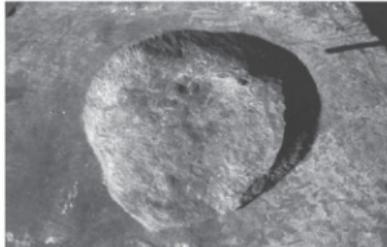


遺跡全景（平成24年度）

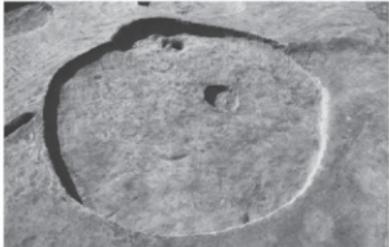


調査区全景（平成24年度）

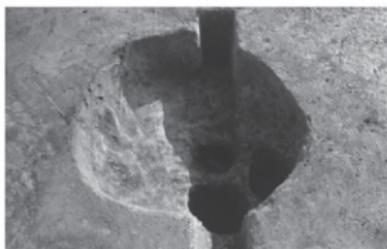
PL39



第3号土坑完掘状况



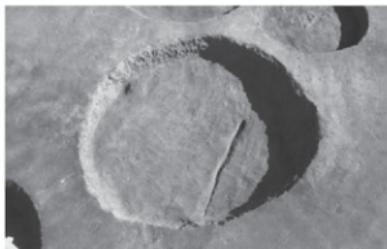
第6·7号土坑完掘状况



第10号土坑完掘状况



第12·13号土坑完掘状况



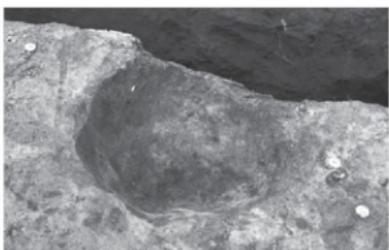
第15号土坑完掘状况



第19号土坑完掘状况

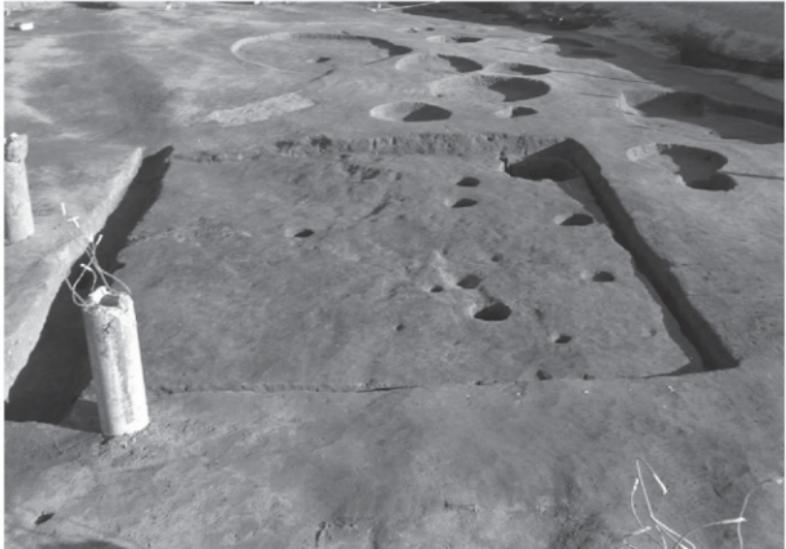


第24号土坑完掘状况



第50号土坑完掘状况

PL40



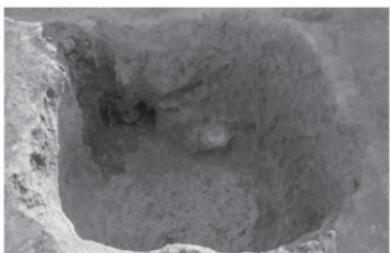
第1号竖穴建物跡完掘状況



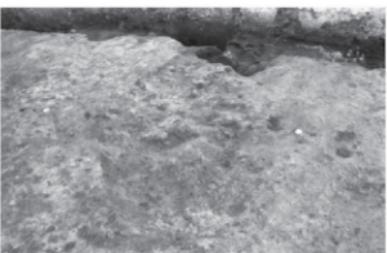
第1号竖穴建物跡遺物出土状況①



第1号竖穴建物跡遺物出土状況②



第1号竖穴建物跡貯藏穴内遺物出土状況



第1号竖穴建物跡炉完掘状況

PL41



第2号竪穴建物跡完掘全景



第2号竪穴建物跡完掘状況



第2号竪穴建物跡遺物出土状況①



第2号竪穴建物跡遺物出土状況②



第2号竪穴建物跡焼土・炭化材出土状況

PL42



第3号竪穴建物跡
遺物出土状況



第3号竪穴建物跡
完掘状況



第4号竪穴建物跡
遺物出土状況

PL43

第4号竪穴建物跡
完 挖 状 況



第5号竪穴建物跡
完 挖 状 況

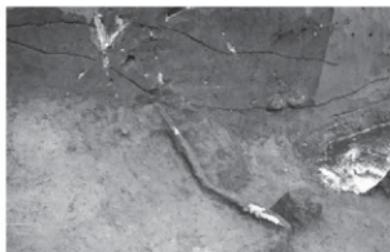


第 1 号 墓
完 挖 状 況





第1号墳全景



第1号墳遺物出土狀況



第1号墳周溝内遺物出土狀況（全景）



第1号墳周溝内遺物出土狀況（近景）



第1号墳周溝完掘狀況

PL45



第 1 号 溝 跡
遺 物 出 土 状 況 ①



第 1 号 溝 跡
遺 物 出 土 状 況 ②



第 1 号 溝 跡
完 挖 状 況

PL46



第 1 号 道 路 跡
完 挖 状 況
(江 戸 時 代)



第 2 号 溝 跡
完 挖 状 況
(江 戸 時 代)

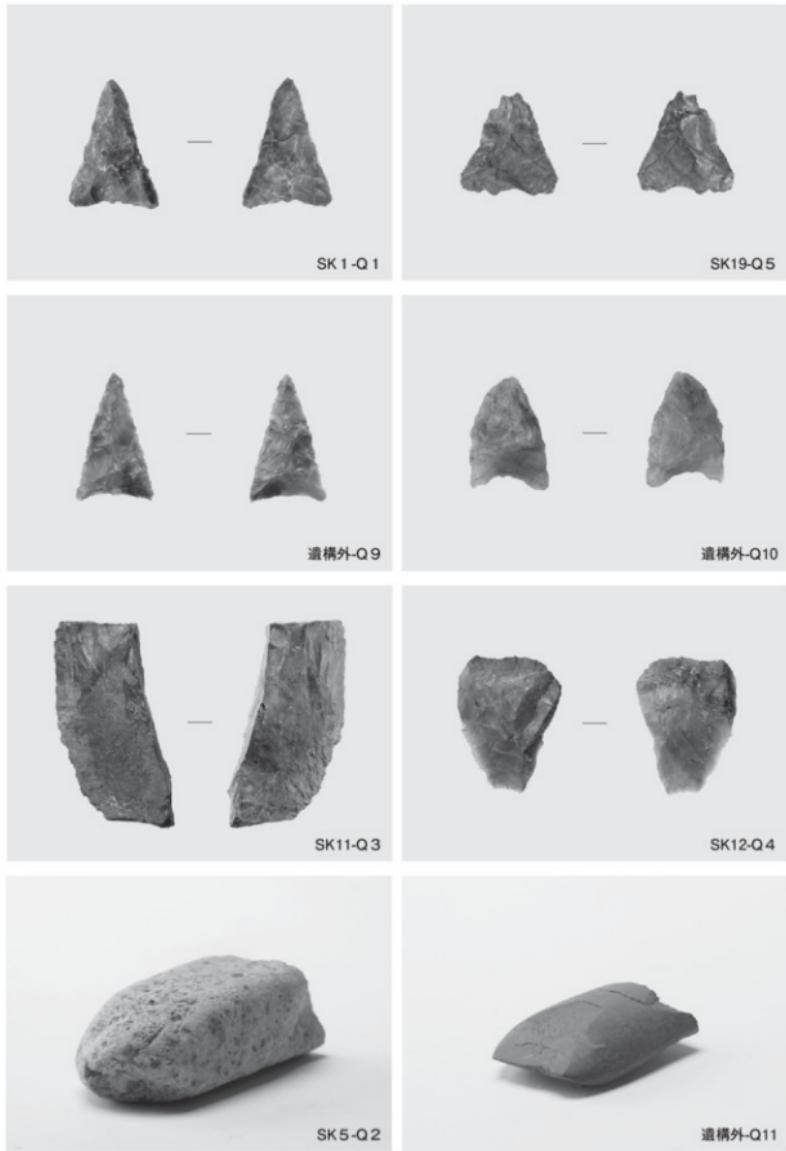


第 3・4 号 溝 跡
完 挖 状 況
(江 戸 時 代)

PL47



第1・3・4・10・51号土坑、遺構外出土土器



第1·5·11·12·19号土坑，遗构外出土石器

PL49



第1号竪穴建物跡出土土器・石製品



第2号竪穴建物跡出土土器・石製品

PL51



第4号竪穴建物跡、第1号溝跡出土土器

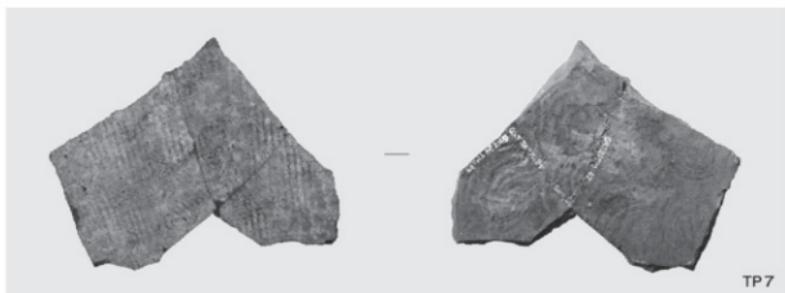
PL52



21



22



TP 7



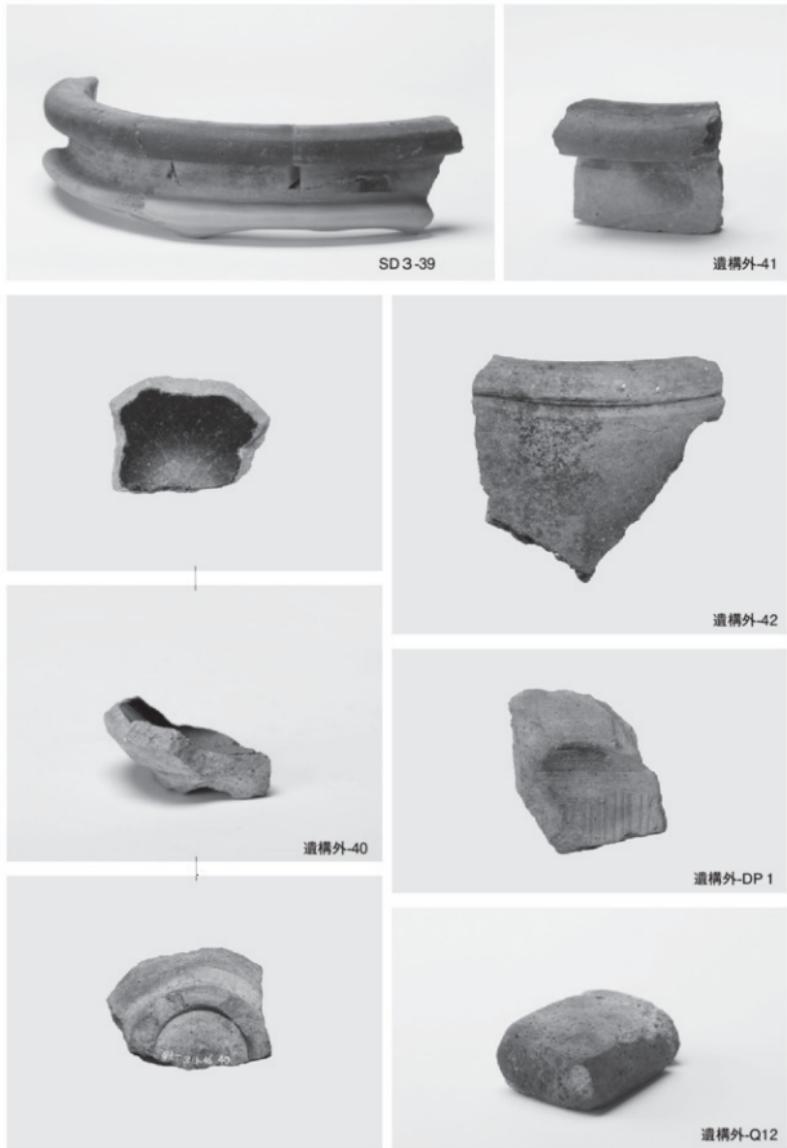
X線 M 1



M 1

第1号墳出土土器・鉄製品

PL53



第3号溝跡、遺構外出土土器・陶器・土製品・石器



遺跡と周辺の地形（国土地理院 昭和36年7月9日撮影）

抄 録

ふりがな	しゅくきたいせき しゅくひがしいせき てらやまいせき							
書名	宿北遺跡 宿東遺跡 寺山遺跡							
副書名	首都圏氾濫区域堤防強化対策事業地内埋蔵文化財調査報告書2							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第383集							
著者名	近江屋成陽							
編集機関	公益財團法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2014(平成26)年3月12日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
宿北遺跡	茨城県猿島郡五霞町大字川妻字宿北93番地11ほか	08542 - 017	36度 13分 00秒	139度 72分 30秒	12m	20111201 ~ 20120331	4,274 m ²	首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に伴う事前調査
宿東遺跡	茨城県猿島郡五霞町大字川妻字宿東194-1ほか	08542 - 03	36度 12分 96秒	139度 72分 68秒	12m	20120406 ~ 20120630	768 m ²	
寺山遺跡	茨城県猿島郡五霞町大字川妻字外根元原471-1ほか	08542 - 01	36度 12分 49秒	139度 73分 15秒	12m ~ 13m	20111201 ~ 20120331 20120406 ~ 20120630	1,397 m ² 730 m ²	
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
宿北遺跡	集落跡	縄文時代	堅穴建物跡 土坑	1棟 64基	縄文土器（深鉢）、石器（鑿、石匙、凹石）			
		室町時代	掘立柱建物跡	3棟	土師質土器（皿）			
	墓域	室町時代	井戸跡	2基	土師質土器（皿・脚付盤・内耳鍋・擂鉢・火鉢）、瓦質土器（内耳鍋）、陶器（碗）、金属製品（鉄鍔・鞆尻金具）、錢貨（開元通寶・聖宋元寶・元祐通寶）			
			火葬施設 地下式坑 土坑 堀跡 溝跡 柱穴列	3基 5基 57基 1条 7条 4条				

所取遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
宿北遺跡	その他	江戸時代	溝跡 3条	土師質土器（皿・培烙）。陶器（鉢）、磁器（碗）、瓦（棟止瓦）	
		時期不明	炉跡 3基 土坑 26基 溝跡 2条 ビット群 5か所		
宿東遺跡	集落跡	縄文時代	堅穴建物跡 1棟 土坑 49基	縄文土器（深鉢）、石器（鎌・搔器・削器・石皿）	
		江戸時代	掘立柱建物跡 2棟	土師質土器（皿）、陶器（皿）	
	墓 城	室町時代	土坑 16基	土師質土器（皿）、陶器（皿）	
	その他	時期不明	炉跡 1基 柱穴列 2条 ビット群 1か所		
寺山遺跡	集落跡	古墳時代	堅穴建物跡 5棟 溝跡 1条	土師器（环・椀・小形甕・甕・瓶・手捏土器）、石製模造品（勾玉・有孔円板）	
		墓 城	縄文時代	土坑 49基	
		古墳時代	古墳 1基	縄文土器（深鉢）、石器（鎌・搔器・削器・磨製石斧・敲石）	
		その他	江戸時代	須恵器（高环・甕・長頸甕）、 鐵器（直刀） 道路跡 1条 溝跡 3条	
		時期不明	土坑 2基 溝跡 1条	土師質土器（培烙・甕飼）、 瓦質土器（火鉢）	
	要 約	宿北遺跡は、縄文時代前期・中期・後期に断続的に営まれた集落跡と室町時代の区画溝を伴う墓城、江戸時代の洪水対策の溝跡を、宿東遺跡は、縄文時代前期前半の集落跡、室町時代の墓城、江戸時代の屋敷の一部を、寺山遺跡は、縄文時代前期・後期の墓城と古墳時代中期の区画溝を伴う集落跡と湖西産の須恵器や出土例の少ない曲げられた直刀が出土した後期の古墳や江戸時代の道路跡と洪水対策の溝跡を確認した。			

仕 様

編 集 O S Microsoft Windows 7
Home Premium Service Pack 1
レイアウト Adobe InDesign CS5
図版作成 Adobe Illustrator CS5
写真調整 Adobe Photoshop CS5
Scanning 6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000ED
組 版 OpenType13級リュウミンPro・L 基本
Adobe InDesign CS5
印 刷 オフセット印刷
写真製版 スクリーン線数 モノクロ175線 口絵カラー210線
・印刷所へは、Adobe InDesign CS5でレイアウトしたものを入稿

茨城県教育財團文化財調査報告第383集

宿 北 遺 跡 宿 東 遺 跡 寺 山 遺 跡

首都圏氾濫区域堤防強化対策
事業地内埋蔵文化財調査報告書2

平成26（2014）年 3月10日 印刷

平成26（2014）年 3月12日 発行

発行 公益財團法人茨城県教育財團

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2

茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 富士オフセット印刷株式会社

〒310-0067 水戸市根本3丁目1534-2

TEL 029-231-4241

